

**2023年度
大学院経済学研究科
講義概要（シラバス）**



法政大学

科目一覧

【発行日：2023/5/1】最新版のシラバスは、法政大学 Web シラバス (<https://syllabus.hosei.ac.jp/>) で確認してください。

凡例 その他属性

〈他〉：他学部公開科目	〈グ〉：グローバル・オープン科目
〈優〉：成績優秀者の他学部科目履修制度対象科目	〈実〉：実務経験のある教員による授業科目
〈S〉：サーティフィケートプログラム_SDGs	〈ア〉：サーティフィケートプログラム_アーバンデザイン
〈ダ〉：サーティフィケートプログラム_ダイバーシティ	〈未〉：サーティフィケートプログラム_未来教室

【X3001】 経済学基礎 A [倪 彬] 春学期前半/Spring(1st half)	1
【X3002】 経済学基礎 B [倪 彬] 春学期後半/Spring(2nd half)	2
【X3003】 実証経済学基礎 A [河村 真] 春学期授業/Spring	3
【X3004】 実証経済学基礎 B [高橋 秀朋] 秋学期授業/Fall	4
【X3005】 経済史 A [杉浦 未樹] 春学期授業/Spring	5
【X3006】 経済史 B [進藤 理香子] 秋学期授業/Fall	7
【X3007】 計量経済学 A [高橋 秀朋] 春学期授業/Spring	8
【X3008】 計量経済学 B [濱秋 純哉] 秋学期授業/Fall	9
【X3009】 社会経済学 A [大友 敏明] 春学期授業/Spring	11
【X3010】 社会経済学 B [大友 敏明] 秋学期授業/Fall	12
【X3011】 マクロ経済学 A [田村 晶子] 秋学期授業/Fall	13
【X3012】 マクロ経済学 B [八木橋 毅司] 春学期前半/Spring(1st half)	14
【X3013】 ミクロ経済学 A [鈴木 豊] 春学期授業/Spring	15
【X3014】 ミクロ経済学 B [佐柄 信純] 秋学期授業/Fall	16
【X3015】 応用マクロ経済学 A [八木橋 毅司] 春学期後半/Spring(2nd half)	17
【X3016】 応用マクロ経済学 B [蓮見 亮] 秋学期授業/Fall	18
【X3017】 応用ミクロ経済学 A [鈴木 豊] 春学期授業/Spring	19
【X3018】 応用ミクロ経済学 B [佐柄 信純] 秋学期授業/Fall	20
【X3019】 金融ファイナンス論 B [胥 鵬] 秋学期授業/Fall	21
【X3020】 金融システム論 B [胥 鵬] 秋学期授業/Fall	22
【X3021】 財政学 A [小黒 一正] 春学期授業/Spring	23
【X3022】 財政学 B [小黒 一正] 秋学期授業/Fall	24
【X3023】 地域経済論 II A [馬 欣欣] 春学期授業/Spring	25
【X3024】 地域経済論 II B [馬 欣欣] 秋学期授業/Fall	27
【X3025】 統計学 A [阿部 俊弘] 春学期授業/Spring	29
【X3026】 統計学 B [阿部 俊弘] 秋学期授業/Fall	30
【X3027】 企業経済学 A [砂田 充] 秋学期授業/Fall	31
【X3028】 環境経済論 A [松波 淳也] 春学期前半/Spring(1st half)	32
【X3029】 環境経済論 B [松波 淳也] 春学期後半/Spring(2nd half)	33
【X3030】 経済政策 B [濱秋 純哉] 春学期授業/Spring	34
【X3031】 経済地理学 A [近藤 章夫] 秋学期授業/Fall	36
【X3032】 国際貿易論 A [武智 一貴] 春学期授業/Spring	37
【X3033】 国際貿易論 B [武智 一貴] 秋学期授業/Fall	38
【X3034】 上級マクロ経済学 A [宮崎 憲治] 春学期授業/Spring	39
【X3035】 上級マクロ経済学 B [宮崎 憲治] 秋学期授業/Fall	41
【X3036】 応用計量経済学 A [明城 聡] 秋学期授業/Fall	43
【X3037】 ミクロ計量分析 A [明城 聡] 秋学期授業/Fall	44
【X3038】 日本語 I A [清水 由美] 春学期授業/Spring	45
【X3039】 日本語 I B [清水 由美] 秋学期授業/Fall	47
【X3040】 日本語 II A [清水 由美] 春学期授業/Spring	49
【X3041】 日本語 II B [清水 由美] 秋学期授業/Fall	51
【X3042】 日本語 III A [大場 理恵子] 春学期授業/Spring	53
【X3043】 日本語 III B [大場 理恵子] 秋学期授業/Fall	54
【X3101】 経済学演習 I A [近藤 章夫] 春学期授業/Spring	55
【X3102】 経済学演習 I B [近藤 章夫] 秋学期授業/Fall	56

[X3103]	経済学演習 I A [鈴木 豊] 春学期授業/Spring	57
[X3104]	経済学演習 I B [鈴木 豊] 秋学期授業/Fall	58
[X3105]	経済学演習 I A [宮崎 憲治] 春学期授業/Spring	59
[X3106]	経済学演習 I B [宮崎 憲治] 秋学期授業/Fall	60
[X3107]	経済学演習 I A [馬 欣欣] 春学期授業/Spring	61
[X3108]	経済学演習 I B [馬 欣欣] 秋学期授業/Fall	62
[X3109]	経済学演習 I A [松波 淳也] 春学期授業/Spring	63
[X3110]	経済学演習 I B [松波 淳也] 秋学期授業/Fall	64
[X3111]	経済学演習 I A [菅 幹雄] 春学期授業/Spring	65
[X3112]	経済学演習 I B [菅 幹雄] 秋学期授業/Fall	66
[X3113]	経済学演習 I A [胥 鵬] 春学期授業/Spring	67
[X3114]	経済学演習 I B [胥 鵬] 秋学期授業/Fall	68
[X3115]	経済学演習 I A [酒井 正] 春学期授業/Spring	69
[X3116]	経済学演習 I B [酒井 正] 秋学期授業/Fall	70
[X3117]	経済学演習 II A [ブー トウン カイ] 春学期授業/Spring	71
[X3118]	経済学演習 II B [ブー トウン カイ] 秋学期授業/Fall	72
[X3131]	経済学演習 II A [近藤 章夫] 春学期授業/Spring	73
[X3132]	経済学演習 II B [近藤 章夫] 秋学期授業/Fall	74
[X3133]	経済学演習 II A [酒井 正] 春学期授業/Spring	75
[X3134]	経済学演習 II B [酒井 正] 秋学期授業/Fall	76
[X3135]	経済学演習 II A [胥 鵬] 春学期授業/Spring	77
[X3136]	経済学演習 II B [胥 鵬] 秋学期授業/Fall	78
[X3137]	経済学演習 II A [菅 幹雄] 春学期授業/Spring	79
[X3138]	経済学演習 II B [菅 幹雄] 秋学期授業/Fall	80
[X3139]	経済学演習 II A [鈴木 豊] 春学期授業/Spring	81
[X3140]	経済学演習 II B [鈴木 豊] 秋学期授業/Fall	82
[X3141]	経済学演習 II A [高橋 秀朋] 春学期授業/Spring	83
[X3142]	経済学演習 II B [高橋 秀朋] 秋学期授業/Fall	84
[X3143]	経済学演習 II A [田村 晶子] 春学期授業/Spring	85
[X3144]	経済学演習 II B [田村 晶子] 秋学期授業/Fall	86
[X3145]	経済学演習 II A [馬 欣欣] 春学期授業/Spring	87
[X3146]	経済学演習 II B [馬 欣欣] 秋学期授業/Fall	88
[X3147]	経済学演習 II A [松波 淳也] 春学期授業/Spring	89
[X3148]	経済学演習 II B [松波 淳也] 秋学期授業/Fall	90
[X3149]	経済学演習 II A [明城 聡] 春学期授業/Spring	91
[X3150]	経済学演習 II A [八木橋 毅司] 春学期授業/Spring	92
[X3151]	経済学演習 II B [八木橋 毅司] 秋学期授業/Fall	93
[X3152]	経済学演習 II A [武田 浩一] 春学期授業/Spring	94
[X3154]	論文指導 II A [濱秋 純哉] 春学期前半/Spring(1st half)	95
[X3155]	修士ワークショップ A [濱秋 純哉] 春学期後半/Spring(2nd half)	96
[X3156]	論文指導 II B [濱秋 純哉] 秋学期前半/Fall(1st half)	97
[X3157]	修士ワークショップ B [濱秋 純哉] 秋学期後半/Fall(2nd half)	98
[X3158]	論文指導 II A [杉浦 未樹] 春学期前半/Spring(1st half)	99
[X3159]	論文指導 II B [杉浦 未樹] 秋学期前半/Fall(1st half)	100
[X3315]	応用マクロ経済学 D A [八木橋 毅司] 春学期後半/Spring(2nd half)	101
[X3316]	応用マクロ経済学 D B [蓮見 亮] 秋学期授業/Fall	102
[X3317]	応用ミクロ経済学 D A [鈴木 豊] 春学期授業/Spring	103
[X3318]	応用ミクロ経済学 D B [佐柄 信純] 秋学期授業/Fall	104
[X3319]	金融ファイナンス論 D B [胥 鵬] 秋学期授業/Fall	105
[X3320]	金融システム論 D B [胥 鵬] 秋学期授業/Fall	106
[X3321]	財政学 D A [小黒 一正] 春学期授業/Spring	107
[X3322]	財政学 D B [小黒 一正] 秋学期授業/Fall	108
[X3323]	地域経済論 II D A [馬 欣欣] 春学期授業/Spring	109
[X3324]	地域経済論 II D B [馬 欣欣] 秋学期授業/Fall	111
[X3325]	統計学 D A [阿部 俊弘] 春学期授業/Spring	113
[X3326]	統計学 D B [阿部 俊弘] 秋学期授業/Fall	114
[X3327]	企業経済学 D A [砂田 充] 秋学期授業/Fall	115

【X3328】	環境経済論 D A [松波 淳也] 春学期前半/Spring(1st half)	116
【X3329】	環境経済論 D B [松波 淳也] 春学期後半/Spring(2nd half).....	117
【X3330】	経済政策 D B [濱秋 純哉] 春学期授業/Spring	118
【X3331】	経済地理学 D A [近藤 章夫] 秋学期授業/Fall	120
【X3332】	国際貿易論 D A [武智 一貴] 春学期授業/Spring	121
【X3333】	国際貿易論 D B [武智 一貴] 秋学期授業/Fall	122
【X3334】	上級マクロ経済学 D A [宮崎 憲治] 春学期授業/Spring.....	123
【X3335】	上級マクロ経済学 D B [宮崎 憲治] 秋学期授業/Fall	125
【X3336】	応用計量経済学 D A [明城 聡] 秋学期授業/Fall	127
【X3337】	ミクロ計量分析 D A [明城 聡] 秋学期授業/Fall	128
【X3401】	経済学演習Ⅲ A [松波 淳也] 春学期授業/Spring	129
【X3402】	経済学演習Ⅲ B [松波 淳也] 秋学期授業/Fall	130
【X3403】	経済学演習Ⅲ A [宮崎 憲治] 春学期授業/Spring	131
【X3404】	経済学演習Ⅲ B [宮崎 憲治] 秋学期授業/Fall	132
【X3411】	経済学演習Ⅳ A [酒井 正] 春学期授業/Spring	133
【X3412】	経済学演習Ⅳ B [酒井 正] 秋学期授業/Fall	134
【X3413】	経済学演習Ⅳ A [後藤 浩子] 春学期授業/Spring	135
【X3414】	経済学演習Ⅳ B [後藤 浩子] 秋学期授業/Fall	136
【X3421】	経済学演習Ⅴ A [池上 宗信] 春学期授業/Spring	137
【X3422】	経済学演習Ⅴ B [池上 宗信] 秋学期授業/Fall	138
【X3423】	論文指導Ⅴ A [鈴木 豊] 春学期前半/Spring(1st half)	139
【X3424】	博士ワークショップⅢ A [鈴木 豊] 春学期後半/Spring(2nd half)	140
【X3425】	論文指導Ⅴ B [鈴木 豊] 秋学期前半/Fall(1st half)	141
【X3426】	博士ワークショップⅢ B [鈴木 豊] 秋学期後半/Fall(2nd half).....	142
【X3427】	論文指導Ⅴ A [宮崎 憲治] 春学期前半/Spring(1st half).....	143
【X3428】	博士ワークショップⅢ A [宮崎 憲治] 春学期後半/Spring(2nd half)	144
【X3429】	論文指導Ⅴ B [宮崎 憲治] 秋学期前半/Fall(1st half)	145
【X3430】	博士ワークショップⅢ B [宮崎 憲治] 秋学期後半/Fall(2nd half)	146
【X3431】	論文指導Ⅴ B [田村 晶子] 秋学期前半/Fall(1st half)	147
【X3432】	博士ワークショップⅢ B [田村 晶子] 秋学期後半/Fall(2nd half)	148
【X3433】	論文指導Ⅴ A [小黒 一正] 春学期授業/Spring	149
【X3434】	論文指導Ⅴ B [小黒 一正] 秋学期授業/Fall	150

ECN501C1-1

経済学基礎 A

倪 彬

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ミクロ経済学では、経済活動の担い手である消費者や企業の行動を学び、それら結びつける市場（しじょう）の役割について考えます。本講義では、ミクロ経済学の基礎的な概念、理論的枠組みを学ぶことを通じて、経済学的なものの方や考え方を身につけていきます。ひいては、経済社会に対する洞察力、判断力を養うことを目指します。

【到達目標】

1. ある財の需要と供給を一致させる価格の調整メカニズムについて説明できる。
2. 市場の効率性を判断するための余剰分析について理解できる。
3. 経済学の基礎的な知見に基づき、市場における政府の役割について自分なりの意見を述べるができる。
4. 需要曲線と供給曲線がそれぞれどのように導かれているのかを説明できる。
5. 上記 1~4 をはじめとして、ミクロ経済学の基礎的な概念を理解し、重要な専門用語を適切に用いることができるとともに、適切な計算方法と関連付けることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式により、言葉による直観的説明を重視しながら、基礎的な経済理論を解説します。講義ノートは事前にアップし、学生自分でダウンロードやプリントアウトしてもらいます。授業後演習問題を適宜に与えるので、それを通じて学生の理解度を高めてもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロ	ミクロ経済学とは
第 2 回	需要と供給 (1)	需要曲線
第 3 回	需要と供給 (2)	供給曲線
第 4 回	市場均衡	価格調整メカニズム
第 5 回	市場の効率性と政府介入 (1)	社会厚生と余剰分析
第 6 回	市場の効率性と政府介入 (2)	課税がもたらす非効率性
第 7 回	市場の失敗と政府の役割 (1)	外部性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前学習：日頃から意識的に経済ニュースに触れるように努めてください。取っ掛かりとしては、以下で参考書として掲げる新書のような、一般向けに書かれた経済学の啓蒙書を手にとってみることもお勧めです。

事後学習：前回までの講義内容を復習したうえで各回の講義に臨むようにしてください。

また、経済学に使う経済数学の演習（や復習）もしっかりやって貰いたいです。

必要な学習時間：目安として、4 時間/回。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

古澤泰治・塩路悦朗 (2012) 『ベーシック経済学－次につながる基礎固め』、有斐閣

マンキュー経済学 I ミクロ編（第 3 版）、東洋経済新報社

【成績評価の方法と基準】

授業内試験*（70 点相当）、授業期間中に 2 回実施する宿題（15 点 + 15 点 = 計 30 点）によって評価します。試験問題は、講義中の小テストや宿題で扱った内容をベースに作成されます。

*補講日が必要であれば学生と相談して決めます。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

私語は慎むこと。

面談などはメールで事前にアポを取ってください: bin@hosei.ac.jp

【担当教員の専門分野等】

<https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/105/0010453/profile.html>

【Outline (in English)】

In this course we will study the basic concepts and frameworks of microeconomics.

The goal of this course is as follows:

1. How price adjusts demand and supply in the market.
2. Basic knowledge in surplus analysis.
3. Understand the role that government plays in the market.
4. How to derive demand the supply curve.
5. Understand the other basic concepts in microeconomics.

Work to be done outside of class:

It is highly recommended that students prepare in advance and review the contents after the class. Students are encouraged to read newspapers and references that are related to the topics included in the course schedule.

It is also important that students review the basic mathematics that is used in economics. Estimated time of study: 4 hours each time.

Grading criteria:

The final written exam will cover 70% of the total score. Two homeworks will cover the rest 30%. The final exam will be based on homeworks and quiz problems given in the class.

ECN501C1-2

経済学基礎 B

倪 彬

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

マクロ経済学では、一国の経済状況の重要な指標である総生産（GDP）や物価水準、利率率といった概念を学び、それらが決定されていく仕組みについて考えます。本講義では、マクロ経済学の基礎的な概念、理論的枠組みを学ぶことを通じて、経済学的なものの見方や考え方を身につけていきます。ひいては、経済社会に対する洞察力、判断力を養うことを目指します。

【到達目標】

1. 名目と実質、フローとストック、長期と短期の違いや三面等価の原則について説明できる。
2. 総生産や物価水準、利率率が決定される仕組みについて理解するとともに、経済学の基礎的な知見に基づき、政府による財政政策や金融政策の効果を分析し、説明することができる。
3. 最近の日本・世界経済における重要な出来事を理解する。
4. 長期にわたる持続的経済成長の実現について、経済成長理論の基本モデルであるソロー・モデルから得られる含意を理解できる。
5. 上記 1～4 をはじめとして、マクロ経済学の基礎的な概念を理解し、重要な専門用語を適切に用いることができるとともに、適切な計算方法と関連付けることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

スライドを使って、講義形式により、言葉による直観的説明を重視しながら、基礎的な経済理論を解説します。授業後演習問題を適宜に与えるので、それを通じて学生の理解度を高めてもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロ	講義の概要、マクロ経済学とは
第 2 回	基本概念 (1)	名目と実質 GDP、三面等価の原則
第 3 回	基本概念 (2)	各種マクロ経済指標とグラフの読み方
第 4 回	マクロ経済モデル入門	長期モデル
第 5 回	財市場の役割	45 度線分析、IS 曲線
第 6 回	貨幣市場の役割	貨幣・金融の機能、LM 曲線
第 7 回	財政・金融政策の効果	流動性の罫

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前学習：日頃から意識的に経済ニュースに触れるように努めてください。取っ掛かりとしては、以下で参考書として掲げる新書のような、一般向けに書かれた経済学の啓蒙書を手にとってみることもお勧めです。

事後学習：前回までの講義内容を復習したうえで各回の講義に臨むようにしてください。

また、経済学に使う経済数学の演習（や復習）もしっかりやって貰いたいです。

必要な学習時間：目安として、4 時間/回。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

斎藤誠他 (2016) 『マクロ経済学 新版』、有斐閣
古澤泰治・塩路悦朗 (2012) 『ベーシック経済学－次につながる基礎固め』、有斐閣

(※ 本講義で扱うのは第 II 部のみ)

マンキュー マクロ経済学 (第 3 版) 1 入門篇、東洋経済新報社

【成績評価の方法と基準】

授業内試験* (70 点相当)、授業期間中に 2 回実施する宿題 (15 点 + 15 点 = 計 30 点) によって評価します。

*補講日が必要であれば学生と相談して決めます。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【担当教員の専門分野等】

<https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/105/0010453/profile.html>

【Outline (in English)】

We will learn the basic knowledge and frameworks of macroeconomics.

The goal of this course is as follows:

1. Tell the difference between nominal and real indicators, flow and stock, etc.
2. Explain the fiscal and financial policies made by the government.
3. Understand the important happenings in Japanese and world economy.
4. Understand Solow Model and its policy implications.
5. Understand the basic concepts in macroeconomics.

Work to be done outside of class:

It is highly recommended that students prepare in advance and review the contents after the class. Students are encouraged to read newspapers and references that are related to the topics included in the course schedule.

It is also important that students review the basic mathematics that is used in economics. Estimated time of study: 4 hours each time.

Grading criteria:

The final written exam will cover 70% of the total score. Two homeworks will cover the rest 30%. The final exam will be based on homeworks and quiz problems given in the class.

ECN504C1-1

実証経済学基礎A

河村 真

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ミクロ経済学「生産者の理論」の中の要素需要に関する説明を理解する。あわせて、要素需要の説明から導かれる費用関数の理論的説明も理解する。さらに、費用関数を、現実のデータおよび統計学のソフトを用い、最小二乗法など計量経済学モデルの推定を行い、推定結果の評価を行う。

【到達目標】

導入科目として、ミクロ経済学の「生産者の理論」の生産要素需要の説明およびその延長線上にある費用関数に関する説明を復習し、理解する。さらに、費用関数の推定および規模の経済性の計測を実習を通じて行い、最小二乗推定量の基本的な理解とパネルデータを用いる際の推定結果の基本的な診断および改善に関する手続きを各自で行えるようにすること。併せて、費用関数の推定、仮説検定に用いる統計学ソフト **stata** の基本的なコマンドを使えるようになることおよび計測結果の出力を各自で行えるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は、6回までは、オンライン授業で行う。この間の講義では、完全競争モデルの生産要素需要体系の説明とそれより派生する費用関数に関してのミクロ経済学の図解を用いた復習である。そのため、板書（電子ノート）を用いた説明となる。この間の質疑応答は、オンラインを通じて授業時間内に行います。第7回以降は主に実習授業である。そのため、対面で行います。ハイフレックスで行いますが、実習授業なので、なるべく対面で行いたい。

授業の内容の進め方について説明する。まず、ミクロ経済学の「生産者の理論」における生産要素需要の決定と費用関数の導出を解説する（主にミクロ経済学の復習）。公益事業のデータを用いて、ミクロ経済学の理論で提示されている費用関数と整合的な費用関数の推定を統計ソフト **stata** を計用いて体験してもらおう。それに基づき、規模の経済性の計測値を求め、その計測値のミクロ経済学的な解釈を説明する。講義の目的は、簡単なミクロ経済学の理論を用いても、計量経済学による計測結果を政策的な課題の判断材料として提示できることを体験してもらおうことにある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容の説明と注意
第2回	費用関数および生産関数の計測を通じた応用	規模・範囲の経済性の計測、代替弾力性の計測の過去のサーベイ
第3回	軽量経済学の研究成果	
第3回	利潤最大化行動と生産要素需要関数	ミクロ経済学の「生産者の理論の復習」：利潤最大化行動に基づく生産要素需要の決定の解説
第4回	要素需要と要素価格フロンティア	要素需要の決定と要素価格フロンティアとの対応
第5回	費用関数の性質	要素需要関数と整合的な費用関数の性質
第6回	生産関数と双対な費用関数の性質と関数の特定化	生産関数と双対な費用関数の導出、費用関数の特定化に関する解説
第7回	費用関数の推定に用いる計量経済学（I）	最小二乗推定量の基礎の復習（標準誤差、F-検定、t-検定の解説）
第8回	費用関数の推定に用いる計量経済学（I）	最小二乗推定量の基礎の復習（標準誤差、F-検定、t-検定の解説）

第9回	費用関数の推定に用いる計量経済学（II）	最小二乗推定量に基づく推定結果の改善（系列相関、分散不均一などの簡単な解説）
第10回	費用関数の推定・規模の経済性の計測の実習（I）	計量経済学のソフト stata を用いた費用関数の推定および推定結果の問題点の検出
第11回	費用関数の推定・規模の経済性の計測の実習（I）	計量経済学のソフト stata を用いた費用関数の推定および推定結果の問題点の検出
第12回	費用関数の推定・規模の経済性の計測の実習（II）	fixed effects model および random effects model の推定さらに、規模の経済性の推定値の統計学的解釈
第13回	費用関数の推定・規模の経済性の計測の実習（II）	fixed effects model および random effects model の推定さらに、規模の経済性の推定値の統計学的解釈
第14回	レポート作成指導	レポート作成の質問等に答える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に定めない。受講生より要請があれば、参考文献等含めて知らせる。

【参考書】

奥野正寛、鈴木興太郎『ミクロ経済学I』（モダンエコノミックスシリーズ）岩波書店 計量経済学入門の教科書やそれ以外等は、講義中に示す。

【成績評価の方法と基準】

実習での費用関数に関わる推定及び検定の **stata** プログラミング作業に関する評価に40%及び期末レポートの評価に60%のウェイトを付け、評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

貸出ノートパソコン（**stata** インストール済み）、および、授業支援システムを利用する。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 応用計量経済学

<研究テーマ> 規制産業の規模の経済性、全要素生産性の計測

<主要研究業績> "Estimates of Optimal Public Capital Stocks in Japan Using a Public Investment Discount Rate Framework", *Empirical Economics* 24, 1999. (根本二郎氏、釜田公良氏と共著) 「大都市公営バス事業の密度の経済とサイズの経済の計測」『季刊理論経済学』44巻3号, pp.269-274, 1993

【Outline (in English)】

This course introduces factor demand theory in microeconomics, cost function and elasticity substitution, estimating cost function by OLS, using STATA, and evaluating the extent of scale economy.

The goal of this course for students to acquire the basic understandings for factor demand theory, theoretical properties of cost function as summarizing factor demand system. Other goals of this course are to estimate cost function by econometric model (eg. OLS, fixed effects model, etc.) model using STATA programs, and evaluate the extent of scale economy. Before/after class meeting, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content.

Your overall grade will be decided based on the following Mid-term report (for factor demand theory, and cost function theoretical properties): 30%, Term-end report (for estimating results of cost function by STATA, evaluating results of the extent of scale economy, and statistical test result for scale economy): 50%, and the quality of STATA programming performance in the class: 20%.

ECN504C1-2

実証経済学基礎B

高橋 秀朋

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、学部レベルの経済学、金融、ファイナンス等の知識を身につけている、もしくは並行する他の講義等で今後身に付けていく予定であることを前提として、株価データを利用した実証分析やシミュレーションの手法について学習していく。具体的には、①株価データから収益率の基本統計量を求めシミュレーションを行う、②資本市場資産価格モデルの検証を行う、③モンテカルロ・シミュレーションにより資産管理の有効性を検証する、などのことを学習していく。

【到達目標】

本講義の目標は、講義中にファイナンスにおける資産運用方法および投資戦略を例として、他の経済学の分野においても使われる回帰モデル分析やシミュレーションの基本的な知識を学習することにある。厳密に計量経済学の理論的知識を身に付けなくとも、Excel等の簡単なソフトウェアを利用して回帰モデルやシミュレーションを実践して、ショート・ペーパーが書けるレベルになることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義は、スライドによる理論的背景の説明と Excel による演習によって構成される。数学や統計的な知識を多用するが、厳密なことまでは触れず、演算なども Excel 等で行っていく。必要であれば、講義後に質疑応答に対応する。理論的な説明に関しては「オンライン形式」（「対面式」の場合もあり）で行う。統計パッケージ（STATA）、Excel を利用した演習は「対面によるセミナー形式」（適時、教員が解説を行っていく形）で行っていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義の概要、進行方法、評価方法
2	株価データ分析	収益率の計算と基本統計量
3	ポートフォリオ理論1	行列演算
4	ポートフォリオ理論2	ポートフォリオの構築
5	ポートフォリオ理論3	有効フロンティアの導出
6	ポートフォリオ理論4	資本市場価格モデル（CAPM）
7	ポートフォリオ理論5	CAPM の検証
8	ポートフォリオ理論6	投資信託のアルファ
9	シミュレーション1	モンテカルロ・シミュレーション
10	シミュレーション2	株価・投資シミュレーション
11	オプション1	オプションの基本
12	オプション2	二項モデルと BS モデル
13	オプション3	デルタ・ヘッジング
14	オプション4	モンテカルロ法によるオプション価格付け

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義資料は事前にアップロードするので、受講者は当該資料に目を通した上で講義に参加することが望ましい（週 2 時間）。また、講義では毎回 EXCEL を利用し計算を行うので、講義後はその復習を必ずすること（週 1 時間）。この他に中間レポートを準備するのに必要な時間を確保すること（平均して、週 1 時間）。

【テキスト（教科書）】

Simon Benninga, Financial Modeling, 5th ed. (Oxford Univ Pr, 2022)

【参考書】

齊藤誠『金融技術の考え方・使い方- リスクと流動性の経済分析』（有斐閣、2000 年）

【成績評価の方法と基準】

評価は、講義の前半終了（第 8 回を予定）後に課される中間レポート（20%）と期末レポート（80%）の内容評価で行う。

【学生の意見等からの気づき】

Excel や VBA の活用に加え統計ソフト利用の要望もあった。Excel のほうが行列のイメージをつかみやすいため利用していたが、学生の反応に合わせて適時改善していきたいと考えている。

【学生が準備すべき機器他】

講義では Excel を利用した演習を中心に進めるので、Excel がインストールされている PC がない場合、講義に出席する意味がない。受講生は自分の PC もしくは大学の PC 貸出等を利用し、講義前に PC の準備をしておくこと。

【担当教員の専門分野等】

参照：<http://sites.google.com/site/htakahashi141a/>

【Outline (in English)】

This course provides opportunities to acquire basic skills related to statistics, simulation-based analysis, and matrix algebra, which are important to deepen econometric knowledge. This course is designed to obtain these knowledge by learning introductory theories in investment analysis in the finance literature. Using data and simulation-based analyses, this course also provides opportunities to improve basic computer skills. Before each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Students are also required to review the content after each class. Final grade will be calculated according to the mid-term report (20%) and term-end report (80%).

ECN512C1-1

経済史 A

杉浦 未樹

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1500年から2000年までの世界経済の長期的な発展を「地域間格差一大分岐」、「交易」、「工業化」、「労働編成」、「環境史」などの大テーマを軸に学ぶ。前期となる経済史Aでは、経済発展の概略をつかむため、大分岐論および世界経済と交易の関わり、東アジアとアフリカ経済の長期的な発展について、最新の学説動向を学ぶ。

【到達目標】

1500年から2000年までの経済史の重要テーマを網羅して捉えられるようになる。

東アジア、ヨーロッパの経済発展を比較分析ができるようになる。一つのテーマについて、日本語と英語の概説書を読み、最新の研究動向を知る。

日本語、英語のテキストの要点を整理し、発表するスキルを得る。文献から論点を出し、討論できるようにする。

経済発展をめぐるテーマについて、研究文献を整理し、自分の問題視角が抽出できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

最初にテキストの割り当てを行う。受講者は担当分の要約報告と問題提起を行う。授業ではそれをもとに議論する。授業後半は、受講者は関心のあるテーマを選択し、それについて主要文献を整理し、研究動向を論述する演習を行う。講師からフィードバックを重ねることによって、論述スキルを向上させるように授業をすすめる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入：なぜ経済の発展を学ぶのにグローバルな視点が必要なのか。	グローバル・エコノミック・ヒストリーの研究の視点を概略する。コースの到達目標と計画を説明する。
第2回	世界経済発展の見取り図と大分岐論（1）	人口・所得・地域格差のマクロ動向を説明したあと、テキスト（河崎他4章、2章、一部）の論点発表をもとに討論
第3回	世界経済発展の見取り図と大分岐論（2）	ポメラントの大分岐論争について、テキスト（Roy and Riello 第一章、北川他第2章）の論点発表をもとに討論
第4回	交易と世界経済の一体化（16～18世紀）（1）	ユーラシア大陸とアメリカ大陸の接合がもたらした世界交易の変化について討論
第5回	交易と世界経済の一体化（16～18世紀）（2）	交易と世界経済の一体化について討論
第6回	交易と世界経済の一体化（19世紀）（1）	長い19世紀における交易の制度的枠組みの変化についてテキスト（河崎他第6～7章）の論点発表をもとに討論
第7回	交易と世界経済の一体化（19世紀）（2）	19世紀～20世紀のグローバルな商品連鎖の成立について、テキスト（Roy and Riello 第12章）の論点発表をもとに討論

第8回	世界経済のなかの東アジア（1）	東アジアの17世紀～20世紀の経済発展について、グローバル化との関連に留意しながらテキスト（北川他第5章、河崎他11、12章一部）の論点発表を行い討論する。
第9回	世界経済のなかの東アジア（2）	前回に引き続き、東アジアの経済発展を世界経済の動向の中に位置付けられるように、テキスト（Roy and Riello 第16章）の論点発表を行い討論する。
第10回	最終レポートの説明	最終レポートはテーマを自分で選んで研究動向を書く課題である。構成、書式、文献の検索方法、引用方法などを説明する
第11回	世界経済のなかのアフリカ（1）	アフリカの経済発展を世界経済の動向の中に位置付けるため、論点報告をもとに討論する
第12回	世界経済のなかのアフリカ（2）	前回に引き続きアフリカ経済の世界経済との関わりについて論点報告をもとに討論する。
第13回	最終レポートの発表とフィードバック	受講者はそれぞれ研究動向レポートを発表する。それに対してフィードバックを行う。
第14回	授業の総括とレポートの最終確認	コース全体を振り返り何を学んだか総括する。提出レポートの最終確認を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

輪読テキストの精読、論点発表の準備および最終課題レポートの準備（文献調査、アウトライン作成、執筆）のため、準備学習を必要とする。通常授業の準備復習に2時間、論点発表準備に2～3時間、最終課題レポートの準備に10時間程度の授業時間外学習が必要となる。

【テキスト（教科書）】

河崎信樹、村上衛、山本千映『グローバル経済の歴史』有斐閣、2020年
T.Roy and G. Riello, Global Economic History, Bloomsbury Academic, 2019.

北川勝彦、北原聡、西村雄志、熊谷幸久、柏原広樹『概説世界経済史一改訂版』昭和堂、2022年。

水島司、島田竜登『グローバル経済史』放送大学出版会、2018年。

【参考書】

杉原薫『世界史の中の東アジアの奇跡』名古屋大学出版会、2020年。
ポメラント（川北稔訳）『大分岐—中国、ヨーロッパ、そして近代世界経済の形成』名古屋大学出版会、2015年。

【成績評価の方法と基準】

隔週ごとに和文テキストの短いセクションの論点発表、コースを通して1回か2回英語テキストの論点発表を分担する。そのレジュメと発表方法を評価する。これらに対するものが授業評価の40%を占める。最終課題として研究動向をまとめたレポートを課する。このレポートへの取り組みと発表と最終成果物に対する評価が、授業評価の50%とする。残りの10%は授業における討論への参加度を平常点として評価する。授業への出席は単位取得の前提条件とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

春学期と秋学期を合わせて履修するとより総合的な知識とスキルが身につきますが、別々に受講することも可能です。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>
世界経済史、
<研究テーマ>
18～20世紀の繊維品の発展と世界的流通
都市における商品流通と地域ネットワークの形成
女性と財産形成
<主要研究業績>

The urban logistic network. Cities, transport and distribution in Europe from the Middle Ages to the Modern Times (共編著) Palgrave, 2019; 'The Mass consumption of refashioned clothes: Re-dyed kimono in post war Japan' in Business History,61-1; 'Coolies' Hats. Chinese Coolie Hats: Global Dialogues on a Sign of Servitude, c. 1840-1940', C.Breward,B.Lemire, G.Riello eds., The Cambridge History of Fashion , Cambridge UP, 2022.

【Outline (in English)】

(Course outline) This course introduces theories and current debates of Global Economic History. It also enhances students' advanced skills for academic writing.

At the end of the course, students are expected to be able to compare economic development from comparative and global perspectives, as well as gain academic skills for writing elaborated historiography on themes on economic development. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours for reading texts and preparing for presentations. For the last assignment students will need to spend more than 10hrs for writing a report.

Students' overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end report:50%、Class presentations : 40%、in class contribution:10%.

ECN512C1-2

経済史 B

進藤 理香子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

19世紀半ばから現代に至るアジアとヨーロッパの相互関係について、とりわけ日本とドイツの関係に焦点をあてつつ、社会経済史的に考察する。日本の近代化と帝国主義化における欧州の影響、二度の世界大戦、冷戦体制、高度経済成長、そして21世紀の現代に至る日欧の相互関係、そのアジア諸国への影響などについて学習する。

【到達目標】

・文献や史料を解説し、自ら考え理解し、論証する力を養う。
・日本とドイツ間の問題に限定せず、アジア・ヨーロッパ間というより大きな枠組と比較しながら考察できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

対面授業とオンライン（Zoom）授業を行う。教員による講義、学生によるテキスト輪読、史料解説、研究報告から構成される。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	秋学期の導入	講義計画に関する説明と学生の報告順などを調整する。
第2回	19世紀後半の日本とドイツ①	日本・プロイセン修好通商条約について文献・史料を読み、討論。
第3回	19世紀後半の日本とドイツ②	岩倉遣欧使節団、殖産興業、富国強兵について文献・史料を読み、討論。
第4回	19世紀後半の日本とドイツ③	日本とドイツの憲法制定、社会制度に関する文献・史料を読み、討論。
第5回	帝国主義と植民地進出①	欧州諸国のアジア進出について文献・史料を読み、討論。
第6回	帝国主義と植民地進出②	日本による東アジア進出について文献・史料を読み、討論。
第7回	第一次世界大戦	日独間の青島をめぐる戦い、俘虜収容所などについて文献・史料を読み、討論。
第8回	戦間期から第二次世界大戦①	日独の接近と東アジアをめぐる諸問題について文献・史料を読み、討論①。
第9回	戦間期から第二次世界大戦②	日独の接近と東アジアをめぐる諸問題について文献・史料を読み、討論②。
第10回	終戦と連合国占領政策	日本とドイツの敗戦、占領政策、復興について文献・史料を読み、討論。
第11回	冷戦体制と高度経済成長	日本と西ドイツの高度経済成長期の関係について文献・史料を読み、討論。
第12回	冷戦下の東側陣営との関係	日本と東ドイツの関係について文献・史料を読み、討論。
第13回	東西ドイツ再統一から現代まで①	日本と再統一後のドイツとの関係について文献・史料を読み、討論。
第14回	東西ドイツ再統一から現代まで②	現代の日本・EU関係が直面する諸問題について文献・史料を読み、討論。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは授業内および学習支援システム上で指示・配布する。

【参考書】

工藤章・田嶋信雄 編『日独関係史：一八九〇-一九四五』（第1巻：総説東アジアにおける邂逅；第2巻：枢軸形成の多元的力学；第3巻：体制変動の社会的衝撃）、東京大学出版会、2008年

工藤章・田嶋信雄 編『戦後日独関係史』東京大学出版会、2014年
熊野直樹・田嶋信雄・工藤章編『ドイツ=東アジア関係史一八九〇-一九四五：財・人間・情報』九州大学出版会、2021年

【成績評価の方法と基準】

平常点（50%）、期末レポート（50%）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業が受けられるように、パソコンとインターネット接続が確保できることを前提とする。また学習支援システム上で連絡や資料を配布する。

【担当教員の専門分野等】

担当教員の分野・業績については以下参照。<https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/102/0010191/profile.html?lang=ja>

【Outline (in English)】

This lecture studies the economic, social and political relationships between East Asia and Europe from the 19th century to the 21st century with a special focus on Japanese-German relations.

Lecture (two-credits): Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policies: Your overall grade in the class will be decided based on the following performances: in-class contribution (50%) and a term-end report (50%).

ECN515C1-1

計量経済学 A

高橋 秀朋

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義のテーマは、計量経済学 A で学習した基本的な知識をもとに、その発展として時系列分析の基本的な知識を身につけ、簡単な VAR モデルを実行できるようになることにある。本講義では計量経済学の理論的理解を深めることと並行して、実践的な能力を身につけることにもある程度の時間が割かれる。講義の前半では統計・行列に関する知識の復習、最小二乗法を学習し、後半では定常性、ARMA モデル、VAR モデル、VEC モデル、GARCH モデルなどの時系列分析のトピックを紹介する。

【到達目標】

本講義の目標は、①計量経済学の基本的な内容を理解を理解し、②時系列分析の理論に関する理解ができるとともに、統計パッケージ (STATA) を利用して、時系列モデルの推定ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義は QE 指定科目であることを考慮して、基本的には板書による授業を進めていく。これらは基本的に「オンライン形式」（「対面式」の場合もあり）で行う。QE を受験しない学生が多いこと、多くの学生が修士論文において実証分析を行うことを考慮して、統計パッケージ (R) や Excel などを利用して演習を「対面によるセミナー形式」（統計ソフトを利用した演習を行い、適時、教員が解説を行っていく形）で行っていく。セミナー形式の講義では、実際の論文等を事前に学習した知識をどのように活用するかも説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義概要の説明
2	確率・統計の復習	確率・統計の基本的知識の確認
3	行列の復習	確率関数の行列表記と統計的検定で利用する分布
4	回帰分析 1	単回帰モデル
5	回帰分析 2	重回帰モデル
6	時系列分析の基礎	定常性・自己相関
7	一般化最小二乗法	誤差項における AR(1) 過程
8	ARMA 過程	ARMA 過程の性質・推定・シミュレーション
9	VAR モデル 1	ADF 検定、モデルの推定、
10	前半のまとめ	中間試験
11	VAR モデル 2	グレンジャー因果性、インパルス応答関数
12	共和分過程	見せかけの相関
13	VECM	共和分検定、VECM の推定
14	GARCH	GARCH モデルの推定、カルマンフィルター

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義資料は事前にアップロードするので、受講者は当該資料に目を通した上で講義に参加することが望ましい（週 3 時間）。また、講義では数学の知識を多用し、統計パッケージを利用した演習を行うことも多いので、講義後はその復習を必ずすること（週 1 時間）。

【テキスト（教科書）】

浅野哲・中村二郎『計量経済学 第 2 版』有斐閣、2009

ウォルター・エンダース著、新谷元嗣・藪友良訳『実証のための計量時系列分析 第 1 版』有斐閣、2019

※テキストを補完する形式で、講義ノートを配布する予定である。

【参考書】

沖本竜義『計量時系列分析』朝倉書店、2010

村尾博『R で学ぶ VAR 実証分析 第 1 版』オーム社、2019

【成績評価の方法と基準】

中間試験 (50%) と期末レポート (50%) で判断する。

【学生の意見等からの気づき】

R による演習が好評だったので、今年度も継続して行う。

【担当教員の専門分野等】

参照：<http://sites.google.com/site/htakahashi141a/>

【Outline (in English)】

This course is designed to improve econometric skills obtained in Econometrics A. This course focuses on Time Series Analysis and demonstrates how to build time series models for univariate and multivariate time series data. The first half of this course introduces OLS regression models using matrix algebra. The second half teaches more detailed topics in Time Series Analysis such as stationary process, the autoregressive moving average model (ARMA), the vector autoregressive (VAR) model, the vector error correction model (VECM), and the generalized autoregressive conditional heteroskedasticity (GARCH) process. This course is not only intended to obtain analytical skills in econometrics. It is also intended to achieve the ultimate goal that students can write sophisticated academic reports or papers based on their acquired skills. Before each class meeting, students will be expected to spend three hours to understand the course content. Students are also required to review the content after each class (one hour per week). Final grade will be calculated according to the mid-term exam (50%) and term-end report (50%).

ECN515C1-2

計量経済学 B

濱秋 純哉

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、マイクロ計量経済学の手法を、理論と応用の両面から解説する。マイクロ計量経済学は、個人・世帯あるいは企業レベルのデータ（個票データ）を分析するために用いられる統計的手法である。個票データを用いる分析では、しばしば被説明変数の定義域に制約がある量的変数（制限従属変数）や離散的な値をとる変数（質的従属変数）が対象となるが、これらの変数に最小二乗法を適用するのは不適切である。この授業では、各変数の性質に応じた手法について、その推定方法や結果の解釈の方法を説明する。

【到達目標】

この授業のテーマは、経済変数を用いた実証分析において問題となる説明変数の内生性への対処法の一つである操作変数法、及び質的従属変数や制限従属変数を扱う際に必要となるマイクロ計量経済学の理論とその応用方法を学ぶことである。マイクロ計量経済学の学習を通じて、実証論文を正確に理解する力及び個票データを自力で分析する力を身に付けることを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

数式による説明だけでなく具体例を交えながらマイクロ計量経済学のトピックを解説する。また、授業内容の理解を深めること（及び、計算力の向上とデータ分析のやり方を身に付けること）を狙いとして、数回の宿題を課す。提出された宿題に対するフィードバックは学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	マイクロ計量経済学とは何か
第2回	操作変数法 (1)	説明変数の内生性
第3回	操作変数法 (2)	操作変数の満たすべき性質
第4回	最尤法	最尤法の考え方と推定量の性質
第5回	二値選択モデル (1)	LPM/プロビット/ロジット
第6回	二値選択モデル (2)	限界効果とあてはまりの尺度
第7回	多項選択モデル (1)	多項ロジットの対数尤度関数
第8回	多項選択モデル (2)	多項ロジットの限界効果と IIA
第9回	順序選択モデル	順序選択モデルの対数尤度関数
第10回	区間回帰モデル	区間回帰モデルの対数尤度関数
第11回	トービットモデル (1)	トービットモデルの対数尤度関数
第12回	トービットモデル (2)	トービットモデルの限界効果
第13回	標本選択モデル	標本選択の原因、ヘックマンの二段階推定法
第14回	まとめと期末試験	まとめと期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

統計学・計量経済学の基礎的な知識（具体的には計量経済学 A 程度の内容）を有していることを前提とする。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

1. Stock, James H and Mark W. Watson. 2019. "Introduction to Econometrics (4th Edition)," Pearson Education.
2. Winkelmann, Rainer and Stefan Boes. 2009. "Analysis of Microdata (2nd Edition)," Springer.

【参考書】

1. 西山慶彦・新谷元嗣・川口大司・奥井亮, 2019 年, 『計量経済学』, 有斐閣。

2. Wooldridge, Jeffrey M. 2019. "Introductory Econometrics: A Modern Approach (7th Edition)," Cengage Learning.
3. Hensher, David A., John M. Rose and William H. Greene. 2015. "Applied Choice Analysis (2nd Edition)," Cambridge University Press.
4. Train, Kenneth E. 2009. "Discrete Choice Methods with Simulation (2nd Edition)," Cambridge University Press.
5. 鹿野繁樹, 2015 年, 『新しい計量経済学 データで因果関係に迫る』, 日本評論社。
6. 末石直也, 2015 年, 『計量経済学 ミクロデータ分析へのいざない』, 日本評論社。
7. 浅野哲・中村二郎, 2009 年, 『計量経済学 (第 2 版)』, 有斐閣。
8. Cameron, A. Colin and Pravin K. Trivedi. 2005. "Microeconometrics: Methods and Applications," Cambridge University Press.

【成績評価の方法と基準】

期末試験 (50%) と 4 回の宿題 (50%) によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

データ分析を行う際に統計ソフトを使えば、自分で計算しなくても推定結果が得られる。しかし、推定結果が意味することを正確に解釈したり、自分の問題意識と整合的なデータ分析を行うための最適な方法を検討したりする際には、自分である程度の計算を行わなくてはならない場面もある。このような力を付けるために授業内で計算を行う時間をとったり、宿題を課したりする。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを通じて資料の配布や宿題のアップロードなどを行う。この際に、受講者に通知のメールが届くようにするので、学習支援システムに登録されているメールアドレスを通常使用しているものに更新しておくことを勧める。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>
公共経済学・応用計量経済学
<研究テーマ>
家計行動のマイクロ計量分析
<主要研究業績>

- (1) Niizeki, Takeshi, Junya Hamaaki, 2023+, "Do the self-employed underreport their income? Evidence from Japanese panel data," Journal of the Japanese and International Economies, forthcoming.
- (2) Hamaaki, Junya, Masahiro Hori, and Keiko Murata 2019, "The Intra-family Division of Bequests and Bequest Motives: Empirical Evidence from a Survey on Japanese Households," Journal of Population Economics, Vol. 32, No. 1, pp. 309 - 346.
- (3) 上野綾子・濱秋純哉, 2017 年, 「2009 年度介護報酬改定が介護従事者の賃金、労働時間、離職率に与えた影響」, 『医療経済研究』, Vol.29, No.1, 33 - 57 頁。
- (4) Hamaaki, Junya, Masahiro Hori, Keiko Murata, 2014, "Intergenerational transfers and asset inequality in Japan: Empirical evidence from new survey data," Asian Economic Journal, Vol.28(1), pp.41-62.
- (5) Hamaaki, Junya, Masahiro Hori, Saeko Maeda, Keiko Murata, 2013, "How does the first job matter for an individual's career life in Japan," Journal of the Japanese and International Economies, Vol.29, pp.154-169.

【Outline (in English)】

Course outline

This course explains microeconomic methods from both a theoretical and practical perspective. Microeconometrics is a statistical approach used to analyze individual- and household-level as well as firm-level (micro)data. Analyses using microdata often focus on limited dependent variables (that is, quantitative variables whose range of possible values is restricted) or on qualitative dependent variables (variables that take discrete values), for which the use of ordinary least squares (OLS) techniques is inappropriate. This course presents the appropriate estimation techniques for these different types of variables and explains how the estimation results are interpreted.

Learning objectives

At the end of the course, students are expected to acquire the ability to conduct data analysis based on microeconometrics.

Learning activities outside of classroom

Before/after each class meeting, students are expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria /policy

Final grade will be decided based on the following:

Term-end examination: 50%, Homework assignments: 50%

ECN511C1-1

社会経済学 A

大友 敏明

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生が『資本論』第3巻第5編信用理論の輪読を通じてマルクスの信用理論を体系的に学ぶことができます。さらに『資本論』はイギリス古典派経済学の文献からの引用があるので、必要に応じてその文献の輪読も合せて行います。

【到達目標】

学生が『資本論』を論理的に理解できる能力を身につけることがこの授業の目標です。『資本論』には古典派経済学をはじめ、経済学の古典からの引用が多数あるので、理論だけではなく歴史も学ぶことができます。さらにこの授業を通じて現代資本主義の諸問題に対する関心を養うことができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

『資本論』の輪読を行います。必要に応じて古典派経済学の文献の輪読も行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	『資本論』第3巻第5編	『資本論』信用理論研究の現在
第2回	信用の役割1	『資本論』第5編第27章の輪読
第3回	信用の役割2	『資本論』第5編第27章の輪読
第4回	信用の役割3	『資本論』第5編第27章の輪読
第5回	流通手段と資本1	『資本論』第5編第28章の輪読
第6回	流通手段と資本2	『資本論』第5編第28章の輪読
第7回	流通手段と資本3	『資本論』第5編第28章の輪読
第8回	銀行資本の諸成分1	『資本論』第5編第29章の輪読
第9回	銀行資本の諸成分2	『資本論』第5編第29章の輪読
第10回	銀行資本の諸成分3	『資本論』第5編第29章の輪読
第11回	貨幣資本と現実資本 I、1	『資本論』第5編第30章の輪読
第12回	貨幣資本と現実資本 I、2	『資本論』第5編第30章の輪読
第13回	貨幣資本と現実資本 I、3	『資本論』第5編第30章の輪読
第14回	まとめ	春学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この授業は文献の輪読を行いますので、学生には割り当てられた頁数を要約し報告してもらいます。本授業の準備・復習の時間は、各4時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

『資本論』第3巻、大月書店、1968年をテキストとしますが、この書物が入手できない場合は他の出版社の『資本論』第3巻でもよいです。

【参考書】

大谷禎之介著『図解 社会経済学』桜井書店、2001年。

【成績評価の方法と基準】

成績評価の方法と基準は、平常点です。学生は順番にテキストの報告をしますので、そのレジュメを評価します。

【学生の意見等からの気づき】

よりわかりやすい授業を目指します。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>信用理論史
<研究テーマ>貨幣と国家
<主要研究業績>

- "Ricardo's theory of central banking: the monetary system and the government," in Ricardo on Money and Finance: A bicentenary reappraisal, Chap.7, Routledge, 2013.
- 「J. スチュアートにおける象徴貨幣と国家」『立教経済学研究』65(2)、2011年。
- 「Monied Capital の蓄積について—トーマス・トゥックと匿名氏の『通貨理論論評』—」『経済学史研究』51(1)、2009年。

【Outline (in English)】

(Course outline) The aim of this course is to learn Marx's credit theory systematically through reading "The Capital." Students will be expected to understand basic ideas of credit theory and moreover to think about various issues of modern capitalism. (Learning Objectives) The goals of this course are to have an ability to understand "The Capital" logically and to learn not only the credit theory but also the history in Marx's times. (Learning activities outside of classroom) After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. (Grading Criteria /Policy) Final grade will be calculated according to the in-class contribution by student's reports.

ECN511C1-2

社会経済学 B

大友 敏明

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生が『資本論』第3巻第5編信用理論の輪読を通じてマルクスの信用理論を体系的に学ぶことができます。さらに『資本論』はイギリス古典派経済学の文献からの引用があるので、必要に応じてその文献の輪読も合せて行います。

【到達目標】

学生が『資本論』を論理的に理解できる能力を身につけることがこの授業の目標です。『資本論』には古典派経済学をはじめ、経済学の古典からの引用が多数あるので、理論だけではなく歴史も学ぶことができます。さらにこの授業を通じて現代資本主義の諸問題に対する関心を養うことができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

『資本論』の輪読を行います。必要に応じて古典派経済学の文献の輪読も行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	『資本論』第3巻第5編	現代の信用理論研究の現在
第2回	貨幣資本と現実資本 II、1	『資本論』第5編第31章の輪読
第3回	貨幣資本と現実資本 II、2	『資本論』第5編第31章の輪読
第4回	貨幣資本と現実資本 II、3	『資本論』第5編第31章の輪読
第5回	貨幣資本と現実資本 III、1	『資本論』第5編第32章の輪読
第6回	貨幣資本と現実資本 III、2	『資本論』第5編第32章の輪読
第7回	貨幣資本と現実資本 III、3	『資本論』第5編第32章の輪読
第8回	信用制度のもとでの流通手段 1	『資本論』第5編第33章の輪読
第9回	信用制度のもとでの流通手段 2	『資本論』第5編第33章の輪読
第10回	信用制度のもとでの流通手段 3	『資本論』第5編第33章の輪読
第11回	通貨主義と1844年のイギリスの銀行立法 1	『資本論』第5編第34章の輪読
第12回	通貨主義と1844年のイギリスの銀行立法 2	『資本論』第5編第34章の輪読
第13回	通貨主義と1844年のイギリスの銀行立法 3	『資本論』第5編第34章の輪読
第14回	まとめ	秋学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この授業は文献の輪読を行いますので、学生には割り当てられた頁数を要約し報告してもらいます。本授業の準備・復習の時間は、各4時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

『資本論』第3巻、大月書店、1968年をテキストとしますが、この書物が入手できない場合は他の出版社の『資本論』第3巻でもよいです。

【参考書】

大谷禎之介著『図解 社会経済学』桜井書店、2001年。

【成績評価の方法と基準】

成績評価の方法と基準は、平常点です。学生は順番にテキストの報告をしますので、そのレジュメを評価します。

【学生の意見等からの気づき】

よりわかりやすい授業を目指します。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>信用理論史

<研究テーマ>貨幣と国家

<主要研究業績>

1. "Ricardo's theory of central banking: the monetary system and the government," in Ricardo on Money and Finance: A bicentenary reappraisal, Chap.7, Routledge, 2013.
2. 「J. スチュアートにおける象徴貨幣と国家」『立教経済学研究』65(2)、2011年。
3. 「Monied Capital の蓄積について—トーマス・トゥックと匿名氏の『通貨理論論評』—」『経済学史研究』51(1)、2009年。

【Outline (in English)】

(Course outline) The aim of this course is to learn Marx's credit theory systematically through reading "The Capital." Students will be expected to understand basic ideas of credit theory and moreover to think about various issues of modern capitalism.

(Learning Objectives) The goals of this course are to have an ability to understand "The Capital" logically and to learn not only the credit theory but also the history in Marx's times.

(Learning activities outside of classroom) After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy) Final grade will be calculated according to the in-class contribution by student's reports.

ECN514C1-1

マクロ経済学 A

田村 晶子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

動学を中心にしたマクロ経済学の基本手法を、大学院での国際標準とされるテキストを用いて学ぶ。

【到達目標】

大学院レベルのマクロ経済学で最も重要な手法である動学モデルの基本的な解法を理解し、基本的な動学モデルを解くことができる。さらに、動学モデルをもちいて、経済成長、研究開発活動による知識創造、世界各国の所得格差などを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

秋学期に開講しますが、春学期の「マクロ経済学 B」の知識は前提としません。アメリカの大学院でも修士 1 年生が勉強している標準的なテキストである Romer (2018) の前半部分 (1~4 章) に沿って講義します。数式によるモデルの分析とともに、現実の経済への応用や実証分析の紹介も行います。また、学生の理解を助けるために、毎回の授業後に簡単な練習問題を課し、次回の授業で解法の解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ソロー成長モデルの基礎	基本的な経済成長モデルの分析手法
第 2 回	ソロー成長モデルの応用	ソローモデルを使った分析
第 3 回	ソロー成長モデルの実証分析	ソローモデルの実証分析の紹介
第 4 回	無限期間モデル（ラムゼイ・モデル）	家計と企業の行動を組み入れたラムゼイ・モデルの解説
第 5 回	無限期間モデルによる分析	ラムゼイ・モデルを使った分析
第 6 回	無限期間モデルによる応用と実証分析	ラムゼイ・モデルの応用分析と実証分析の紹介
第 7 回	中間試験	前半授業の理解の確認
第 8 回	内生的成長モデル：基本モデル	基本的な内生的成長モデルの解説
第 9 回	内生的成長モデル：R&D 活動とは	知識の性質と R&D 活動
第 10 回	内生的成長モデル：ローマー・モデル	ローマー・モデルの解説
第 11 回	内生的成長モデル：ローマー・モデルによる分析	ローマーモデルの含意
第 12 回	内生的成長モデル：実証分析	内生的成長モデルの実証的な証分析
第 13 回	国家間所得格差	人的資本モデルによる分析
第 14 回	期末試験	後半授業の理解の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを読んでから講義に向かい、授業後に復習すると効果的です。毎回簡単な練習問題を出すので、講義の後に解いて理解を深めてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

David Romer, “Advanced Macroeconomics, 5th edition”, McGraw-Hill Irwin, 2018

（第 3 版の翻訳：デビッド・ローマー著『上級マクロ経済学、原著第 3 版』日本評論社、2010 年）講義は第 5 版に沿って行いますが、第 3 版の翻訳本でもほぼカバーできます。

【参考書】

テキストで紹介される論文などを、講義中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的参加による平常点 (20 %) + 中間試験 (40 %) + 期末試験 (40 %)

(ほぼ毎回練習問題を出しますが、提出を求めず、評価にも入れません。)

【学生の意見等からの気づき】

講義内容が盛りだくさんになると内容が良く理解できない学生がいるため、内容を絞って、余裕を持って講義を行う。また、毎回簡単な練習問題を課し、授業の冒頭で解説を行うことで理解を確認しながら進む。

【担当教員の専門分野等】

<https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/15/0001448/profile.html>

【Outline (in English)】

· Students learn the basic methods of advanced macroeconomics focuses on dynamics using international standard textbooks in graduate school.

· At the end of this course, students are expected to understand the basic solution of the dynamic macroeconomic model and be able to solve the basic dynamic macroeconomic model.

In addition, students will understand economic growth and income disparities around the world using the dynamic model.

· Students will be expected to read the textbook, and review after class. In addition, students will be expected to solve the simple exercise questions after the lecture to deepen their understanding. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

· Final grade will be calculated according to: midterm exam (40%), Final exam (40%), and in-class contribution (20%)

ECN514C1-2

マクロ経済学 B

八木橋 毅司

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

動学マクロ経済学の基本手法を、大学院での国際標準とされるテキストを用いて学ぶ

【到達目標】

大学院レベルのマクロ経済学で最も重要な手法である動学モデルの基本的な解法を理解し、基本的な動学モデルを解くことができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期 I 期に開講しますが、秋学期の「マクロ経済学 A」の知識は前提としません。アメリカの大学院でも修士 1 年生が勉強している標準的なテキストである Romer (2018) の 5 章および 8 章に沿って講義します。数式によるモデルの分析とともに、現実の経済への応用や実証分析の紹介も行います。授業形態については対面講義を原則としますが、希望者にはハイフレックス形式でのオンライン受講を認めます。（ただし最終日は対面のみ可）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業のガイダンス/消費	オリエンテーション、学術論文の読み方について、恒常所得仮説、ランダム・ウォーク仮説、オイラー方程式
第 2 回	消費	消費 CAPM モデル、予備的貯蓄、ベルマン方程式
第 3 回	消費/リアル・ビジネス・サイクルモデル	演習、景気循環の基礎知識、関連文献紹介
第 4 回	学生発表	学生発表
第 5 回	リアル・ビジネス・サイクルモデル	生産・労働供給の導入
第 6 回	リアル・ビジネス・サイクルモデル	リアル・ビジネス・サイクルモデルのインプリケーションおよび評価
第 7 回	リアル・ビジネス・サイクルモデル/期末試験	演習/期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 4 時間を標準とします

【テキスト（教科書）】

David Romer, *Advanced Macroeconomics*, 5th edition, McGraw-Hill Irwin, 2018

【参考書】

蓮見「動学マクロ経済学へのいざない」、2020 年

G. マンキュー（著）『マクロ経済学 1：入門編』東洋経済新報社、2017 年

G. マンキュー（著）『マクロ経済学 2：応用編』東洋経済新報社、2017 年

【成績評価の方法と基準】

期末試験 50 %、課題 40%、クラス参加 10%

【学生の意見等からの気づき】

初年度につき特になし

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン、タブレット、スマホのいずれかを常時持参してください。

【担当教員の専門分野等】

詳しくは下記ウェブサイトをご覧ください

<https://sites.google.com/site/takeshiyagihashi/>

【主要業績】

"Intertemporal Elasticity of Substitution with Leisure Margin" (with Juan Du), forthcoming in *Review of Economics of the Household*

"How Do the Trans-Pacific Economies Affect the US? An Industrial Sector Approach" (with David Selover), Oct. 2017, *The World Economy*, 40(10), 2097-2124.

"Goods-Time Elasticity of Substitution in Health Production" (with Juan Du), Oct. 2017, *Health Economics*, 26(11), 1474-1478.

"Health Care Inflation and Its Implication for Monetary Policy" (with Juan Du), Mar. 2015, *Economic Inquiry*, 53(3), 1556-1579.

"Estimating Taylor Rules in a Credit Channel Environment," Dec. 2011, *North American Journal of Economics and Finance*, 22(3), 344-364.

"Are DSGE Approximating Models Invariant to Shifts in Policy?" (with Timothy Cogley) Jan. 2010, *The B.E. Journal of Macroeconomics*, 10(1) (Contribution), Article 27, 1-31.

【Outline (in English)】

Students learn the basic methods of advanced macroeconomics using international standard textbooks in graduate school. At the end of this course, students are expected to understand the basic solution of the dynamic macroeconomic model and be able to solve the basic dynamic macroeconomic model.

【Learning Activities Outside of Classroom】

Four hours preview/four hours review per class

【Grading Criteria/Policy】

Final Exam: 50%, Assignment: 40%, Class Participation: 10%

ECN513C1-1

ミクロ経済学A

鈴木 豊

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、「ゲーム理論」を学習する。ゲーム理論は、経済主体間の「戦略的相互依存関係」を分析対象とし、企業間競争、契約問題、国際貿易、国際環境問題など、幅広く経済問題の分析に応用されており、ミクロ経済分析の中で重要なツールとなっている。本講義では、大学院生が今後、経済問題の分析ツールとしてゲーム理論を用いることができるよう、基本的なゲーム理論の原理と手法を習得する。なお、本講義は、博士課程への進学を希望する学生への研究基礎力となる内容を提供するものでもある。

【到達目標】

完備情報の静学ゲームと動学ゲームを理解することが主要目的となる。不完備情報ゲームは、完備情報ゲームの応用として位置付けることができるので、ゲーム理論とその応用を修得する上で、まずは完備情報ゲームをしっかり理解することが重要である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

教科書のギボンズ（1992,2020）に沿って、完備情報の静学・動学ゲームを中心に講義する。本書に掲載されていない事柄や練習問題を扱う場合には、別途、資料を配布する。なお本講義は、原則、教室にて対面で行い、また連絡や資料配布は、学習支援システム（HOPPII）上で行っていくので、確認を怠らないこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ゲーム理論とは？	ゲーム理論入門（ゲーム理論の位置づけ、導入的解説）
2	完備情報・静学ゲーム	標準型ゲーム、支配戦略、戦略の支配関係、支配される戦略の逐次消去
3	完備情報・静学ゲーム	最適反応とナッシュ均衡、ナッシュ均衡とパレート効率性
4	完備情報・静学ゲーム	寡占市場分析への応用（市場均衡理論の復習、クールノー寡占と独占市場）
5	完備情報・静学ゲーム	寡占市場への応用（同質財と異質財のベルトラン寡占）
6	完備情報・静学ゲーム	その他の応用（共有地の悲劇、（簡単な）オークション）
7	完備情報・静学ゲーム	混合戦略ナッシュ均衡とその応用
8	完備情報・動学ゲーム	完備完全情報ゲーム、逆向き推論、部分ゲーム完全なナッシュ均衡
9	完備情報・動学ゲーム	応用（シュタッケルベルグ寡占、最後通牒型交渉ゲームとその展開）
10	完備情報・動学ゲーム	不完備完全情報ゲーム、サブゲーム完全性、応用（銀行取付）
11	完備情報・動学ゲーム	応用（関税と不完全国際競争、トーナメント）
12	不完備情報・動学ゲーム	繰り返しゲーム・基礎
13	不完備情報・動学ゲーム	繰り返しゲーム・応用
14	不完備情報・静学ゲーム	静学ベイジアンゲームとベイジアンナッシュ均衡、応用例（非対称情報下のクールノー寡占）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本的な微分・積分、確率計算の知識を身につけていない受講者は、自主学習して欲しい。また、学部レベルのミクロ経済学の知識を前提として講義するので、復習して参加して欲しい。

【テキスト（教科書）】

ロバート・ギボンズ『経済学のためのゲーム理論入門』（福岡正夫、須田伸一翻訳）岩波書店 2020

Robert Gibbons, *Game Theory for Applied Economists*, Princeton University Press 1992

【参考書】

・教科書と同程度もしくは易しいレベルの参考書

[1] 岡田章『ゲーム理論・入門 新版』有斐閣, 2008.

[2] 鈴木豊『完全理解 ゲーム理論・契約理論 第2版』勁草書房, 2021.

[3] 梶井・松井『ミクロ経済学 戦略的アプローチ』日本評論社, 2000.

・教科書と同程度もしくはより難易度の高い参考書

[4] Fudenberg and Tirole, *Game Theory*, The MIT Press, 1991.

[5] Tirole, *Theory of Industrial Organization*, The MIT Press, 1988.

[6] Bolton and Dewatripont, *Contract Theory*, The MIT Press, 2004.

【成績評価の方法と基準】

学期末試験（70％）。練習問題をレポートとして2回提出（30％）。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は本講義を担当していないため、該当せず。

【担当教員の専門分野等】

<https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/15/0001407/profile.html>を参照のこと。

【Outline (in English)】

In this lecture, students will learn "Game Theory". Game theory analyzes "strategic interdependence" between players (decision-makers) and has been applied to a wide range of economic problems such as competition between firms, contract problems, international trade, and international environmental problems, and has become an important tool in microeconomic analysis. In this course, graduate students will learn the basic principles and methods of game theory so that they can use game theory as an analytical tool for economic problems. This lecture also provides basic research skills for students who wish to advance to the doctoral program. Before/after each lecture, students will be expected to spend four hours to fully understand the content. Grading is based on Two Assignments (Problem Sets as Homework)(30%), and a Final Exam (70%).

ECN513C1-2

ミクロ経済学B

佐柄 信純

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

一般均衡分析による経済の描写は様々な問題に適用可能であるだけでなく、市場メカニズムの功罪を考える際にも有用な参照基準を提供します。本講義では、消費者行動、企業行動、市場均衡の特質に内容を厳選した上で l 財 m 消費者 n 企業の一般均衡分析として、伝統的な価格理論を体系的に講義します。

【到達目標】

一般均衡理論の視点から伝統的な価格理論の基本的な道具を習得し、市場経済の様々な現象に対する各自の問題意識に応じて、自分でモデルを組み、理論分析を行えるようになることを最終目標にします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

教科書は使用せず、講義ノートにもとづき授業を進めます。必要に応じて、問題演習を行います。初等的な微積分、線形代数にある程度習熟していることを前提にします。これらの予備知識が不足している受講者は、事前に必要な数学を独習した上で受講して下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	消費者の理論 (1)	財空間、消費集合、選好
第2回	消費者の理論 (2)	選好と効用関数
第3回	消費者の理論 (3)	効用最大化と需要の決定
第4回	消費者の理論 (4)	需要関数の性質
第5回	生産者の理論 (1)	生産集合
第6回	生産者の理論 (2)	生産関数と等量曲線
第7回	生産者の理論 (3)	利潤最大化と供給の決定
第8回	生産者の理論 (4)	要素需要と費用関数
第9回	市場メカニズムと経済厚生 (1)	純粋交換経済
第10回	市場メカニズムと経済厚生 (2)	競争均衡とパレート効率性
第11回	市場メカニズムと経済厚生 (3)	パレート効率的配分の解法
第12回	市場メカニズムと経済厚生 (4)	資源配分の衡平性
第13回	不確実性と市場 (1)	状態依存財、完備市場
第14回	不確実性と市場 (2)	証券の役割、不完備市場

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

- [1] T. Ichiishi, *Microeconomic Theory*, Wiley-Blackwell, Hoboken, 1997.
- [2] D. Kreps, *Microeconomic Foundations I: Choice and Competitive Markets*, Princeton Univ. Press, Princeton, 2012.
- [3] A. Mas-Coell, M.D. Whinston, and J.R. Green, *Microeconomic Theory*, Oxford Univ. Press, Oxford, 1995.
- [4] H.R. Varian, *Microeconomic Analysis*, 3rd edn., W.W. Norton, New York, 1992.
- [5] 浦井憲・吉野昭彦『ミクロ経済学』（ミネルヴァ書房、2012年）
- [6] 奥野正寛・鈴木興太郎『ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ』（岩波書店、Ⅰ：1985年、Ⅱ：1988年）

- [7] 武隈慎一『ミクロ経済学（新版）』（新世社、2016年）
- [8] 西村和雄『ミクロ経済学』（東洋経済新報社、1990年）
- [9] 山崎昭『ミクロ経済学』（知泉書館、2006年）

【成績評価の方法と基準】

受講者は講義の最後に演習問題を解き、毎回それを提出することで平常点が与えられます。最終講義に試験を行います。平常点（30%）、試験（70%）の総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解度に合わせて授業の進行スピードを調整します。

【担当教員の専門分野】

<専門領域>
 函数解析学、最適制御理論
 <研究テーマ>
 一般均衡理論、協力ゲーム理論、最適成長理論、数理マルクス経済学
 <主要研究業績>

[1] "Fuzzy core equivalence in large economies: A role for the infinite-dimensional Lyapunov theorem", (2022). Joint with M. Ali Khan, *Communications in Economics and Mathematical Sciences* 1, 1-8.

[2] "Value functions and optimality conditions for nonconvex variational problems with an infinite horizon in Banach spaces", (2022). Joint with H el ene Frankowska, *Mathematics of Operations Research* 47(1), 320-340.

[3] "Optimality conditions for nonconvex variational problems with integral constraints in Banach spaces", (2020). *Journal of Convex Analysis* 27(2), 567-583.

【Outline (in English)】

Course outline. In this course basic topics of microeconomics are lectured. Theory of consumers and producers, market equilibria and economic welfare are the main theme.

Learning Objectives. The goals of this course are to study basic foundations of microeconomics to understand major subjects of economics.

Learning activities outside of classroom. Students will be expected to have completed the required assignments before and after each class. Your study time will be more than four hours for a class.

Grading Criteria/Policy. Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term end examination: 70% and in class contribution: 30%.

ECN522C1-1

応用マクロ経済学 A

八木橋 毅司

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

最適化理論（家計の効用最大化、企業の利潤最大化）に基づいた動学的一般均衡モデルを大学院での国際標準とされるテキストを用いて学ぶ

【到達目標】

大学院レベルのマクロ経済学で最も重要な手法である動学モデルの基本的な解法を理解し、応用的な動学モデルを解くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期Ⅱ期に開講しますが、秋学期の「マクロ経済学 A」の知識は前提としません。アメリカの大学院でも修士学生が勉強している標準的なテキストである Romer (2018) の 2 章、6 章、および 7 章に沿って講義します。数式によるモデルの分析とともに、現実の経済への応用や実証分析の紹介も行います。授業形態については対面講義を原則としますが、希望者にはハイフレックス形式でのオンライン受講を認めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業のガイダンス/名目硬直性	オリエンテーション、Matlab の紹介、貨幣と産出量の関係性、ベクトル自己回帰モデル
第 2 回	名目硬直性	ベクトル自己回帰モデル（続き）
第 3 回	名目硬直性	貨幣保有と総需要、不完全競争と総供給
第 4 回	名目硬直性/DSGE モデルの紹介	演習、DSGE モデルの基本的フレームワーク
第 5 回	DSGE モデルの紹介/世代重複モデル	DSGE モデルの基本的フレームワーク（続き）、世代重複モデルの概要
第 6 回	世代重複モデル	世代重複モデルにおける動学的非効率性、演習
第 7 回	学生発表	学生発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 4 時間を標準とします

【テキスト（教科書）】

David Romer, Advanced Macroeconomics, 5th edition, McGraw-Hill Irwin, 2018

【参考書】

進見「動学マクロ経済学へのいざない」、2020 年
G. マンキュー（著）『マクロ経済学 1：入門編』東洋経済新報社、2017 年
G. マンキュー（著）『マクロ経済学 2：応用編』東洋経済新報社、2017 年

【成績評価の方法と基準】

学生発表 50 %、課題 40%、クラス参加 10%

【学生の意見等からの気づき】

初年度につき特になし

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン、タブレット、スマホのいずれかを常時持参してください。

【担当教員の専門分野等】

詳しくは下記ウェブサイトをご覧ください

<https://sites.google.com/site/takeshiyagihashi/>

【主要業績】

"Intertemporal Elasticity of Substitution with Leisure Margin" (with Juan Du), forthcoming in Review of Economics of the Household

"How Do the Trans-Pacific Economies Affect the US? An Industrial Sector Approach" (with David Selover), Oct. 2017, The World Economy, 40(10), 2097-2124.

"Goods-Time Elasticity of Substitution in Health Production" (with Juan Du), Oct. 2017, Health Economics, 26(11), 1474-1478.

"Health Care Inflation and Its Implication for Monetary Policy" (with Juan Du), Mar. 2015, Economic Inquiry, 53(3), 1556-1579.

"Estimating Taylor Rules in a Credit Channel Environment," Dec. 2011, North American Journal of Economics and Finance, 22(3), 344-364.

"Are DSGE Approximating Models Invariant to Shifts in Policy?" (with Timothy Cogley) Jan. 2010, The B.E. Journal of Macroeconomics, 10(1) (Contribution), Article 27, 1-31.

【Outline (in English)】

Students learn the basic methods of advanced macroeconomics using international standard textbooks in graduate school. At the end of this course, students are expected to understand the applied Dynamic General Equilibrium model.

【Learning Activities Outside of Classroom】

Four hours preview/four hours review per class

【Grading Criteria/Policy】

Student presentation: 50%, Assignment: 40%, Class Participation: 10%

ECN522C1-2

応用マクロ経済学 B

連見 亮

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、経済政策の現場では、「新しいケインジアンマクロ経済モデル」を念頭に置いて議論する方向にあります。この授業では、トピックを絞った上で最適化理論（家計の効用最大化、企業の利潤最大化）に基づくマクロ経済学の考え方を学んでいきます。

数式を使った解説がメインになりますが、それぞれの変数の持つ意味がイメージできれば、図のみに頼るよりもかえって理解がはかどるはずです（全くの数式アレルギーの人には薦められませんが）。網羅的な説明は目標としないので、極力やさしく丁寧に解説します。理解を深めるために、必要に応じてコンピュータによる数値計算などの結果も示します。

例えば学生が経済政策の立案者となったとき、適切な提言をするための知識を習得すること、あるいは将来企業の企画立案者や経営者となったとき、企業経営に関する重要な意思決定する際の判断の基礎とすべき基本的な概念と考え方を習得することを目的とします。

【到達目標】

マクロ経済学の基礎的な概念の理解に基づき、応用的なモデルを用いた政策分析を行えるようになることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

輪読形式（学生に担当箇所を割り振り、説明してもらう）とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1.	イントロダクション	マクロ経済モデルの基本的な考え方
2.	ソローモデル（1）	経済成長、生産関数、資本ストックの蓄積、消費と投資のトレードオフ
3.	数学の準備	指数関数・対数関数、偏微分、テイラー展開
4.	ソローモデル（2）	定常状態の計算、成長会計
5.	ラムゼイモデル（1）	効用関数
6.	ラムゼイモデル（2）	ラグランジュの未定乗数法、オイラー方程式の導出
7.	ラムゼイモデル（3）	定常状態への経路の計算
8.	税制モデル	税制の変更シミュレーション
9.	RBC モデル（1）	技術ショック、労働供給の内生化
10.	RBC モデル（2）	技術ショックに対するインパルス応答、景気循環
11.	ニューケインジアン・モデル（1）	独占的競争モデル
12.	ニューケインジアン・モデル（2）	ニューケインジアン・フィリップス曲線、IS 曲線
13.	ニューケインジアン・モデル（3）	解の存在条件、最適金融政策
14.	まとめと復習	講義を振り返り、最適化理論に基づくマクロ経済学の体系を確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中にも解説しますが、高校数学程度の指数関数・対数関数、微分・積分、数列を復習しておいてください。また、余力があれば、極限、自然対数、 e （ネイピア数）を予習しておいてください。週3時間程度の準備学習・復習が単位認定の目安となります。

【テキスト（教科書）】

連見 亮（著）『動学マクロ経済学へのいざない』、日本評論社、2020年
必要に応じて授業支援システム経由で講義ノートを配布します。

【参考書】

特になし（授業中に指示します）。

【成績評価の方法と基準】

平常点40%、割り当てた輪読箇所のプレゼンテーション60%の配点で成績評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につき該当なし。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン講義につき、機材（PC、タブレット等）・ネットワーク環境が必要です。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>
マクロ経済学、計量経済学（ベイズ統計学）
<研究テーマ>
マクロ経済モデルによるシミュレーション分析
<主要研究業績>

Ono, Arito, Ryo Hasumi, and Hideaki Hirata, “Differentiated use of small business credit scoring by relationship lenders and transactional lenders: Evidence from firm-bank matched data in Japan”, *Journal of Banking & Finance* 42, 371-380, 2014.

Hasumi, Ryo and Hideaki Hirata, “Small Business Credit Scoring and Its Pitfalls: Evidence from Japan”, *Journal of Small Business Management* 52, 555-568, 2014.

Hasumi, Ryo, Hirokuni Iiboshi, and Daisuke Nakamura, “Trends, Cycles and Lost Decades – Decomposition from a DSGE Model with Endogenous Growth”, *Japan & The World Economy* 46, 9-28, 2018.

Hasumi, Ryo, Hirokuni Iiboshi, Tatsuyoshi Matsumae, and Daisuke Nakamura. “Does a Financial Accelerator Improve Forecasts during Financial Crises?: Evidence From Japan with Prediction-pool Methods”, *Journal of Asian Economics*, 60, 45-68, 2019.

【Outline (in English)】 (Course outline)

In recent years, macroeconomic policy has often been discussed in line with New Keynesian macroeconomic models. In this class, students will learn a macroeconomic theory based on optimization, which includes utility maximization of households and profit maximization of firms.

(Learning Objectives)

The objective of this course is that students will be able to conduct policy analysis using applied models based on an understanding of the basic concepts of macroeconomics.

(Learning activities outside of classroom)

Approximately three hours of preparatory study and review per week is required for credit.

(Grading Criteria /Policy)

Grading will be based on class participation (40%) and presentation of assigned readings (60%).

ECN521C1-1

応用ミクロ経済学A

鈴木 豊

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「契約理論（Contract Theory）について体系的に学ぶ。

- (I) 不確実性と情報の経済学：「情報の経済学」の基礎
- (II) プリンシパル=エージェントの理論:モラルハザード
- (III) プリンシパル=エージェントの理論:アドバースセレクション
- (IV) 不完備契約（Incomplete Contracts）と企業理論

【到達目標】

受講生は、「契約理論・ゲーム理論」の考え方・分析の仕方を修得し、「応用ミクロ分析」に積極的に活用して、修士論文の執筆に生かせるようになることが期待される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

教科書『完全理解ゲーム理論・契約理論 第2版』（9章～12章）を基本の流れとして進める。授業の中で、より高度なレジュメや参考資料の配布、参考文献の指示等を行う。リアクションペーパーと課題提出の積み重ねが重要となる。授業の詳細の指示や課題等へのフィードバックは、「教室」と「学習支援システム」を組み合わせで行う。授業形態は、基本、対面授業とするが、「Zoom 動画」などの資産も有効活用していきたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	不確実性と情報の経済学①基礎	期待効用最大化仮説、リスク態度、リスクプレミアム、期待効用最大化とその使い方
第2回	不確実性と情報の経済学②応用	期待効用最大化と最適化の1階条件、ポートフォリオセレクションとその応用、リスク分散
第3回	プリンシパル・エージェントの理論：モラルハザード①	エージェンシー理論の導入、固定給とモラルハザード、歩合給とインセンティブ効果。数値モデルによる分析。
第4回	モラルハザード②	簡単なエージェンシーモデルの解（リスク中立のエージェント）、インセンティブスキームの直観的説明
第5回	モラルハザード③	インセンティブ契約の数学モデル（リスク回避的エージェント）、いくつかのモデリング。
第6回	複数エージェントの理論①	チーム生産①フリーライダー問題を解決する仕組み。ペナルティスキームなど。
第7回	複数エージェントの理論②	トーナメントの理論と応用。オークション理論との比較など。
第8回	プリンシパル・エージェントの理論：アドバース・セレクション①	逆選抜 (Adverse Selection) : 基礎編
第9回	アドバース・セレクション②	逆選抜を解決する仕組みとしての自己選抜メカニズム①導入
第10回	アドバース・セレクション③	自己選抜メカニズム②応用と展開

第11回 不完備契約①

関係特殊の投資とホールドアップ問題：概念と基本モデル、一般化と外部機会の存在

第12回 不完備契約②

「資産所有（財産権）」アプローチ
① Grossman=Hart=Moore モデル、残余コントロール権の配分と企業の境界の決定

第13回 不完備契約③

組織における権限配分、権限委譲について。Aghion=Tirole1997のモデルなど。

第14回 その他のトピックス

関係的契約、行動契約理論などの解説。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容（授業ノート）および配布資料の理解と確認をその都度行っていくこと。詳細は授業内で指示する。本授業の予習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

鈴木豊『完全理解 ゲーム理論・契約理論 第2版』勁草書房 2021（9章～12章）を基本の流れとし、授業の中で、レジュメや参考資料の配布、参考文献の指示を行う。

【参考書】

- ① マクミラン『経営戦略のゲーム理論』（伊藤、林田訳）有斐閣
- ② ミルグロム+ロバーツ『組織の経済学』（奥野、伊藤他訳）NTT出版
- ③ ラジアー『人事と組織の経済学』（樋口、清家訳）日本経済新聞社
- ④ オリバー・ハート『企業契約 金融構造』（鳥居訳）慶応大学出版会 2010
- ⑤ Bolton and Dewatripont, Contract Theory, MIT Press
- ⑥ 鈴木豊（編）『ガバナンスの比較セクター分析：ゲーム理論・契約理論を用いた学際的アプローチ』法政大学出版局 2010年
- ⑦ 鈴木豊『中国経済の制度分析：契約理論・ゲーム理論アプローチ』日本評論社 2020年

【成績評価の方法と基準】

レポート（練習問題）（3回）（75%）。リアクションペーパーの積み重ね（5%）。下記の教科書・参考文献から、興味を持った箇所を選んで、小エッセイ（コメント）を書く（20%）。詳細は授業で指示する。

1. 鈴木豊『完全理解 ゲーム理論・契約理論 第2版』勁草書房（9章～12章）
2. 鈴木豊『中国経済の制度分析：契約理論・ゲーム理論アプローチ』日本評論社
3. 鈴木豊（編）『ガバナンスの比較セクター分析：ゲーム理論・契約理論を用いた学際的アプローチ』法政大学出版局

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は担当していないので、該当せず。

【担当教員の専門分野等】

<https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/15/0001407/profile.html>を参照のこと。

【Outline (in English)】

Students will systematically study Contract Theory.

- (I) Uncertainty and Economics of Information
- (II) Principal = Agent Theory: Moral Hazard
- (III) Principal = Agent Theory: Adverse Selection
- (IV) Theory of Incomplete Contracts

Before/after each lecture, students will be expected to spend four hours to understand the content. Grading is based on Three Assignments (Problem Sets as Homework)(75%), Reaction Papers (5%), and a Final (Short) Essay (20%).

ECN521C1-2

応用ミクロ経済学 B

佐柄 信純

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ミクロ経済学 B で扱えなかった応用分野の問題を題材を厳選して講義します。顕示選好理論、労働市場、異時点間の意思決定、不確実性下の意思決定、協力ゲームの理論などを扱います。

【到達目標】

ミクロ経済学でモデル化されていない経済現象や応用問題を明確に意識し、どのように理論を拡充する必要があるかを、自分の頭で考え、研究を進められるようになることを最終目標にします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

教科書は使用せず、講義ノートにもとづき授業を進めます。必要に応じて、問題演習を行います。初等的な微積分、線形代数にある程度習熟していることを前提にします。これらの予備知識が不足している受講者は、事前に必要な数学を独習した上で受講して下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	顕示選好理論 (1)	顕示選好の弱公準
第 2 回	顕示選好理論 (2)	顕示選好と価格指数
第 3 回	労働市場の分析 (1)	効用最大化と労働需要
第 4 回	労働市場の分析 (2)	利潤最大化と労働供給
第 5 回	労働市場の分析 (3)	賃金の決定と非自発的失業
第 6 回	異時点間の意思決定 (1)	2 期間モデル
第 7 回	異時点間の意思決定 (2)	世代重複と景気循環
第 8 回	異時点間の意思決定 (3)	公債発行と財政政策
第 9 回	不確実性下の意思決定 (1)	期待効用と危険に対する態度
第 10 回	不確実性下の意思決定 (2)	資産選択, 保険, モラル・ハザード
第 11 回	不確実性下の意思決定 (3)	情報の非対称性と逆選択
第 12 回	不確実性下の意思決定 (4)	教育とシグナリング
第 13 回	協力ゲーム (1)	譲渡可能効用ゲーム, 譲渡不可能効用ゲーム
第 14 回	協力ゲーム (2)	市場ゲームのコア

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

開講時にリーディング・リストを提示する。

【成績評価の方法と基準】

受講者は講義の最後に演習問題を解き、毎回それを提出することで平常点が与えられます。最終講義に試験を行います。平常点 (30%)、試験 (70%) の総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解度に合わせて授業の進行スピードを調整します。

【担当教員の専門分野】

<専門領域>

函数解析学, 最適制御理論

<研究テーマ>

一般均衡理論, 協力ゲーム理論, 最適成長理論, 数理マルクス経済学

<主要研究業績>

[1] "Fuzzy core equivalence in large economies: A role for the infinite-dimensional Lyapunov theorem", (2022). Joint with M. Ali Khan, *Communications in Economics and Mathematical Sciences* **1**, 1-8.

[2] "Value functions and optimality conditions for nonconvex variational problems with an infinite horizon in Banach spaces", (2022). Joint with H el ene Frankowska, *Mathematics of Operations Research* **47**(1), 320-340.

[3] "Optimality conditions for nonconvex variational problems with integral constraints in Banach spaces", (2020). *Journal of Convex Analysis* **27**(2), 567-583.

【Outline (in English)】

Course outline. In this course several topics of applied microeconomics are lectured. Revealed preferences, utility maximization and labor supply, intertemporal decisions, decisions under uncertainty, cooperative games are the main theme.

Learning Objectives. The goal of this course is to study various applications of microeconomics to illustrate the power of economic theory.

Learning activities outside of classroom. Students will be expected to have completed the required assignments before and after each class. Your study time will be more than four hours for a class.

Grading Criteria/Policy. Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term end examination: 70% and in class contribution: 30%.

ECN542C1-2

金融ファイナンス論B

胥 鵬

備考（履修条件等）：（2021年度以降入学者用）

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

金融ファイナンス理論は、リスクに始まりリスクに終わる。しかし、リスクの定義とはなんだろうか？リスクの定義の出発点として、収益率のばらつきを表す標準偏差から出発し、二つの銘柄の株式投資収益率の相関と分散投資を中心に講義をする。その上で、リスク資産から有効ポートフォリオ・フロンティアを導く。さらに、安全資産についてわかりやすく解説し、安全資産を含む資本市場線と証券市場線の考え方をを用いて均衡におけるリスクの定義及びリスクとリターンとの関係を説明する。

【到達目標】

緊急事態宣言を受けて、航空会社、観光旅行会社、飲食関連会社の株価が大きく変動していた。日々の株価を用いて、金融・ファイナンスだけではなく、様々な経済政策を研究することが可能である。この授業は金融ファイナンスの基礎理論を紹介し、とりわけ、株式投資のリターンとリスクとの関係に関する理論分析を理解することを目的とする。学生には、日々の株価変動の背後にある個別リスクとシステマチック・リスクの意味について考え、経済研究への応用を理解してもらうことをめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、パソコンなどで自分のために自分の手で自分の問題を解くことによって講義内容をマスターします。さらに、FQなどの学内データベースの活用方法を紹介し、修士論文作成へのステップアップを目指す。

原則として対面授業を実施する。学生諸君が各自にダウンロードしたデータや資料に基づく活発な議論や実証分析を行い、学生諸君が提示した具体例を取り上げつつ、学生参加による学生のための授業を進める。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	景気・業況・金利の変動と株価	日々の株価の変動、リスクとリターン
2	投資のリターンとは何か？	期待投資収益率はリターン
3	リスクとは何か？	投資収益率のばらつきはリスク
4	二株を追う者は何を求める？	2銘柄の分散投資の収益率
5	2銘柄の分散投資からの拡張	複数銘柄の分散投資
6	リスクとリターンのトレードオフ	危険資産からなる有効ポートフォリオ・フロンティア
7	資本市場線	安全資産の導入
8	証券市場線	安全資産を含む有効ポートフォリオ・フロンティア
9	β の導出	個別銘柄株式のリスク
10	マーケット・モデル	個別銘柄株式のリスクの計測
11	株式相場の影響	株式増場の影響を除いた異常収益率の計算
12	イベント・スタディー	利益・配当・政策などの変動の株価に対する効果を計測する分析手法

13	データ収集	株価データを収集する
14	仮説検定	集計した異常収益率に基づいて経済学・金融・ファイナンスの様々な仮説を検証する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

簡単な予習はもちろん、理解できない点については必ず復習してください。宿題や課題を通じて自分の理解を深めましょう。留学生は必ず日本語システムのパソコンとエクセルを使用してください。準備学習・復習・宿題などの授業時間外学習は各4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

斉藤誠 『金融技術の考え方・使い方：リスクと流動性の経済分析』、有斐閣

『日本のコーポレートファイナンス—サーバイデータによる分析』花枝英樹、芹田敏夫、胥鵬、佐々木隆文、鈴木健嗣、佐々木寿記、白桃書房

【参考書】

必要に応じて、専門誌論文を授業支援システムにアップロードする。

【成績評価の方法と基準】

成績評価には、中間レポート(30%)と期末レポート(40%)はいずれも必須、授業活躍などの加点は30%。

【学生の意見等からの気づき】

他のテーマについてもリクエストに応じて適宜に取り上げる。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン持参。留学生は必ず日本語システムのパソコンとエクセルを使用してください。

【その他の重要事項】

米国のビジネススクールにまさるとも劣らぬ講義を皆様に届ける。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 企業金融（コーポレート・ファイナンス）、企業統治（コーポレート・ガバナンス）、法と経済学、不動産価格、中国経済
<研究テーマ> MBO、敵対的買収案と株式議決権行使、ホットマネー（熱銭）と中国の不動産価格

<主要研究業績>

『日本のコーポレートファイナンス—サーバイデータによる分析』花枝英樹、芹田敏夫、胥鵬、佐々木隆文、鈴木健嗣、佐々木寿記(6,7章) 白桃書房 2020年

Strategic short selling around index additions: Evidence from the Nikkei 225 Index, Shiomi, Naoya, Takahashi, Hidetomo, Xu, Peng International Review of Finance 2020年

Trading activities of short-sellers around index deletions: Evidence from the Nikkei 225 Hidetomo Takahashi and Peng Xu Journal of Financial Markets 27 132 - 146 2016

【Outline (in English)】

In this course, we learn basic monetary and finance theories. Finance theory begins and ends with risk. The goal of the course is to understand risks based on the Capital Asset Pricing Model and the method of event study. Students are expected to calculate abnormal return and test economic hypotheses. Before/after each class meeting, students will be expected to download the relevant data and documents. Your required study time is about one hour for each class meeting. The mid-term report (30%) and term end report (40%) are both required for grading, in addition to in class contribution (30%).

ECN542C1-2

金融システム論B

胥 鵬

備考（履修条件等）：（2020年度以前入学者用）

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

金融ファイナンス理論は、リスクに始まりリスクに終わる。しかし、リスクの定義とはなんだろうか？リスクの定義の出発点として、収益率のばらつきを表す標準偏差から出発し、二つの銘柄の株式投資収益率の相関と分散投資を中心に講義をする。その上で、リスク資産から有効ポートフォリオ・フロンティアを導く。さらに、安全資産についてわかりやすく解説し、安全資産を含む資本市場線と証券市場線の考え方をを用いて均衡におけるリスクの定義及びリスクとリターンとの関係を説明する。

【到達目標】

緊急事態宣言を受けて、航空会社、観光旅行会社、飲食関連会社の株価が大きく変動していた。日々の株価を用いて、金融・ファイナンスだけではなく、様々な経済政策を研究することが可能である。この授業は金融ファイナンスの基礎理論を紹介し、とりわけ、株式投資のリターンとリスクとの関係に関する理論分析を理解することを目的とする。学生には、日々の株価変動の背後にある個別リスクとシステムチック・リスクの意味について考え、経済研究への応用を理解してもらうことをめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、パソコンなどで自分のために自分の手で自分の問題を解くことによって講義内容をマスターします。さらに、FQなどの学内データベースの活用方法を紹介し、修士論文作成へのステップアップを目指す。

原則として対面授業を実施する。学生諸君が各自にダウンロードしたデータや資料に基づく活発な議論や実証分析を行い、学生諸君が提示した具体例を取り上げつつ、学生参加による学生のための授業を進める。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	景気・業況・金利の変動と株価	日々の株価の変動、リスクとリターン
2	投資のリターンとは何か？	期待投資収益率はリターン
3	リスクとは何か？	投資収益率のばらつきはリスク
4	2株を追う者は何を求める？	2銘柄の分散投資の収益率
5	2銘柄の分散投資からの拡張	複数銘柄の分散投資
6	リスクとリターンのトレードオフ	危険資産からなる有効ポートフォリオ・フロンティア
7	資本市場線	安全資産の導入
8	証券市場線	安全資産を含む有効ポートフォリオ・フロンティア
9	β の導出	個別銘柄株式のリスク
10	マーケット・モデル	個別銘柄株式のリスクの計測
11	株式相場の影響	株式増場の影響を除いた異常収益率の計算
12	イベント・スタディー	利益・配当・政策などの変動の株価に対する効果を計測する分析手法

13	データ収集	株価データを収集する
14	仮説検定	集計した異常収益率に基づいて経済学・金融・ファイナンスの様々な仮説を検証する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

簡単な予習はもちろん、理解できない点については必ず復習してください。宿題や課題を通じて自分の理解を深めましょう。留学生は必ず日本語システムのパソコンとエクセルを使用してください。準備学習・復習・宿題などの授業時間外学習は各4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

斉藤誠 『金融技術の考え方・使い方：リスクと流動性の経済分析』、有斐閣

『日本のコーポレートファイナンス—サーバイデータによる分析』花枝英樹、芹田敏夫、胥鵬、佐々木隆文、鈴木健嗣、佐々木寿記、白桃書房

【参考書】

必要に応じて、専門誌論文を授業支援システムにアップロードする。

【成績評価の方法と基準】

成績評価には、中間レポート(30%)と期末レポート(40%)はいずれも必須、授業活躍などの加点は30%。

【学生の意見等からの気づき】

他のテーマについてもリクエストに応じて適宜に取り上げる。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン持参。留学生は必ず日本語システムのパソコンとエクセルを使用してください。

【その他の重要事項】

米国のビジネススクールにまさるとも劣らぬ講義を皆様に届ける。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 企業金融（コーポレート・ファイナンス）、企業統治（コーポレート・ガバナンス）、法と経済学、不動産価格、中国経済
<研究テーマ> MBO、敵対的買収案と株式議決権行使、ホットマネー（熱銭）と中国の不動産価格

<主要研究業績>

『日本のコーポレートファイナンス—サーバイデータによる分析』花枝英樹、芹田敏夫、胥鵬、佐々木隆文、鈴木健嗣、佐々木寿記(6,7章) 白桃書房 2020年

Strategic short selling around index additions: Evidence from the Nikkei 225 Index, Shiomi, Naoya, Takahashi, Hidetomo, Xu, Peng International Review of Finance 2020年

Trading activities of short-sellers around index deletions: Evidence from the Nikkei 225 Hidetomo Takahashi and Peng Xu Journal of Financial Markets 27 132 - 146 2016

【Outline (in English)】

In this course, we learn basic monetary and finance theories. Finance theory begins and ends with risk. The goal of the course is to understand risks based on the Capital Asset Pricing Model and the method of event study. Students are expected to calculate abnormal return and test economic hypotheses. Before/after each class meeting, students will be expected to download the relevant data and documents. Your required study time is about one hour for each class meeting. The mid-term report (30%) and term end report (40%) are both required for grading, in addition to in class contribution (30%).

ECN554C1-1

財政学 A

小黒 一正

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

急速に進む少子高齢化や人口減少に伴い、財政や政治は様々な課題に直面している。そこで、本講義の前半では、財政規律と予算制度に関する主要論点を、後半は財政と政治に関する主要論点をテーマに取り上げる。

【到達目標】

財政に関連する主要論点や研究テーマ、理論モデルや分析手法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

- (1) 前半は、財政規律と予算制度に関する主要論点や研究テーマ、理論モデルや分析手法を理解する。
- (2) 後半は、財政と政治に関する主要論点や研究テーマ、理論モデルや分析手法を理解する。
- (3) 参加者に、参考文献の報告を求める。

【留意事項】

なお、新型コロナウイルス感染症拡大の影響に伴い、基本的に授業は Zoom 等の遠隔システムを利用して行う予定である。初回のガイダンスを含め、リンクは学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	財政規律と予算制度 (1)	ガイダンス
2	財政規律と予算制度 (2)	OECD 諸国の財政動向
3	財政規律と予算制度 (3)	財政赤字と予算制度①（財政赤字の政治経済学、予算・予算制度・予算マネジメント）
4	財政規律と予算制度 (4)	財政赤字と予算制度②（予算制度の分析）
5	財政規律と予算制度 (5)	日本の予算制度の問題①（財政悪化と財政再建の過程）
6	財政規律と予算制度 (6)	日本の予算制度の問題②（財政ルール、中期財政フレーム）
7	財政規律と予算制度 (7)	日本の予算制度の問題③（意思決定システム）
8	財政規律と予算制度 (8)	日本の予算制度の問題④（中央省庁等改革と予算編成過程）
9	財政規律と予算制度 (9)	OECD 主要国の予算制度改革①（アメリカ、イギリス、ニュージーランド）
10	財政規律と予算制度 (10)	OECD 主要国の予算制度改革②（オーストラリア、カナダ）
11	財政規律と予算制度 (11)	OECD 主要国の予算制度改革③（フランス、ドイツ、イタリア）
12	財政規律と予算制度 (12)	OECD 主要国の予算制度改革④（スウェーデン、オランダ）
13	財政規律と予算制度 (13)	予算制度の国際比較①（政治的コミットメント、財政ルール）
14	財政規律と予算制度 (14)	予算制度の国際比較②（中期財政フレーム、意思決定システム、予算・財政の透明性）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考文献（テキストや主要論文）を事前に読んでおくことが望ましい。また報告にあたっては、当該文献のみでなく、関連文献にも目を通しておくこと。準備・復習時間は、各 2 時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】

参加者と相談して決めるが、現在のところ、以下を予定している。田中秀明『財政規律と予算制度改革』日本評論社、2011

【参考書】

- ① Philippe Aghion and Peter W. Howitt, The Economics of Growth, MIT Press, 2008
- ② Daron Acemoglu, Introduction To Modern Economic Growth, Princeton University Press, 2009
- ③ Walsh, Monetary Theory and Policy, MIT Press, 2010
- ④ Persson and Tabellini, Political Economics, MIT Press, 2002
- ⑤ Bernard Salani, The Economics of Taxation, MIT Press, 2011
- ⑥ 井堀利宏・土居文朗『日本政治の経済分析』木鐸社、1998
- ⑦ 井堀利宏『課税の理論』有斐閣、2003
- ⑧ 山重慎二・加藤久和・小黒一正編『人口動態と政策：経済学的アプローチへの招待』日本評論社、2013

【成績評価の方法と基準】

授業内での報告（70 %）+ レポート（30 %）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

感染症対策のため、基本的に Zoom を利用したオンラインで授業を行うことを予定している。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>
 財政学、公共経済学
 <研究テーマ>
 人口動態と政治経済の相互作用や世代間問題の分析
 <主要研究業績>

- ① Child Benefit and Fiscal Burden in the Endogenous Fertility Setting, Economic Modelling, 44, 252-265, 2015
- ② Impact of Deflation on Real Interest rate of Government Bonds, The Economic Review, 64(2), 147-159, 2013
- ③ Demographic Change, Intergenerational Altruism, and Fiscal Policy - A Political Economy Approach -, Studies in Applied Economics, 6, 1-15, 2013
- ④ Ability transmission, endogenous fertility, and educational subsidy, Applied Economics, 45(17), 2469-2479, 2012

【Outline (in English)】

The primary goal of this course is to help you develop a consistent way of thinking about the issues of Japanese public finance, by using the approaches of public economics. This will also help you to predict the future direction of Japanese fiscal policy at a much deeper level. The standard preparatory study and review time for this class is about 2 hours. Grading criteria /policy is evaluated by the regular report (70%) and the final report (30%).

ECN554C1-2

財政学 B

小黒 一正

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

急速に進む少子高齢化や人口減少に伴い、財政や政治は様々な課題に直面している。そこで、本講義の前半では、財政規律と予算制度に関する主要論点を、後半は財政と政治に関する主要論点をテーマに取り上げる。

【到達目標】

財政に関連する主要論点や研究テーマ、理論モデルや分析手法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

- (1) 前半は、財政規律と予算制度に関する主要論点や研究テーマ、理論モデルや分析手法を理解する。
- (2) 後半は、財政と政治に関する主要論点や研究テーマ、理論モデルや分析手法を理解する。
- (3) 参加者に、参考文献の報告を求める。

【留意事項】

なお、新型コロナウイルス感染症拡大の影響に伴い、基本的に授業は Zoom 等の遠隔システムを利用して行う予定である。初回のガイダンスを含め、リンクは学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	財政と政治 (1)	ガイダンス
2	財政と政治 (2)	選好と制度
3	財政と政治 (3)	選挙競争
4	財政と政治 (4)	利益団体
5	財政と政治 (5)	選挙ルールと選挙競争
6	財政と政治 (6)	制度と説明責任、政治レジーム
7	財政と政治 (7)	動学的政治問題
8	財政と政治 (8)	資本課税との関係
9	財政と政治 (9)	公的債務との関係
10	財政と政治 (10)	成長との関係
11	財政と政治 (11)	金融政策の信認
12	財政と政治 (12)	選挙サイクル
13	財政と政治 (13)	制度とインセンティブ
14	財政と政治 (14)	国際政治の調整

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考文献（テキストや主要論文）を事前に読んでおくことが望ましい。また報告にあたっては、当該文献のみでなく、関連文献にも目を通しておくこと。準備・復習時間は、各 2 時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】

参加者と相談して決めるが、現在のところ、以下を予定している。
Persson and Tabellini, Political Economics, MIT Press, 2002

【参考書】

- ① Philippe Aghion and Peter W. Howitt, The Economics of Growth, MIT Press, 2008
- ② Daron Acemoglu, Introduction To Modern Economic Growth, Princeton University Press, 2009
- ③ Walsh, Monetary Theory and Policy, MIT Press, 2010
- ④ Persson and Tabellini, Political Economics, MIT Press, 2002
- ⑤ Bernard Salani, The Economics of Taxation, MIT Press, 2011
- ⑥ 井堀利宏・土居丈朗『日本政治の経済分析』木鐸社, 1998
- ⑦ 井堀利宏『課税の理論』有斐閣, 2003

⑧ 山重慎二・加藤久和・小黒一正編『人口動態と政策: 経済学的アプローチへの招待』日本評論社, 2013

【成績評価の方法と基準】

授業内での報告 (70 %) + レポート (30 %)

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

感染症対策のため、基本的に Zoom を利用したオンラインで授業を行うことを予定している。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

財政学、公共経済学

<研究テーマ>

人口動態と政治経済の相互作用や世代間問題の分析

<主要研究業績>

- ① Child Benefit and Fiscal Burden in the Endogenous Fertility Setting, Economic Modelling, 44, 252-265, 2015
- ② Impact of Deflation on Real Interest rate of Government Bonds, The Economic Review, 64(2), 147-159, 2013
- ③ Demographic Change, Intergenerational Altruism, and Fiscal Policy - A Political Economy Approach -, Studies in Applied Economics, 6, 1-15, 2013
- ④ Ability transmission, endogenous fertility, and educational subsidy, Applied Economics, 45(17), 2469-2479, 2012

【Outline (in English)】

The primary goal of this course is to help you develop a consistent way of thinking about the issues of relationship between public finance and politics, by using the approaches of public economics. This will also help you to predict the future direction of Japanese fiscal policy at a much deeper level. The standard preparatory study and review time for this class is about 2 hours. Grading criteria / policy is evaluated by the regular report (70%) and the final report (30%).

ECN566C1-1

地域経済論Ⅱ A

馬 欣欣

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義ではマクロ経済の視点から中国経済成長の軌跡、計画経済から社会主義市場経済への体制移行のパターン、そして高度成長した現代中国経済の実態及び問題点を紹介したうえで、中国経済成長の要因およびメカニズムを様々な側面（経済発展、体制移行）から、理解してもらう。また日本や欧米などの先進国と比較し、中国経済成長のメカニズムおよび特徴を明確にする。新古典派経済理論、体制移行論、新制度経済学などの経済理論及びモデル、政府統計データおよび調査データに基づき、実証研究の手法を学習し、自ら実証研究を行い、地域経済の問題を研究できるスキルを身につけることを目的とする。

【到達目標】

地域経済に関しては、中国経済をケースにし、マクロレベルの視点から、経済成長の実態および問題点を把握したうえで、自らが経済学の諸理論やモデルに基づき、政府統計データおよび様々な調査データを活用し、実証研究を行い、経済成長のマクロ要因および問題を分析できる能力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

パワーポイント資料にもとづいて講義形式で行う。1回以上のリアルタイムオンライン実施。課題（レポート等）に対するフィードバックを行います。具体的には、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行い、また「学習支援システム」(Hoppii)を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義内容の概要を紹介し、講義の進め方などを説明する。
第2回	社会主義市場経済と体制移行	社会主義市場経済の概念、2つの移行パターンを理解する
第3回	体制移行と政府の役割	政府の役割について理解し、体制移行と政府役割に関する実証研究
第4回	所有制構造改革と経済成長	中国企業の所有制構造改革と企業業績に関する実証研究
第5回	アクティブラーニング	政府の役割、所有制構造と経済成長に関するグループディスカッション
第6回	経済発展（1）：二重経済構造モデル	都市労働市場の失業、農村過剰労働力、ルイスの二重構造モデルと経済転換点について理解する
第7回	経済発展（2）：経済転換点	経済転換点に関する実証研究：日中比較
第8回	経済発展（3）：人口転換理論	人口転換、高齢化と経済成長
第9回	対外貿易と外需依存型成長からの転換	輸出主導型経済成長、外資の役割、外資導入の国際比較
第10回	経済成長と所得格差（1）	経済成長と所得格差・貧困：経済理論と実証研究（1）
第11回	経済成長と所得格差（2）	経済成長と所得格差・貧困：経済理論と実証研究（2）
第12回	社会保障政策とその効果（1）	中国年金制度の改革とその効果に関する実証研究

第13回	社会保障政策とその効果（2）	中国医療保険制度の改革とその効果に関する実証研究
第14回	中国経済研究の展望と問題点	マクロレベルの視点から中国経済研究の展望と問題点をまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

地域経済に関連する他の科目（例えば、開発経済学、マクロ経済学、経済政策論など）を履修していない受講生は、それらの科目に関する教科書（中上級）あるいは概説書を事前に読んでおくこと。授業で使用する資料を事前に学習支援システムを通じてダウンロードし、各回の授業の内容を理解しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

Students who have not taken other courses related to the Area Studies (e.g., development economics, macroeconomics, economic policy, etc.) should read the textbooks (middle- or high-level) on those courses in advance. Download the learning materials in advance through the learning support system (Hoppii) and understand the content of each lesson. The standard time for preparation and review for each lesson is 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

特に指定しないが、毎回パワーポイントで作成した資料を、学習支援システムを通じてダウンロードしておくこと。

【参考書】

- 1.Ma, X. and Tang, C. (Eds.) (2022) Growth Mechanism and Sustainable Development of Chinese Economy: Comparison with Japanese Experiences. Palgrave Macmillan. ISBN: 978-981-19-3857-3
- 2.Ma, X. (2022) Public Medical Insurance Reform in China. Springer. ISBN: 978-981-16-7790-8
- 3.Ma, X. (Ed.) (2021) Employment, Retirement and Lifestyle in Aging East Asia. Palgrave Macmillan. ISBN:978-981-16-0553-6
- 4.Cai, F. and Chen, F. (2020) China's Economic New Normal Growth, Structure, and Momentum. Springer. ISBN 978-981-15-3226-9
- 5.Pen, C., Yang, C., and Yang, X. (2020) The Basic Economic System of China. Singapore: Springer. ISBN 978-981-13-6894-6
- 6.加藤弘之・梶谷懐 編著（2016）『二重の罫を超えて進む中国型資本主義』、ミネルヴァ書房。

【成績評価の方法と基準】

1. 平常点（70 %）
 2. 期末レポート（30 %）
- 両者の組み合わせ：100 %
1. Regular performance and homework (70%)
 2. Final academic report (30%)
- Combinations of both: 100%

【学生の意見等からの気づき】

パワーポイントの作成については工夫をしたい。また、適宜の質疑応答等、双方向的な講義の進行に努めたい。

【担当教員の専門分野等】

中国経済論、労働経済学、開発経済学

【研究テーマ】

1. 中国社会保障改革とその経済効果
2. 技術進歩が中国労働市場に与える影響
3. 経済成長、体制移行と経済格差

【主要研究業績】

- 1.Ma, X. and Tang, C. (Eds.) (2022) Growth Mechanism and Sustainable Development of Chinese Economy: Comparison with Japanese Experiences. Palgrave Macmillan. ISBN: 978-981-19-3857-3
- 2.Ma, X. (2022) Public Medical Insurance Reform in China. Springer. ISBN: 978-981-16-7790-8
- 3.Ma, X. (Ed.) (2021) Employment, Retirement and Lifestyle in Aging East Asia. Palgrave Macmillan. ISBN:978-981-16-0553-6

4.Ma, X. (2022) "Internet Usage and Income Gaps between the Self-employed Individuals and Employees: Evidence from China," *Review of Development Economics*. <https://doi.org/10.1111/rode.12969>

5.Ma, X. (2022) "Parenthood and the Gender Wage Gap in Urban China," *Journal of Asian Economics*, 80:101479. <https://doi.org/10.1016/j.asieco.2022.101479>

6.Ma, X. (2018) "Labor Market Segmentation by Industry Sectors and Wage Gaps between Migrants and Local Urban Residents in Urban China" *China Economic Review*, 47, 96 – 115. <https://doi.org/10.1016/j.chieco.2017.11.007>

[Outline (in English)]

[Course outline]

The lecture introduces the process of China's economic growth, the pattern of the economy transition from a planned economy to a market-oriented economy, and issues in Chinese economy from a macroeconomic perspective. We will learn the determinants of economic growth and development from different sides (e.g., economic development, institutional transition), and understand the mechanisms and features of Chinese economy growth and development. Based on economic theories and models such as those in neoclassical economics, transition economics, and new institutional economics, as well as government statistical data and survey data, we will learn the empirical study methods. The lecture aims to develop the empirical study skills to take academic research on the area study issues.

[Learning Objectives]

The goal is to understand the situations and issues in economic growth and development from macro-economic perspective using the Chinese economy as a case study, and to develop the empirical study skills to analyze the issues in Chinese economy from macroeconomic perspective based on the theories in economics and the data from Chinese government statistical data sources and many kinds of academic surveys.

[Learning activities outside of classroom]

Students who have not taken other courses related to the Area Studies (e.g., development economics, macroeconomics, economic policy, etc.) should read the textbooks or introductions on those courses in advance. Download the learning materials in advance through the learning support system (Hoppii) and understand the content of each lesson. The standard time for preparation and review for each lesson is 2 hours each.

[Grading Criteria /Policy]

1. Regular performance and homework (70%)

2. Final examination (30%)

Combinations of both: 100%

ECN566C1-2

地域経済論Ⅱ B

馬 欣欣

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義はミクロ経済の視点から中国の経済発展の要因を検討し、労働者・家計、企業、産業などの具体的な課題について、さまざまなデータ（たとえば、中国政府公表の統計データ、実態調査データ）を活用し、国有企業改革、企業イノベーション、産業構造転換、格差問題（例えば、都市と農村間の所得格差と社会保障格差）などについて考察し、ミクロレベルで中国経済の実態と問題点を検討する。新古典派経済理論、体制移行論、新制度経済学などの経済理論及びモデル、政府統計データおよび調査データに基づき、実証研究の手法を学習し、自ら実証研究を行い、地域経済の問題を研究できるスキルを身に付けることを目的とする。

【到達目標】

地域経済に関しては、中国経済をケースにし、ミクロレベルの視点から、経済成長の実態および問題点を把握したうえで、自らが経済学の諸理論やモデルに基づき、政府統計データおよび様々な調査データを活用し、実証研究を行い、ミクロレベル（個人、家計、企業など）の諸要因およびメカニズムを分析できる能力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

パワーポイント資料にもとづいて講義形式で行う。1回以上のリアルタイムオンライン実施。課題（レポート等）に対するフィードバックを行います。具体的には、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行い、また「学習支援システム」(Hoppii)を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義内容の概要を紹介し、講義の進め方などを説明する
第2回	国有企業の改革（1）	中国国有企業改革の経緯とその効果分析
第3回	国有企業の改革（2）	国有と非国有企業の内部統治の差異と企業業績
第4回	農村改革（1）	土地制度、戸籍制度の改革とその効果分析
第5回	農村改革（2）	出稼ぎ就業と所得格差：理論と実証研究
第6回	アクティブラーニング	国有企業と農村改革の経済効果に関するグループディスカッション
第7回	経済発展と教育（1）	人的資本理論と中国教育収益率の計測
第8回	経済発展と教育（2）	中国大学拡張政策とその効果に関する実証研究
第9回	労働市場：雇用・賃金（1）	党員資格の賃金プレミアムの計測
第10回	労働市場：雇用・賃金（2）	技術進歩が雇用・賃金に与える影響に関する実証研究
第11回	社会保障と家計・個人行動（1）	中国社会保障の改革と家計消費に関する実証研究
第12回	社会保障と家計・個人行動（2）	中国社会保障政策の改革と労働供給に関する実証研究

第13回	所得格差と Well-being	絶対所得と相対所得仮説、幸福経済学の実証研究
第14回	中国経済研究の展望と問題点	ミクロレベルの視点から中国経済研究の展望と問題点をまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

地域経済に関連する他の科目（例えば、開発経済学、ミクロ経済学、労働経済学、開発経済学など）を履修していない受講生は、それらの科目に関する教科書（中上級）を事前に読んでおくこと。授業で使用する資料を事前に学習支援システムを通じてダウンロードし、各回の授業の内容を理解しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする

Students who have not taken other courses related to the Area Studies (e.g., development economics, microeconomics, economic policy, etc.) should read the textbooks (middle- or high-level) on those courses in advance. Download the learning materials in advance through the learning support system (Hoppii) and understand the content of each lesson. The standard time for preparation and review for each lesson is 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

特に指定しないが、毎回パワーポイントで作成した資料を、学習支援システムを通じてダウンロードしておくこと。

【参考書】

- 1.Ma, X. and Tang, C. (Eds.) (2022) Growth Mechanism and Sustainable Development of Chinese Economy: Comparison with Japanese Experiences. Palgrave Macmillan. ISBN: 978-981-19-3857-3
- 2.Ma, X. (2022) Public Medical Insurance Reform in China. Springer. ISBN: 978-981-16-7790-8
- 3.Ma, X. (Ed.) (2021) Employment, Retirement and Lifestyle in Aging East Asia. Palgrave Macmillan. ISBN:978-981-16-0553-6
- 4.Cai, F. and Chen, F. (2020) China's Economic New Normal Growth, Structure, and Momentum. Springer. ISBN 978-981-15-3226-9
- 5.Ma, X. (2018) Economic Transition and Labor Market Reform in China. Palgrave Macmillan. ISBN:978-981-13-1987-7
6. 加藤弘之・梶谷懐 編著（2016）『二重の罟を超えて進む中国型資本主義』、ミネルヴァ書房。

【成績評価の方法と基準】

1. 平常点（70 %）
 2. 期末レポート（30 %）
- 両者の組み合わせ：100 %
1. Regular performance and homework (70%)
 2. Final academic report (30%)
- Combinations of both: 100%

【学生の意見等からの気づき】

パワーポイントの作成については工夫をしたい。また、適宜の質疑応答等、双方向的な講義の進行に努めたい。

【担当教員の専門分野等】

中国経済論、労働経済学、開発経済学

【研究テーマ】

1. 中国社会保障改革とその経済効果
2. 技術進歩が中国労働市場に与える影響
3. 経済成長、体制移行と経済格差

【主要研究業績】

- 1.Ma, X. and Tang, C. (Eds.) (2022) Growth Mechanism and Sustainable Development of Chinese Economy: Comparison with Japanese Experiences. Palgrave Macmillan. ISBN: 978-981-19-3857-3
- 2.Ma, X. (2022) Public Medical Insurance Reform in China. Springer. ISBN: 978-981-16-7790-8
- 3.Ma, X. (Ed.) (2021) Employment, Retirement and Lifestyle in Aging East Asia. Palgrave Macmillan. ISBN:978-981-16-0553-6
- 4.Ma, X. (2022) "Internet Usage and Income Gaps between the Self-employed Individuals and Employees: Evidence from China," Review of Development Economics. <https://doi.org/10.1111/rode.12969>

5.Ma, X. (2022) "Parenthood and the Gender Wage Gap in Urban China," *Journal of Asian Economics*, 80:101479. <https://doi.org/10.1016/j.asieco.2022.101479>

6.Ma, X. (2018) "Labor Market Segmentation by Industry Sectors and Wage Gaps between Migrants and Local Urban Residents in Urban China" *China Economic Review*, 47, 96 – 115. <https://doi.org/10.1016/j.chieco.2017.11.007>

[Outline (in English)]

[Course outline]

The goal is to understand the situations and issues in economic growth and development from microeconomic perspective using the Chinese economy as a case study, and to develop the empirical study skills to analyze the determinants and mechanisms in behaviors of individuals, households and firms from microeconomic perspective based on the theories in economics and the data from government statistical data sources and many kinds of academic surveys.

[Learning Objectives]

The goal is to understand the situations and issues in economic growth and development from microeconomic perspective using the Chinese economy as a case study, and to develop the empirical study skills to analyze the determinants and mechanisms in behaviors of individuals, households and firms from microeconomic perspective based on the theories in economics and the data from government statistical data sources and many kinds of academic surveys.

[Learning activities outside of classroom]

Students who have not taken other courses related to the Area Studies (e.g., development economics, microeconomics, economic policy, etc.) should read the textbooks (middle- or high-level) on those courses in advance. Download the learning materials in advance through the learning support system (Hoppii) and understand the content of each lesson. The standard time for preparation and review for each lesson is 2 hours each.

[Grading Criteria /Policy]

1. Regular performance and homework (70%)

2. Final examination (30%)

Combinations of both: 100%

ECN523C1-1

統計学 A

阿部 俊弘

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主として多変量解析の基本的手法に焦点を当て、データの例と分析手法を考えていきます。回帰モデルや統計的分布のパラメータ推定法をいくつかを調べ、最尤法を紹介します。統計学はデータを意識した学問であることから、統計的ソフトウェア R を用いたデータ分析手法も身に付け、実践力を付けていきます。

【到達目標】

回帰分析の概念を理解し、最小二乗法と最尤法によるパラメータ推定を理解する。また、多変量解析の手法や実データに対してどの統計手法を用いれば良いか理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を進め、Rを用いた課題を提出します。また、Microsoft Word と Microsoft Excel も必要に応じて利用していきます。配布資料も用いながら講義を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の概要と準備	統計ソフト R について
第 2 回	回帰分析の概要	最小二乗法による回帰係数の推定
第 3 回	単回帰分析	区間推定と検定による検証
第 4 回	重回帰分析	単回帰分析の拡張
第 5 回	最尤法	最尤法によるパラメータ推定
第 6 回	様々な種類のデータの扱い	ダミー変数・モデル選択
第 7 回	正則化法に基づく回帰分析	リッジ回帰・Lasso
第 8 回	線形混合モデル	ランダム効果モデル
第 9 回	一般化線形混合モデル	切片がランダムである場合
第 10 回	統計的分類手法としての判別分析	判別分析の理論
第 11 回	判別分析を用いた評価	予測と誤判別率
第 12 回	判別分析とサポートベクターマシン	2 つの手法の比較
第 13 回	ロジスティック回帰モデルの理論	データの例とモデルの導入
第 14 回	ロジスティック回帰分析の実例	データを用いた分析と手法の比較

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

林 賢一（著）・下平 英寿（編集）(2020) 『R で学ぶ統計的データ解析（データサイエンス入門シリーズ）』
配布資料も用いながら講義を行う。

【参考書】

宮田庸一（著）(2012) 『統計学がよくわかる本』、アイケイコーポレーション

【成績評価の方法と基準】

通常の課題レポート (50%) と最終課題レポート (50%) を考慮し、総合的に判断します。

【学生の意見等からの気づき】

身の回りの現象との関連を見るために、実データを用いて理解を深めていきます。

【学生が準備すべき機器他】

- ・統計ソフトウェアの R を使用します。
- ・学習支援システムを利用します。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>統計科学

<研究テーマ>方向統計学・EM アルゴリズム

<主要研究業績>

[1] Abe, T. & Pewsey, A. (2011). Sine-skewed circular distributions. *Statistical Papers*, Springer, Volume 52, Number 3, August 2011, pp. 683-707.

[2] Abe, T., Pewsey, A. & Shimizu, K. (2013). Extending circular distributions through transformation of argument. *Annals of the Institute of Statistical Mathematics*, Springer, Volume 65, Issue 5, October 2013, pp. 833-858.

[3] Abe, T. (2015). Discussion: "On families of distributions with shape parameters". *International Statistical Review*, Wiley, Volume 83, Issue 2, September 2015, pp. 193-197.

[4] Abe, T. & Ley, C. (2017). A tractable, parsimonious and flexible model for cylindrical data, with applications. *Econometrics and Statistics*, Elsevier, Volume 4, October 2017, pp. 91-104.

[5] Abe, T., Fujisawa, H. & Kawashima, T. EM algorithm using overparameterization for multivariate skew-normal distribution, *Econometrics and Statistics*, Elsevier, Volume 19, July 2021, pp. 151-168.

【Outline (in English)】

【Outline and objectives】

In this course, we mainly focus on basic methods of multivariate analysis and consider the theory and its illustrative examples. We also investigate parameter estimation for probability distributions, and apply the method of maximum likelihood as statistical inference. In addition, we will use a popular statistical software R to investigate a behavior of the statistical model.

【Learning Objectives】

The students are expected to understand the concept of regression analysis and its parameter estimation by least squares method as well as method of maximum likelihood.

They are also expected to learn fundamental statistical methods for multivariate analysis by making use of actual data sets.

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparatory study and review time for this class is about 2 hours.

【Grading Criteria /Policy】

Grading Criteria /Policy is evaluated by the Regular report (50%) and the final report(50%).

ECN523C1-2

統計学 B

阿部 俊弘

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では前半は様々な多変量解析の手法を調査し、その手法の理論と実践を身に着けていきます。また、様々なところで耳にすることも多い「シミュレーション」は様々な状況で使われています。ここでは、疑似乱数を用いて解析的に解くことは難しいような問題に対して「真の解はどこにありそうなのか？」という解決法について取り組んでいきます。

【到達目標】

様々な多変量解析の概念を調査し、高度な手法を身に着けていく。また、統計的分布の疑似乱数の生成を行い、乱数を用いた予測を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を進め、Rを用いた課題を提出します。また、Microsoft Word と Microsoft Excel も必要に応じて利用していきます。配布資料も用いながら講義を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	単純な規則に基づく判別モデル	決定木の考え方
第 2 回	決定木を用いたデータ解析	木の描画・あてはめ
第 3 回	主成分分析の理論	データの例と主成分分析の理論
第 4 回	主成分分析の適用	主成分分析の解釈
第 5 回	クラスター分析の理論	データの例とクラスター分析の理論
第 6 回	クラスター分析の応用	実データの群分けと解釈
第 7 回	クラスター分析に関する話題	クラスター分析の注意点
第 8 回	正準相関分析	データの例と理論の適用
第 9 回	ブートストラップ法の基本	リサンプリングとブートストラップ標本
第 10 回	ブートストラップ法の応用	ブートストラップ法の適用
第 11 回	シミュレーションのための準備	基本的なプログラミングコード
第 12 回	シミュレーションの実際	乱数を用いて統計学を実感する
第 13 回	歪対称分布	誤差項が非対称となるデータへの対応
第 14 回	まとめ	近年の統計的手法の紹介

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

林 賢一（著）・下平 英寿（編集）(2020) 『R で学ぶ統計的データ解析（データサイエンス入門シリーズ）』

【参考書】

宮田庸一（著）(2012) 『統計学がよくわかる本』、アイケイコーポレーション
永田靖・棟近雅彦（共著）(2001) 『多変量解析法入門』、サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

授業での平常点 (50%) と最終課題レポート (50%) を考慮し、総合的に判断します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

- ・統計ソフトウェアの R を使用します。
- ・レポート提出のために、Microsoft Word または TeX を使用します。
- ・学習支援システムを利用します。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>統計科学
<研究テーマ>方向統計学・EM アルゴリズム
<主要研究業績>

[1] Abe, T. & Pewsey, A. (2011). Sine-skewed circular distributions. *Statistical Papers*, Springer, Volume 52, Number 3, August 2011, pp. 683-707.

[2] Abe, T., Pewsey, A. & Shimizu, K. (2013). Extending circular distributions through transformation of argument. *Annals of the Institute of Statistical Mathematics*, Springer, Volume 65, Issue 5, October 2013, pp. 833-858.

[3] Abe, T. (2015). Discussion: "On families of distributions with shape parameters". *International Statistical Review*, Wiley, Volume 83, Issue 2, September 2015, pp. 193-197.

[4] Abe, T. & Ley, C. (2017). A tractable, parsimonious and flexible model for cylindrical data, with applications. *Econometrics and Statistics*, Elsevier, Volume 4, October 2017, pp. 91-104.

[5] Abe, T., Fujisawa, H. & Kawashima, T. EM algorithm using overparameterization for multivariate skew-normal distribution, *Econometrics and Statistics*, Elsevier, Volume 19, July 2021, pp. 151-168.

【Outline (in English)】

【Outline and objectives】

In this course, we introduce various illustrative examples and theory in multivariate analysis. The term "simulation", which is often heard in our real life, is used in various situations. As examples of that, we will tackle to a problem which is difficult to solve analytically. As a result, we will consider a solution to the problem "Where is the true solution?" by using pseudo-random numbers.

【Learning Objectives】

The students are expected to investigate various concepts of multivariate analysis and acquire advanced methods.

In addition, they are also expected to learn how to generate pseudo-random numbers from statistical distributions, and predict the phenomenon using them.

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparatory study and review time for this class is about 2 hours.

【Grading Criteria /Policy】

Grading Criteria /Policy is evaluated by the Regular report (50%) and the final report(50%).

ECN544C1-1

企業経済学 A

砂田 充

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、産業組織論（Industrial Organization）・企業経済学（Business Economics）の基本モデルを学習する。

【到達目標】

産業組織論・企業経済学の基本的なモデルを自ら構築・解析できる能力を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

スライドと板書を使った講義形式がメイン。学生による報告を求める場合もある。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	オリエンテーション
第2回	産業組織論の基本概念	「産業」と「市場」/SCP分析/集中度
第3回	完全競争と経済厚生	厚生経済学の基本定理/完全競争均衡の最適性
第4回	独占市場	独占市場均衡と厚生/独占による厚生損失
第5回	寡占市場：数量競争①	推測的変動/製品差別化とクールノー競争
第6回	寡占市場：数量競争②	マーケットシェアの決定/市場構造と利益率/集中度と厚生
第7回	寡占市場：価格競争①	価格競争型寡占モデル/製品差別化とベルトラン競争
第8回	寡占市場：価格競争②	供給制約と価格競争/エッジワースの批判
第9回	寡占市場：価格競争③	生産能力決定と価格競争/ベルトラン・パラドクス
第10回	寡占市場：価格競争④	参入阻止戦略
第11回	製品差別化①	垂直的差別化/水平的差別化/独占的競争
第12回	製品差別化②	Hotellingモデル/最小差別化定理
第13回	製品差別化③	最小差別化定理と最適価格/2段階モデルと最適解
第14回	まとめ	授業の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ミクロ経済学の基礎について復習を行うこと。また、基本的な数学（1次関数、2次関数、微分、積分、最適化、連立方程式等）について不安がある場合は、各自、事前に復習を行うこと。事前に配布される講義資料を使い十分な予習（2時間程度）を行ったうえで授業に臨み、講義後は復習（2時間程度）を行うこと。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

小田切宏『新しい産業組織論：理論・実証・政策』（有斐閣、2001年）。
丸山雅祥『経営の経済学【新版】』（有斐閣、2011年）。
Belleflamme, P. and M. Peitz Industrial Organization: Markets and Strategies, Cambridge Univ. Press, 2010。
Besanko, D., D. Dranove, M. Shanley, and S. Shaefer Economics of Strategy, 6th edition, John Wiley & Sons, 2013。

Motta, M. Competition Policy: Theory and Practice, Cambridge Univ. Press, 2004.

Shy, O. Industrial Organization: Theory and Applications, MIT Press, 1996.

Tirole, J. The Theory of Industrial Organization, MIT Press, 1988.

【成績評価の方法と基準】

平常点（50～90%）、期末試験（10～50%）

【学生の意見等からの気づき】

学生が自らの研究テーマについて分析モデルを構築できるように指導を心掛けたい。

【その他の重要事項】

履修者の理解度を踏まえて内容を変更する場合があります。

【担当教員の専門分野等】

産業組織論・企業経済学・競争政策の経済学

【Outline (in English)】

This course is graduate-level introduction to industrial organization and managerial economics. The goal of this course is that students understand various models in the fields and acquire modeling skills for their own research interests. This course will focus on the topics as follows: monopoly, oligopoly with or without capacity constraint, market structure and market power, vertical and horizontal product differentiation, and so on. Students are expected to have solid comprehension of undergraduate microeconomics. The grade will be based on the final exam (10-50%) and the homework and the class contribution (50%-90%).

ECN551C1-1

環境経済論 A

松波 淳也

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境経済学の基礎理論・概念を習得する。

【到達目標】

環境経済学はその体系化への努力が始まって以来、地球環境問題などグローバルな環境問題への直面を経て、各方面への深化を遂げている。本講義は、大学院修士課程レベルの標準的な環境経済学の基本概念、手法を習得することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

場合によりオンライン授業を行うこともある。環境経済学にとって最重要であり、かつ、環境経済学の幅広い分野に応用の効く3つの概念（外部性、環境の経済評価、持続可能な発展）に絞って講義する。その際、特に、社会システムと環境の関係についての基本的考え方、および、経済学的方法、政策的志向をもとらえていきたい。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第01回	環境経済学とは？	環境経済学の誕生。環境か経済か？ 本講の立場と進め方。
第02回	環境問題の政策的整理	人類史と環境。近代化と環境問題。環境問題と総合政策。
第03回	外部性①	外部性の概念。外部性のモデル分析。産業公害モデル。
第04回	外部性②	課税政策。
第05回	外部性③	ピグー税政策とボーモル＝オーツ税政策
第06回	外部性④	たばこモデル～コースの定理
第07回	外部性⑤	外部性のモデル分析再考

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

経済学の基礎を身に付けていることが望ましい（ミクロ経済学、マクロ経済学等、経済学の基礎学習）。本授業の準備・復習時間は、各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

時政他編著『環境と資源の経済学』勁草書房、2007年

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

平常点 100 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

環境経済学

<https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/15/0001408/profile.html>

【Outline (in English)】

Environmental economics has been deepening towards various fields through the face of global environmental problems since the beginning of efforts to systematize it. In this lecture, the basic concepts and methods of environmental economics will be described with initial scholars in mind as much as possible. The aim of this course is to help students acquire basic theories and concepts of environmental economics. By the end of course, students should be able to understand environmental economics. Before/after each class meeting, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process: in-class contribution(100%)

ECN551C1-2

環境経済論 B

松波 淳也

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

廃棄物・リサイクルの経済学を習得する。

【到達目標】

環境経済学はその体系化への努力が始まって以来、地球環境問題などグローバルな環境問題への直面を経て、各方面への深化を遂げている。本講義では、最近理論的発展の著しい「ごみ・リサイクルの経済学」を取り上げ、大学院博士課程レベルの先進的な環境経済学の基礎概念、手法の理解をより深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

場合によりオンライン授業を行うこともある。現代の廃棄物問題の本質および「廃棄物経済学」の基礎概念を身につけてもらうことを目標とする。現実の廃棄物管理政策の状況の理解も図りたい。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ごみ問題とリサイクル I - 現代的課題と理論的概観-	「ごみ問題」の構造分類. 「ごみ」の定義. 経済学における「ごみ」の扱い
第 2 回	ごみ問題とリサイクル II - 経済学的定式化に向けて-	廃棄物経済学の主要アプローチ. 廃棄物経済学の整備に向けて. 最近のトピック
第 3 回	ごみ問題とリサイクル III - 廃棄物リサイクルの経済モデル-	廃棄物経済学の誕生. 廃棄物リサイクルの線形生産モデル
第 4 回	廃棄物管理政策 I - 循環型社会の法体系-	循環型社会形成推進基本法等. 個別リサイクル法. 3 R の優先順位. 2つの基本理念
第 5 回	廃棄物管理政策 II - 代表的な経済手法-	家庭ごみの有料化. 埋立税・産業廃棄物税. 有害物質への税・課徴金. 特定製品への税・課徴金. デポジット・リファンド制度
第 6 回	廃棄物管理政策 III - 自治体の清掃行政-	3 R + 適正処理の優先順位に即した政策展開. 短期的政策. 中長期的政策の位置づけ. 地域特性に即したきめ細かい政策. 環境政策の 3 手法
第 7 回	動脈産業と静脈産業- 経済学の暗黒面-	動脈経済と静脈経済. 経済成長と動脈部門・静脈部門. 静脈経済と潜在技術

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

環境経済論 A を既習であることが望ましい（環境経済学の基礎理論・概念）。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

細田衛士：『グッツとバツズの経済学 第 2 版』東洋経済新報社

【参考書】

時政他編著『環境と資源の経済学』勁草書房

【成績評価の方法と基準】

平常点 100 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

環境経済学

<https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/15/0001408/profile.html>

【Outline (in English)】

Environmental economics has been deepening towards various fields through the face of global environmental problems such as global environmental problems since the beginning of efforts to systematize it. In this lecture, the basic concepts and methods of environmental economics will be described with initial scholars in mind as much as possible. The aim of this course is to help students acquire basic theories and concepts of the economics of waste and recycling. By the end of course, students should be able to understand the economics of waste and recycling. Before/after each class meeting, students will be expected to spent 4 hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process: in-class contribution(100%)

ECN553C1-2

経済政策 B

濱秋 純哉

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、変数間の「因果関係」を特定するための統計的手法への社会的な関心が高まっている。経済学の分野では、以前から因果関係の特定に大きな注意が払われていたが、様々な個票データの利用可能性の高まりとともに、より精緻な分析を行うことが可能になった。このような流れを受け、この授業では経済政策を評価するための因果推論の手法について学ぶ。

【到達目標】

受講者が、政策評価のための統計的手法を用いてデータ分析できるようにすることを目的とする。評価の対象となる経済政策として、主に税制や社会保障政策を念頭に置く（授業中にこれらの政策の効果を推定した論文を分析例として紹介する）。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

数式による説明だけでなく、分析例を紹介しながら、講義形式で政策評価のための統計的手法を説明する。各受講者には、授業と並行してそれらの手法を用いた研究計画を作成してもらう。受講者が少数であれば、授業内で研究計画の妥当性について議論することを通じてフィードバックを行う（研究計画の報告会の開催などを予定）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要の説明
第 2 回	研究テーマの見つけ方	研究テーマをどのように見つけるか？
第 3 回	RCT と自然実験	RCT と自然実験の具体例
第 4 回	因果関係の推定（1）	平均処置効果
第 5 回	因果関係の推定（2）	操作変数法と局所的平均処置効果
第 6 回	差の差分分析（DID）（1）	政策の効果を受ける群と受けない群の変化の差を比較する手法
第 7 回	差の差分分析（DID）（2）	DID 推定のための諸条件
第 8 回	差の差分分析（DID）（3）	差の差の差分分析（Triple-Differences）
第 9 回	イベントスタディ分析	DID とイベントスタディ分析の違いとは？
第 10 回	合成コントロール法（SCM）	DID と SCM の違いとは？
第 11 回	回帰不連続デザイン（RDD）（1）	同質的な対象者に生じた不連続な政策の変化を利用する手法
第 12 回	回帰不連続デザイン（RDD）（2）	RDD のための諸条件
第 13 回	回帰不連続デザイン（RDD）（3）	Sharp RDD と Fuzzy RDD
第 14 回	研究計画の最終報告会	受講者による研究計画の報告とその検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義を履修するにあたり、統計学・計量経済学の基礎的な知識を持っていることが望まれる。具体的には、計量経済学 A/B の知識を前提とする。また、税制や社会保障政策に対する興味や知識もあると授業の理解が深まる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストには依拠せず、教員が作成した資料に沿って講義を進める。

【参考書】

1. 西山慶彦・新谷元嗣・川口大司・奥井亮, 2019 年, 『計量経済学』, 有斐閣。
2. 安井翔太 (著)・株式会社ホクソエム (監修), 2020 年, 『効果検証入門』, 技術評論社。
3. Angrist, Joshua D. and Pischke Jörn-Steffen. 2009. “Mostly Harmless Econometrics: An Empiricist’s Companion,” Princeton University Press.

【成績評価の方法と基準】

研究計画の作成・報告（100%）によって評価する。研究計画の作成には、先行研究の整理、分析対象となる政策の理解、検証する仮説の設定、分析に用いる統計的手法とデータの選択、予想される困難への対処の検討などの作業が必要となり、これらをかきこみに行えたかが評価基準となる。

【学生の意見等からの気づき】

受け身の学習にならないように、授業中に簡単な質問を投げかけたり、受講者が計算を行う時間を設けたりする。また、統計的手法と分析例をなるべくセットで説明することで理解を促す。

【その他の重要事項】

受講者として想定しているのは、これから政策評価の手法を用いて修士論文や博士論文を執筆する修士 2 年生以上の院生である。「研究テーマ」を「データを用いた仮説検証」にどのようにして落とし込むか等、なるべく実践的な内容を扱う。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

公共経済学・応用計量経済学

<研究テーマ>

家計行動のミクロ計量分析

<主要研究業績>

(1) Niizeki, Takeshi, Junya Hamaaki, 2023+, “Do the self-employed underreport their income? Evidence from Japanese panel data,” Journal of the Japanese and International Economies, forthcoming.

(2) Hamaaki, Junya, Masahiro Hori, and Keiko Murata 2019, “The Intra-family Division of Bequests and Bequest Motives: Empirical Evidence from a Survey on Japanese Households,” Journal of Population Economics, Vol. 32, No. 1, pp. 309 – 346.

(3) 上野綾子・濱秋純哉, 2017 年, 「2009 年度介護報酬改定が介護従事者の賃金、労働時間、離職率に与えた影響」, 『医療経済研究』, Vol.29, No.1, 33 – 57 頁。

(4) Hamaaki, Junya, Masahiro Hori, Keiko Murata, 2014, “Intergenerational transfers and asset inequality in Japan: Empirical evidence from new survey data,” Asian Economic Journal, Vol.28(1), pp.41-62.

(5) Hamaaki, Junya, Masahiro Hori, Saeko Maeda, Keiko Murata, 2013, “How does the first job matter for an individual’s career life in Japan,” Journal of the Japanese and International Economies, Vol.29, pp.154-169.

【Outline (in English)】

Course outline

In recent years, there has been a growing interest in statistical methods to identify causal relationships among variables. For example, both the Basic Policy on Economic and Fiscal Management and Reform 2017 and the Cabinet Office’s Annual Report on the Japanese Economy and Public Finance mention “evidence-based policy-making” (EBPM), and along with the compilation of official statistics such as GDP statistics, the government has started to empirically examine the causal effects of policies such as employment support measures and education policies (such as the introduction of smaller classes in schools).

Meanwhile, in the field of economics, researchers have been focusing on the identification of causal relationships for quite some time, but with the increasing availability of various types of microdata, more detailed analyses have become possible. Against this background, this course seeks to provide an understanding of what causal relationships are and introduces statistical methods for making causal inferences.

Learning objectives

At the end of the course, students are expected to acquire the ability to evaluate economic policies based on statistical methods.

Learning activities outside of classroom

Before/after each class meeting, students are expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria /policy

Final grade will be decided based on the following:

Term-end presentation of a research proposal: 100%

ECN564C1-1

経済地理学 A

近藤 章夫

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済地理学の主要テーマに関する重要論文および展望論文の読解を通して、研究の到達点や今後の課題について議論する。

【到達目標】

経済地理学の最先端での研究を理解し、国際的に名声の高い学術誌に掲載された論文を読解できる力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

輪読文献リストを初回に配布する。また関連文献については適宜紹介する。参加者には輪読文献の報告を求める。毎回の出席と積極的な議論への参加を重視する。なお、履修者の関心および講義の進捗状況によっては、輪読文献を柔軟に変更する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	輪読文献の概要と講義の進め方
第 2 回	経済学と地理・空間 (1)	主要論文の輪読
第 3 回	経済学と地理・空間 (2)	主要論文の輪読
第 4 回	経済学と地理・空間 (3)	主要論文の輪読
第 5 回	都市と集積 (1)	主要論文の輪読
第 6 回	都市と集積 (2)	主要論文の輪読
第 7 回	都市と集積 (3)	主要論文の輪読
第 8 回	イノベーションとネットワーク (1)	主要論文の輪読
第 9 回	イノベーションとネットワーク (2)	主要論文の輪読
第 10 回	イノベーションとネットワーク (3)	主要論文の輪読
第 11 回	空間経済の理論と実証 (1)	主要論文の輪読
第 12 回	空間経済の理論と実証 (2)	主要論文の輪読
第 13 回	空間経済の理論と実証 (3)	主要論文の輪読
第 14 回	経済地理学のフロンティアとまとめ	主要論文の輪読

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。テキストおよび参考文献の読解および事後の課題への取り組みを求める。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

Brakman, S., et al. (2019) 『An Introduction to Geographical and Urban Economics: A Spiky World (3rd edition)』Cambridge University Press

Clark, G. L., et al. (2018) 『The New Oxford Handbook of Economic Geography』Oxford University Press

Combes, P. P., et al. (2008) 『Economic Geography: The Integration of Regions and Nations』Princeton University Press

Duranton, G. et al. (2015) 『Handbook of Regional and Urban Economics Vol.5』North Holland

松原宏 (2006) 『経済地理学－立地・地域・都市の理論－』東京大学出版会

佐藤泰裕ほか (2011) 『空間経済学』有斐閣

その他の参考文献は適宜提示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加が評価の中心となる。

平常点（出席および輪読文献の紹介等）80%、期末レポート 20%

【学生の意見等からの気づき】

受講生の関心と理解度に最大限配慮して柔軟に授業計画を進める。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

授業は対面形式を基本とするが、履修者と相談のうえ、オンライン形式で実施することがある。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 経済地理学、都市・地域経済学、空間情報科学

<主要研究業績>

①共著 (2015) 『都市空間と産業集積の経済地理分析』日本評論社

②共著 (2012) 『産業立地と地域経済』放送大学教育振興会

③単著 (2007) 『立地戦略と空間的分業』古今書院

【Outline (in English)】

Course outline and objectives:

Through the reading of key and prospective papers on major topics in economic geography, we will discuss the achievements of their research and future challenges.

Learning activities outside of classroom:

Before/after each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policy:

Final grade will be calculated according to the following process
Term-end report(20%), and in-class contribution(80%).

ECN561C1-1

国際貿易論 A

武智 一貴

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、大学院レベルの基本的な国際貿易モデルとそれらの応用方法を学ぶ。オンデマンドシステムで講義を配信し、時間制に限らず学習できる形をとる。

【到達目標】

国際貿易の基本モデルであるリカードモデル、ヘクシャーオリーンモデル、グラビティモデルを学び、自分の研究テーマに応用できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

ハイフレックス（教室及びオンライン配信）で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義内容の解説
第 2 回	分析手法の復習	微積分とラグランジュ乗数法
第 3 回	最適化問題の復習	ラグランジュ乗数法の計算例
第 4 回	双対性	双対性の理解
第 5 回	競争均衡	一般均衡の概念
第 6 回	リカードモデル	リカードモデルの基本
第 7 回	ヘクシャーオリーンモデル	ヘクシャーオリーンモデルの基礎
第 8 回	ストルパーサミュエルソン効果とリブチンスキー効果	ヘクシャーオリーンモデルの分析
第 9 回	グラビティモデル	グラビティモデルの基礎
第 10 回	統計的手法の復習	データを使った分析に必要な手法
第 11 回	現代のグラビティモデル	Andeson and van Wincoop (2003)
第 12 回	グラビティモデルの導出	理論的分析
第 13 回	国境効果とは	グラビティモデルの応用
第 14 回	グラビティモデルの推定	グラビティモデルとデータ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各講義の予習・復習には4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義ノートを学習支援システムから配布します。

【参考書】

Advanced International Trade (2nd edition) by Feenstra.

【成績評価の方法と基準】

アサインメント（20%）、期末試験もしくはタームペーパー（80%）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

国際貿易

<研究テーマ>

貿易費用の研究・貿易政策の研究

<主要研究業績>

Quality Sorting, Alchian-Allen Effect, and Distance, Economics Letters 222, 2023.

【Outline (in English)】

In this course, we study the standard models of international trade. We use the on-demand system to take lectures so that students can learn anytime convenient. We begin by the traditional trade theories such as the Ricardian and Heckscher-Ohlin model. Then our primary focus is on the gravity model. If time permits, we will cover the model of international finance using gravity model.

Students are expected to read the papers I advance and be familiar with introductory econometrics, microeconomics, and international economics. There will be assignments during the course. You have to submit these homework assignments by the due date. You are also encouraged to study 4 hours before/after each class. Your grade will be determined by your homework (20%) and your performance at the final examination or term paper(80%).

ECN561C1-2

国際貿易論 B

武智 一貴

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、国際貿易の実証モデルとして重要なグラビティモデルについて学ぶ。オンデマンドシステムを通じて講義を配信し、時間割に限らず受講できる形とする。

【到達目標】

グラビティモデルの分析に必要な、multilateral resistance term の処理、ゼロ貿易の処理、企業異質性の処理が可能になることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

ハイフレックス（教室およびオンライン配信）方式で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	グラビティモデルの復習	Anderson and van Wincoop (2003)
第 2 回	グラビティモデルと企業	Krugman モデル
第 3 回	企業の異質性	Melitz (2003) モデル
第 4 回	企業の異質性の下での均衡	Melitz モデルの均衡
第 5 回	企業の異質性と貿易	Melitz モデルの分析
第 6 回	企業の異質性とグラビティモデル	Chaney(2008) モデル
第 7 回	企業の異質性とグラビティモデルの推定	Chaney モデルの推定
第 8 回	ゼロ貿易とグラビティモデル	セレクション問題
第 9 回	ゼロ貿易とグラビティモデルの推定	Helpman, Melitz, and Rubinstein
第 10 回	ゼロ貿易とグラビティモデルの分析	Helpman, Melitz, and Rubinstein
第 11 回	ゼロ貿易とグラビティモデルとポワソン推定	Log of gravity
第 12 回	リカードモデルとグラビティモデル	Dornbush, Fisher, and Samuelson
第 13 回	リカードモデルとグラビティモデルの推定	Eaton and Kortum モデル
第 14 回	リカードモデルとグラビティモデルの分析	Eaton and Kortum モデルの分析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習・復習時間の標準は4時間とします。

【テキスト（教科書）】

学習支援システムから講義ノートを配布します。

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

アサインメント（20%）と期末試験もしくは term paper(80%)。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

国際貿易

<研究テーマ>

貿易費用の研究・貿易政策の研究

<主要研究業績>

Quality Sorting, Alchian-Allen Effect, and Distance, Economics Letters 222, 2023.

【Outline (in English)】

In this course, we study the empirical side of the study in international trade. We use the on-demand system to take lectures so that students can learn anytime convenient. We begin with monopolistic competition model and models with producer. We also focus on the estimation issues in gravity model. We discuss how to deal with border effects, zero trade observations, and selection problems. If time permits, we will cover the empirical trade models with political economy. Students are expected to read the papers I advance and be familiar with introductory econometrics, microeconomics, and international economics. Students are also strongly encouraged to learn Stata and Matlab. Students are encouraged to study 4 hours before/after each class. There will be assignments during the course. You have to submit these homework assignments by the due date. Your grade will be determined by the homework (20%) and your performance at the final examination or term paper (80%).

ECN572C1-1

上級マクロ経済学 A

宮崎 憲治

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では非伝統的金融政策が金融システムと実体経済に与える影響について学ぶ

【到達目標】

フィナンシャルアクセレーターと非伝統的金融政策に関する先行研究を理論的に理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

テーマごとに学術論文を輪読する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	DSGE model with agency costs and fluctuations (1)	Bernanke, Ben S. and Mark Gertler (1989): "Agency Costs, Net Worth, and Business Fluctuations." American Economic Review 79(1): 14-31.
第 2 回	DSGE model with agency costs and fluctuations (2)	Carlstrom, Charles and Timothy S. Fuerst (1997): "Agency Costs, Net Worth, and Business Fluctuations: A Computable General Equilibrium Analysis." American Economic Review 87(5): 893-910.
第 3 回	the financial accelerator and applications (1)	Bernanke, Ben, Mark Gertler, and Simon Gilchrist (1999): "The Financial Accelerator in a Quantitative Business Cycle Framework." In Handbook of Macroeconomics Volume 1.C, edited by John B. Taylor and Michael Woodford.
第 4 回	the financial accelerator and applications (2)	Carlstrom, Charles, Fuerst, Timothy S., and Matthias Paustian (2016): "Optimal Contracts, Aggregate Risk, and the Financial Accelerator." American Economic Journal: Macroeconomics 8(1): 119-147.
第 5 回	limited enforcement constraints and credit cycles (1)	Kiyotaki, Nobuhiro and John Moore (1997): "Credit Cycles." Journal of Political Economy 105(2): 211-248.
第 6 回	limited enforcement constraints and credit cycles (2)	Iacoviello, Matteo (2005): "House Prices, Borrowing Constraints, and Monetary Policy in the Business Cycle." American Economic Review 95(3): 739-764.

第 7 回	macroeconomic model with financial shocks; the term premium (1)	Jermann, Urban and Vincenzo Quadrini (2011): "Macroeconomic Effects of Financial Shocks." American Economic Review 102(1): 238-271.
第 8 回	macroeconomic model with financial shocks; the term premium (2)	Rudebusch, Glenn and Eric Swanson (2012): "The Bond Premium in a DSGE Model with Long-Run Real and Nominal Risks." American Economic Journal: Macroeconomics 4(1): 105-143.
第 9 回	segmented markets and quantitative easing (1)	Gertler, Mark and Peter Karadi (2011): "A Model of Unconventional Monetary Policy." Journal of Monetary Economics 58(1): 17-34.
第 10 回	segmented markets and quantitative easing (2)	Gertler, Mark and Peter Karadi (2013): "QE1 vs. 2 vs. 3 vs. . . . : A Framework for Analyzing Large-Scale Asset Purchases as a Monetary Policy Tool." International Journal of Central Banking 9(S1): 5-53.
第 11 回	segmented markets and quantitative easing (3)	Carlstrom, Charles, Timothy S. Fuerst, and Matthias Paustian (2017): "Targeting Long Rates in a Model with Segmented Markets." American Economic Journal: Macroeconomics 9(1): 205-242.
第 12 回	models of unconventional monetary policy (1)	Sims, Eric and Jing Cynthia Wu (2021): "Evaluating Central Banks' Tool Kit: Past, Present, and Future." Journal of Monetary Economics, 118, 135-160.
第 13 回	models of unconventional monetary policy (2)	Sims, Eric, Jing Cynthia Wu, and Ji Zhang (2020): "The Four Equation New Keynesian Model." Working paper
第 14 回	models of unconventional monetary policy (3)	Sims, Eric and Jing Cynthia Wu (2020): "Are QE and Conventional Monetary Policy Substitutable?" International Journal of Central Banking 16(1): 195-230.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に指定した論文を読んでおく。本授業の予習・復習時間は、あわせて各回 5 時間とする。

【テキスト（教科書）】

授業内に指定する

【参考書】

授業内に指定する

【成績評価の方法と基準】

課題報告 (70%), 平常点 (30%)

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

マクロ経済学 AB, 応用マクロ経済学 AB を受講済みであることが望ましい。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

マクロ経済学・計量経済学

<研究テーマ>

マクロ経済学・計量経済学

<主要研究業績>

Gunji, H., and K. Miyazaki (2011), Estimates of average marginal tax rates on factor incomes in Japan, *Journal of the Japanese and International Economies*, Vol. 25 (2), pp. 81-106.
(査読有 doi:10.1016/j.jjie.2011.02.003)

【Outline (in English)】

(Course outline)

This lecture examines unconventional monetary policies and these effect on the "real" economy.

(Learning Objectives)

You can understand previous studies on financial accelerators and unconventional monetary policy.

(Learning activities outside of classroom)

Students are expected to read the assigned papers in advance. The total preparation and review time for this class is 5 hours for each session.

(Grading Criteria /Policy)

Assignment Report (70%), Usual Performance (30%)

ECN572C1-2

上級マクロ経済学 B

宮崎 憲治

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では DSGE モデルの様々なモデル，特に THANK (Tractable Heterogeneous Agent New Keynesian) モデルについて学ぶ。

【到達目標】

最近の DSGE モデルの先行研究を理論的に理解し，その数値計算法を習熟することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

テーマごとに学術論文を輪読する。

原則、対面授業を想定しているが、オンライン授業でも不利にならないように配慮する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	On DSGE	Christiano, L. J., Eichenbaum, M. S., & Trabandt, M. (2018). On DSGE Models. <i>Journal of Economic Perspectives</i> , 32(3), 113 - 140.
第 2 回	RANK with capital utilization	Greenwood, J., Hercowitz, Z., & Huffman, G. W. (1988). Investment, Capacity Utilization, and the Real Business Cycle. <i>The American Economic Review</i> , 78(3), 402 - 417.
第 3 回	RANK with sticky wage	Yun, T. (1996). Nominal price rigidity, money supply endogeneity, and business cycles. <i>Journal of Monetary Economics</i> , 37(2), 345 - 370.
第 4 回	Medium Scaled RANK 1	Christiano, L. J., Eichenbaum, M., & Evans, C. L. (2005). Nominal Rigidities and the Dynamic Effects of a Shock to Monetary Policy. <i>Journal of Political Economy</i> , 113(1), 1 - 45
第 5 回	Medium Scaled RANK 2	Smets, F., & Wouters, R. (2007). Shocks and Frictions in US Business Cycles: A Bayesian DSGE Approach. <i>American Economic Review</i> , 97(3), 586 - 606.
第 6 回	RANK with Bank sector	Gertler, M., & Karadi, P. (2011). A model of unconventional monetary policy. <i>Journal of Monetary Economics</i> , 58(1), 17 - 34.

第 7 回	TANK & Monetary Policy	Galí, J., López-Salido, J. D., & Vallés, J. (2004). Rule-of-Thumb Consumers and the Design of Interest Rate Rules. <i>Journal of Money, Credit and Banking</i> , 36(4), 739 - 763.
第 8 回	TANK & Fiscal Policy	Galí, J., López - Salido, J. D., & Vallés, J. (2007). Understanding the Effects of Government Spending on Consumption. <i>Journal of the European Economic Association</i> , 5(1), 227 - 270.
第 9 回	TANK with Sticky Wages	Colciago, A. (2011). Rule-of-Thumb Consumers Meet Sticky Wages. <i>Journal of Money, Credit and Banking</i> , 43(2/3), 325 - 353.
第 10 回	TANK with Limited Asset Market Partitions	Bilbiie, F. O. (2008). Limited asset markets participation, monetary policy and (inverted) aggregate demand logic. <i>Journal of Economic Theory</i> , 140(1), 162 - 196.
第 11 回	THANK & Monetary Policy	Bilbiie, F. O. (2019). Monetary Policy and Heterogeneity: An Analytical Framework, forthcoming
第 12 回	THANK & Fiscal Policy	Bilbiie, F. O. (2018). The New Keynesian Cross. <i>Journal of Monetary Economics</i> , forthcoming
第 13 回	THANK with Capital	Bilbiie, F. O. (2020). Capital and Income Inequality: An Aggregate-Demand Complementarity, mimeograph
第 14 回	GHH-CARA Utility	Bilbiie, F. O. (2020). A GHH-CRRA Utility for Macro: Complementarity, Income, and Substitution, mimeograph

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に指定した論文を読んでおく。本授業の予習・復習時間は、あわせて各回 5 時間とする。

【テキスト（教科書）】

授業内に指定する

【参考書】

授業内に指定する

【成績評価の方法と基準】

課題報告 (70%), 平常点 (30%)

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

マクロ経済学 AB を受講済みであることが望ましい。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

マクロ経済学・計量経済学

<研究テーマ>

経済政策・日本経済

<主要研究業績>

Gunji, H., and K. Miyazaki (2011), Estimates of average marginal tax rates on factor incomes in Japan, *Journal of the Japanese and International Economies*, Vol. 25 (2), pp. 81-106. (査読有 doi:10.1016/j.jjie.2011.02.003)

【Outline (in English)】

(Course outline)

This lecture studies several DSGE models including THANK (Tractable Heterogeneous Agent New Keynesian) models.

(Learning activities outside of classroom)

When students take this course they will be able to theoretically understand the recent previous studies on DSGE models and be able to master the numerical methods.

(Learning activities outside of classroom)

Students are required to read the papers specified in advance. The total time for preparation and review of this class is 5 hours for each session.

(Grading Criteria /Policy)

Report of assignments (70%), Usual performance score (30%)

ECN573C1-1

応用計量経済学 A

明城 聡

備考（履修条件等）：（2021 年度以降入学者用）

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

実証分析を行うために必要な計量経済学の知識と、統計パッケージ R を利用した分析手法を学ぶ。

【到達目標】

統計学や計量経済学の考え方を学ぶとともに、統計パッケージ R を用いた基本的な計量分析の手法を学習する。特にクロスセクションデータおよびパネルデータに焦点を当てて標準的な分析手法を習得し、より高度な分析に向けたプログラミングスキルを磨く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業の前半ではデータ分析に必要な計量経済学と R の操作方法について解説する。その後で実際に端末を利用して演習を行う。演習では具体的なクロスセクション・データやパネルデータを用いて計量分析手法を学習する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・講義概要の説明 ・その他連絡事項
2	R の設定	・R について ・基本的な設定 ・基本コマンド ・統計量の計算
3	R の操作とデータ管理 (1)	・ファイル操作 ・オブジェクト操作
4	R の操作とデータ管理 (2)	・基本統計量
5	R の操作とデータ管理 (3)	・行列の操作
6	R の操作とデータ管理 (4)	・行列演算
7	クロスセクションデータに対する線形回帰モデル (1)	・クロスセクションデータ ・一般化古典的回帰モデル
8	クロスセクションデータに対する線形回帰モデル (2)	・R での回帰分析 ・散布図と回帰直線の作図
9	クロスセクションデータに対する線形回帰モデル (3)	・不均一分散の検定 ・不均一分散調整済み標準誤差
10	演習 (1)	・クロスセクションデータを用いた演習
11	パネルデータに対する線形回帰モデル (1)	・パネルデータ ・Pooled OLS
12	パネルデータに対する線形回帰モデル (2)	・固定効果モデル ・変量効果モデル ・Hausman 検定
13	演習 (2)	・パネルデータを用いた演習
14	まとめ	・授業のまとめと復習 ・課題レポートについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した講義資料を授業で配布する。

【参考書】

- (1) 小暮厚之、「R による統計データ分析入門」朝倉書店、2009 年
- (2) 福地純一郎、伊藤有希、「R による計量経済分析」朝倉書店、2011 年
- (3) 浅野哲、中村二郎『計量経済学・第二版』、有斐閣、2009 年

【成績評価の方法と基準】

課題レポートにて評価する (100%)。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

情報処理室の端末を利用するので、大学のアカウント (ID およびパスワード) を確認しておくこと。

【その他の重要事項】

受講生の理解度や要望などに応じて講義内容を変更する可能性がある。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

実証産業組織論、応用統計学

<研究テーマ>

構造推定を用いた市場分析

<主要研究業績>

1. On Asymptotic Properties of the Parameters of Differentiated Product Demand and Supply Systems When Demographically-Categorized Purchasing Pattern Data are Available, *International Economic Review*, Vol.53, no.3, pp.887-937, 2012.
2. Effects of Consumer Subsidies for Renewable Energy on Industry Growth and Social Welfare: The Case of Solar Photovoltaic Systems in Japan, *Journal of the Japanese and International Economies*, vol.48, pp.55-67, 2018.

【Outline (in English)】

Outline: Objectives of this course is to master standard econometric techniques to analyze economic data using PC. Students are required to learn basic statistics and programming skills to utilize statistical software R.

Goal: To master advanced data-analysis skills for cross sectional and panel data using statistical software(R).

Extracurricular exercise: Review the contents covered in the class every week (4 hours).

Grading: reports (100%)

ECN573C1-1

ミクロ計量分析A

名城 聡

備考（履修条件等）：（2020年度以前入学者用）

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

実証分析を行うために必要な計量経済学の知識と、統計パッケージ R を利用した分析手法を学ぶ。

【到達目標】

統計学や計量経済学の考え方を学ぶとともに、統計パッケージ R を用いた基本的な計量分析の手法を学習する。特にクロスセクションデータおよびパネルデータに焦点を当てて標準的な分析手法を習得し、より高度な分析に向けたプログラミングスキルを磨く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業の前半ではデータ分析に必要な計量経済学と R の操作方法について解説する。その後で実際に端末を利用して演習を行う。演習では具体的なクロスセクション・データやパネルデータを用いて計量分析手法を学習する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・講義概要の説明 ・その他連絡事項
2	R の設定	・R について ・基本的な設定 ・基本コマンド ・統計量の計算
3	R の操作とデータ管理 (1)	・ファイル操作 ・オブジェクト操作
4	R の操作とデータ管理 (2)	・基本統計量
5	R の操作とデータ管理 (3)	・行列の操作
6	R の操作とデータ管理 (4)	・行列演算
7	クロスセクションデータに対する線形回帰モデル (1)	・クロスセクションデータ ・一般化古典的回帰モデル
8	クロスセクションデータに対する線形回帰モデル (2)	・R での回帰分析 ・散布図と回帰直線の作図
9	クロスセクションデータに対する線形回帰モデル (3)	・不均一分散の検定 ・不均一分散調整済み標準誤差
10	演習 (1)	・クロスセクションデータを用いた演習
11	パネルデータに対する線形回帰モデル (1)	・パネルデータ ・Pooled OLS
12	パネルデータに対する線形回帰モデル (2)	・固定効果モデル ・変量効果モデル ・Hausman 検定
13	演習 (2)	・パネルデータを用いた演習
14	まとめ	・授業のまとめと復習 ・課題レポートについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した講義資料を授業で配布する。

【参考書】

- (1) 小暮厚之、「R による統計データ分析入門」朝倉書店、2009 年
- (2) 福地純一郎、伊藤有希、「R による計量経済分析」朝倉書店、2011 年
- (3) 浅野哲、中村二郎『計量経済学・第二版』、有斐閣、2009 年

【成績評価の方法と基準】

課題レポートにて評価する (100%)。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

情報処理室の端末を利用するので、大学のアカウント (ID およびパスワード) を確認しておくこと。

【その他の重要事項】

受講生の理解度や要望などに応じて講義内容を変更する場合がある。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

実証産業組織論、応用統計学

<研究テーマ>

構造推定を用いた市場分析

<主要研究業績>

1. On Asymptotic Properties of the Parameters of Differentiated Product Demand and Supply Systems When Demographically-Categorized Purchasing Pattern Data are Available, *International Economic Review*, Vol.53, no.3, pp.887-937, 2012.
2. Effects of Consumer Subsidies for Renewable Energy on Industry Growth and Social Welfare: The Case of Solar Photovoltaic Systems in Japan, *Journal of the Japanese and International Economies*, vol.48, pp.55-67, 2018.

【Outline (in English)】

Outline: Objectives of this course is to master standard econometric techniques to analyze economic data using PC. Students are required to learn basic statistics and programming skills to utilize statistical software R.

Goal: To master advanced data-analysis skills for cross sectional and panel data using statistical software(R).

Extracurricular exercise: Review the contents covered in the class every week (4 hours).

Grading: reports (100%)

OTR501C1-1

日本語 I A

清水 由美

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本語を母語としない留学生が、①フォーマルな場でテーマに沿って意見交換をする。②専門分野の論文を書くために最低限必要な日本語の基礎を固め、まとまった内容の文章を書くことに慣れる。

【到達目標】

- (1) 初級レベルの日本語のミスをなくす。
- (2) 中・上級レベルの文型と語彙を使いこなせるようになる。
- (3) 賛否の分かれるテーマについて、授業での話し合いにふさわしい日本語で意見交換ができるようになる。また、司会者として、そのような話し合いを運営できるようになる。
- (4) 事実・他者の意見・自分の意見をきちんと分けて、説得力のある意見文を書けるようになる。
- (5) 自分の書いた文章の間違いに気づく力を身につけ、よりよい表現を使いこなせるようになる。
- (6) 日本の新聞の投書欄に、意見文を投稿する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

【授業の形態】

◇資料の配信と課題の提出およびフィードバックは、学習支援システム Hoppii を利用し、オンデマンドで行う。

◇ディスカッションの準備のための情報交換は、学習支援システム Hoppii の授業内掲示板を利用し、同時双方向で行う。

◇ディスカッションは、原則として対面で行う。

※各回の授業形態は、授業前日までに学習支援システム Hoppii で告知する。

【授業の進め方】

1. ディスカッション（＝意見交換）
 - ①賛否の分かれそうなテーマ（学期中に3つ扱う予定）について、必要な情報を集める。＝予習#1
 - ②クラスでテーマに関するキーワードや概念について、情報を交換し、お互いに理解を確認する。 ※ Hoppii の授業内掲示板を利用し、文字に残す。
 - ③内容を理解したうえで、自分の意見をまとめる。司会を担当する学生は、ディスカッションの流れを予想し、進行の計画を立てる。＝予習#2
 - ④司会の進行指示に従って、ディスカッションする。 ※対面もしくは Zoom ミーティング
 - ⑤ディスカッションの中で見られた口頭表現の問題点や、司会進行について、意見や感想を交換する。＝振り返り
2. 意見文執筆
 - ⑥ディスカッションの内容に基づいて、自分の意見を 500 字程度の文章にまとめる。＝宿題#1
 - ⑦お互いの意見文を読み合い、質問や助言をし、評価もする。
 - ⑧自分の書いた原稿と、講師による修正案を読みくらべ、日本語の問題点を見つける。＝宿題#2
3. 意見文投稿
 - ⑨学期末に自分の書いた意見文から最もよいと思うもの1点を選び、実際に日本の新聞の投書欄に投稿する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	・授業の目的と進め方の説明 ・自己紹介 ・日本語力確認のためのアンケート ・ディスカッションのテーマを考える
第2回	ディスカッションをし てみる	・簡単なテーマについてディスカッションをしてみる。 ・ディスカッションにおける司会者の役割を知る。 ・今後のディスカッションのテーマ①～③を選定する
第3回	意見文を書いてみる	・意見文のモデルを読み、構成を分析する。 ・第2回授業のディスカッションに基づいて意見文を書いてみる。 ・テーマ①について情報と知識を共有する。 ・ディスカッションの設計と準備＝宿題
第4回	テーマ①-1	・ディスカッションを行う。 ・ディスカッションを終えて変わったこと、変わらなかったことをまとめる＝宿題
第5回	テーマ①-2	・ディスカッションの日本語について振り返る。 ・テーマ①について意見文を書く＝宿題
第6回	テーマ①-3	・意見文の日本語を振り返る。 ・意見文の完成＝宿題 ・テーマ②について情報と知識を共有する。 ・ディスカッションの設計と準備＝宿題
第7回	テーマ①-4	・ディスカッションを行う。 ・意見文の執筆＝宿題
第8回	テーマ②-1	・ディスカッションの日本語と、意見文の日本語について振り返る。 ・意見文の完成＝宿題 ・テーマ③について情報と知識を共有する。 ・ディスカッションの設計と準備＝宿題
第9回	テーマ②-2	・ディスカッションを行う。 ・意見文の執筆＝宿題
第10回	テーマ②-3	・ディスカッションの日本語と、意見文の日本語について振り返る。 ・意見文の完成＝宿題
第11回	テーマ③-1	・ディスカッションの日本語と、意見文の日本語について振り返る。 ・意見文の完成＝宿題
第12回	テーマ③-2	・ディスカッションの日本語と、意見文の日本語について振り返る。 ・意見文の完成＝宿題
第13回	テーマ③-3	・ディスカッションの日本語と、意見文の日本語について振り返る。 ・意見文の完成＝宿題
第14回	「ベスト意見文」を選んで投書する	これまで書いた意見文から推薦・他薦でいちばんよいものを選び、さらに推敲を重ねて完成させ、新聞に投書する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【ディスカッションの前】

- ①テーマに関連する情報を集め、ほかの人に説明できるように準備する。
- ②情報交換後に、意見をまとめ、発表できるように準備する。
- ③司会を担当する回は、具体的な流れを設計し、必要な準備をする。

【ディスカッションの後】

- ④話し合いの前後で、自分の意見がどう変わったか（変わらなかったか）を言語化する。
 - ⑤意見文を書く。
 - ⑥クラスメートの意見や講師からのフィードバックを受けて、意見文を完成させる。
- ※必要な学習時間：各回およそ1時間。ただし、③と⑤については2～4時間。

【テキスト（教科書）】

テキストは使わない。必要に応じて資料を配布（配信）する。

【参考書】

『大学・大学院 留学生の日本語4 論文作成編』（アカデミック・ジャパニーズ研究会編著、アルク）

※これは秋学期の日本語Ⅱ B でテキストとして使うので、今のうちに買っておくことを勧める。

【成績評価の方法と基準】

- ・授業への参加貢献（ディスカッションなどでの発言・司会）＝ 40 %
- ・課題文（4 回）＝ 40 %
- ・最終課題（新聞への投書）＝ 20 %

【学生の意見等からの気づき】

◇ディスカッションの前に行う情報交換は、「文字に残す」ことが有意義だと確認できたので、コロナ下での実践に引き続き、Hoppii の授業内掲示板で行うことにします。

◇授業評価アンケートに、「友だちのあいだで使う表現も勉強したい」という意見がありましたが、本講義の設置目的から考え、アカデミックな場面でのフォーマルな日本語表現の学習を優先させます。ただし、ディスカッションやその準備の際にグループワークを取り入れることにより、いわゆる「タメ口」についても、折に触れて取り上げたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

- ・資料配布、課題提出、情報交換などに、学習支援システム Hoppii を利用する。
- ・ディスカッションは原則として対面で行うが、その準備や振り返りの回では Zoom ミーティングも利用する。その際はパソコンでの参加が望ましい。

【その他の重要事項】

- ・日本語Ⅱ A（口頭発表のための基礎演習）も受講すること。また、秋学期には日本語Ⅰ B（口頭発表の実地演習）とⅡ B（レポート執筆の訓練）を受講することが望ましい。
- ・2023 年度に修士論文を提出する予定の学生は、日本語Ⅲ A・Ⅲ B を受講すること。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>日本語、日本語教育

<研究テーマ>母語話者が意識化しにくい文法

<主要研究業績>

- ・『日本語不思議』（2022 年、創意市集、林巍翰・琉璃訳）
- ・『すばらしき日本語』（2020 年、ポプラ新書）
- ・『日本語びいき』（2018 年、中公文庫）
- ・『辞書のすきま すきまの言葉—あんな言葉やこんな言葉、英語では何と言う？』（2009 年、研究社）

【Outline (in English)】

Course outline

Basic Japanese for academic speaking and writing

Learning Objectives

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- A. to express their opinion in discussions
- B. to host a discussion
- C. to write their opinion in an appropriate style of written Japanese

Learning activities outside of classroom

Before each class meeting, students will be expected to have prepared for the coming discussion, and after the discussions, to summarize and write their opinion. Required study time is at least one hour for each class meeting.

Grading Criteria

Grading will be decided based on each reports (40%), in-class contribution(40%), and the term-end report(20%)

OTR501C1-2

日本語 I B

清水 由美

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本語を母語としない留学生が、自分の研究テーマや関心のある問題について、わかりやすく説得力のある発表をするために、視覚資料を作成し、それを使って口頭発表をするための実践的な訓練を行う。※春学期の日本語ⅡAでは、口頭発表の「部分練習」を行った。このI Bでは、まとまりのある一つの発表全体の練習をする。

【到達目標】

- (1) 自分の研究テーマや関心のある問題について、わかりやすく説得力のある発表をするための視覚資料（おもにPPTスライド）を作成できるようになる。
- (2) わかりやすく説得力のある発表をするための日本語表現と話し方を身につける。
- (3) 作成した視覚資料を用いて5～10分程度の口頭発表をし、それに対する質疑に応じられるようになる。
- (4)ほかの受講生の発表を聞き、内容について質問や意見交換ができるようになる。
- (5) 発表会の司会やタイムキーパーができるようになる。
- (6) 自分の書いた文章および自分の口頭発表の形式や内容について、問題点に気づき、修正できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

【授業の形態】

◇資料配信、課題提出、フィードバックには、学習支援システムHoppiiを使用する。

◇口頭発表は、対面あるいはZoomミーティングで行う。
※受講生の人数によって、スケジュールは変更の可能性があります。実際の各回の実施形態は、学習支援システムHoppiiの授業ページで授業前日までにお知らせします。

【授業の進め方】

- (1) 視覚資料（スライド）の作成
 - ①大枠のテーマについて自分で話題を見つけ、アウトラインを考えてスライドを作成する。
 - ②講師の助言を参考に、スライドを完成させ、発表ノートを準備する。
 - ③講師の助言を参考に、発表ノートを完成させる。
- (2) 口頭発表
 - ④作成したスライドと発表ノートを使って、3～5分程度の口頭発表を行う。
 - ⑤ほかの受講生の発表を聞き、内容についての質疑と、形式についてのコメントをする。発表者は、質疑に応じる。
- (3) 最終課題
 - ⑥「日本の〇〇に対する違和感」について自分でテーマを決め、アウトラインを作成する。
 - ⑦講師の助言を参考に、スライドと発表ノートを作成し、発表の練習をする。
 - ⑧発表をして／発表を聞いて、質疑応答をする。

※最終課題のテーマは、日本語ⅡB（レポート作成）の最終課題と同じものが望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	・授業の目的と進め方の説明 ・近況報告（いつどこで何がどうしたか、なぜそうなったかを、わかりやすく、かつ聞き手の興味を引き付けるように話す）
第2回	・スライドに使う日本語表現の確認（箇条書きの復習など） ・対照的な事象をわかりやすく述べる	「コロナ禍の前と後」スライド作成
第3回	・言いたいことに合わせて、情報提示の効果的な順番を考える ・対比を明確に伝える話し方を意識する ・箇条書きのスライドを見せながら話す	「コロナ禍の前と後」スライドの修正と発表ノートの作成
第4回	「コロナ禍の前と後」発表会#1	・互いの発表を聞き、質疑応答 ※司会進行も、学生が順に担当する。
第5回	「コロナ禍の前と後」発表会#2	・互いの発表を聞き、質疑応答 ※司会進行も、学生が順に担当する。
第6回	ここまでの振り返りと息抜き	・授業の進め方や内容について意見交換 ・「〇〇川柳」などを題材にフリートーク
第7回	・事実と伝聞と自分の意見をきちんと分ける ・引用のマナーを守って話す ・他者の意見を簡潔にまとめて紹介する ・他者の意見に対する賛否を述べる	「日本の若者に言いたいこと」アウトラインとスライドの準備、ノートの作成
第8回	発表の準備と練習	スライドと発表ノートの修正・完成、発表の練習
第9回	「日本の若者に言いたいこと」発表会#1	・互いの発表を聞き、質疑応答 ※司会進行も、学生が順に担当する。
第10回	「日本の若者に言いたいこと」発表会#2	・互いの発表を聞き、質疑応答 ※司会進行も、学生が分担する。
第11回	最終発表「日本の〇〇に対する違和感」の準備	テーマに沿って話題を決める ⇒ アウトラインを作成 ⇒ 講師の助言を受けてスライド作成・発表の準備
第12回	最終発表「日本の〇〇に対する違和感」の準備	スライドとノートの修正・完成、発表の練習
第13回	「日本の〇〇に対する違和感」発表会#1	・互いの発表を聞き、質疑応答 ※司会進行も、学生が分担する。
第14回	「日本の〇〇に対する違和感」発表会#2 ・授業評価アンケート	・互いの発表を聞き、質疑応答 ※司会進行も、学生が分担する。 ・授業評価アンケート

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の課題について、どうすればわかりやすく伝えることができるかを考えてスライドと発表ノートを作成し、実際に時計と鏡を見ながら、声に出して話す練習をしてもらうこと。各回2～4時間程度必要。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。必要な資料や課題の説明は、オンラインで配信する。

【参考書】

『大学・大学院 留学生の日本語4 論文作成編』（アカデミック・ジャパンーズ研究会編著、アルク）
※日本語ⅡB（レポート作成）で教科書として使用する本である。書くためのテキストではあるが、数字の述べ方などの基本は発表にも役立つので、入手して参照すること。

【成績評価の方法と基準】

- ・各回の課題（提出と内容）＝ 50 %
- ・授業への参加貢献（発表会での発言など）＝ 20 %
- ・最終発表（資料と口頭発表）＝ 30 %

【学生の意見等からの気づき】

- ・司会を担当したことで学ぶところが大きかったという声が多かったため、今年度も発表会の司会進行は学生にやってもらいます。
- ・昨年度に引き続き、最終課題の大枠のテーマを日本語Ⅱ B(レポート作成)の最終課題と同じ「日本の〇〇に対する違和感」とします。これによって、準備の負担を軽減するとともに、話し言葉と書き言葉の違いをより明確に意識化できると考えるからです。

【学生が準備すべき機器他】

各回の授業内容の伝達や課題の指示は、学習支援システム Hoppii で行う。発表会は原則として対面を実施するが、Zoom ミーティングを利用することもある。その際は PC の利用が望ましい。

【その他の重要事項】

- ・春学期の日本語Ⅱ A（＝口頭発表と視覚資料作成の基礎演習）を、必ず受講しておくこと。日本語Ⅰ Bは、基礎の習得はできているという前提で進める。
- ・話しことばと書きことばの違いを明確に意識するためにも、日本語Ⅱ B（＝レポート作成）を同時に受講することが望ましい。
- ・2023 年度に修士論文を提出する予定の学生は、日本語Ⅲ A・Ⅲ Bを受講すること。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>日本語、日本語教育

<研究テーマ>母語話者が意識化しにくい文法

<主要研究業績>

- ・『日本語不思議』（2022 年、創意市集、林巍翰・琉璃訳）
- ・『すばらしき日本語』（2020 年、ポプラ新書）
- ・『日本語びいき』（2018 年、中公文庫）
- ・『辞書のすきま すきまの言葉—あんな言葉やこんな言葉、英語では何と言う？』（2009 年、研究社）

【Outline (in English)】

Course outline

Advanced Japanese for academic presentation

Learning Objectives

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- A.to make slides for a clear and compelling presentation
- B.to make a clear and compelling presentation
- C.to ask/answer the questions about the presentation

Learning activities outside of classroom

Before each presentation session, students will be expected to spend two to four hours to prepare slides, presentation notes and practice making presentation.

Grading Criteria

Grading will be decided based on assignment(slides, notes, performances) (50%), in-class contribution(20%) and the final presentation(slides, notes, performance)(30%)

OTR501C1-1

日本語Ⅱ A

清水 由美

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本語を母語としない留学生が、①口頭発表のための視覚資料（スライド）を作成し、②それを使って口頭発表をするための基礎的な訓練を行う。

※この日本語Ⅱ A では、口頭発表に必要なさまざまな要素を個別に取り上げて、部分的な練習を行う。ひとまとまりの発表全体の練習は、秋学期の日本語Ⅰ B で行う。

【到達目標】

- (1) 書き言葉と話し言葉の違いが大きい日本語の特性を理解し、両者を適切に使いこなせるようになる。
- (2) 視覚資料（スライド）の作成に必要な日本語表現と、提示のし方を身につける。
- (3) 口頭発表に必要な日本語表現と、適切な話し方を身につける。
- (4) 作成した視覚資料を使って、3分程度の口頭発表ができるようになる。
- (5) 発表の内容について、質疑応答ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

【授業の形態】

◇資料の配信、課題の提出とフィードバックには、学習支援システム Hoppii を利用する。

◇口頭発表の回は、原則として対面で行う。

※受講生の人数によって、スケジュールは変更の可能性があります。実際の各回の実施形態は、学習支援システム Hoppii の授業ページで授業前日までにお知らせします。

【授業の進め方】

- ①口頭発表の「部分練習」として、注意すべき点ごとにスライド作成と発表ノートの作成を課す。
- ②講師のフィードバックを受けて、各回の課題のスライドと発表ノートを修正し、完成させ、口頭発表の練習をする。
- ③クラスで発表をし／発表を聞き、質疑応答をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	・授業の目的と進め方の説明 ・自己紹介 ・日本語能力の確認（日本語Ⅰ A と共通のアンケート）
第2回	話しことばと書きことばの違い①	・2種類の自己紹介 ・クラスの前で話す ・スライドにまとめる（箇条書き）
第3回	話しことばと書きことばの違い②	友人紹介（準備） ・インタビューをしてメモを作成する。 ・見やすいスライドを作る。 ・スライドを見て話す練習。
第4回	話しことばと書きことばの違い③#発表	友人紹介 ・スライドを見せながら話す。
第5回	画像を説明する①	「よくわからない写真」を1枚選び、それについてわかりやすく説明する。（スライドと発表ノートの準備）

第6回	画像を説明する②	聞き手の興味をひきつけるための情報の取舍と提示の順番を考える。（スライドと発表ノートの完成、口頭発表の練習）
第7回	画像を説明する③#発表	・「よくわからない写真」を見せて説明する。 ・発表について質疑応答をする。
第8回	列挙する①	「コロナ禍をめぐるあれこれ」というテーマで、思いつくことを列挙し、まとめる。（スライドと発表ノートの準備）
第9回	列挙する②	多くのことを述べるときのわかりやすい話の運び方を意識する。（スライドと発表ノートの修正・完成、発表の練習）
第10回	列挙する③#発表	「コロナ禍をめぐるあれこれ」について、発表をする。 ・発表について質疑応答をする。
第11回	数字の意味を伝える①	・興味を引くデータ（グラフや表）を1点選び、それについてわかりやすく説明する。（スライドと発表ノートの準備）
第12回	数字の意味を伝える②	そのデータの持つ意味をわかりやすく伝える。（スライドと発表ノートの完成、口頭発表の練習）
第13回	数字の意味を伝える③#発表	・「興味を引くデータ」を紹介し、それについて説明する。 ・発表について質疑応答をする。
第14回	期末試験とまとめ	・学期中に学んだことが理解できているかどうかを確認するための筆記試験 ・授業評価アンケート

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各1～2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使わないが、下の参考書②を準備しておくことを強く勧める。

【参考書】

- ①『アカデミック・ライティングのためのパラフレーズ演習 言い換え、書き換え』（鎌田美千子・仁科浩美、スリーエーネットワーク）
 - ②『大学・大学院 留学生の日本語4 論文作成編』（アカデミック・ジャパニーズ研究会編著、アルク）
- ※②は、秋学期の日本語Ⅱ B（レポート）でテキストとして使うので、今のうちに買っておくことを勧める。

【成績評価の方法と基準】

- ・話し合いへの参加貢献 20%
- ・各回の課題と発表 50%
- ・期末試験 30%

【学生の意見等からの気づき】

コロナ下の昨年度、スタート時には対面を望む声が多かったのですが、現実の社会でオンライン会議のツールを使う場面が急増していることを受け、後半は Zoom ミーティングを使った発表の練習ができてよかったという声が増えました。今年度も、対面とオンラインそれぞれの特性を生かしつつ、進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】

- ・資料配布・課題提出・意見交換などに学習支援システム Hoppii を利用する。
- ・口頭発表は原則として対面で行うが、Zoom ミーティングを利用することもあるため、その際は PC の用意が望ましい。

【その他の重要事項】

- ・日本語Ⅰ A（ディスカッションとアカデミック・ライティングの基礎）も受講すること。また、秋学期には日本語Ⅰ B（口頭発表の実践演習）とⅡ B（レポート執筆の訓練）を受講することが望ましい。
- ・2023年度に修士論文を提出する予定の学生は、日本語義Ⅲ A・Ⅲ Bを受講すること。

【担当教員の専門分野等】

- <専門領域>日本語、日本語教育
- <研究テーマ>母語話者が意識化しにくい文法

<主要研究業績>

- ・『日本語不思議』(2022年、創意市集、林巍翰・琉璃訳)
- ・『すばらしき日本語』(2020年、ポプラ新書)
- ・『日本語びいき』(2018年、中公文庫)
- ・『辞書のすきま すきまの言葉—あんな言葉やこんな言葉、英語では何と言う?』(2009年、研究社)

[Outline (in English)]

Course outline

Basic Japanese for academic presentation

Learning Objectives

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- A.to make slides for a simple and clear explanation about a topic
- B.to make a simple and clear explanation about a topic
- C.to ask/answer the questions about the presentation

Learning activities outside of classroom

Before each presentation session, students will be expected to spend one to two hours to prepare a slide, presentation notes and practice making presentation.

Grading Criteria

Grading will be decided based on each assignments and performance(50%), in-class contribution(20%), and the term-end examination(30%)

OTR501C1-2

日本語ⅡB

清水 由美

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本語を母語としない留学生が、日本語で専門分野のレポート・論文を書くために必要な文章の構成を学び、実際にレポートを書き上げる。

【到達目標】

- (1) わかりやすく説得力のあるレポート・論文を書くための、日本語の表現や文章構成を身につける。
- (2) 論理的構成の資料を、十分な速さで目的に沿って読み、理解できるようにする。
- (3) 自分の研究テーマや関心のある問題について、明解で説得力のあるレポート（図表や資料を別にして 3,000 字程度）を書く。
- (4) ほかの人が書いた文章を、一定の速さで、かつ、批判的に読むことができるようになる。
- (5) 自分の書いた日本語の問題点に気づき、それを修正することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

【授業の形態】

◇資料の配信、課題の提出は、学習支援システム **Hoppii** を利用する。
 ◇各課の質疑応答と課題のフィードバックも、原則として学習支援システム **Hoppii** を通して行うが、講師が必要と判断した場合は、対面もしくは **Zoom** ミーティングで行う。

【授業の進め方】

典型的な論文構成の流れに沿って、序論から結論および参考文献リストにいたるまでの、各部でよく使われる日本語の文型・表現と展開パターンを学ぶ。各回の授業の流れは、原則として以下のとおり。最後に 3,000 字程度のレポートを書いて提出する。

- (1) テキストの指定範囲と補足資料の読解、解説動画の視聴
 - (2) 予習確認クイズとフィードバック、質疑応答
 - (3) 課題文の作成・提出
 - (4) 提出した課題文のフィードバック：講師による修正案と読みくらべ、自分が書いた文章の問題点を見つける訓練
- ※各回の課題文の目的は「形式の習得」であり、その内容は自由である。各自、最終レポートのテーマを早めに決め、そのテーマに沿った内容で少しずつ課題文を書いていくことを勧める。最後に全体をまとめて 1 本の論文とすればよいからである。
 ※なお最終レポートのテーマは、日本語ⅠB（口頭発表）の最終発表のテーマ「日本の〇〇に対する違和感」と同じものにするのが望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	・オリエンテーション ・テーマを考える	・授業の目的と進め方の説明 ・レポートのテーマを考える【=宿題】
第 2 回	・テキスト 1、2 課： 作文の基本 ・テーマ相談会	・レポートや論文における書きこ とばの基本を確認する。 ・テーマについて助言し合う。

第 3 回	・テキスト 11 課： 引用 ※論文執筆のマナーとして、「引用」はとても重要なため、ほかの課に先立って 11 課を学習する。	・引用のマナーを学ぶ ・文献リスト作成 = 宿題 ・引用文を書く = 宿題
第 4 回	・テキスト 3 課：課題の提示 ・前回宿題のフィードバック	・課題の提示文を書く = 宿題 ・宿題とその添削例を読み、修正点を見つける。
第 5 回	・テキスト 4 課：目的の提示 ・前回宿題のフィードバック	・目的の提示文を書く = 宿題 ・宿題とその添削例を読み、修正点を見つける。
第 6 回	・テキスト 5 課：定義と分類 ・前回宿題のフィードバック	・定義と分類の文を書く = 宿題 ・宿題とその添削例を読み、修正点を見つける。
第 7 回	・テキスト 6 課：図表の提示 ・前回宿題のフィードバック	・必要な図表を探し（作成し）、提示する文を書く = 宿題 ・宿題とその添削例を読み、修正点を見つける。
第 8 回	・テキスト 7 課：変化の形容 ・前回課題のフィードバック	・データを説明する文を書く = 宿題 ・宿題とその添削例を読み、修正点を見つける。
第 9 回	・テキスト 8 課：対比と比較 ・前回課題のフィードバック	・対比／比較を含む文章を書く = 宿題 ・宿題とその添削例を読み、修正点を見つける。
第 10 回	・テキスト 9 課：原因の考察 ・前回課題のフィードバック	・原因を考察する文を書く = 宿題 ・宿題とその添削例を読み、修正点を見つける。
第 11 回	・テキスト 10 課： ・前回課題のフィードバック	・序論～本論の中で列挙を含む文 を書く = 宿題 ・宿題とその添削例を読み、修正点を見つける。
第 12 回	・テキスト 12 課：同意と反論 ・前回課題のフィードバック	・先行研究を要約して引用し、それに対する意見を書く = 宿題 ・宿題とその添削例を読み、修正点を見つける。
第 13 回	・テキスト 13-14 課： ・前回課題のフィードバック	・帰結あるいは結論を含む文章を書く = 宿題 ・宿題とその添削例を読み、修正点を見つける。
第 14 回	・レポート提出前最終相談会 ・レポート提出 ・授業評価アンケート	・おおよその完成稿を持ち寄り、お互いに読み合い、助言し合う。 ・レポートの完成と提出 ・授業評価アンケート

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
 本授業の準備学習・復習時間は各 1～2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

『大学・大学院留学生の日本語④論文作成編』（アカデミック・ジャパンニーズ研究会編著、アルク）
 ※各回の予習確認クイズは、このテキストの内容から出題する。必ず手もとに用意し、事前に指定された箇所を期日までに読んでおくこと。

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

- ・予習確認クイズ = 20 %
- ・授業への参加貢献 = 10 %
- ・各回の課題文 = 50 %
- ・最終レポート = 20 %

【学生の意見等からの気づき】

・2022年度はすべてオンライン・オンデマンドで行い、同時双方向でのやりとりはありませんでしたが、メンバーは日本語 I B と重なるため、交流と意思疎通は、I B のほうで補うことができました。このクラスの課題については、対面授業よりもむしろオンライン・オンデマンドのほうが十分なフィードバックができ、学生が自己の日本語についての問題点を意識化するのに役立ったようです。昨年度に引き続き、オンデマンドでのこうした利点は最大限生かしたいと思います。

・昨年度に引き続き、最終課題の大枠のテーマは日本語 I B(口頭発表)の最終課題と同じ「日本の〇〇に対する違和感」とします。これによって、準備の負担を軽減できるとともに、話し言葉と書き言葉の違いをより明確に意識化できると考えるからです。

【学生が準備すべき機器他】

課題の指示・提出に、学習支援システム Hoppii を利用する。

【その他の重要事項】

・春学期の日本語 I A・II A 修了と同程度の日本語力を有する学生を対象とする。

・日本語 I B (口頭発表と視覚資料作成)の同時受講が望ましい。書きことばと話しことばの違いを意識化するためである。(最終課題のテーマは、1B と II B で共通である。)

・2023年度に修士論文を提出する予定の学生は、日本語 III A・III B を受講すること。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>日本語、日本語教育

<研究テーマ>母語話者が意識化しにくい文法

<主要研究業績>

・『日本語不思議』(2022年、創意市集、林巍翰・琉璃訳)

・『すばらしき日本語』(2020年、ポプラ新書)

・『日本語びいき』(2018年、中公文庫)

・『辞書のすきま すきまの言葉—あんな言葉やこんな言葉、英語では何と言う?』(2009年、研究社)

【Outline (in English)】

Course outline

Advanced Japanese for academic writing

Learning Objectives

By the end of the course, students should be able to do the followings:

– A. to acquire the necessary knowledge about Japanese expressions and sentence structure for writing clear and persuasive reports

– B. to write a clear and compelling report

Learning activities outside of classroom

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. They have to take a quiz to check their understanding. Required study time is at least one hour for each class meeting.

After each class meeting, students will be assigned to write a short essay, which will take one to two hours.

Grading Criteria

Grading will be decided based on quiz(20%), each assignment (50%), in-class contribution(10%), and the term-end paper(20%)

OTR502C1-1

日本語Ⅲ A

大場 理恵子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

専門分野での修士論文作成と口頭発表に必要な日本語力を身に付け、自分の修士論文作成に活かす（対象：留学生）。

【到達目標】

- (1) 論文で使用されている文型・表現・語彙を理解し、自分の修士論文執筆に活用できるようになる。
- (2) 自分の修士論文の概要を他者が理解できるように、適切な日本語で発表できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。以下の内容について、基本的には対面授業を行います。状況と必要に応じて、Zoom によるオンライン授業を行います。

- ①講義と演習によって他者の論文で使用されている日本語の文型・表現・語彙などを分析し、発表する。
- ②各自の修論作成を進捗させ、自己チェック、クラスでの他者チェック、教員によるチェックによって修正する。
- ③学科での修論発表ワークショップに備えて、発表練習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	①授業の目的や方法を理解する ②各自の修論の構想を書く
第 2 回	論文の構成・引用の仕方	①専門論文の構成を分析・理解する ②専門分野の引用の仕方を理解する
第 3 回	論文表現の分析<序論-研究対象と背景>	①序論の研究対象と背景の書き方を理解する ②論文の該当部分を分析する
第 4 回	論文表現の分析<序論-先行研究の提示>	①前回の分析を発表する ②序論の先行研究の提示部分の書き方を理解する ③論文の該当部分を分析する
第 5 回	論文表現の分析<序論-研究目的と研究行動の概略>	①前回の分析を発表する ②序論の研究目的と研究行動の概略部分の書き方を理解する ③論文の該当部分を分析する
第 6 回	論文表現の分析<本論-研究方法>	①本論の研究方法部分の書き方を理解する ②論文の該当部分を分析する
第 7 回	論文表現の分析<本論-考察>	①前回の分析を発表する ②本論の考察部分の書き方を理解する ③論文の該当部分を分析する
第 8 回	ワークショップ用発表練習 1	①学科でのワークショップに備えて発表練習する ②お互いにアドバイスしあう ③適切な日本語に修正する
第 9 回	ワークショップ用発表練習 2	①学科でのワークショップに備えて発表練習する ②お互いにアドバイスしあう ③適切な日本語に修正する

第 10 回	ワークショップ用発表練習 3	①学科でのワークショップに備えて発表練習する ②お互いにアドバイスしあう ③適切な日本語に修正する
第 11 回	ワークショップ用発表練習 4	①学科でのワークショップに備えて発表練習する ②お互いにアドバイスしあう ③適切な日本語に修正する
第 12 回	論文表現の分析<結論>	①結論部分の書き方を理解する ②論文の該当部分を分析する
第 13 回	論文表現の分析<結論>	①前回の分析を発表する ②文献リストの書き方を理解する
第 14 回	まとめ	前期の学習をふりかえり、夏休みの目標を決める

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

- ①各自の修論作成を進め、執筆・作成したものをプリントアウトしておく
- ②該当する授業の前に、修論発表の準備・練習をしておく

【テキスト（教科書）】

- ①「留学生と日本人学生のためのレポート・論文表現ハンドブック」二通信子・大島弥生ほか、東京大学出版会、2009 年、2750 円
- ②適宜プリントを配布する。

【参考書】

必要に応じて、授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

小テスト（20%）授業内課題（30%）宿題を含む平常点（50%）

【学生の意見等からの気づき】

修論作成につながる内容以外にも、日本語運用に関する授業（ビジネス場面におけるコミュニケーション等）を学生のニーズに応じて行います。また、修士 2 年生同士のコミュニケーションの機会になるような場を設けます。

【学生が準備すべき機器他】

課題提出のために学習支援システムを利用します。また、Zoom 授業受講が可能なパソコン（カメラ・マイク機能含む）と Wi-Fi 環境を準備してください。

【その他の重要事項】

- ・今年度修士論文を提出する予定の学生のみが受講できます（1 年生は受講できません）
- ・秋学期の日本語Ⅲ B を受講することによって各自の修論完成に繋がるため、連続して受講すること。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>日本語教育・日本語表現教育
<研究テーマ>日本語学習者および母語話者を対象とする効果的な日本語表現法教育
<主要研究業績>
『ピアで学ぶ大学生の日本語表現』ひつじ書房、2005
『ピアで学ぶ大学生・留学生の日本語コミュニケーション』ひつじ書房、2012

【Outline (in English)】

【Course outline】 You can acquire the Japanese language skills for master's thesis writing and oral presentation, and utilize it for your own master's thesis writing.

【Learning Objectives】 To acquire the Japanese language skills necessary for writing a master's thesis

【Learning activities outside of classroom】 The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】 Quizzes (20%) In-class assignments (30%) Class participation and homework (50%)

OTR502C1-2

日本語Ⅲ B

大場 理恵子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

専門分野での修士論文作成と口頭発表に必要な日本語力を身に付け、自分の修士論文を作成・修正する（対象：留学生）

【到達目標】

- (1) 論文で使用される文型・表現・語彙を適切に使用し、自分の修士論文を執筆する。
- (2) 自分の修士論文の概要を他者が理解できるように適切な日本語で発表できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。以下の内容について、基本的には対面授業を行います。状況と必要に応じて、Zoom によるオンライン授業を行います。

- ①各自の修論作成を進捗させ、自己チェック、クラスでの他者チェック、教員によるチェックによって修正する。
- ③学科での修論発表ワークショップおよび修論審査に備えて、発表練習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	①授業の目的や方法を理解する ②各自の修論執筆の進捗と今後の計画を確認する
第 2 回	修論執筆フォロー	各自執筆した部分を内容・文型・表現・語彙等、自己チェック・他者チェック・教師チェックによって修正する
第 3 回	修論執筆フォロー	各自執筆した部分を内容・文型・表現・語彙等、自己チェック・他者チェック・教師チェックによって修正する
第 4 回	修論執筆フォロー	各自執筆した部分を内容・文型・表現・語彙等、自己チェック・他者チェック・教師チェックによって修正する
第 5 回	修論執筆フォロー	各自執筆した部分を内容・文型・表現・語彙等、自己チェック・他者チェック・教師チェックによって修正する
第 6 回	修論執筆フォロー	各自執筆した部分を内容・文型・表現・語彙等、自己チェック・他者チェック・教師チェックによって修正する
第 7 回	ワークショップ用発表練習	①学科でのワークショップに備えて発表練習する ②お互いにアドバイスしあう ③適切な日本語に修正する
第 8 回	ワークショップ用発表練習	①学科でのワークショップに備えて発表練習する ②お互いにアドバイスしあう ③適切な日本語に修正する

第 9 回	ワークショップ用発表練習	①学科でのワークショップに備えて発表練習する ②お互いにアドバイスしあう ③適切な日本語に修正する
第 10 回	ワークショップ用発表練習	①前回の練習を活かしてよりよい発表をする ②お互いにアドバイスしあう ③適切な日本語に修正する
第 11 回	ワークショップ用発表練習	①前回の練習を活かしてよりよい発表をする ②お互いにアドバイスしあう ③適切な日本語に修正する
第 12 回	修論執筆フォロー	各自執筆した部分を内容・文型・表現・語彙等、自己チェック・他者チェック・教師チェックによって修正する
第 13 回	修論執筆フォロー	各自執筆した部分を内容・文型・表現・語彙等、自己チェック・他者チェック・教師チェックによって修正する
第 14 回	まとめ	学習を振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
- ①各自の修論作成を進め、執筆・作成したものをプリントアウトしておく
 - ②該当する授業の前に、修論発表の準備・練習をしておく

【テキスト（教科書）】

- ①「留学生と日本人学生のためのレポート・論文表現ハンドブック」二通信子・大島弥生ほか、東京大学出版会、2009 年、2750 円
- ②適宜プリントを配布する。

【参考書】

必要に応じて、授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業内課題を含む平常点（50 %）宿題（50 %）

【学生の意見等からの気づき】

修論作成につながる内容以外にも、日本理解および日本語運用に関する授業内容を学生のニーズに応じて行います。

【学生が準備すべき機器他】

課題提出のために学習支援システムを利用します。また、一部 Zoom 授業の可能性がありますので、受講が可能なパソコン（カメラ・マイク機能含む）と Wi-Fi 環境を準備してください。

【その他の重要事項】

- ・今年度に修士論文を提出する予定の学生のみが受講できます（1 年生は受講できません）
- ・春学期の日本語Ⅲ A を受講しておくことが必要。未受講の場合は初めに相談すること

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>日本語教育・日本語表現教育
<研究テーマ>日本語学習者および母語話者を対象とする効果的な日本語表現法教育
<主要研究業績>
『ピアで学ぶ大学生・留学生の日本語コミュニケーション』ひつじ書房,2012
『ピアで学ぶ大学生の日本語表現（第 2 版）』ひつじ書房,2014
『大学教育における日本語ライティング指導の実践の動向』『言語文化と日本語教育』（51）,2016

【Outline (in English)】

【Course outline and objectives】 You can acquire the Japanese language skills for master's thesis writing and oral presentation, and utilize it for your own master's thesis writing.

【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to prepare for the class/do assignment.

【Grading Criteria /Policy】 Your overall grade in the class will be decided based on the following
in class contribution and assignment: 50%, homework:50 %

ECN601C1-1

経済学演習 I A

近藤 章夫

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆についての基本的な知識を習得し、論文作成の準備を行う。

【到達目標】

基礎文献の輪読・報告を通じ、問題意識を醸成するとともに、分析手法を身につける。また、論文のサーチの方法、論文作法やプレゼンの方法についても習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

主に演習方式とする。研究テーマに関連した基礎知識の習得のために標準的なテキストを輪読する、研究テーマにおける代表的な研究論文を輪読する、または、実証分析の習得のための実習などが考えられる。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	論文について	論文とは何か、問題意識の持ち方、文献の探し方
第 2 回	問題意識の醸成	検索した文献などを通じて問題意識を醸成する
第 3 回	基礎知識の習得①	問題意識に関連する基礎知識をテキストや基本文献の輪読等で習得する
第 4 回	基礎知識の習得②	テキスト、基本文献の輪読
第 5 回	基礎知識の習得③	テキスト、基本文献の輪読
第 6 回	基礎知識の習得④	テキスト、基本文献の輪読
第 7 回	基礎知識の習得⑤	テキスト、基本文献の輪読
第 8 回	基礎知識の習得⑥	テキスト、基本文献の輪読
第 9 回	基礎知識の習得⑦	テキスト、基本文献の輪読
第 10 回	基礎知識の習得⑧	テキスト、基本文献の輪読
第 11 回	基本文献における問題意識や分析方法のまとめ	サーベイした基本文献から学んだことをまとめる
第 12 回	基本的な研究報告①	サーベイした基本文献に基づき、自らの問題意識と分析方法で研究報告を行う
第 13 回	基本的な研究報告②	研究報告のつづき
第 14 回	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

標準的なテキストや基本文献について、問題意識、分析方法、結果（発見と含蓄）についてレジュメにする。また、修士論文に向けた自らの問題意識と分析方法についての研究ノートの作成を行う。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

平常点 100 %。発表とその準備、Term Paper（必須とする場合のみ）の総合評価（文献サーベイの適性、先行研究への理解、該当分野の分析方法の応用力、自らの問題意識と分析方法の適切性）とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 経済地理学、都市・地域経済学、空間情報科学

<主要研究業績>

①共著（2015）『都市空間と産業集積の経済地理分析』日本評論社

②共著（2012）『産業立地と地域経済』放送大学教育振興会

③単著（2007）『立地戦略と空間的分業』古今書院

【Outline (in English)】

(Course outline)

Students will acquire applied knowledge about writing master's theses and further prepare for thesis writing.

(Learning Objectives)

Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.

(Learning activities outside of classroom)

Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master's thesis.

(Grading Criteria /Policy)

The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student's own problem awareness and analytical methods.

ECN601C1-2

経済学演習 I B

近藤 章夫

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆についての応用的な知識を習得し、論文作成の準備をさらに進める。

【到達目標】

応用文献の輪読・報告を通じ、自身の研究テーマを絞り込む。また、分析手法についての理解をさらに深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

主に演習方式とする。研究テーマに関連した応用知識の習得のために標準的なテキストを輪読する、研究テーマにおける代表的な研究論文を輪読する、または、実証分析の習得のための実習などが考えられる。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	研究テーマの確認	春学期、夏期休暇中に勉強したテキストや先行研究のに基づき、研究テーマを確認する
第 2 回	先行研究の輪読①	研究テーマに添った先行研究（応用研究）を輪読する
第 3 回	先行研究の輪読②	先行研究（応用研究）の輪読
第 4 回	先行研究の輪読③	先行研究（応用研究）の輪読
第 5 回	先行研究の輪読④	先行研究（応用研究）の輪読
第 6 回	先行研究の輪読⑤	先行研究（応用研究）の輪読
第 7 回	先行研究の輪読⑥	先行研究（応用研究）の輪読
第 8 回	先行研究の輪読⑦	先行研究（応用研究）の輪読
第 9 回	先行研究の輪読⑧	先行研究（応用研究）の輪読
第 10 回	先行研究の輪読⑨	先行研究（応用研究）の輪読
第 11 回	先行研究における分析方法、結果のまとめ	先行研究から学んだ分析方法や結果をまとめる
第 12 回	応用的な研究報告①	サーベイした先行研究に基づき、春学期より進んだ応用的な研究報告を行う
第 13 回	応用的な研究報告②	研究報告のつづき
第 14 回	最終報告	1 年目のまとめとしての研究報告を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究テーマに沿った標準的なテキストや応用的な先行文献について、問題意識、分析方法、結果（発見と含蓄）についてレジュメにする。また、修士論文に向けた自らの問題意識と分析方法についての研究ノートの作成を行う。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

平常点 100 %。発表とその準備、Term Paper（必須とする場合のみ）の総合評価（文献サーベイの適性、先行研究への理解、該当分野の分析方法の応用力、自らの問題意識と分析方法の適切性）とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 経済地理学、都市・地域経済学、空間情報科学

<主要研究業績>

①共著（2015）『都市空間と産業集積の経済地理分析』日本評論社

②共著（2012）『産業立地と地域経済』放送大学教育振興会

③単著（2007）『立地戦略と空間的分業』古今書院

【Outline (in English)】

(Course outline)

Students will acquire applied knowledge about writing master's theses and further prepare for thesis writing.

(Learning Objectives)

Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.

(Learning activities outside of classroom)

Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master's thesis.

(Grading Criteria /Policy)

The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student's own problem awareness and analytical methods.

ECN601C1-1

経済学演習 I A

鈴木 豊

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆についての基本的な知識を習得し、論文作成の準備を行う。

【到達目標】

基礎文献の輪読・報告を通じ、問題意識を醸成するとともに、分析手法を身につける。また、論文のサーチの方法、論文作法やプレゼンの方法についても習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

主に演習方式とする。研究テーマに関連した基礎知識の習得のために標準的なテキストを輪読する、研究テーマにおける代表的な研究論文を輪読する、または、実証分析の習得のための実習などが考えられる。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	論文について	論文とは何か、問題意識の持ち方、文献の探し方
第 2 回	問題意識の醸成	検索した文献などを通じて問題意識を醸成する
第 3 回	基礎知識の習得①	問題意識に関連する基礎知識をテキストや基本文献の輪読等で習得する
第 4 回	基礎知識の習得②	テキスト、基本文献の輪読
第 5 回	基礎知識の習得③	テキスト、基本文献の輪読
第 6 回	基礎知識の習得④	テキスト、基本文献の輪読
第 7 回	基礎知識の習得⑤	テキスト、基本文献の輪読
第 8 回	基礎知識の習得⑥	テキスト、基本文献の輪読
第 9 回	基礎知識の習得⑦	テキスト、基本文献の輪読
第 10 回	基礎知識の習得⑧	テキスト、基本文献の輪読
第 11 回	基本文献における問題意識や分析方法のまとめ	サーベイした基本文献から学んだことをまとめる
第 12 回	基本的な研究報告①	サーベイした基本文献に基づき、自らの問題意識と分析方法で研究報告を行う
第 13 回	基本的な研究報告②	研究報告のつづき
第 14 回	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

標準的なテキストや基本文献について、問題意識、分析方法、結果（発見と含蓄）についてレジュメにする。また、修士論文に向けた自らの問題意識と分析方法についての研究ノートの作成を行う。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

平常点 100 %。発表とその準備、Term Paper（必須とする場合のみ）の総合評価（文献サーベイの適性、先行研究への理解、該当分野の分析方法の応用力、自らの問題意識と分析方法の適切性）とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/15/0001407/profile.html>

を参照のこと。

【Outline (in English)】

(Course outline)

Students will acquire applied knowledge about writing master's theses and further prepare for thesis writing.

(Learning Objectives)

Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.

(Learning activities outside of classroom)

Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master's thesis.

(Grading Criteria / Policy)

The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student's own problem awareness and analytical methods.

ECN601C1-2

経済学演習 I B

鈴木 豊

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆についての応用的な知識を習得し、論文作成の準備をさらに進める。

【到達目標】

応用文献の輪読・報告を通じ、自身の研究テーマを絞り込む。また、分析手法についての理解をさらに深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

主に演習方式とする。研究テーマに関連した応用知識の習得のために標準的なテキストを輪読する、研究テーマにおける代表的な研究論文を輪読する、または、実証分析の習得のための実習などが考えられる。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	研究テーマの確認	春学期、夏期休暇中に勉強したテキストや先行研究の基づき、研究テーマを確認する
第 2 回	先行研究の輪読①	研究テーマに添った先行研究（応用研究）を輪読する
第 3 回	先行研究の輪読②	先行研究（応用研究）の輪読
第 4 回	先行研究の輪読③	先行研究（応用研究）の輪読
第 5 回	先行研究の輪読④	先行研究（応用研究）の輪読
第 6 回	先行研究の輪読⑤	先行研究（応用研究）の輪読
第 7 回	先行研究の輪読⑥	先行研究（応用研究）の輪読
第 8 回	先行研究の輪読⑦	先行研究（応用研究）の輪読
第 9 回	先行研究の輪読⑧	先行研究（応用研究）の輪読
第 10 回	先行研究の輪読⑨	先行研究（応用研究）の輪読
第 11 回	先行研究における分析方法、結果のまとめ	先行研究から学んだ分析方法や結果をまとめる
第 12 回	応用的な研究報告①	サーベイした先行研究に基づき、春学期より進んだ応用的な研究報告を行う
第 13 回	応用的な研究報告②	研究報告のつづき
第 14 回	最終報告	1 年目のまとめとしての研究報告を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究テーマに沿った標準的なテキストや応用的な先行文献について、問題意識、分析方法、結果（発見と含蓄）についてレジュメにする。また、修士論文に向けた自らの問題意識と分析方法についての研究ノートの作成を行う。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

平常点 100 %。発表とその準備、Term Paper（必須とする場合のみ）の総合評価（文献サーベイの適性、先行研究への理解、該当分野の分析方法の応用力、自らの問題意識と分析方法の適切性）とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/15/0001407/profile.html>

を参照のこと。

【Outline (in English)】

(Course outline)

Students will acquire applied knowledge about writing master's theses and further prepare for thesis writing.

(Learning Objectives)

Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.

(Learning activities outside of classroom)

Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master's thesis.

(Grading Criteria /Policy)

The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student's own problem awareness and analytical methods.

ECN601C1-1

経済学演習 I A

宮崎 憲治

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆についての基本的な知識を習得し、論文作成の準備を行う。

【到達目標】

基礎文献の輪読・報告を通じ、問題意識を醸成するとともに、分析手法を身につける。また、論文のサーチの方法、論文作法やプレゼンの方法についても習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

主に演習方式とする。研究テーマに関連した基礎知識の習得のために標準的なテキストを輪読する、研究テーマにおける代表的な研究論文を輪読する、または、実証分析の習得のための実習などが考えられる。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	論文について	論文とは何か、問題意識の持ち方、文献の探し方
第 2 回	問題意識の醸成	検索した文献などを通じて問題意識を醸成する
第 3 回	基礎知識の習得①	問題意識に関連する基礎知識をテキストや基本文献の輪読等で習得する
第 4 回	基礎知識の習得②	テキスト、基本文献の輪読
第 5 回	基礎知識の習得③	テキスト、基本文献の輪読
第 6 回	基礎知識の習得④	テキスト、基本文献の輪読
第 7 回	基礎知識の習得⑤	テキスト、基本文献の輪読
第 8 回	基礎知識の習得⑥	テキスト、基本文献の輪読
第 9 回	基礎知識の習得⑦	テキスト、基本文献の輪読
第 10 回	基礎知識の習得⑧	テキスト、基本文献の輪読
第 11 回	基本文献における問題意識や分析方法のまとめ	サーベイした基本文献から学んだことをまとめる
第 12 回	基本的な研究報告①	サーベイした基本文献に基づき、自らの問題意識と分析方法で研究報告を行う
第 13 回	基本的な研究報告②	研究報告のつづき
第 14 回	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

標準的なテキストや基本文献について、問題意識、分析方法、結果（発見と含蓄）についてレジュメにする。また、修士論文に向けた自らの問題意識と分析方法についての研究ノートの作成を行う。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

平常点 100 %。発表とその準備、Term Paper（必須とする場合のみ）の総合評価（文献サーベイの適性、先行研究への理解、該当分野の分析方法の応用力、自らの問題意識と分析方法の適切性）とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

マクロ経済学・計量経済学

<研究テーマ>

マクロ経済学・計量経済学

<主要研究業績>

Gunji, H., and K. Miyazaki (2011), Estimates of average marginal tax rates on factor incomes in Japan, Journal of the Japanese and International Economies, Vol. 25 (2), pp. 81-106. (査読有 doi:10.1016/j.jjie.2011.02.003)

【Outline (in English)】

(Course outline)

Students will acquire applied knowledge about writing master's theses and further prepare for thesis writing.

(Learning Objectives)

Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.

(Learning activities outside of classroom)

Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master's thesis.

(Grading Criteria /Policy)

The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student's own problem awareness and analytical methods.

ECN601C1-2

経済学演習 I B

宮崎 憲治

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆についての応用的な知識を習得し、論文作成の準備をさらに進める。

【到達目標】

応用文献の輪読・報告を通じ、自身の研究テーマを絞り込む。また、分析手法についての理解をさらに深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

主に演習方式とする。研究テーマに関連した応用知識の習得のために標準的なテキストを輪読する、研究テーマにおける代表的な研究論文を輪読する、または、実証分析の習得のための実習などが考えられる。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	研究テーマの確認	春学期、夏期休暇中に勉強したテキストや先行研究のに基づき、研究テーマを確認する
第 2 回	先行研究の輪読①	研究テーマに添った先行研究（応用研究）を輪読する
第 3 回	先行研究の輪読②	先行研究（応用研究）の輪読
第 4 回	先行研究の輪読③	先行研究（応用研究）の輪読
第 5 回	先行研究の輪読④	先行研究（応用研究）の輪読
第 6 回	先行研究の輪読⑤	先行研究（応用研究）の輪読
第 7 回	先行研究の輪読⑥	先行研究（応用研究）の輪読
第 8 回	先行研究の輪読⑦	先行研究（応用研究）の輪読
第 9 回	先行研究の輪読⑧	先行研究（応用研究）の輪読
第 10 回	先行研究の輪読⑨	先行研究（応用研究）の輪読
第 11 回	先行研究における分析方法、結果のまとめ	先行研究から学んだ分析方法や結果をまとめる
第 12 回	応用的な研究報告①	サーベイした先行研究に基づき、春学期より進んだ応用的な研究報告を行う
第 13 回	応用的な研究報告②	研究報告のつづき
第 14 回	最終報告	1 年目のまとめとしての研究報告を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究テーマに沿った標準的なテキストや応用的な先行文献について、問題意識、分析方法、結果（発見と含蓄）についてレジュメにする。また、修士論文に向けた自らの問題意識と分析方法についての研究ノートの作成を行う。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

平常点 100 %。発表とその準備、Term Paper（必須とする場合のみ）の総合評価（文献サーベイの適性、先行研究への理解、該当分野の分析方法の応用力、自らの問題意識と分析方法の適切性）とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

マクロ経済学・計量経済学

<研究テーマ>

マクロ経済学・計量経済学

<主要研究業績>

Gunji, H., and K. Miyazaki (2011), Estimates of average marginal tax rates on factor incomes in Japan, Journal of the Japanese and International Economies, Vol. 25 (2), pp. 81-106. (査読有 doi:10.1016/j.jjie.2011.02.003)

【Outline (in English)】

(Course outline)

Students will acquire applied knowledge about writing master's theses and further prepare for thesis writing.

(Learning Objectives)

Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.

(Learning activities outside of classroom)

Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master's thesis.

(Grading Criteria /Policy)

The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student's own problem awareness and analytical methods.

ECN601C1-1

経済学演習 I A

馬 欣欣

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆についての基本的な知識を習得し、論文作成の準備を行う。

【到達目標】

基礎文献の輪読・報告を通じ、問題意識を醸成するとともに、分析手法を身につける。また、論文のサーチの方法、論文作法やプレゼンの方法についても習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

主に演習方式とする。研究テーマに関連した基礎知識の習得のために標準的なテキストを輪読する、研究テーマにおける代表的な研究論文を輪読する、または、実証分析の習得のための実習などが考えられる。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	論文について	論文とは何か、問題意識の持ち方、文献の探し方
第 2 回	問題意識の醸成	検索した文献などを通じて問題意識を醸成する
第 3 回	基礎知識の習得①	問題意識に関連する基礎知識をテキストや基本文献の輪読等で習得する
第 4 回	基礎知識の習得②	テキスト、基本文献の輪読
第 5 回	基礎知識の習得③	テキスト、基本文献の輪読
第 6 回	基礎知識の習得④	テキスト、基本文献の輪読
第 7 回	基礎知識の習得⑤	テキスト、基本文献の輪読
第 8 回	基礎知識の習得⑥	テキスト、基本文献の輪読
第 9 回	基礎知識の習得⑦	テキスト、基本文献の輪読
第 10 回	基礎知識の習得⑧	テキスト、基本文献の輪読
第 11 回	基本文献における問題意識や分析方法のまとめ	サーベイした基本文献から学んだことをまとめる
第 12 回	基本的な研究報告①	サーベイした基本文献に基づき、自らの問題意識と分析方法で研究報告を行う
第 13 回	基本的な研究報告②	研究報告のつづき
第 14 回	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

標準的なテキストや基本文献について、問題意識、分析方法、結果（発見と含蓄）についてレジュメにする。また、修士論文に向けた自らの問題意識と分析方法についての研究ノートの作成を行う。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

平常点 100 %。発表とその準備、Term Paper（必須とする場合のみ）の総合評価（文献サーベイの適性、先行研究への理解、該当分野の分析方法の応用力、自らの問題意識と分析方法の適切性）とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

中国経済論、労働経済学、開発経済学

【研究テーマ】

1. 中国社会保障改革とその経済効果
2. 技術進歩が中国労働市場に与える影響
3. 経済成長、体制移行と経済格差

【主要研究業績】

- 1.Ma, X. and Tang, C. (Eds.) (2022) Growth Mechanism and Sustainable Development of Chinese Economy: Comparison with Japanese Experiences. Palgrave Macmillan. ISBN: 978-981-19-3857-3
- 2.Ma, X. (2022) Public Medical Insurance Reform in China. Springer. ISBN: 978-981-16-7790-8
- 3.Ma, X. (Ed.) (2021) Employment, Retirement and Lifestyle in Aging East Asia. Palgrave Macmillan. ISBN:978-981-16-0553-6
- 4.Ma, X. (2022) "Internet Usage and Income Gaps between the Self-employed Individuals and Employees: Evidence from China," Review of Development Economics. <https://doi.org/10.1111/rode.12969>
- 5.Ma, X. (2022) "Parenthood and the Gender Wage Gap in Urban China," Journal of Asian Economics, 80:101479. <https://doi.org/10.1016/j.asieco.2022.101479>
- 6.Ma, X. (2018) "Labor Market Segmentation by Industry Sectors and Wage Gaps between Migrants and Local Urban Residents in Urban China" China Economic Review, 47, 96 – 115. <https://doi.org/10.1016/j.chieco.2017.11.007>

【Outline (in English)】

(Course outline)

Students will acquire applied knowledge about writing master's theses and further prepare for thesis writing.

(Learning Objectives)

Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.

(Learning activities outside of classroom)

Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master's thesis.

(Grading Criteria /Policy)

The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student's own problem awareness and analytical methods.

ECN601C1-2

経済学演習 I B

馬 欣欣

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆についての応用的な知識を習得し、論文作成の準備をさらに進める。

【到達目標】

応用文献の輪読・報告を通じ、自身の研究テーマを絞り込む。また、分析手法についての理解をさらに深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

主に演習方式とする。研究テーマに関連した応用知識の習得のために標準的なテキストを輪読する、研究テーマにおける代表的な研究論文を輪読する、または、実証分析の習得のための実習などが考えられる。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	研究テーマの確認	春学期、夏期休暇中に勉強したテキストや先行研究のに基づき、研究テーマを確認する
第 2 回	先行研究の輪読①	研究テーマに添った先行研究（応用研究）を輪読する
第 3 回	先行研究の輪読②	先行研究（応用研究）の輪読
第 4 回	先行研究の輪読③	先行研究（応用研究）の輪読
第 5 回	先行研究の輪読④	先行研究（応用研究）の輪読
第 6 回	先行研究の輪読⑤	先行研究（応用研究）の輪読
第 7 回	先行研究の輪読⑥	先行研究（応用研究）の輪読
第 8 回	先行研究の輪読⑦	先行研究（応用研究）の輪読
第 9 回	先行研究の輪読⑧	先行研究（応用研究）の輪読
第 10 回	先行研究の輪読⑨	先行研究（応用研究）の輪読
第 11 回	先行研究における分析方法、結果のまとめ	先行研究から学んだ分析方法や結果をまとめる
第 12 回	応用的な研究報告①	サーベイした先行研究に基づき、春学期より進んだ応用的な研究報告を行う
第 13 回	応用的な研究報告②	研究報告のつづき
第 14 回	最終報告	1 年目のまとめとしての研究報告を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究テーマに沿った標準的なテキストや応用的な先行文献について、問題意識、分析方法、結果（発見と含蓄）についてレジュメにする。また、修士論文に向けた自らの問題意識と分析方法についての研究ノートの作成を行う。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

平常点 100 %。発表とその準備、Term Paper（必須とする場合のみ）の総合評価（文献サーベイの適性、先行研究への理解、該当分野の分析方法の応用力、自らの問題意識と分析方法の適切性）とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

中国経済論、労働経済学、開発経済学

【研究テーマ】

1. 中国社会保障改革とその経済効果
2. 技術進歩が中国労働市場に与える影響
3. 経済成長、体制移行と経済格差

【主要研究業績】

- 1.Ma, X. and Tang, C. (Eds.) (2022) Growth Mechanism and Sustainable Development of Chinese Economy: Comparison with Japanese Experiences. Palgrave Macmillan. ISBN: 978-981-19-3857-3
- 2.Ma, X. (2022) Public Medical Insurance Reform in China. Springer. ISBN: 978-981-16-7790-8
- 3.Ma, X. (Ed.) (2021) Employment, Retirement and Lifestyle in Aging East Asia. Palgrave Macmillan. ISBN:978-981-16-0553-6
- 4.Ma, X. (2022) "Internet Usage and Income Gaps between the Self-employed Individuals and Employees: Evidence from China," Review of Development Economics. <https://doi.org/10.1111/rode.12969>
- 5.Ma, X. (2022) "Parenthood and the Gender Wage Gap in Urban China," Journal of Asian Economics, 80:101479. <https://doi.org/10.1016/j.asieco.2022.101479>
- 6.Ma, X. (2018) "Labor Market Segmentation by Industry Sectors and Wage Gaps between Migrants and Local Urban Residents in Urban China" China Economic Review, 47, 96 – 115. <https://doi.org/10.1016/j.chieco.2017.11.007>

【Outline (in English)】

(Course outline)

Students will acquire applied knowledge about writing master's theses and further prepare for thesis writing.

(Learning Objectives)

Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.

(Learning activities outside of classroom)

Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master's thesis.

(Grading Criteria /Policy)

The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student's own problem awareness and analytical methods.

ECN601C1-1

経済学演習 I A

松波 淳也

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆についての基本的な知識を習得し、論文作成の準備を行う。

【到達目標】

基礎文献の輪読・報告を通じ、問題意識を醸成するとともに、分析手法を身につける。また、論文のサーチの方法、論文作法やプレゼンの方法についても習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

主に演習方式とする。研究テーマに関連した基礎知識の習得のために標準的なテキストを輪読する、研究テーマにおける代表的な研究論文を輪読する、または、実証分析の習得のための実習などが考えられる。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	論文について	論文とは何か、問題意識の持ち方、文献の探し方
第 2 回	問題意識の醸成	検索した文献などを通じて問題意識を醸成する
第 3 回	基礎知識の習得①	問題意識に関連する基礎知識をテキストや基本文献の輪読等で習得する
第 4 回	基礎知識の習得②	テキスト、基本文献の輪読
第 5 回	基礎知識の習得③	テキスト、基本文献の輪読
第 6 回	基礎知識の習得④	テキスト、基本文献の輪読
第 7 回	基礎知識の習得⑤	テキスト、基本文献の輪読
第 8 回	基礎知識の習得⑥	テキスト、基本文献の輪読
第 9 回	基礎知識の習得⑦	テキスト、基本文献の輪読
第 10 回	基礎知識の習得⑧	テキスト、基本文献の輪読
第 11 回	基本文献における問題意識や分析方法のまとめ	サーベイした基本文献から学んだことをまとめる
第 12 回	基本的な研究報告①	サーベイした基本文献に基づき、自らの問題意識と分析方法で研究報告を行う
第 13 回	基本的な研究報告②	研究報告のつづき
第 14 回	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

標準的なテキストや基本文献について、問題意識、分析方法、結果（発見と含蓄）についてレジュメにする。また、修士論文に向けた自らの問題意識と分析方法についての研究ノートの作成を行う。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

平常点 100 %。発表とその準備、Term Paper（必須とする場合のみ）の総合評価（文献サーベイの適性、先行研究への理解、該当分野の分析方法の応用力、自らの問題意識と分析方法の適切性）とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

環境経済学

<https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/15/0001408/profile.html>

【Outline (in English)】

(Course outline)

Students will acquire applied knowledge about writing master's theses and further prepare for thesis writing.

(Learning Objectives)

Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.

(Learning activities outside of classroom)

Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master's thesis.

(Grading Criteria / Policy)

The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student's own problem awareness and analytical methods.

ECN601C1-2

経済学演習 I B

松波 淳也

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆についての応用的な知識を習得し、論文作成の準備をさらに進める。

【到達目標】

応用文献の輪読・報告を通じ、自身の研究テーマを絞り込む。また、分析手法についての理解をさらに深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

主に演習方式とする。研究テーマに関連した応用知識の習得のために標準的なテキストを輪読する、研究テーマにおける代表的な研究論文を輪読する、または、実証分析の習得のための実習などが考えられる。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	研究テーマの確認	春学期、夏期休暇中に勉強したテキストや先行研究の基づき、研究テーマを確認する
第 2 回	先行研究の輪読①	研究テーマに添った先行研究（応用研究）を輪読する
第 3 回	先行研究の輪読②	先行研究（応用研究）の輪読
第 4 回	先行研究の輪読③	先行研究（応用研究）の輪読
第 5 回	先行研究の輪読④	先行研究（応用研究）の輪読
第 6 回	先行研究の輪読⑤	先行研究（応用研究）の輪読
第 7 回	先行研究の輪読⑥	先行研究（応用研究）の輪読
第 8 回	先行研究の輪読⑦	先行研究（応用研究）の輪読
第 9 回	先行研究の輪読⑧	先行研究（応用研究）の輪読
第 10 回	先行研究の輪読⑨	先行研究（応用研究）の輪読
第 11 回	先行研究における分析方法、結果のまとめ	先行研究から学んだ分析方法や結果をまとめる
第 12 回	応用的な研究報告①	サーベイした先行研究に基づき、春学期より進んだ応用的な研究報告を行う
第 13 回	応用的な研究報告②	研究報告のつづき
第 14 回	最終報告	1 年目のまとめとしての研究報告を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究テーマに沿った標準的なテキストや応用的な先行文献について、問題意識、分析方法、結果（発見と含蓄）についてレジュメにする。また、修士論文に向けた自らの問題意識と分析方法についての研究ノートの作成を行う。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

平常点 100 %。発表とその準備、Term Paper（必須とする場合のみ）の総合評価（文献サーベイの適性、先行研究への理解、該当分野の分析方法の応用力、自らの問題意識と分析方法の適切性）とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

環境経済学

<https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/15/0001408/profile.html>

【Outline (in English)】

(Course outline)

Students will acquire applied knowledge about writing master's theses and further prepare for thesis writing.

(Learning Objectives)

Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.

(Learning activities outside of classroom)

Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master's thesis.

(Grading Criteria / Policy)

The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student's own problem awareness and analytical methods.

ECN601C1-1

経済学演習 I A

菅 幹雄

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆についての基本的な知識を習得し、論文作成の準備を行う。

【到達目標】

基礎文献の輪読・報告を通じ、問題意識を醸成するとともに、分析手法を身につける。また、論文のサーチの方法、論文作法やプレゼンの方法についても習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

主に演習方式とする。研究テーマに関連した基礎知識の習得のために標準的なテキストを輪読する、研究テーマにおける代表的な研究論文を輪読する、または、実証分析の習得のための実習などが考えられる。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	論文について	論文とは何か、問題意識の持ち方、文献の探し方
第 2 回	問題意識の醸成	検索した文献などを通じて問題意識を醸成する
第 3 回	基礎知識の習得①	問題意識に関連する基礎知識をテキストや基本文献の輪読等で習得する
第 4 回	基礎知識の習得②	テキスト、基本文献の輪読
第 5 回	基礎知識の習得③	テキスト、基本文献の輪読
第 6 回	基礎知識の習得④	テキスト、基本文献の輪読
第 7 回	基礎知識の習得⑤	テキスト、基本文献の輪読
第 8 回	基礎知識の習得⑥	テキスト、基本文献の輪読
第 9 回	基礎知識の習得⑦	テキスト、基本文献の輪読
第 10 回	基礎知識の習得⑧	テキスト、基本文献の輪読
第 11 回	基本文献における問題意識や分析方法のまとめ	サーベイした基本文献から学んだことをまとめる
第 12 回	基本的な研究報告①	サーベイした基本文献に基づき、自らの問題意識と分析方法で研究報告を行う
第 13 回	基本的な研究報告②	研究報告のつづき
第 14 回	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

標準的なテキストや基本文献について、問題意識、分析方法、結果（発見と含蓄）についてレジュメにする。また、修士論文に向けた自らの問題意識と分析方法についての研究ノートの作成を行う。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

平常点 100 %。発表とその準備、Term Paper（必須とする場合のみ）の総合評価（文献サーベイの適性、先行研究への理解、該当分野の分析方法の応用力、自らの問題意識と分析方法の適切性）とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/26/0002585/profile.html>

【Outline (in English)】

(Course outline)

Students will acquire applied knowledge about writing master's theses and further prepare for thesis writing.

(Learning Objectives)

Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.

(Learning activities outside of classroom)

Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master's thesis.

(Grading Criteria /Policy)

The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student's own problem awareness and analytical methods.

ECN601C1-2

経済学演習 I B

菅 幹雄

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆についての応用的な知識を習得し、論文作成の準備をさらに進める。

【到達目標】

応用文献の輪読・報告を通じ、自身の研究テーマを絞り込む。また、分析手法についての理解をさらに深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

主に演習方式とする。研究テーマに関連した応用知識の習得のために標準的なテキストを輪読する、研究テーマにおける代表的な研究論文を輪読する、または、実証分析の習得のための実習などが考えられる。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	研究テーマの確認	春学期、夏期休暇中に勉強したテキストや先行研究の基づき、研究テーマを確認する
第 2 回	先行研究の輪読①	研究テーマに添った先行研究（応用研究）を輪読する
第 3 回	先行研究の輪読②	先行研究（応用研究）の輪読
第 4 回	先行研究の輪読③	先行研究（応用研究）の輪読
第 5 回	先行研究の輪読④	先行研究（応用研究）の輪読
第 6 回	先行研究の輪読⑤	先行研究（応用研究）の輪読
第 7 回	先行研究の輪読⑥	先行研究（応用研究）の輪読
第 8 回	先行研究の輪読⑦	先行研究（応用研究）の輪読
第 9 回	先行研究の輪読⑧	先行研究（応用研究）の輪読
第 10 回	先行研究の輪読⑨	先行研究（応用研究）の輪読
第 11 回	先行研究における分析方法、結果のまとめ	先行研究から学んだ分析方法や結果をまとめる
第 12 回	応用的な研究報告①	サーベイした先行研究に基づき、春学期より進んだ応用的な研究報告を行う
第 13 回	応用的な研究報告②	研究報告のつづき
第 14 回	最終報告	1 年目のまとめとしての研究報告を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究テーマに沿った標準的なテキストや応用的な先行文献について、問題意識、分析方法、結果（発見と含蓄）についてレジュメにする。また、修士論文に向けた自らの問題意識と分析方法についての研究ノートの作成を行う。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

平常点 100 %。発表とその準備、Term Paper（必須とする場合のみ）の総合評価（文献サーベイの適性、先行研究への理解、該当分野の分析方法の応用力、自らの問題意識と分析方法の適切性）とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/26/0002585/profile.html>

【Outline (in English)】

(Course outline)

Students will acquire applied knowledge about writing master's theses and further prepare for thesis writing.

(Learning Objectives)

Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.

(Learning activities outside of classroom)

Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master's thesis.

(Grading Criteria / Policy)

The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student's own problem awareness and analytical methods.

ECN601C1-1

経済学演習 I A

胥 鵬

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆についての基本的な知識を習得し、論文作成の準備を行う。

【到達目標】

基礎文献の輪読・報告を通じ、問題意識を醸成するとともに、分析手法を身につける。また、論文のサーチの方法、論文作法やプレゼンの方法についても習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

主に演習方式とする。研究テーマに関連した基礎知識の習得のために標準的なテキストを輪読する、研究テーマにおける代表的な研究論文を輪読する、または、実証分析の習得のための実習などが考えられる。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	論文について	論文とは何か、問題意識の持ち方、文献の探し方
第 2 回	問題意識の醸成	検索した文献などを通じて問題意識を醸成する
第 3 回	基礎知識の習得①	問題意識に関連する基礎知識をテキストや基本文献の輪読等で習得する
第 4 回	基礎知識の習得②	テキスト、基本文献の輪読
第 5 回	基礎知識の習得③	テキスト、基本文献の輪読
第 6 回	基礎知識の習得④	テキスト、基本文献の輪読
第 7 回	基礎知識の習得⑤	テキスト、基本文献の輪読
第 8 回	基礎知識の習得⑥	テキスト、基本文献の輪読
第 9 回	基礎知識の習得⑦	テキスト、基本文献の輪読
第 10 回	基礎知識の習得⑧	テキスト、基本文献の輪読
第 11 回	基本文献における問題意識や分析方法のまとめ	サーベイした基本文献から学んだことをまとめる
第 12 回	基本的な研究報告①	サーベイした基本文献に基づき、自らの問題意識と分析方法で研究報告を行う
第 13 回	基本的な研究報告②	研究報告のつづき
第 14 回	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

標準的なテキストや基本文献について、問題意識、分析方法、結果（発見と含蓄）についてレジュメにする。また、修士論文に向けた自らの問題意識と分析方法についての研究ノートの作成を行う。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

平常点 100 %。発表とその準備、Term Paper（必須とする場合のみ）の総合評価（文献サーベイの適性、先行研究への理解、該当分野の分析方法の応用力、自らの問題意識と分析方法の適切性）とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞ 企業金融（コーポレート・ファイナンス）、企業統治（コーポレート・ガバナンス）、法と経済学、不動産価格、中国経済
 ＜研究テーマ＞ MBO、敵対的買収案と株式議決権行使、ホットマネー（熱銭）と中国の不動産価格

＜主要研究業績＞

『日本のコーポレートファイナンス—サーバイデータによる分析』花枝英樹、芹田敏夫、胥鵬、佐々木隆文、鈴木健嗣、佐々木寿記 (6,7 章) 白桃書房 2020 年

Strategic short selling around index additions: Evidence from the Nikkei 225 Index, Shiomi, Naoya, Takahashi, Hidetomo, Xu, Peng International Review of Finance 2020 年

Trading activities of short-sellers around index deletions: Evidence from the Nikkei 225 Hidetomo Takahashi and Peng Xu Journal of Financial Markets 27 132 - 146 2016

【Outline (in English)】

(Course outline)

Students will acquire applied knowledge about writing master's theses and further prepare for thesis writing.

(Learning Objectives)

Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.

(Learning activities outside of classroom)

Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master's thesis.

(Grading Criteria /Policy)

The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student's own problem awareness and analytical methods.

ECN601C1-2

経済学演習 I B

胥 鵬

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆についての応用的な知識を習得し、論文作成の準備をさらに進める。

【到達目標】

応用文献の輪読・報告を通じ、自身の研究テーマを絞り込む。また、分析手法についての理解をさらに深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

主に演習方式とする。研究テーマに関連した応用知識の習得のために標準的なテキストを輪読する、研究テーマにおける代表的な研究論文を輪読する、または、実証分析の習得のための実習などが考えられる。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	研究テーマの確認	春学期、夏期休暇中に勉強したテキストや先行研究のに基づき、研究テーマを確認する
第 2 回	先行研究の輪読①	研究テーマに添った先行研究（応用研究）を輪読する
第 3 回	先行研究の輪読②	先行研究（応用研究）の輪読
第 4 回	先行研究の輪読③	先行研究（応用研究）の輪読
第 5 回	先行研究の輪読④	先行研究（応用研究）の輪読
第 6 回	先行研究の輪読⑤	先行研究（応用研究）の輪読
第 7 回	先行研究の輪読⑥	先行研究（応用研究）の輪読
第 8 回	先行研究の輪読⑦	先行研究（応用研究）の輪読
第 9 回	先行研究の輪読⑧	先行研究（応用研究）の輪読
第 10 回	先行研究の輪読⑨	先行研究（応用研究）の輪読
第 11 回	先行研究における分析方法、結果のまとめ	先行研究から学んだ分析方法や結果をまとめる
第 12 回	応用的な研究報告①	サーベイした先行研究に基づき、春学期より進んだ応用的な研究報告を行う
第 13 回	応用的な研究報告②	研究報告のつづき
第 14 回	最終報告	1 年目のまとめとしての研究報告を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究テーマに沿った標準的なテキストや応用的な先行文献について、問題意識、分析方法、結果（発見と含蓄）についてレジュメにする。また、修士論文に向けた自らの問題意識と分析方法についての研究ノートの作成を行う。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

平常点 100 %。発表とその準備、Term Paper（必須とする場合のみ）の総合評価（文献サーベイの適性、先行研究への理解、該当分野の分析方法の応用力、自らの問題意識と分析方法の適切性）とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞ 企業金融（コーポレート・ファイナンス）、企業統治（コーポレート・ガバナンス）、法と経済学、不動産価格、中国経済
 ＜研究テーマ＞ MBO、敵対的買収案と株式議決権行使、ホットマネー（熱銭）と中国の不動産価格

＜主要研究業績＞

『日本のコーポレートファイナンス—サーベイデータによる分析』花枝英樹, 芹田敏夫, 胥鵬, 佐々木隆文, 鈴木健嗣, 佐々木寿記 (6,7 章) 白桃書房 2020 年

Strategic short selling around index additions: Evidence from the Nikkei 225 Index, Shiomi, Naoya, Takahashi, Hidetomo, Xu, Peng International Review of Finance 2020 年

Trading activities of short-sellers around index deletions: Evidence from the Nikkei 225 Hidetomo Takahashi and Peng Xu Journal of Financial Markets 27 132 - 146 2016

【Outline (in English)】

(Course outline)

Students will acquire applied knowledge about writing master's theses and further prepare for thesis writing.

(Learning Objectives)

Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.

(Learning activities outside of classroom)

Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master's thesis.

(Grading Criteria /Policy)

The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student's own problem awareness and analytical methods.

ECN601C1-1

経済学演習 I A

酒井 正

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆についての基本的な知識を習得し、論文作成の準備を行う。

【到達目標】

基礎文献の輪読・報告を通じ、問題意識を醸成するとともに、分析手法を身につける。また、論文のサーチの方法、論文作法やプレゼンの方法についても習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

主に演習方式とする。研究テーマに関連した基礎知識の習得のために標準的なテキストを輪読する、研究テーマにおける代表的な研究論文を輪読する、または、実証分析の習得のための実習などが考えられる。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	論文について	論文とは何か、問題意識の持ち方、文献の探し方
第 2 回	問題意識の醸成	検索した文献などを通じて問題意識を醸成する
第 3 回	基礎知識の習得①	問題意識に関連する基礎知識をテキストや基本文献の輪読等で習得する
第 4 回	基礎知識の習得②	テキスト、基本文献の輪読
第 5 回	基礎知識の習得③	テキスト、基本文献の輪読
第 6 回	基礎知識の習得④	テキスト、基本文献の輪読
第 7 回	基礎知識の習得⑤	テキスト、基本文献の輪読
第 8 回	基礎知識の習得⑥	テキスト、基本文献の輪読
第 9 回	基礎知識の習得⑦	テキスト、基本文献の輪読
第 10 回	基礎知識の習得⑧	テキスト、基本文献の輪読
第 11 回	基本文献における問題意識や分析方法のまとめ	サーベイした基本文献から学んだことをまとめる
第 12 回	基本的な研究報告①	サーベイした基本文献に基づき、自らの問題意識と分析方法で研究報告を行う
第 13 回	基本的な研究報告②	研究報告のつづき
第 14 回	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

標準的なテキストや基本文献について、問題意識、分析方法、結果（発見と含蓄）についてレジュメにする。また、修士論文に向けた自らの問題意識と分析方法についての研究ノートの作成を行う。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

平常点 100 %。発表とその準備、Term Paper（必須とする場合のみ）の総合評価（文献サーベイの適性、先行研究への理解、該当分野の分析方法の応用力、自らの問題意識と分析方法の適切性）とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/32/0003127/profile.html>

【Outline (in English)】

(Course outline)

Students will acquire applied knowledge about writing master's theses and further prepare for thesis writing.

(Learning Objectives)

Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.

(Learning activities outside of classroom)

Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master's thesis.

(Grading Criteria /Policy)

The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student's own problem awareness and analytical methods.

ECN601C1-2

経済学演習 I B

酒井 正

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆についての応用的な知識を習得し、論文作成の準備をさらに進める。

【到達目標】

応用文献の輪読・報告を通じ、自身の研究テーマを絞り込む。また、分析手法についての理解をさらに深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

主に演習方式とする。研究テーマに関連した応用知識の習得のために標準的なテキストを輪読する、研究テーマにおける代表的な研究論文を輪読する、または、実証分析の習得のための実習などが考えられる。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	研究テーマの確認	春学期、夏期休暇中に勉強したテキストや先行研究の基づき、研究テーマを確認する
第 2 回	先行研究の輪読①	研究テーマに添った先行研究（応用研究）を輪読する
第 3 回	先行研究の輪読②	先行研究（応用研究）の輪読
第 4 回	先行研究の輪読③	先行研究（応用研究）の輪読
第 5 回	先行研究の輪読④	先行研究（応用研究）の輪読
第 6 回	先行研究の輪読⑤	先行研究（応用研究）の輪読
第 7 回	先行研究の輪読⑥	先行研究（応用研究）の輪読
第 8 回	先行研究の輪読⑦	先行研究（応用研究）の輪読
第 9 回	先行研究の輪読⑧	先行研究（応用研究）の輪読
第 10 回	先行研究の輪読⑨	先行研究（応用研究）の輪読
第 11 回	先行研究における分析方法、結果のまとめ	先行研究から学んだ分析方法や結果をまとめる
第 12 回	応用的な研究報告①	サーベイした先行研究に基づき、春学期より進んだ応用的な研究報告を行う
第 13 回	応用的な研究報告②	研究報告のつづき
第 14 回	最終報告	1 年目のまとめとしての研究報告を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究テーマに沿った標準的なテキストや応用的な先行文献について、問題意識、分析方法、結果（発見と含蓄）についてレジュメにする。また、修士論文に向けた自らの問題意識と分析方法についての研究ノートの作成を行う。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

平常点 100 %。発表とその準備、Term Paper（必須とする場合のみ）の総合評価（文献サーベイの適性、先行研究への理解、該当分野の分析方法の応用力、自らの問題意識と分析方法の適切性）とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/32/0003127/profile.html>

【Outline (in English)】

(Course outline)

Students will acquire applied knowledge about writing master's theses and further prepare for thesis writing.

(Learning Objectives)

Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.

(Learning activities outside of classroom)

Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master's thesis.

(Grading Criteria /Policy)

The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student's own problem awareness and analytical methods.

ECN602C1-1

経済学演習Ⅱ A

ブー トウン カイ

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆についての高度な知識や分析手法を習得し、修士論文の端緒となる研究報告を行う。個別指導や第1回ワークショップ報告を通じて、修士論文の執筆・改訂を進める。

【到達目標】

研究テーマに関わる文献のサーベイを行うとともに、修士論文全体のアウトラインを設定し、そのうちの一部について第1稿を作成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

主に演習形式とする。先行研究のサーベイや研究結果の報告を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	修士論文について	学位論文としての修士論文
第2回	先行研究と自らの研究を比較検討①	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第3回	先行研究と自らの研究を比較検討②	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第4回	先行研究と自らの研究を比較検討③	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第5回	先行研究と自らの研究を比較検討④	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第6回	先行研究と自らの研究を比較検討⑤	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第7回	修士論文の研究報告①	修士論文にむけた研究報告を行う
第8回	修士論文の研究報告②	修士論文にむけた研究報告を行う
第9回	修士論文の研究報告③	修士論文にむけた研究報告を行う
第10回	ワークショップの準備①	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第11回	ワークショップの準備②	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第12回	ワークショップの反省	修士ワークショップで指摘された論点をまとめる
第13回	研究テーマ、分析方法の再検討	修士ワークショップでの指摘に基づく改善点をまとめる
第14回	まとめ	春学期の成果をまとめ、夏期休暇中の研究予定をまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

先行研究と自らの研究を比較しつつ、問題意識、分析方法、結果（発見と含蓄）についてレジюмеにする。また、修士論文に向けた自らの問題意識と分析方法についての研究ノートの作成。修士論文の執筆。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100%（研究内容や研究の成果を含む）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/101/0010052/profile.html>

【Outline (in English)】

(Course outline)

Students will acquire applied knowledge about writing master's theses and further prepare for thesis writing.

(Learning Objectives)

Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.

(Learning activities outside of classroom)

Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master's thesis.

(Grading Criteria /Policy)

The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student's own problem awareness and analytical methods.

ECN602C1-2

経済学演習Ⅱ B

ブー トウン カイ

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆についてのより高度な知識や分析手法を習得し、修士論文の執筆・改訂をさらに進め、全体を見据えた研究報告を行う。個別指導や第2回ワークショップ報告を通じて、修士論文を完成させる。

【到達目標】

すでに第1稿を作成済の部分についての改訂を進めるとともに、論文の最終調整を行い、学位論文としての修士論文を完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

主に演習形式とする。先行研究のサーベイや研究結果の報告を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	これまでの研究のまとめ	夏期休暇中の研究成果の報告
第2回	修士論文の研究報告①	修士論文にむけた研究報告を行う
第3回	修士論文の研究報告②	修士論文にむけた研究報告を行う
第4回	修士論文の研究報告③	修士論文にむけた研究報告を行う
第5回	修士論文の研究報告④	修士論文にむけた研究報告を行う
第6回	修士論文の研究報告⑤	修士論文にむけた研究報告を行う
第7回	修士論文の研究報告⑥	修士論文にむけた研究報告を行う
第8回	修士論文の研究報告⑦	修士論文にむけた研究報告を行う
第9回	修士論文の研究報告⑧	修士論文にむけた研究報告を行う
第10回	ワークショップの準備①	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第11回	ワークショップの準備②	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第12回	ワークショップの反省	修士ワークショップで指摘された論点をまとめる
第13回	修士論文の仕上げ	修士論文の改善点をまとめて論文を仕上げる
第14回	修士論文最終報告	修士論文提出（前または後）の最終報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自らの研究の成果をレジюмеにまとめ、修士論文を執筆する。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100%（研究内容や研究の成果を含む）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/101/0010052/profile.html>

【Outline (in English)】

(Course outline)

Students will acquire applied knowledge about writing master's theses and further prepare for thesis writing.

(Learning Objectives)

Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.

(Learning activities outside of classroom)

Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master's thesis.

(Grading Criteria /Policy)

The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student's own problem awareness and analytical methods.

ECN602C1-1

経済学演習Ⅱ A

近藤 章夫

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆についての高度な知識や分析手法を習得し、修士論文の端緒となる研究報告を行う。個別指導や第1回ワークショップ報告を通じて、修士論文の執筆・改訂を進める。

【到達目標】

研究テーマに関わる文献のサーベイを行うとともに、修士論文全体のアウトラインを設定し、そのうちの一部について第1稿を作成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

主に演習形式とする。先行研究のサーベイや研究結果の報告を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	修士論文について	学位論文としての修士論文
第2回	先行研究と自らの研究を比較検討①	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第3回	先行研究と自らの研究を比較検討②	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第4回	先行研究と自らの研究を比較検討③	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第5回	先行研究と自らの研究を比較検討④	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第6回	先行研究と自らの研究を比較検討⑤	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第7回	修士論文の研究報告①	修士論文にむけた研究報告を行う
第8回	修士論文の研究報告②	修士論文にむけた研究報告を行う
第9回	修士論文の研究報告③	修士論文にむけた研究報告を行う
第10回	ワークショップの準備①	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第11回	ワークショップの準備②	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第12回	ワークショップの反省	修士ワークショップで指摘された論点をまとめる
第13回	研究テーマ、分析方法の再検討	修士ワークショップでの指摘に基づく改善点をまとめる
第14回	まとめ	春学期の成果をまとめ、夏期休暇中の研究予定をまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

先行研究と自らの研究を比較しつつ、問題意識、分析方法、結果（発見と含蓄）についてレジюмеにする。また、修士論文に向けた自らの問題意識と分析方法についての研究ノートの作成。修士論文の執筆。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100%（研究内容や研究の成果を含む）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 経済地理学、都市・地域経済学、空間情報科学

<主要研究業績>

①共著（2015）『都市空間と産業集積の経済地理分析』日本評論社

②共著（2012）『産業立地と地域経済』放送大学教育振興会

③単著（2007）『立地戦略と空間的分業』古今書院

【Outline (in English)】

(Course outline)

Students will acquire applied knowledge about writing master's theses and further prepare for thesis writing.

(Learning Objectives)

Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.

(Learning activities outside of classroom)

Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master's thesis.

(Grading Criteria /Policy)

The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student's own problem awareness and analytical methods.

ECN602C1-2

経済学演習Ⅱ B

近藤 章夫

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆についてのより高度な知識や分析手法を習得し、修士論文の執筆・改訂をさらに進め、全体を見据えた研究報告を行う。個別指導や第2回ワークショップ報告を通じて、修士論文を完成させる。

【到達目標】

すでに第1稿を作成済の部分についての改訂を進めるとともに、論文の最終調整を行い、学位論文としての修士論文を完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

主に演習形式とする。先行研究のサーベイや研究結果の報告を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	これまでの研究のまとめ	夏期休暇中の研究成果の報告
第2回	修士論文の研究報告①	修士論文にむけた研究報告を行う
第3回	修士論文の研究報告②	修士論文にむけた研究報告を行う
第4回	修士論文の研究報告③	修士論文にむけた研究報告を行う
第5回	修士論文の研究報告④	修士論文にむけた研究報告を行う
第6回	修士論文の研究報告⑤	修士論文にむけた研究報告を行う
第7回	修士論文の研究報告⑥	修士論文にむけた研究報告を行う
第8回	修士論文の研究報告⑦	修士論文にむけた研究報告を行う
第9回	修士論文の研究報告⑧	修士論文にむけた研究報告を行う
第10回	ワークショップの準備①	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第11回	ワークショップの準備②	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第12回	ワークショップの反省	修士ワークショップで指摘された論点をまとめる
第13回	修士論文の仕上げ	修士論文の改善点をまとめて論文を仕上げる
第14回	修士論文最終報告	修士論文提出（前または後）の最終報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自らの研究の成果をレジュメにまとめ、修士論文を執筆する。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100%（研究内容や研究の成果を含む）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 経済地理学、都市・地域経済学、空間情報科学

<主要研究業績>

- ①共著（2015）『都市空間と産業集積の経済地理分析』日本評論社
- ②共著（2012）『産業立地と地域経済』放送大学教育振興会
- ③単著（2007）『立地戦略と空間的分業』古今書院

【Outline (in English)】

(Course outline)

Students will acquire applied knowledge about writing master's theses and further prepare for thesis writing.

(Learning Objectives)

Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.

(Learning activities outside of classroom)

Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master's thesis.

(Grading Criteria /Policy)

The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student's own problem awareness and analytical methods.

ECN602C1-1

経済学演習Ⅱ A

酒井 正

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆についての高度な知識や分析手法を習得し、修士論文の端緒となる研究報告を行う。個別指導や第1回ワークショップ報告を通じて、修士論文の執筆・改訂を進める。

【到達目標】

研究テーマに関わる文献のサーベイを行うとともに、修士論文全体のアウトラインを設定し、そのうちの一部について第1稿を作成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

主に演習形式とする。先行研究のサーベイや研究結果の報告を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	修士論文について	学位論文としての修士論文
第2回	先行研究と自らの研究を比較検討①	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第3回	先行研究と自らの研究を比較検討②	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第4回	先行研究と自らの研究を比較検討③	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第5回	先行研究と自らの研究を比較検討④	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第6回	先行研究と自らの研究を比較検討⑤	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第7回	修士論文の研究報告①	修士論文にむけた研究報告を行う
第8回	修士論文の研究報告②	修士論文にむけた研究報告を行う
第9回	修士論文の研究報告③	修士論文にむけた研究報告を行う
第10回	ワークショップの準備①	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第11回	ワークショップの準備②	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第12回	ワークショップの反省	修士ワークショップで指摘された論点をまとめる
第13回	研究テーマ、分析方法の再検討	修士ワークショップでの指摘に基づく改善点をまとめる
第14回	まとめ	春学期の成果をまとめ、夏期休暇中の研究予定をまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

先行研究と自らの研究を比較しつつ、問題意識、分析方法、結果（発見と含蓄）についてレジюмеにする。また、修士論文に向けた自らの問題意識と分析方法についての研究ノートの作成。修士論文の執筆。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100%（研究内容や研究の成果を含む）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/32/0003127/profile.html>

【Outline (in English)】

(Course outline)

Students will acquire applied knowledge about writing master's theses and further prepare for thesis writing.

(Learning Objectives)

Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.

(Learning activities outside of classroom)

Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master's thesis.

(Grading Criteria /Policy)

The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student's own problem awareness and analytical methods.

ECN602C1-2

経済学演習Ⅱ B

酒井 正

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆についてのより高度な知識や分析手法を習得し、修士論文の執筆・改訂をさらに進め、全体を見据えた研究報告を行う。個別指導や第2回ワークショップ報告を通じて、修士論文を完成させる。

【到達目標】

すでに第1稿を作成済の部分についての改訂を進めるとともに、論文の最終調整を行い、学位論文としての修士論文を完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

主に演習形式とする。先行研究のサーベイや研究結果の報告を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	これまでの研究のまとめ	夏期休暇中の研究成果の報告
第2回	修士論文の研究報告①	修士論文にむけた研究報告を行う
第3回	修士論文の研究報告②	修士論文にむけた研究報告を行う
第4回	修士論文の研究報告③	修士論文にむけた研究報告を行う
第5回	修士論文の研究報告④	修士論文にむけた研究報告を行う
第6回	修士論文の研究報告⑤	修士論文にむけた研究報告を行う
第7回	修士論文の研究報告⑥	修士論文にむけた研究報告を行う
第8回	修士論文の研究報告⑦	修士論文にむけた研究報告を行う
第9回	修士論文の研究報告⑧	修士論文にむけた研究報告を行う
第10回	ワークショップの準備①	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第11回	ワークショップの準備②	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第12回	ワークショップの反省	修士ワークショップで指摘された論点をまとめる
第13回	修士論文の仕上げ	修士論文の改善点をまとめて論文を仕上げる
第14回	修士論文最終報告	修士論文提出（前または後）の最終報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自らの研究の成果をレジюмеにまとめ、修士論文を執筆する。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100%（研究内容や研究の成果を含む）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/32/0003127/profile.html>

【Outline (in English)】

(Course outline)

Students will acquire applied knowledge about writing master's theses and further prepare for thesis writing.

(Learning Objectives)

Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.

(Learning activities outside of classroom)

Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master's thesis.

(Grading Criteria /Policy)

The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student's own problem awareness and analytical methods.

ECN602C1-1

経済学演習Ⅱ A

胥 鵬

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆についての高度な知識や分析手法を習得し、修士論文の端緒となる研究報告を行う。個別指導や第1回ワークショップ報告を通じて、修士論文の執筆・改訂を進める。

【到達目標】

研究テーマに関わる文献のサーベイを行うとともに、修士論文全体のアウトラインを設定し、そのうちの一部について第1稿を作成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

主に演習形式とする。先行研究のサーベイや研究結果の報告を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	修士論文について	学位論文としての修士論文
第2回	先行研究と自らの研究を比較検討①	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第3回	先行研究と自らの研究を比較検討②	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第4回	先行研究と自らの研究を比較検討③	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第5回	先行研究と自らの研究を比較検討④	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第6回	先行研究と自らの研究を比較検討⑤	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第7回	修士論文の研究報告①	修士論文にむけた研究報告を行う
第8回	修士論文の研究報告②	修士論文にむけた研究報告を行う
第9回	修士論文の研究報告③	修士論文にむけた研究報告を行う
第10回	ワークショップの準備①	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第11回	ワークショップの準備②	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第12回	ワークショップの反省	修士ワークショップで指摘された論点をまとめる
第13回	研究テーマ、分析方法の再検討	修士ワークショップでの指摘に基づく改善点をまとめる
第14回	まとめ	春学期の成果をまとめ、夏期休暇中の研究予定をまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

先行研究と自らの研究を比較しつつ、問題意識、分析方法、結果（発見と含蓄）についてレジュメにする。また、修士論文に向けた自らの問題意識と分析方法についての研究ノートの作成。修士論文の執筆。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100%（研究内容や研究の成果を含む）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞ 企業金融（コーポレート・ファイナンス）、企業統治（コーポレート・ガバナンス）、法と経済学、不動産価格、中国経済
 ＜研究テーマ＞ MBO、敵対的買収案と株式議決権行使、ホットマネー（熱銭）と中国の不動産価格

＜主要研究業績＞

『日本のコーポレートファイナンス－サーバイデータによる分析』花枝英樹、芹田敏夫、胥鵬、佐々木隆文、鈴木健嗣、佐々木寿記（6,7章）白桃書房 2020年

Strategic short selling around index additions: Evidence from the Nikkei 225 Index, Shiomi, Naoya, Takahashi, Hidetomo, Xu, Peng International Review of Finance 2020年

Trading activities of short-sellers around index deletions: Evidence from the Nikkei 225 Hidetomo Takahashi and Peng Xu Journal of Financial Markets 27 132 - 146 2016

【Outline (in English)】

(Course outline)

Students will acquire applied knowledge about writing master's theses and further prepare for thesis writing.

(Learning Objectives)

Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.

(Learning activities outside of classroom)

Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master's thesis.

(Grading Criteria /Policy)

The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student's own problem awareness and analytical methods.

ECN602C1-2

経済学演習Ⅱ B

胥 鵬

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆についてのより高度な知識や分析手法を習得し、修士論文の執筆・改訂をさらに進め、全体を見据えた研究報告を行う。個別指導や第2回ワークショップ報告を通じて、修士論文を完成させる。

【到達目標】

すでに第1稿を作成済の部分についての改訂を進めるとともに、論文の最終調整を行い、学位論文としての修士論文を完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

主に演習形式とする。先行研究のサーベイや研究結果の報告を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	これまでの研究のまとめ	夏期休暇中の研究成果の報告
第2回	修士論文の研究報告①	修士論文にむけた研究報告を行う
第3回	修士論文の研究報告②	修士論文にむけた研究報告を行う
第4回	修士論文の研究報告③	修士論文にむけた研究報告を行う
第5回	修士論文の研究報告④	修士論文にむけた研究報告を行う
第6回	修士論文の研究報告⑤	修士論文にむけた研究報告を行う
第7回	修士論文の研究報告⑥	修士論文にむけた研究報告を行う
第8回	修士論文の研究報告⑦	修士論文にむけた研究報告を行う
第9回	修士論文の研究報告⑧	修士論文にむけた研究報告を行う
第10回	ワークショップの準備①	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第11回	ワークショップの準備②	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第12回	ワークショップの反省	修士ワークショップで指摘された論点をまとめる
第13回	修士論文の仕上げ	修士論文の改善点をまとめて論文を仕上げる
第14回	修士論文最終報告	修士論文提出（前または後）の最終報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自らの研究の成果をレジュメにまとめ、修士論文を執筆する。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100%（研究内容や研究の成果を含む）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 企業金融（コーポレート・ファイナンス）、企業統治（コーポレート・ガバナンス）、法と経済学、不動産価格、中国経済
 <研究テーマ> MBO、敵対的買収案と株式議決権行使、ホットマネー（熱銭）と中国の不動産価格
 <主要研究業績>

『日本のコーポレートファイナンス—サーバイデータによる分析』花枝英樹、芹田敏夫、胥鵬、佐々木隆文、鈴木健嗣、佐々木寿記（6,7章）白桃書房 2020年

Strategic short selling around index additions: Evidence from the Nikkei 225 Index, Shiomi, Naoya, Takahashi, Hidetomo, Xu, Peng International Review of Finance 2020年

Trading activities of short-sellers around index deletions: Evidence from the Nikkei 225 Hidetomo Takahashi and Peng Xu Journal of Financial Markets 27 132 - 146 2016

【Outline (in English)】

(Course outline)

Students will acquire applied knowledge about writing master's theses and further prepare for thesis writing.

(Learning Objectives)

Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.

(Learning activities outside of classroom)

Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master's thesis.

(Grading Criteria /Policy)

The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student's own problem awareness and analytical methods.

ECN602C1-1

経済学演習Ⅱ A

菅 幹雄

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆についての高度な知識や分析手法を習得し、修士論文の端緒となる研究報告を行う。個別指導や第1回ワークショップ報告を通じて、修士論文の執筆・改訂を進める。

【到達目標】

研究テーマに関わる文献のサーベイを行うとともに、修士論文全体のアウトラインを設定し、そのうちの一部について第1稿を作成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

主に演習形式とする。先行研究のサーベイや研究結果の報告を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	修士論文について	学位論文としての修士論文
第2回	先行研究と自らの研究を比較検討①	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第3回	先行研究と自らの研究を比較検討②	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第4回	先行研究と自らの研究を比較検討③	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第5回	先行研究と自らの研究を比較検討④	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第6回	先行研究と自らの研究を比較検討⑤	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第7回	修士論文の研究報告①	修士論文にむけた研究報告を行う
第8回	修士論文の研究報告②	修士論文にむけた研究報告を行う
第9回	修士論文の研究報告③	修士論文にむけた研究報告を行う
第10回	ワークショップの準備①	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第11回	ワークショップの準備②	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第12回	ワークショップの反省	修士ワークショップで指摘された論点をまとめる
第13回	研究テーマ、分析方法の再検討	修士ワークショップでの指摘に基づく改善点をまとめる
第14回	まとめ	春学期の成果をまとめ、夏期休暇中の研究予定をまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

先行研究と自らの研究を比較しつつ、問題意識、分析方法、結果（発見と含蓄）についてレジюмеにする。また、修士論文に向けた自らの問題意識と分析方法についての研究ノートの作成。修士論文の執筆。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100%（研究内容や研究の成果を含む）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/26/0002585/profile.html>

【Outline (in English)】

(Course outline)

Students will acquire applied knowledge about writing master's theses and further prepare for thesis writing.

(Learning Objectives)

Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.

(Learning activities outside of classroom)

Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master's thesis.

(Grading Criteria /Policy)

The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student's own problem awareness and analytical methods.

ECN602C1-2

経済学演習Ⅱ B

菅 幹雄

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆についてのより高度な知識や分析手法を習得し、修士論文の執筆・改訂をさらに進め、全体を見据えた研究報告を行う。個別指導や第2回ワークショップ報告を通じて、修士論文を完成させる。

【到達目標】

すでに第1稿を作成済の部分についての改訂を進めるとともに、論文の最終調整を行い、学位論文としての修士論文を完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

主に演習形式とする。先行研究のサーベイや研究結果の報告を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	これまでの研究のまとめ	夏期休暇中の研究成果の報告
第2回	修士論文の研究報告①	修士論文にむけた研究報告を行う
第3回	修士論文の研究報告②	修士論文にむけた研究報告を行う
第4回	修士論文の研究報告③	修士論文にむけた研究報告を行う
第5回	修士論文の研究報告④	修士論文にむけた研究報告を行う
第6回	修士論文の研究報告⑤	修士論文にむけた研究報告を行う
第7回	修士論文の研究報告⑥	修士論文にむけた研究報告を行う
第8回	修士論文の研究報告⑦	修士論文にむけた研究報告を行う
第9回	修士論文の研究報告⑧	修士論文にむけた研究報告を行う
第10回	ワークショップの準備①	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第11回	ワークショップの準備②	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第12回	ワークショップの反省	修士ワークショップで指摘された論点をまとめる
第13回	修士論文の仕上げ	修士論文の改善点をまとめて論文を仕上げる
第14回	修士論文最終報告	修士論文提出（前または後）の最終報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自らの研究の成果をレジュメにまとめ、修士論文を執筆する。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100%（研究内容や研究の成果を含む）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/26/0002585/profile.html>

【Outline (in English)】

(Course outline)

Students will acquire applied knowledge about writing master's theses and further prepare for thesis writing.

(Learning Objectives)

Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.

(Learning activities outside of classroom)

Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master's thesis.

(Grading Criteria /Policy)

The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student's own problem awareness and analytical methods.

ECN602C1-1

経済学演習Ⅱ A

鈴木 豊

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆についての高度な知識や分析手法を習得し、修士論文の端緒となる研究報告を行う。個別指導や第1回ワークショップ報告を通じて、修士論文の執筆・改訂を進める。

【到達目標】

研究テーマに関わる文献のサーベイを行うとともに、修士論文全体のアウトラインを設定し、そのうちの一部について第1稿を作成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

主に演習形式とする。先行研究のサーベイや研究結果の報告を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	修士論文について	学位論文としての修士論文
第2回	先行研究と自らの研究を比較検討①	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第3回	先行研究と自らの研究を比較検討②	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第4回	先行研究と自らの研究を比較検討③	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第5回	先行研究と自らの研究を比較検討④	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第6回	先行研究と自らの研究を比較検討⑤	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第7回	修士論文の研究報告①	修士論文にむけた研究報告を行う
第8回	修士論文の研究報告②	修士論文にむけた研究報告を行う
第9回	修士論文の研究報告③	修士論文にむけた研究報告を行う
第10回	ワークショップの準備①	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第11回	ワークショップの準備②	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第12回	ワークショップの反省	修士ワークショップで指摘された論点をまとめる
第13回	研究テーマ、分析方法の再検討	修士ワークショップでの指摘に基づく改善点をまとめる
第14回	まとめ	春学期の成果をまとめ、夏期休暇中の研究予定をまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

先行研究と自らの研究を比較しつつ、問題意識、分析方法、結果（発見と含蓄）についてレジュメにする。また、修士論文に向けた自らの問題意識と分析方法についての研究ノートの作成。修士論文の執筆。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100%（研究内容や研究の成果を含む）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/15/0001407/profile.html>

を参照のこと。

【Outline (in English)】

(Course outline)

Students will acquire applied knowledge about writing master's theses and further prepare for thesis writing.

(Learning Objectives)

Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.

(Learning activities outside of classroom)

Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master's thesis.

(Grading Criteria / Policy)

The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student's own problem awareness and analytical methods.

ECN602C1-2

経済学演習Ⅱ B

鈴木 豊

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆についてのより高度な知識や分析手法を習得し、修士論文の執筆・改訂をさらに進め、全体を見据えた研究報告を行う。個別指導や第2回ワークショップ報告を通じて、修士論文を完成させる。

【到達目標】

すでに第1稿を作成済の部分についての改訂を進めるとともに、論文の最終調整を行い、学位論文としての修士論文を完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

主に演習形式とする。先行研究のサーベイや研究結果の報告を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	これまでの研究のまとめ	夏期休暇中の研究成果の報告
第2回	修士論文の研究報告①	修士論文にむけた研究報告を行う
第3回	修士論文の研究報告②	修士論文にむけた研究報告を行う
第4回	修士論文の研究報告③	修士論文にむけた研究報告を行う
第5回	修士論文の研究報告④	修士論文にむけた研究報告を行う
第6回	修士論文の研究報告⑤	修士論文にむけた研究報告を行う
第7回	修士論文の研究報告⑥	修士論文にむけた研究報告を行う
第8回	修士論文の研究報告⑦	修士論文にむけた研究報告を行う
第9回	修士論文の研究報告⑧	修士論文にむけた研究報告を行う
第10回	ワークショップの準備①	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第11回	ワークショップの準備②	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第12回	ワークショップの反省	修士ワークショップで指摘された論点をまとめる
第13回	修士論文の仕上げ	修士論文の改善点をまとめて論文を仕上げる
第14回	修士論文最終報告	修士論文提出（前または後）の最終報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自らの研究の成果をレジュメにまとめ、修士論文を執筆する。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100%（研究内容や研究の成果を含む）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/15/0001407/profile.html>

を参照のこと。

【Outline (in English)】

(Course outline)

Students will acquire applied knowledge about writing master's theses and further prepare for thesis writing.

(Learning Objectives)

Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.

(Learning activities outside of classroom)

Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master's thesis.

(Grading Criteria /Policy)

The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student's own problem awareness and analytical methods.

ECN602C1-1

経済学演習Ⅱ A

高橋 秀朋

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆についての高度な知識や分析手法を習得し、修士論文の端緒となる研究報告を行う。個別指導や第1回ワークショップ報告を通じて、修士論文の執筆・改訂を進める。

【到達目標】

研究テーマに関わる文献のサーベイを行うとともに、修士論文全体のアウトラインを設定し、そのうちの一部について第1稿を作成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

主に演習形式とする。先行研究のサーベイや研究結果の報告を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	修士論文について	学位論文としての修士論文
第2回	先行研究と自らの研究を比較検討①	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第3回	先行研究と自らの研究を比較検討②	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第4回	先行研究と自らの研究を比較検討③	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第5回	先行研究と自らの研究を比較検討④	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第6回	先行研究と自らの研究を比較検討⑤	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第7回	修士論文の研究報告①	修士論文にむけた研究報告を行う
第8回	修士論文の研究報告②	修士論文にむけた研究報告を行う
第9回	修士論文の研究報告③	修士論文にむけた研究報告を行う
第10回	ワークショップの準備①	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第11回	ワークショップの準備②	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第12回	ワークショップの反省	修士ワークショップで指摘された論点をまとめる
第13回	研究テーマ、分析方法の再検討	修士ワークショップでの指摘に基づく改善点をまとめる
第14回	まとめ	春学期の成果をまとめ、夏期休暇中の研究予定をまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

先行研究と自らの研究を比較しつつ、問題意識、分析方法、結果（発見と含蓄）についてレジюмеにする。また、修士論文に向けた自らの問題意識と分析方法についての研究ノートの作成。修士論文の執筆。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100%（研究内容や研究の成果を含む）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

参照：<http://sites.google.com/site/htakahashi141a/>

【Outline (in English)】

(Course outline)

Students will acquire applied knowledge about writing master's theses and further prepare for thesis writing.

(Learning Objectives)

Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.

(Learning activities outside of classroom)

Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master's thesis.

(Grading Criteria /Policy)

The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student's own problem awareness and analytical methods.

ECN602C1-2

経済学演習Ⅱ B

高橋 秀朋

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆についてのより高度な知識や分析手法を習得し、修士論文の執筆・改訂をさらに進め、全体を見据えた研究報告を行う。個別指導や第2回ワークショップ報告を通じて、修士論文を完成させる。

【到達目標】

すでに第1稿を作成済の部分についての改訂を進めるとともに、論文の最終調整を行い、学位論文としての修士論文を完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

主に演習形式とする。先行研究のサーベイや研究結果の報告を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	これまでの研究のまとめ	夏期休暇中の研究成果の報告
第2回	修士論文の研究報告①	修士論文にむけた研究報告を行う
第3回	修士論文の研究報告②	修士論文にむけた研究報告を行う
第4回	修士論文の研究報告③	修士論文にむけた研究報告を行う
第5回	修士論文の研究報告④	修士論文にむけた研究報告を行う
第6回	修士論文の研究報告⑤	修士論文にむけた研究報告を行う
第7回	修士論文の研究報告⑥	修士論文にむけた研究報告を行う
第8回	修士論文の研究報告⑦	修士論文にむけた研究報告を行う
第9回	修士論文の研究報告⑧	修士論文にむけた研究報告を行う
第10回	ワークショップの準備①	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第11回	ワークショップの準備②	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第12回	ワークショップの反省	修士ワークショップで指摘された論点をまとめる
第13回	修士論文の仕上げ	修士論文の改善点をまとめて論文を仕上げる
第14回	修士論文最終報告	修士論文提出（前または後）の最終報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自らの研究の成果をレジュメにまとめ、修士論文を執筆する。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100%（研究内容や研究の成果を含む）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

参照：<http://sites.google.com/site/htakahashi141a/>

【Outline (in English)】

(Course outline)

Students will acquire applied knowledge about writing master's theses and further prepare for thesis writing.

(Learning Objectives)

Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.

(Learning activities outside of classroom)

Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master's thesis.

(Grading Criteria /Policy)

The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student's own problem awareness and analytical methods.

ECN602C1-1

経済学演習Ⅱ A

田村 晶子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆についての高度な知識や分析手法を習得し、修士論文の端緒となる研究報告を行う。個別指導や第1回ワークショップ報告を通じて、修士論文の執筆・改訂を進める。

【到達目標】

研究テーマに関わる文献のサーベイを行うとともに、修士論文全体のアウトラインを設定し、そのうちの一部について第1稿を作成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

主に演習形式とする。先行研究のサーベイや研究結果の報告を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	修士論文について	学位論文としての修士論文
第2回	先行研究と自らの研究を比較検討①	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第3回	先行研究と自らの研究を比較検討②	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第4回	先行研究と自らの研究を比較検討③	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第5回	先行研究と自らの研究を比較検討④	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第6回	先行研究と自らの研究を比較検討⑤	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第7回	修士論文の研究報告①	修士論文にむけた研究報告を行う
第8回	修士論文の研究報告②	修士論文にむけた研究報告を行う
第9回	修士論文の研究報告③	修士論文にむけた研究報告を行う
第10回	ワークショップの準備①	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第11回	ワークショップの準備②	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第12回	ワークショップの反省	修士ワークショップで指摘された論点をまとめる
第13回	研究テーマ、分析方法の再検討	修士ワークショップでの指摘に基づく改善点をまとめる
第14回	まとめ	春学期の成果をまとめ、夏期休暇中の研究予定をまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

先行研究と自らの研究を比較しつつ、問題意識、分析方法、結果（発見と含蓄）についてレジюмеにする。また、修士論文に向けた自らの問題意識と分析方法についての研究ノートの作成。修士論文の執筆。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100%（研究内容や研究の成果を含む）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/15/0001448/profile.html>

【Outline (in English)】

(Course outline)

Students will acquire applied knowledge about writing master's theses and further prepare for thesis writing.

(Learning Objectives)

Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.

(Learning activities outside of classroom)

Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master's thesis.

(Grading Criteria /Policy)

The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student's own problem awareness and analytical methods.

ECN602C1-2

経済学演習Ⅱ B

田村 晶子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆についてのより高度な知識や分析手法を習得し、修士論文の執筆・改訂をさらに進め、全体を見据えた研究報告を行う。個別指導や第2回ワークショップ報告を通じて、修士論文を完成させる。

【到達目標】

すでに第1稿を作成済の部分についての改訂を進めるとともに、論文の最終調整を行い、学位論文としての修士論文を完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

主に演習形式とする。先行研究のサーベイや研究結果の報告を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	これまでの研究のまとめ	夏期休暇中の研究成果の報告
第2回	修士論文の研究報告①	修士論文にむけた研究報告を行う
第3回	修士論文の研究報告②	修士論文にむけた研究報告を行う
第4回	修士論文の研究報告③	修士論文にむけた研究報告を行う
第5回	修士論文の研究報告④	修士論文にむけた研究報告を行う
第6回	修士論文の研究報告⑤	修士論文にむけた研究報告を行う
第7回	修士論文の研究報告⑥	修士論文にむけた研究報告を行う
第8回	修士論文の研究報告⑦	修士論文にむけた研究報告を行う
第9回	修士論文の研究報告⑧	修士論文にむけた研究報告を行う
第10回	ワークショップの準備①	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第11回	ワークショップの準備②	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第12回	ワークショップの反省	修士ワークショップで指摘された論点をまとめる
第13回	修士論文の仕上げ	修士論文の改善点をまとめて論文を仕上げる
第14回	修士論文最終報告	修士論文提出（前または後）の最終報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自らの研究の成果をレジюмеにまとめ、修士論文を執筆する。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100%（研究内容や研究の成果を含む）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/15/0001448/profile.html>

【Outline (in English)】

(Course outline)

Students will acquire applied knowledge about writing master's theses and further prepare for thesis writing.

(Learning Objectives)

Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.

(Learning activities outside of classroom)

Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master's thesis.

(Grading Criteria /Policy)

The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student's own problem awareness and analytical methods.

ECN602C1-1

経済学演習Ⅱ A

馬 欣欣

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆についての高度な知識や分析手法を習得し、修士論文の端緒となる研究報告を行う。個別指導や第1回ワークショップ報告を通じて、修士論文の執筆・改訂を進める。

【到達目標】

研究テーマに関わる文献のサーベイを行うとともに、修士論文全体のアウトラインを設定し、そのうちの一部について第1稿を作成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

主に演習形式とする。先行研究のサーベイや研究結果の報告を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	修士論文の研究報告①	修士論文にむけた研究報告を行う
第2回	実証研究方法の学習①	回帰分析方法
第3回	実証研究方法の学習②	パネルデータの分析
第4回	実証研究方法の学習③	パネルデータの分析
第5回	実証研究方法の学習④	分析結果のまとめおよび書き方
第6回	実証研究方法の学習⑤	分析結果のまとめおよび書き方
第7回	論文の書き方および参考文献の引用	学術論文の書き方および参考文献引用の注意事項
第8回	修士論文の研究報告②	修士論文にむけた研究報告を行う
第9回	修士論文の研究報告③	修士論文にむけた研究報告を行う
第10回	ワークショップの準備①	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第11回	修士論文にむけた研究報告を行う	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第12回	修士論文にむけた研究報告を行う	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第13回	研究テーマ、分析方法の再検討	修士ワークショップでの指摘に基づく改善点をまとめる
第14回	まとめ	春学期の成果をまとめ、夏期休暇中の研究予定をまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

修士論文に向けた自らの問題意識と分析方法についての研究ノートの作成。修士論文の執筆。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点100%（研究内容や研究の成果を含む）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

中国経済論、労働経済学、開発経済学

【研究テーマ】

1. 中国社会保障改革とその経済効果
2. 技術進歩が中国労働市場に与える影響

3. 経済成長、体制移行と経済格差

【主要研究業績】

- 1.Ma, X. and Tang, C. (Eds.) (2022) Growth Mechanism and Sustainable Development of Chinese Economy: Comparison with Japanese Experiences. Palgrave Macmillan. ISBN: 978-981-19-3857-3
- 2.Ma, X. (2022) Public Medical Insurance Reform in China. Springer. ISBN: 978-981-16-7790-8
- 3.Ma, X. (Ed.) (2021) Employment, Retirement and Lifestyle in Aging East Asia. Palgrave Macmillan. ISBN:978-981-16-0553-6
- 4.Ma, X. (2022) "Internet Usage and Income Gaps between the Self-employed Individuals and Employees: Evidence from China," Review of Development Economics. <https://doi.org/10.1111/rode.12969>
- 5.Ma, X. (2022) "Parenthood and the Gender Wage Gap in Urban China," Journal of Asian Economics, 80:101479. <https://doi.org/10.1016/j.asieco.2022.101479>
- 6.Ma, X. (2018) "Labor Market Segmentation by Industry Sectors and Wage Gaps between Migrants and Local Urban Residents in Urban China" China Economic Review, 47, 96 - 115. <https://doi.org/10.1016/j.chieco.2017.11.007>

【Outline (in English)】

(Course outline)

Students will acquire applied knowledge about writing master's theses and further prepare for thesis writing.

(Learning Objectives)

Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.

(Learning activities outside of classroom)

Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master's thesis.

(Grading Criteria /Policy)

The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student's own problem awareness and analytical methods.

ECN602C1-2

経済学演習Ⅱ B

馬 欣欣

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆についてのより高度な知識や分析手法を習得し、修士論文の執筆・改訂をさらに進め、全体を見据えた研究報告を行う。個別指導や第2回ワークショップ報告を通じて、修士論文を完成させる。

【到達目標】

すでに第1稿を作成済の部分についての改訂を進めるとともに、論文の最終調整を行い、学位論文としての修士論文を完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

主に演習形式とする。先行研究のサーベイや研究結果の報告を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	これまでの研究のまとめ	夏期休暇中の研究成果の報告
第2回	修士論文の研究指導①	修士論文の研究指導を行う
第3回	修士論文の研究指導②	修士論文の研究指導を行う
第4回	修士論文の研究指導③	修士論文の研究指導を行う
第5回	修士論文の研究指導④	修士論文の研究指導を行う
第6回	修士論文の研究指導⑤	修士論文の研究指導を行う
第7回	修士論文の研究指導⑥	修士論文の研究指導を行う
第8回	修士論文の研究指導⑦	修士論文の研究指導を行う
第9回	修士論文の研究指導⑧	修士論文の研究指導を行う
第10回	ワークショップの準備①	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第11回	ワークショップの準備②	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第12回	ワークショップの反省	修士ワークショップで指摘された論点をまとめる
第13回	修士論文の仕上げ	修士論文の改善点をまとめて論文を仕上げる
第14回	修士論文最終報告	修士論文提出（前または後）の最終報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自らの研究の成果をレジュメにまとめ、修士論文を執筆する。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100%（研究内容や研究の成果を含む）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

中国経済論、労働経済学、開発経済学

【研究テーマ】

1. 中国社会保障改革とその経済効果
2. 技術進歩が中国労働市場に与える影響

3. 経済成長、体制移行と経済格差

【主要研究業績】

1.Ma, X. and Tang, C. (Eds.) (2022) Growth Mechanism and Sustainable Development of Chinese Economy: Comparison with Japanese Experiences. Palgrave Macmillan. ISBN: 978-981-19-3857-3

2.Ma, X. (2022) Public Medical Insurance Reform in China. Springer. ISBN: 978-981-16-7790-8

3.Ma, X. (Ed.) (2021) Employment, Retirement and Lifestyle in Aging East Asia. Palgrave Macmillan. ISBN:978-981-16-0553-6

4.Ma, X. (2022) "Internet Usage and Income Gaps between the Self-employed Individuals and Employees: Evidence from China," Review of Development Economics. <https://doi.org/10.1111/rode.12969>

5.Ma, X. (2022) "Parenthood and the Gender Wage Gap in Urban China," Journal of Asian Economics, 80:101479. <https://doi.org/10.1016/j.asieco.2022.101479>

6.Ma, X. (2018) "Labor Market Segmentation by Industry Sectors and Wage Gaps between Migrants and Local Urban Residents in Urban China" China Economic Review, 47, 96 - 115. <https://doi.org/10.1016/j.chieco.2017.11.007>

【Outline (in English)】

(Course outline)

Students will acquire applied knowledge about writing master's theses and further prepare for thesis writing.

(Learning Objectives)

Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.

(Learning activities outside of classroom)

Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master's thesis.

(Grading Criteria /Policy)

The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student's own problem awareness and analytical methods.

ECN602C1-1

経済学演習Ⅱ A

松波 淳也

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆についての高度な知識や分析手法を習得し、修士論文の端緒となる研究報告を行う。個別指導や第1回ワークショップ報告を通じて、修士論文の執筆・改訂を進める。

【到達目標】

研究テーマに関わる文献のサーベイを行うとともに、修士論文全体のアウトラインを設定し、そのうちの一部について第1稿を作成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

主に演習形式とする。先行研究のサーベイや研究結果の報告を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	修士論文について	学位論文としての修士論文
第2回	先行研究と自らの研究を比較検討①	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第3回	先行研究と自らの研究を比較検討②	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第4回	先行研究と自らの研究を比較検討③	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第5回	先行研究と自らの研究を比較検討④	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第6回	先行研究と自らの研究を比較検討⑤	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第7回	修士論文の研究報告①	修士論文にむけた研究報告を行う
第8回	修士論文の研究報告②	修士論文にむけた研究報告を行う
第9回	修士論文の研究報告③	修士論文にむけた研究報告を行う
第10回	ワークショップの準備①	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第11回	ワークショップの準備②	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第12回	ワークショップの反省	修士ワークショップで指摘された論点をまとめる
第13回	研究テーマ、分析方法の再検討	修士ワークショップでの指摘に基づく改善点をまとめる
第14回	まとめ	春学期の成果をまとめ、夏期休暇中の研究予定をまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

先行研究と自らの研究を比較しつつ、問題意識、分析方法、結果（発見と含蓄）についてレジュメにする。また、修士論文に向けた自らの問題意識と分析方法についての研究ノートの作成。修士論文の執筆。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100%（研究内容や研究の成果を含む）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

環境経済学

<https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/15/0001408/profile.html>

【Outline (in English)】

(Course outline)

Students will acquire applied knowledge about writing master's theses and further prepare for thesis writing.

(Learning Objectives)

Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.

(Learning activities outside of classroom)

Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master's thesis.

(Grading Criteria / Policy)

The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student's own problem awareness and analytical methods.

ECN602C1-2

経済学演習Ⅱ B

松波 淳也

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆についてのより高度な知識や分析手法を習得し、修士論文の執筆・改訂をさらに進め、全体を見据えた研究報告を行う。個別指導や第2回ワークショップ報告を通じて、修士論文を完成させる。

【到達目標】

すでに第1稿を作成済の部分についての改訂を進めるとともに、論文の最終調整を行い、学位論文としての修士論文を完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

主に演習形式とする。先行研究のサーベイや研究結果の報告を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	これまでの研究のまとめ	夏期休暇中の研究成果の報告
第2回	修士論文の研究報告①	修士論文にむけた研究報告を行う
第3回	修士論文の研究報告②	修士論文にむけた研究報告を行う
第4回	修士論文の研究報告③	修士論文にむけた研究報告を行う
第5回	修士論文の研究報告④	修士論文にむけた研究報告を行う
第6回	修士論文の研究報告⑤	修士論文にむけた研究報告を行う
第7回	修士論文の研究報告⑥	修士論文にむけた研究報告を行う
第8回	修士論文の研究報告⑦	修士論文にむけた研究報告を行う
第9回	修士論文の研究報告⑧	修士論文にむけた研究報告を行う
第10回	ワークショップの準備①	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第11回	ワークショップの準備②	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第12回	ワークショップの反省	修士ワークショップで指摘された論点をまとめる
第13回	修士論文の仕上げ	修士論文の改善点をまとめて論文を仕上げる
第14回	修士論文最終報告	修士論文提出（前または後）の最終報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自らの研究の成果をレジュメにまとめ、修士論文を執筆する。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100%（研究内容や研究の成果を含む）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【【担当教員の専門分野等】】

環境経済学

<https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/15/0001408/profile.html>

【Outline (in English)】

(Course outline)

Students will acquire applied knowledge about writing master's theses and further prepare for thesis writing.

(Learning Objectives)

Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.

(Learning activities outside of classroom)

Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master's thesis.

(Grading Criteria /Policy)

The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student's own problem awareness and analytical methods.

ECN602C1-1

経済学演習Ⅱ A

明城 聡

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆についての高度な知識や分析手法を習得し、修士論文の端緒となる研究報告を行う。個別指導や第1回ワークショップ報告を通じて、修士論文の執筆・改訂を進める。

【到達目標】

研究テーマに関わる文献のサーベイを行うとともに、修士論文全体のアウトラインを設定し、そのうちの一部について第1稿を作成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

主に演習形式とする。先行研究のサーベイや研究結果の報告を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	修士論文について	学位論文としての修士論文
第2回	先行研究と自らの研究を比較検討①	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第3回	先行研究と自らの研究を比較検討②	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第4回	先行研究と自らの研究を比較検討③	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第5回	先行研究と自らの研究を比較検討④	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第6回	先行研究と自らの研究を比較検討⑤	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第7回	修士論文の研究報告①	修士論文にむけた研究報告を行う
第8回	修士論文の研究報告②	修士論文にむけた研究報告を行う
第9回	修士論文の研究報告③	修士論文にむけた研究報告を行う
第10回	ワークショップの準備①	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第11回	ワークショップの準備②	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第12回	ワークショップの反省	修士ワークショップで指摘された論点をまとめる
第13回	研究テーマ、分析方法の再検討	修士ワークショップでの指摘に基づく改善点をまとめる
第14回	まとめ	春学期の成果をまとめ、夏期休暇中の研究予定をまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

先行研究と自らの研究を比較しつつ、問題意識、分析方法、結果（発見と含蓄）についてレジюмеにする。また、修士論文に向けた自らの問題意識と分析方法についての研究ノートの作成。修士論文の執筆。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100%（研究内容や研究の成果を含む）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

実証産業組織論、応用統計学

<研究テーマ>

構造推定を用いた市場分析

<主要研究業績>

1. On Asymptotic Properties of the Parameters of Differentiated Product Demand and Supply Systems When Demographically-Categorized Purchasing Pattern Data are Available, *International Economic Review*, Vol.53, no.3, pp.887-937, 2012.

2. Effects of Consumer Subsidies for Renewable Energy on Industry Growth and Social Welfare: The Case of Solar Photovoltaic Systems in Japan, *Journal of the Japanese and International Economies*, vol.48, pp.55-67, 2018.

【Outline (in English)】

(Course outline)

Students will acquire applied knowledge about writing master's theses and further prepare for thesis writing.

(Learning Objectives)

Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.

(Learning activities outside of classroom)

Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master's thesis.

(Grading Criteria /Policy)

The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student's own problem awareness and analytical methods.

ECN602C1-1

経済学演習Ⅱ A

八木橋 毅司

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆についての高度な知識や分析手法を習得し、修士論文の端緒となる研究報告を行う。個別指導や第1回ワークショップ報告を通じて、修士論文の執筆・改訂を進める。

【到達目標】

研究テーマに関わる文献のサーベイを行うとともに、修士論文全体のアウトラインを設定し、そのうちの一部について第1稿を作成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

主に演習形式とする。先行研究のサーベイや研究結果の報告を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	修士論文について	学位論文としての修士論文
第2回	先行研究と自らの研究を比較検討①	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第3回	先行研究と自らの研究を比較検討②	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第4回	先行研究と自らの研究を比較検討③	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第5回	先行研究と自らの研究を比較検討④	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第6回	先行研究と自らの研究を比較検討⑤	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第7回	修士論文の研究報告①	修士論文にむけた研究報告を行う
第8回	修士論文の研究報告②	修士論文にむけた研究報告を行う
第9回	修士論文の研究報告③	修士論文にむけた研究報告を行う
第10回	ワークショップの準備①	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第11回	ワークショップの準備②	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第12回	ワークショップの反省	修士ワークショップで指摘された論点をまとめる
第13回	研究テーマ、分析方法の再検討	修士ワークショップでの指摘に基づく改善点をまとめる
第14回	まとめ	春学期の成果をまとめ、夏期休暇中の研究予定をまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

先行研究と自らの研究を比較しつつ、問題意識、分析方法、結果（発見と含蓄）についてレジュメにする。また、修士論文に向けた自らの問題意識と分析方法についての研究ノートの作成。修士論文の執筆。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100%（研究内容や研究の成果を含む）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

詳しくは下記ウェブサイトをご覧ください

<https://sites.google.com/site/takeshiyagihashi/>

【主要業績】

"Intertemporal Elasticity of Substitution with Leisure Margin" (with Juan Du), forthcoming in Review of Economics of the Household

"How Do the Trans-Pacific Economies Affect the US? An Industrial Sector Approach" (with David Selover), Oct. 2017, The World Economy, 40(10), 2097-2124.

"Goods-Time Elasticity of Substitution in Health Production" (with Juan Du), Oct. 2017, Health Economics, 26(11), 1474-1478.

"Health Care Inflation and Its Implication for Monetary Policy" (with Juan Du), Mar. 2015, Economic Inquiry, 53(3), 1556-1579.

"Estimating Taylor Rules in a Credit Channel Environment," Dec. 2011, North American Journal of Economics and Finance, 22(3), 344-364.

"Are DSGE Approximating Models Invariant to Shifts in Policy?" (with Timothy Cogley) Jan. 2010, The B.E. Journal of Macroeconomics, 10(1) (Contribution), Article 27, 1-31.

【Outline (in English)】

(Course outline)

Students will acquire applied knowledge about writing master's theses and further prepare for thesis writing.

(Learning Objectives)

Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.

(Learning activities outside of classroom)

Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master's thesis.

(Grading Criteria / Policy)

The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student's own problem awareness and analytical methods.

ECN602C1-2

経済学演習Ⅱ B

八木橋 毅司

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆についてのより高度な知識や分析手法を習得し、修士論文の執筆・改訂をさらに進め、全体を見据えた研究報告を行う。個別指導や第2回ワークショップ報告を通じて、修士論文を完成させる。

【到達目標】

すでに第1稿を作成済の部分についての改訂を進めるとともに、論文の最終調整を行い、学位論文としての修士論文を完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

主に演習形式とする。先行研究のサーベイや研究結果の報告を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	これまでの研究のまとめ	夏期休暇中の研究成果の報告
第2回	修士論文の研究報告①	修士論文にむけた研究報告を行う
第3回	修士論文の研究報告②	修士論文にむけた研究報告を行う
第4回	修士論文の研究報告③	修士論文にむけた研究報告を行う
第5回	修士論文の研究報告④	修士論文にむけた研究報告を行う
第6回	修士論文の研究報告⑤	修士論文にむけた研究報告を行う
第7回	修士論文の研究報告⑥	修士論文にむけた研究報告を行う
第8回	修士論文の研究報告⑦	修士論文にむけた研究報告を行う
第9回	修士論文の研究報告⑧	修士論文にむけた研究報告を行う
第10回	ワークショップの準備①	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第11回	ワークショップの準備②	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第12回	ワークショップの反省	修士ワークショップで指摘された論点をまとめる
第13回	修士論文の仕上げ	修士論文の改善点をまとめて論文を仕上げる
第14回	修士論文最終報告	修士論文提出（前または後）の最終報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自らの研究の成果をレジュメにまとめ、修士論文を執筆する。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100%（研究内容や研究の成果を含む）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

詳しくは下記ウェブサイトをご覧ください

<https://sites.google.com/site/takeshiyagihashi/>

【主要業績】

"Intertemporal Elasticity of Substitution with Leisure Margin" (with Juan Du), forthcoming in Review of Economics of the Household

"How Do the Trans-Pacific Economies Affect the US? An Industrial Sector Approach" (with David Selover), Oct. 2017, The World Economy, 40(10), 2097-2124.

"Goods-Time Elasticity of Substitution in Health Production" (with Juan Du), Oct. 2017, Health Economics, 26(11), 1474-1478.

"Health Care Inflation and Its Implication for Monetary Policy" (with Juan Du), Mar. 2015, Economic Inquiry, 53(3), 1556-1579.

"Estimating Taylor Rules in a Credit Channel Environment," Dec. 2011, North American Journal of Economics and Finance, 22(3), 344-364.

"Are DSGE Approximating Models Invariant to Shifts in Policy?" (with Timothy Cogley) Jan. 2010, The B.E. Journal of Macroeconomics, 10(1) (Contribution), Article 27, 1-31.

【Outline (in English)】

(Course outline)

Students will acquire applied knowledge about writing master's theses and further prepare for thesis writing.

(Learning Objectives)

Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.

(Learning activities outside of classroom)

Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master's thesis.

(Grading Criteria / Policy)

The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student's own problem awareness and analytical methods.

ECN602C1-1

経済学演習Ⅱ A

武田 浩一

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆についての高度な知識や分析手法を習得し、修士論文の端緒となる研究報告を行う。個別指導や第1回ワークショップ報告を通じて、修士論文の執筆・改訂を進める。

【到達目標】

研究テーマに関わる文献のサーベイを行うとともに、修士論文全体のアウトラインを設定し、そのうちの一部について第1稿を作成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

主に演習形式とする。先行研究のサーベイや研究結果の報告を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	修士論文について	学位論文としての修士論文
第2回	先行研究と自らの研究を比較検討①	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第3回	先行研究と自らの研究を比較検討②	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第4回	先行研究と自らの研究を比較検討③	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第5回	先行研究と自らの研究を比較検討④	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第6回	先行研究と自らの研究を比較検討⑤	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第7回	修士論文の研究報告①	修士論文にむけた研究報告を行う
第8回	修士論文の研究報告②	修士論文にむけた研究報告を行う
第9回	修士論文の研究報告③	修士論文にむけた研究報告を行う
第10回	ワークショップの準備①	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第11回	ワークショップの準備②	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第12回	ワークショップの反省	修士ワークショップで指摘された論点をまとめる
第13回	研究テーマ、分析方法の再検討	修士ワークショップでの指摘に基づく改善点をまとめる
第14回	まとめ	春学期の成果をまとめ、夏期休暇中の研究予定をまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

先行研究と自らの研究を比較しつつ、問題意識、分析方法、結果（発見と含蓄）についてレジюмеにする。また、修士論文に向けた自らの問題意識と分析方法についての研究ノートの作成。修士論文の執筆。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100%（研究内容や研究の成果を含む）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/17/0001629/profile.html>

【Outline (in English)】

(Course outline)

Students will acquire applied knowledge about writing master's theses and further prepare for thesis writing.

(Learning Objectives)

Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.

(Learning activities outside of classroom)

Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master's thesis.

(Grading Criteria /Policy)

The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student's own problem awareness and analytical methods.

ECN602C1-1

論文指導Ⅱ A

濱秋 純哉

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆についての高度な知識や分析手法を習得し、修士論文の端緒となる研究報告を行う。

【到達目標】

研究テーマに関わる文献のサーベイを行うとともに、修士論文全体のアウトラインを設定し、そのうちの一部について第1稿を作成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

主に演習形式とする。先行研究のサーベイや研究結果の報告を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	修士論文について	学位論文としての修士論文
第2回	先行研究と自らの研究を比較検討①	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第3回	先行研究と自らの研究を比較検討②	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第4回	先行研究と自らの研究を比較検討③	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第5回	先行研究と自らの研究を比較検討④	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第6回	研究テーマ、分析方法の再検討	教員や他の院生・研究者の指摘に基づき改善点をまとめる
第7回	まとめ	春学期の成果をまとめ、夏期休暇中の研究予定をまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

先行研究と自らの研究を比較しつつ、問題意識、分析方法、結果（発見と含蓄）についてレジュメにする。また、修士論文に向けた自らの問題意識と分析方法についての研究ノートの作成。修士論文の執筆。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100%（研究内容や研究の成果を含む）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

公共経済学・応用計量経済学

<研究テーマ>

家計行動のミクロ計量分析

<主要研究業績>

(1) Niizeki, Takeshi, Junya Hamaaki, 2023+, “Do the self-employed underreport their income? Evidence from Japanese panel data,” Journal of the Japanese and International Economies, forthcoming.

(2) Hamaaki, Junya, Masahiro Hori, and Keiko Murata 2019, “The Intra-family Division of Bequests and Bequest Motives: Empirical Evidence from a Survey on Japanese Households,” Journal of Population Economics, Vol. 32, No. 1, pp. 309 – 346.

(3) 上野綾子・濱秋純哉, 2017年, 「2009年度介護報酬改定が介護従事者の賃金、労働時間、離職率に与えた影響」, 『医療経済研究』, Vol.29, No.1, 33 – 57頁。

(4) Hamaaki, Junya, Masahiro Hori, Keiko Murata, 2014, “Intergenerational transfers and asset inequality in Japan: Empirical evidence from new survey data,” Asian Economic Journal, Vol.28(1), pp.41-62.

(5) Hamaaki, Junya, Masahiro Hori, Saeko Maeda, Keiko Murata, 2013, “How does the first job matter for an individual’s career life in Japan,” Journal of the Japanese and International Economies, Vol.29, pp.154-169.

【Outline (in English)】

(Course outline)

In this course students will acquire advanced knowledge and analytical method on writing a master’s thesis, and make a research report that can be the base of a thesis.

(Learning Objectives)

Students will make an overall outline of a thesis by conducting a survey on his/her research theme, and start writing a first draft of the thesis.

(Learning activities outside of classroom)

While comparing your own research with previous research, write a resume of your problem consciousness, analysis method, and results (findings and implications). Students will also prepare research notes on their own problem consciousness and analytical methods for their master’s thesis. Writing the master’s thesis.

(Grading Criteria /Policy)

100% of the usual performance score (including the content and results of the research)

ECN603C1-1

修士ワークショップA

濱秋 純哉

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

個別指導や春学期ワークショップ報告を通じて、修士論文の執筆・改訂を進める。

【到達目標】

自身の研究内容に対して理解を深めつつ、分析手法を確立し、論文執筆を進める。ワークショップ報告では、修士論文作成のための春学期における成果を確定させる。具体的には、これまでに得られた分析結果を報告し、分析手法の適切さ、結果の解釈の妥当性、当該分野における自身の論文の位置づけなどを確認し、その後の改訂につなげる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

6月下旬または7月上旬に行われる春季修士ワークショップの報告に向けて、指導教員の指導の下、春学期の研究成果の検討と確定を行い、ワークショップの報告に向けて、プレゼンテーションの方法についても、指導する。さらに、ワークショップ報告後に、ワークショップ時に受けた教員による指導、参加の学生によるコメントを受けて、研究の改訂を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	修士論文の研究報告①	修士論文にむけた研究報告を行う（指導教員による指導）
第2回	修士論文の研究報告②	修士論文にむけた研究報告を行う（指導教員による指導）
第3回	修士論文の研究報告③	修士論文にむけた研究報告を行う（指導教員による指導）
第4回	ワークショップの準備①	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。（指導教員による指導）
第5回	ワークショップの準備②	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。（指導教員による指導）
第6回	修士論文中間発表（第1回修士ワークショップ）	修士論文執筆者全員が、修士論文に関して「中間発表」を行う。7月上旬を予定。
第7回	ワークショップの反省	修士ワークショップで指摘された論点をまとめる（指導教員による指導）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

修士論文の作成のための日常的な研究と執筆活動を行う。中間報告の準備と、事後の論点整理と修士論文へのフィードバックの作業を行う。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100%（ワークショップ報告およびコメントシートの内容も含む）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

公共経済学・応用計量経済学

<研究テーマ>

家計行動のマイクロ計量分析

<主要研究業績>

(1) Niizeki, Takeshi, Junya Hamaaki, 2023+, “Do the self-employed underreport their income? Evidence from Japanese panel data,” *Journal of the Japanese and International Economies*, forthcoming.

(2) Hamaaki, Junya, Masahiro Hori, and Keiko Murata 2019, “The Intra-family Division of Bequests and Bequest Motives: Empirical Evidence from a Survey on Japanese Households,” *Journal of Population Economics*, Vol. 32, No. 1, pp. 309 – 346.

(3) 上野綾子・濱秋純哉, 2017年, 「2009年度介護報酬改定が介護従事者の賃金、労働時間、離職率に与えた影響」, 『医療経済研究』, Vol.29, No.1, 33 – 57頁。

(4) Hamaaki, Junya, Masahiro Hori, Keiko Murata, 2014, “Intergenerational transfers and asset inequality in Japan: Empirical evidence from new survey data,” *Asian Economic Journal*, Vol.28(1), pp.41-62.

(5) Hamaaki, Junya, Masahiro Hori, Saeko Maeda, Keiko Murata, 2013, “How does the first job matter for an individual’s career life in Japan,” *Journal of the Japanese and International Economies*, Vol.29, pp.154-169.

【Outline (in English)】

(Course outline)

In this course students will write and revise his/her master’s thesis through individual guidance and the first workshop report.

(Learning Objectives)

Students are expected to deepen the understanding of his/her research contents, establish the analytical method, and proceed with writing the thesis. In a workshop report, students will define the outcome of spring semester on writing a thesis. More specifically, students are expected to create a link to a later revision by making a report on the obtained analyzed result, verifying the adequacy of the analysis technique and the validity of the interpretation on the result, and valuating his/her thesis in the field concerned.

(Learning activities outside of classroom)

Carry out daily research and writing activities for the preparation of the master’s thesis. Prepare for the interim report and work on the post-event discussion and feedback to the master’s thesis.

(Grading Criteria /Policy)

100% of the normal score (including workshop presentation and comments)

ECN602C1-2

論文指導ⅡB

濱秋 純哉

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆についてのより高度な知識や分析手法を習得し、修士論文の執筆・改訂をさらに進め、全体を見据えた研究報告を行う。

【到達目標】

すでに第1稿を作成済の部分についての改訂を進めるとともに、論文全体についての第1稿を作成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

主に演習形式とする。先行研究のサーベイや研究結果の報告を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	これまでの研究のまとめ	夏期休暇中の研究成果の報告
第2回	修士論文の研究報告①	修士論文にむけた研究報告を行う
第3回	修士論文の研究報告②	修士論文にむけた研究報告を行う
第4回	修士論文の研究報告③	修士論文にむけた研究報告を行う
第5回	修士論文の研究報告④	修士論文にむけた研究報告を行う
第6回	修士論文の仕上げ	修士論文の改善点をまとめて論文を仕上げる
第7回	修士論文最終報告	修士論文提出（前または後）の最終報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自らの研究の成果をレジュメにまとめ、修士論文を執筆する。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100%（研究内容や研究の成果を含む）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

公共経済学・応用計量経済学

<研究テーマ>

家計行動のミクロ計量分析

<主要研究業績>

(1) Niizeki, Takeshi, Junya Hamaaki, 2023+, “Do the self-employed underreport their income? Evidence from Japanese panel data,” *Journal of the Japanese and International Economies*, forthcoming.

(2) Hamaaki, Junya, Masahiro Hori, and Keiko Murata 2019, “The Intra-family Division of Bequests and Bequest Motives: Empirical Evidence from a Survey on Japanese Households,” *Journal of Population Economics*, Vol. 32, No. 1, pp. 309 – 346.

(3) 上野綾子・濱秋純哉, 2017年, 「2009年度介護報酬改定が介護従事者の賃金、労働時間、離職率に与えた影響」, 『医療経済研究』, Vol.29, No.1, 33 – 57頁。

(4) Hamaaki, Junya, Masahiro Hori, Keiko Murata, 2014, “Intergenerational transfers and asset inequality in Japan: Empirical evidence from new survey data,” *Asian Economic Journal*, Vol.28(1), pp.41-62.

(5) Hamaaki, Junya, Masahiro Hori, Saeko Maeda, Keiko Murata, 2013, “How does the first job matter for an individual’s career life in Japan,” *Journal of the Japanese and International Economies*, Vol.29, pp.154-169.

【Outline (in English)】

(Course outline)

In this course students will obtain a more advanced knowledge and analytical method on writing a master’s thesis.

(Learning Objectives)

Students will proceed further on writing and revising the thesis, and make an overall report. Students will continue revising and finish writing the first draft of the thesis.

(Learning activities outside of classroom)

Students are required to write a master’s thesis by summarizing the results of their own research in a resume.

(Grading Criteria/Policy)

100% of the usual performance score (including the content and results of the research)

ECN603C1-2

修士ワークショップB

濱秋 純哉

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

個別指導や秋学期ワークショップ報告を通じて、修士論文を完成させる。

【到達目標】

論文の最終調整を行い、学位論文としての修士論文を完成させる。ワークショップ報告では、修士論文の分析結果を報告し、分析手法の適切さ、結果の解釈の妥当性、当該分野における自身の論文の位置づけなどを再確認する。より詳細な到達目標は「経済学研究科学位論文審査基準」を参照のこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

「ワークショップ」に向けた各自修士論文の研究内容の報告及び「ワークショップ」で受けたコメント等を反映した研究手法、結果、論文構成などの改訂には、指導教員が各自の報告に対して個別指導を行う。さらに、講義「論文指導ⅡB」と併せて指導が行われる。本講義の核となる「ワークショップ」は、発表する大学院生が、指導教員だけでなく、他の教員からも研究上のアドバイスを受け、また同じ大学院生から質疑や批判、助言を受けることによって、より優れた修士論文を執筆するための一助とする科目である。聞き手の大学院生にとっては、発表者が、どのような問題に関心を持ち、どのような方法で研究に取り組んでいるかを知る機会になる。修士論文執筆は、最終的にはそれぞれが自らの研究テーマに取り組む個別の作業になるが、「ワークショップ」は同じ境遇にある院生同士で、研究の技法や様々な情報を交換し合い、相互に研鑽をつむ機会を提供する。

「ワークショップ」は、今年度、修士論文の提出を考えている院生（修士1年次に修士課程修了を目指す方を含む）が履修するが、それ以外の修士課程大学院生のみならず、博士後期課程の大学院生にも参加を奨励する。修士課程在籍者は発表者の研究を理解することによって自らの研究テーマの選び方、研究の進め方に大きなヒントを得ることが出来る。

また既に博士後期課程に進んでいる大学院生にとっては、自らの修士論文執筆の経験を踏まえてアドバイスすることによって、自らの研究者としての資質を高めることにも役立つ。

授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	修士論文の研究報告①	ワークショップ報告に向けた修士論文の研究報告を行う
第2回	修士論文の研究報告②	ワークショップ報告に向けた修士論文の研究報告を行う
第3回	修士論文の研究報告③	ワークショップ報告に向けた修士論文の研究報告を行う
第4回	ワークショップの準備①	修士ワークショップでの発表に向けた準備を行う。
第5回	ワークショップの準備②	修士ワークショップでの発表に向けた準備を行う。
第6回	修士論文最終発表（第2回修士ワークショップ）	修士論文執筆者全員が、修士論文に関して「最終発表」を行う。12月上旬を予定。
第7回	ワークショップの反省	修士ワークショップで指摘された論点をまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

修士論文の作成のための日常的な研究と執筆活動を行う。最終発表の準備と、事後の論点整理と修士論文へのフィードバックの作業を行う。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100%（ワークショップ報告およびコメントシートの内容も含む）

【学生の意見等からの気づき】

特にないが、各発表セッションでの報告論文の配置と教員複数の参加を工夫する。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

公共経済学・応用計量経済学

<研究テーマ>

家計行動のミクロ計量分析

<主要研究業績>

(1) Niizeki, Takeshi, Junya Hamaaki, 2023+, “Do the self-employed underreport their income? Evidence from Japanese panel data,” *Journal of the Japanese and International Economies*, forthcoming.

(2) Hamaaki, Junya, Masahiro Hori, and Keiko Murata 2019, “The Intra-family Division of Bequests and Bequest Motives: Empirical Evidence from a Survey on Japanese Households,” *Journal of Population Economics*, Vol. 32, No. 1, pp. 309 – 346.

(3) 上野綾子・濱秋純哉, 2017年, 「2009年度介護報酬改定が介護従事者の賃金、労働時間、離職率に与えた影響」, 『医療経済研究』, Vol.29, No.1, 33 – 57頁。

(4) Hamaaki, Junya, Masahiro Hori, Keiko Murata, 2014, “Intergenerational transfers and asset inequality in Japan: Empirical evidence from new survey data,” *Asian Economic Journal*, Vol.28(1), pp.41-62.

(5) Hamaaki, Junya, Masahiro Hori, Saeko Maeda, Keiko Murata, 2013, “How does the first job matter for an individual’s career life in Japan,” *Journal of the Japanese and International Economies*, Vol.29, pp.154-169.

【Outline (in English)】

(Course outline)

In this course students will write and revise his/her master’s thesis through individual guidance and from the second workshop report.

(Learning Objectives)

Students will make final adjustments of the thesis and complete a thesis of master degree. In a workshop report, students will report the analysis results of the thesis and revalidate the adequacy of the analysis technique, the validity of the interpretation on the result, and the valuation of his/her thesis in the field concerned. For further details on the Outline and Objectives, refer to the Evaluation Criteria for Master’s Thesis and Ph.D. Dissertation of Graduate School of Economics.

(Learning activities outside of classroom)

Carry out daily research and writing activities for the preparation of the master’s thesis. Prepare for the interim report and work on the post-event discussion and feedback to the master’s thesis.

(Grading Criteria /Policy)

100% of the normal score (including workshop presentation and comments)

ECN602C1-1

論文指導Ⅱ A

杉浦 未樹

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆についての高度な知識や分析手法を習得し、修士論文の端緒となる研究報告を行う。

【到達目標】

研究テーマに関わる文献のサーベイを行うとともに、修士論文全体のアウトラインを設定し、そのうちの一部について第1稿を作成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

主に演習形式とする。先行研究のサーベイや研究結果の報告を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	修士論文について	学位論文としての修士論文
第2回	先行研究と自らの研究を比較検討①	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第3回	先行研究と自らの研究を比較検討②	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第4回	先行研究と自らの研究を比較検討③	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第5回	先行研究と自らの研究を比較検討④	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第6回	研究テーマ、分析方法の再検討	教員や他の院生・研究者の指摘に基づき改善点をまとめる
第7回	まとめ	春学期の成果をまとめ、夏期休暇中の研究予定をまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

先行研究と自らの研究を比較しつつ、問題意識、分析方法、結果（発見と含蓄）についてレジюмеにする。また、修士論文に向けた自らの問題意識と分析方法についての研究ノートの作成。修士論文の執筆。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100%（研究内容や研究の成果を含む）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

世界経済史、

<研究テーマ>

18～20 世紀の繊維品の発展と世界的流通

都市における商品流通と地域ネットワークの形成

女性と財産形成

<主要研究業績>

The urban logistic network. Cities, transport and distribution in Europe from the Middle Ages to the Modern Times (共編著) Palgrave, 2019; 'The Mass consumption of refashioned clothes: Re-dyed kimono in post war Japan' in Business History,61-1; 'Coolies' Hats. Chinese Coolie Hats: Global Dialogues on a Sign of Servitude, c. 1840-1940', C.Breward,B.Lemire, G.Riello eds., The Cambridge History of Fashion , Cambridge UP, 2022.

【Outline (in English)】

(Course outline)

In this course students will acquire advanced knowledge and analytical method on writing a master's thesis, and make a research report that can be the base of a thesis.

(Learning Objectives)

Students will make an overall outline of a thesis by conducting a survey on his/her research theme, and start writing a first draft of the thesis.

(Learning activities outside of classroom)

While comparing your own research with previous research, write a resume of your problem consciousness, analysis method, and results (findings and implications). Students will also prepare research notes on their own problem consciousness and analytical methods for their master's thesis. Writing the master's thesis.

(Grading Criteria /Policy)

100% of the usual performance score (including the content and results of the research)

ECN602C1-2

論文指導Ⅱ B

杉浦 未樹

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆についてのより高度な知識や分析手法を習得し、修士論文の執筆・改訂をさらに進め、全体を見据えた研究報告を行う。

【到達目標】

すでに第1稿を作成済の部分についての改訂を進めるとともに、論文全体についての第1稿を作成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

主に演習形式とする。先行研究のサーベイや研究結果の報告を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	これまでの研究のまとめ	夏期休暇中の研究成果の報告
第2回	修士論文の研究報告①	修士論文にむけた研究報告を行う
第3回	修士論文の研究報告②	修士論文にむけた研究報告を行う
第4回	修士論文の研究報告③	修士論文にむけた研究報告を行う
第5回	修士論文の研究報告④	修士論文にむけた研究報告を行う
第6回	修士論文の仕上げ	修士論文の改善点をまとめて論文を仕上げる
第7回	修士論文最終報告	修士論文提出（前または後）の最終報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自らの研究の成果をレジュメにまとめ、修士論文を執筆する。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100%（研究内容や研究の成果を含む）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

世界経済史、

<研究テーマ>

18～20世紀の繊維品の発展と世界的流通

都市における商品流通と地域ネットワークの形成

女性と財産形成

<主要研究業績>

The urban logistic network. Cities, transport and distribution in Europe from the Middle Ages to the Modern Times (共編著) Palgrave, 2019; 'The Mass consumption of refashioned clothes: Re-dyed kimono in post war Japan' in Business History,61-1; 'Coolies' Hats. Chinese Coolie Hats: Global Dialogues on a Sign of Servitude, c. 1840-1940', C.Breward,B.Lemire, G.Riello eds., The Cambridge History of Fashion , Cambridge UP, 2022.

【Outline (in English)】

(Course outline)

In this course students will obtain a more advanced knowledge and analytical method on writing a master's thesis.

(Learning Objectives)

Students will proceed further on writing and revising the thesis, and make an overall report. Students will continue revising and finish writing the first draft of the thesis.

(Learning activities outside of classroom)

Students are required to write a master's thesis by summarizing the results of their own research in a resume.

(Grading Criteria /Policy)

100% of the usual performance score (including the content and results of the research)

ECN522C1-1

応用マクロ経済学 D A

八木橋 毅司

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

最適化理論（家計の効用最大化、企業の利潤最大化）に基づいた動学的一般均衡モデルを大学院での国際標準とされるテキストを用いて学ぶ

【到達目標】

大学院レベルのマクロ経済学で最も重要な手法である動学モデルの基本的な解法を理解し、学術論文を執筆するための基礎知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期Ⅱ期に開講しますが、秋学期の「マクロ経済学A」の知識は前提としません。アメリカの大学院でも修士学生が勉強している標準的なテキストである Romer (2018) の 2 章、6 章、および 7 章に沿って講義します。数式によるモデルの分析とともに、現実の経済への応用や実証分析の紹介も行います。授業形態については対面講義を原則としますが、希望者にはハイフレックス形式でのオンライン受講を認めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業のガイダンス/名目硬直性	オリエンテーション、Matlab の紹介、貨幣と産出量の関係性、ベクトル自己回帰モデル
第 2 回	名目硬直性	ベクトル自己回帰モデル（続き）
第 3 回	名目硬直性	貨幣保有と総需要、不完全競争と総供給
第 4 回	名目硬直性/DSGE モデルの紹介	演習、DSGE モデルの基本的フレームワーク
第 5 回	DSGE モデルの紹介/世代重複モデル	DSGE モデルの基本的フレームワーク（続き）、世代重複モデルの概要
第 6 回	世代重複モデル	世代重複モデルにおける動学的非効率性、演習
第 7 回	学生発表	学生発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 4 時間を標準とします

【テキスト（教科書）】

David Romer, Advanced Macroeconomics, 5th edition, McGraw-Hill Irwin, 2018

【参考書】

進見「動学マクロ経済学へのいざない」、2020 年
G. マンキュー（著）『マクロ経済学 1：入門編』東洋経済新報社、2017 年
G. マンキュー（著）『マクロ経済学 2：応用編』東洋経済新報社、2017 年

【成績評価の方法と基準】

学生発表 50 %、課題 40%、クラス参加 10%

【学生の意見等からの気づき】

初年度につき特になし

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン、タブレット、スマホのいずれかを常時持参してください。

【担当教員の専門分野等】

詳しくは下記ウェブサイトをご覧ください

<https://sites.google.com/site/takeshiyagihashi/>

【主要業績】

"Intertemporal Elasticity of Substitution with Leisure Margin" (with Juan Du), forthcoming in Review of Economics of the Household

"How Do the Trans-Pacific Economies Affect the US? An Industrial Sector Approach" (with David Selover), Oct. 2017, The World Economy, 40(10), 2097-2124.

"Goods-Time Elasticity of Substitution in Health Production" (with Juan Du), Oct. 2017, Health Economics, 26(11), 1474-1478.

"Health Care Inflation and Its Implication for Monetary Policy" (with Juan Du), Mar. 2015, Economic Inquiry, 53(3), 1556-1579.

"Estimating Taylor Rules in a Credit Channel Environment," Dec. 2011, North American Journal of Economics and Finance, 22(3), 344-364.

"Are DSGE Approximating Models Invariant to Shifts in Policy?" (with Timothy Cogley) Jan. 2010, The B.E. Journal of Macroeconomics, 10(1) (Contribution), Article 27, 1-31.

【Outline (in English)】

Students learn the basic methods of advanced macroeconomics using international standard textbooks in graduate school. At the end of this course, students are expected to understand the applied Dynamic General Equilibrium model.

【Learning Activities Outside of Classroom】

Four hours preview/four hours review per class

【Grading Criteria/Policy】

Student presentation: 50%, Assignment: 40%, Class Participation: 10%

ECN522C1-2

応用マクロ経済学 D B

連見 亮

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、経済政策の現場では、「新しいケインジアンマクロ経済モデル」を念頭に置いて議論する方向にあります。この授業では、トピックを絞った上で最適化理論（家計の効用最大化、企業の利潤最大化）に基づくマクロ経済学の考え方を学んでいきます。

数式を使った解説がメインになりますが、それぞれの変数の持つ意味がイメージできれば、図のみに頼るよりもかえって理解がはかどるはずです（全くの数式アレルギーの人には薦められませんが）。網羅的な説明は目標としないので、極力やさしく丁寧に解説します。理解を深めるために、必要に応じてコンピュータによる数値計算などの結果も示します。

例えば学生が経済政策の立案者となったとき、適切な提言をするための知識を習得すること、あるいは将来企業の企画立案者や経営者となったとき、企業経営に関する重要な意思決定する際の判断の基礎とすべき基本的な概念と考え方を習得することを目的とします。

【到達目標】

分析目的に応じた独自のモデルを構築し、高度な政策分析を行えるようになることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

輪読形式（学生に担当箇所を割り振り、説明してもらう）とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1.	イントロダクション	マクロ経済モデルの基本的な考え方
2.	ソローモデル（1）	経済成長、生産関数、資本ストックの蓄積、消費と投資のトレードオフ
3.	数学の準備	指数関数・対数関数、偏微分、テイラー展開
4.	ソローモデル（2）	定常状態の計算、成長会計
5.	ラムゼイモデル（1）	効用関数
6.	ラムゼイモデル（2）	ラグランジュの未定乗数法、オイラー方程式の導出
7.	ラムゼイモデル（3）	定常状態への経路の計算
8.	税制モデル	税制の変更シミュレーション
9.	RBC モデル（1）	技術ショック、労働供給の内生化
10.	RBC モデル（2）	技術ショックに対するインパルス応答、景気循環
11.	ニューケインジアン・モデル（1）	独占的競争モデル
12.	ニューケインジアン・モデル（2）	ニューケインジアン・フィリップス曲線、IS 曲線
13.	ニューケインジアン・モデル（3）	解の存在条件、最適金融政策
14.	まとめと復習	講義を振り返り、最適化理論に基づくマクロ経済学の体系を確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中にも解説しますが、高校数学程度の指数関数・対数関数、微分・積分、数列を復習しておいてください。また、余力があれば、極限、自然対数、 e （ネイピア数）を予習しておいてください。週3時間程度の準備学習・復習が単位認定の目安となります。

【テキスト（教科書）】

連見 亮（著）『動学マクロ経済学へのいざない』、日本評論社、2020年 必要に応じて授業支援システム経由で講義ノートを配布します。

【参考書】

特になし（授業中に指示します）。

【成績評価の方法と基準】

平常点20%、割り当てた輪読箇所のプレゼンテーション80%の配点で成績評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につき該当なし。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン講義につき、機材（PC、タブレット等）・ネットワーク環境が必要です。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>
マクロ経済学、計量経済学（ベイズ統計学）
<研究テーマ>
マクロ経済モデルによるシミュレーション分析
<主要研究業績>

Ono, Arito, Ryo Hasumi, and Hideaki Hirata, “Differentiated use of small business credit scoring by relationship lenders and transactional lenders: Evidence from firm-bank matched data in Japan”, *Journal of Banking & Finance* 42, 371-380, 2014.

Hasumi, Ryo and Hideaki Hirata, “Small Business Credit Scoring and Its Pitfalls: Evidence from Japan”, *Journal of Small Business Management* 52, 555-568, 2014.

Hasumi, Ryo, Hirokuni Iiboshi, and Daisuke Nakamura, “Trends, Cycles and Lost Decades – Decomposition from a DSGE Model with Endogenous Growth”, *Japan & The World Economy* 46, 9-28, 2018.

Hasumi, Ryo, Hirokuni Iiboshi, Tatsuyoshi Matsumae, and Daisuke Nakamura. “Does a Financial Accelerator Improve Forecasts during Financial Crises?: Evidence From Japan with Prediction-pool Methods”, *Journal of Asian Economics*, 60, 45-68, 2019.

【Outline (in English)】 (Course outline)

In recent years, macroeconomic policy has often been discussed in line with New Keynesian macroeconomic models. In this class, students will learn a macroeconomic theory based on optimization, which includes utility maximization of households and profit maximization of firms.

(Learning Objectives)

The objective of this course is that students will be able to conduct policy analysis using applied models based on an understanding of the basic concepts of macroeconomics.

(Learning activities outside of classroom)

Approximately three hours of preparatory study and review per week is required for credit.

(Grading Criteria /Policy)

Grading will be based on class participation (40%) and presentation of assigned readings (60%).

ECN521C1-1

応用ミクロ経済学 D A

鈴木 豊

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「契約理論（Contract Theory）について体系的に学ぶ。
 (I) 不確実性と情報の経済学：「情報の経済学」の基礎
 (II) プリンシパル=エージェントの理論:モラルハザード
 (III) プリンシパル=エージェントの理論:アドバースセレクション
 (IV) 不完備契約（Incomplete Contracts）と企業理論

【到達目標】

受講生は、「契約理論」の考え方・分析の仕方を体系的に修得し、「応用ミクロ分析」等に積極的に活用して、博士論文研究に生かしていくことが期待される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

教科書『完全理解ゲーム理論・契約理論 第2版』（9章～12章）を基本の流れとして進める。授業の中で、より高度なレジュメや参考資料の配布、参考文献の指示等を行う。リアクションペーパーと課題提出の積み重ねが重要となる。授業の詳細の指示や課題等へのフィードバックは、「教室」と「学習支援システム」を組み合わせで行う。授業形態は、基本、対面授業とするが、「Zoom 動画」などの資産も有効活用していきたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	不確実性と情報の経済学①基礎	期待効用最大化仮説、リスク態度、リスクプレミアム、期待効用最大化とその使い方
第2回	不確実性と情報の経済学②応用	期待効用最大化と最適化の1階条件、ポートフォリオセレクションとその応用、リスク分散
第3回	プリンシパル・エージェントの理論：モラルハザード①	エージェンシー理論の導入、固定給とモラルハザード、歩合給とインセンティブ効果。数値モデルによる分析。
第4回	モラルハザード②	簡単なエージェンシーモデルの解（リスク中立のエージェント）、インセンティブスキームの直観的説明
第5回	モラルハザード③	インセンティブ契約の数学モデル（リスク回避のエージェント）、いくつかのモデリング。
第6回	複数エージェントの理論①	チーム生産①フリーライダー問題を解決する仕組み。ペナルティスキームなど。
第7回	複数エージェントの理論②	トーナメントの理論と応用。オークション理論との比較など。
第8回	プリンシパル・エージェントの理論：アドバース・セレクション①	逆選抜 (Adverse Selection) : 基礎編
第9回	アドバース・セレクション②	逆選抜を解決する仕組みとしての自己選抜メカニズム①導入
第10回	アドバース・セレクション③	自己選抜メカニズム②応用と展開

第11回 不完備契約①

関係特殊的投資とホールドアップ問題：概念と基本モデル、一般化と外部機会の存在

第12回 不完備契約②

「資産所有（財産権）」アプローチ
 ① Grossman=Hart=Moore モデル、残余コントロール権の配分と企業の境界の決定

第13回 不完備契約③

組織における権限配分、権限委譲について。Aghion=Tirole1997のモデルなど。

第14回 その他のトピックス

関係的契約、行動契約理論などの解説。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容（授業ノート）や配布資料とともに、重要な原論文あるいは理論モデルもその都度フォローしていくこと。詳細は授業内で指示する、または受講者の関心からの質問に応える。本授業の予習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

鈴木豊『完全理解 ゲーム理論・契約理論 第2版』勁草書房 2021（9章～12章）を基本の流れとし、授業の中で、レジュメや参考資料の配布、参考文献の指示を行う。

【参考書】

- ① マクミラン『経営戦略のゲーム理論』（伊藤、林田訳）有斐閣
- ② ミルグロム+ロバーツ『組織の経済学』（奥野、伊藤他訳）NTT出版
- ③ ラジャー『人事と組織の経済学』（樋口、清家訳）日本経済新聞社
- ④ オリバー・ハート『企業契約 金融構造』（鳥居訳）慶応大学出版会 2010
- ⑤ Bolton and Dewatripont, Contract Theory, MIT Press
- ⑥ 鈴木豊（編）『ガバナンスの比較セクター分析：ゲーム理論・契約理論を用いた学際的アプローチ』法政大学出版局 2010年
- ⑦ 鈴木豊『中国経済の制度分析：契約理論・ゲーム理論アプローチ』日本評論社 2020年

【成績評価の方法と基準】

レポート（練習問題）（3回）（70%）。リアクションペーパーの積み重ね（5%）。下記の教科書・参考文献から、興味を持った箇所を選んで、小エッセイ（レポート）を書く（25%）。詳細は授業で指示する。

1. 鈴木豊『完全理解 ゲーム理論・契約理論 第2版』勁草書房（9章～12章）
2. 鈴木豊『中国経済の制度分析：契約理論・ゲーム理論アプローチ』日本評論社
3. 鈴木豊（編）『ガバナンスの比較セクター分析：ゲーム理論・契約理論を用いた学際的アプローチ』法政大学出版局

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は担当していないので、該当せず。

【担当教員の専門分野等】

<https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/15/0001407/profile.html>を参照のこと。

【Outline (in English)】

Students will systematically study Contract Theory.

- (I) Uncertainty and Economics of Information
- (II) Principal = Agent Theory: Moral Hazard
- (III) Principal = Agent Theory: Adverse Selection
- (IV) Theory of Incomplete Contracts

Before/after each lecture, students will be expected to spend four hours to understand the content. Grading is based on Three Assignments (Problem Sets as Homework)(70%), Reaction Papers (5%), and a Final (Short) Essay (25%).

ECN521C1-2

応用ミクロ経済学 D B

佐柄 信純

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ミクロ経済学 B で扱えなかった応用分野の問題を題材を厳選して講義します。顕示選好理論、労働市場、異時点間の意思決定、不確実性下の意思決定、協力ゲームの理論などを扱います。

【到達目標】

ミクロ経済学でモデル化されていない経済現象や応用問題を明確に意識し、どのように理論を拡充する必要があるかを、自分の頭で考え、研究を進められるようになることを最終目標にします。受講者には学術論文の執筆が求められます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

教科書は使用せず、講義ノートにもとづき授業を進めます。必要に応じて、問題演習を行います。初等的な微積分、線形代数にある程度習熟していることを前提にします。これらの予備知識が不足している受講者は、事前に必要な数学を独習した上で受講して下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	顕示選好理論 (1)	顕示選好の弱公準
第 2 回	顕示選好理論 (2)	顕示選好と価格指数
第 3 回	労働市場の分析 (1)	効用最大化と労働需要
第 4 回	労働市場の分析 (2)	利潤最大化と労働供給
第 5 回	労働市場の分析 (3)	賃金の決定と非自発的失業
第 6 回	異時点間の意思決定 (1)	2 期間モデル
第 7 回	異時点間の意思決定 (2)	世代重複と景気循環
第 8 回	異時点間の意思決定 (3)	公債発行と財政政策
第 9 回	不確実性下の意思決定 (1)	期待効用と危険に対する態度
第 10 回	不確実性下の意思決定 (2)	資産選択, 保険, モラル・ハザード
第 11 回	不確実性下の意思決定 (3)	情報の非対称性と逆選択
第 12 回	不確実性下の意思決定 (4)	教育とシグナリング
第 13 回	協力ゲーム (2)	譲渡可能効用ゲーム, 譲渡不可能効用ゲーム
第 14 回	協力ゲーム (2)	市場ゲームのコア

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

開講時にリーディング・リストを提示する。

【成績評価の方法と基準】

受講者は講義の最後に演習問題を解き、毎回それを提出することで平常点が与えられます。最終講義に試験を行います。平常点 (30%)、試験 (70%) の総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解度に合わせて授業の進行スピードを調整します。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 函数解析学, 最適制御理論

<研究テーマ> 一般均衡理論, 協力ゲーム理論, 最適成長理論, 数理マルクス経済学

<主要研究業績>

[1] "Fuzzy core equivalence in large economies: A role for the infinite-dimensional Lyapunov theorem", (2022). Joint with M. Ali Khan, *Communications in Economics and Mathematical Sciences* 1, 1-8.

[2] "Value functions and optimality conditions for nonconvex variational problems with an infinite horizon in Banach spaces", (2022). Joint with H elene Frankowska, *Mathematics of Operations Research* 47(1), 320-340.

[3] "Optimality conditions for nonconvex variational problems with integral constraints in Banach spaces", (2020). *Journal of Convex Analysis* 27(2), 567-583.

【Outline (in English)】

Course outline. In this course several topics of applied microeconomics are lectured. Revealed preferences, utility maximization and labor supply, intertemporal decisions, decisions under uncertainty, cooperative games are the main theme.

Learning Objectives. The goal of this course is to study various applications of microeconomics to illustrate the power of economic theory. Students are required to develop their research program and write an academic paper on their own. Learning activities outside of classroom. Students will be expected to have completed the required assignments before and after each class. Your study time will be more than four hours for a class.

Grading Criteria/Policy. Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term end examination: 70% and in class contribution: 30%.

ECN542C1-2

金融ファイナンス論 D B

胥 鵬

備考（履修条件等）：（2021 年度以降入学者用）

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

金融ファイナンス理論は、リスクに始まりリスクに終わる。しかし、リスクの定義とはなんだろうか？ リスクの定義の出発点として、収益率のばらつきを表す標準偏差から出発し、二つの銘柄の株式投資収益率の相関と分散投資を中心に講義をする。その上で、リスク資産から有効ポートフォリオ・フロンティアを導く。さらに、安全資産についてわかりやすく解説し、安全資産を含む資本市場線と証券市場線の考え方をを用いて均衡におけるリスクの定義及びリスクとリターンとの関係を説明する。

【到達目標】

緊急事態宣言を受けて、航空会社、観光旅行会社、飲食関連会社の株価が大きく変動する。日々の株価を用いて、金融・ファイナンスだけではなく、様々な経済政策を研究することが可能である。この授業は金融ファイナンスの基礎理論を紹介し、とりわけ、株式投資のリターンとリスクとの関係に関する理論分析を理解することを目的とする。学生には、日々の株価変動の背後にある個別リスクとシステマチック・リスクの意味について考え、経済研究への応用を理解してもらうことをめざす。博士課程受講生は、株価データを用いて、イベントスタディーを応用して論文を書くことを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、パソコンなどで自分のために自分の手で自分の問題を解くことによって講義内容をマスターします。さらに、FQ などの学内データベースの活用方法を紹介します。修士論文作成へのステップアップを目指す。

原則として対面授業を実施する。学生諸君が各自にダウンロードしたデータや資料に基づく活発な議論や実証分析を行い、学生諸君が提示した具体例を取り上げつつ、学生参加による学生のための授業を進める。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	景気・業況・金利の変動と株価	日々の株価の変動、リスクとリターン
2	投資のリターンとは何か？	期待投資収益率はリターン
3	リスクとは何か？	投資収益率のばらつきはリスク
4	二株を追う者は何を求める？	2 銘柄の分散投資の収益率
5	2 銘柄の分散投資からの拡張	複数銘柄の分散投資
6	リスクとリターンのトレードオフ	危険資産からなる有効ポートフォリオ・フロンティア
7	資本市場線	安全資産の導入
8	証券市場線	安全資産を含む有効ポートフォリオ・フロンティア
9	β の導出	個別銘柄株式のリスク
10	マーケット・モデル	個別銘柄株式のリスクの計測
11	株式相場の影響	株式増場の影響を除いた異常収益率の計算

12	イベント・スタディー	利益・配当・政策などの変動の株価に対する効果を計測する分析手法
13	データ収集	株価データを収集する
14	仮説検定	集計した異常収益率に基づいて経済学・金融・ファイナンスの様々な仮説を検証する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

簡単な予習はもちろん、理解できない点については必ず復習してください。宿題や課題を通じて自分の理解を深めましょう。留学生は必ず日本語システムのパソコンとエクセルを使用してください。準備学習・復習・宿題などの授業時間外学習は各 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

斉藤誠 『金融技術の考え方・使い方：リスクと流動性の経済分析』、有斐閣

『日本のコーポレートファイナンス—サーバイデータによる分析』花枝英樹、芹田敏夫、胥鵬、佐々木隆文、鈴木健嗣、佐々木寿記、白桃書房

【参考書】

必要に応じて、専門誌論文を授業支援システムにアップロードする。

【成績評価の方法と基準】

成績評価には、中間レポート (30%) と期末レポート (40%) はいずれも必須、授業活躍などの加点は 30 %。博士課程受講生は、株価データを用いて、イベントスタディーを応用して論文を書くことが必須。

【学生の意見等からの気づき】

他のテーマについてもリクエストに応じて適宜に取り上げる。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン持参。留学生は必ず日本語システムのパソコンとエクセルを使用してください。

【その他の重要事項】

米国のビジネススクールにまさるとも劣らぬ講義を皆様に届ける。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 企業金融（コーポレート・ファイナンス）、企業統治（コーポレート・ガバナンス）、法と経済学、不動産価格、中国経済 <研究テーマ> MBO、敵対的買収案と株式議決権行使、ホットマネー（熱銭）と中国の不動産価格

<主要研究業績>

『日本のコーポレートファイナンス—サーバイデータによる分析』花枝英樹、芹田敏夫、胥鵬、佐々木隆文、鈴木健嗣、佐々木寿記 (6,7 章) 白桃書房 2020 年

Strategic short selling around index additions: Evidence from the Nikkei 225 Index, Shiomi, Naoya, Takahashi, Hidetomo, Xu, Peng International Review of Finance 2020 年

Trading activities of short-sellers around index deletions: Evidence from the Nikkei 225 Hidetomo Takahashi and Peng Xu Journal of Financial Markets 27 132 - 146 2016

【Outline (in English)】

In this course, we learn basic monetary and finance theories. Finance theory begins and ends with risk. The goal of the course is to understand risks based on the Capital Asset Pricing Model and the method of event study. Students are expected to calculate abnormal return and test economic hypotheses. Before/after each class meeting, students will be expected to download the relevant data and documents. Your required study time is about one hour for each class meeting. The mid-term report (30%) and term end report (40%) are both required for grading, in addition to in class contribution (30%).

ECN542C1-2

金融システム論 D B

胥 鵬

備考（履修条件等）：（2020 年度以前入学者用）

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

金融ファイナンス理論は、リスクに始まりリスクに終わる。しかし、リスクの定義とはなんだろうか？ リスクの定義の出発点として、収益率のばらつきを表す標準偏差から出発し、二つの銘柄の株式投資収益率の相関と分散投資を中心に講義をする。その上で、リスク資産から有効ポートフォリオ・フロンティアを導く。さらに、安全資産についてわかりやすく解説し、安全資産を含む資本市場線と証券市場線の考え方をを用いて均衡におけるリスクの定義及びリスクとリターンとの関係を説明する。

【到達目標】

緊急事態宣言を受けて、航空会社、観光旅行会社、飲食関連会社の株価が大きく変動する。日々の株価を用いて、金融・ファイナンスだけではなく、様々な経済政策を研究することが可能である。この授業は金融ファイナンスの基礎理論を紹介し、とりわけ、株式投資のリターンとリスクとの関係に関する理論分析を理解することを目的とする。学生には、日々の株価変動の背後にある個別リスクとシステムチック・リスクの意味について考え、経済研究への応用を理解してもらうことをめざす。博士課程受講生は、株価データを用いて、イベントスタディーを応用して論文を書くことを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、パソコンなどで自分のために自分の手で自分の問題を解くことによって講義内容をマスターします。さらに、FQ などの学内データベースの活用方法を紹介します。修士論文作成へのステップアップを目指す。

原則として対面授業を実施する。学生諸君が各自にダウンロードしたデータや資料に基づく活発な議論や実証分析を行い、学生諸君が提示した具体例を取り上げつつ、学生参加による学生のための授業を進める。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	景気・業況・金利の変動と株価	日々の株価の変動、リスクとリターン
2	投資のリターンとは何か？	期待投資収益率はリターン
3	リスクとは何か？	投資収益率のばらつきはリスク
4	二株を追う者は何を求める？	2 銘柄の分散投資の収益率
5	2 銘柄の分散投資からの拡張	複数銘柄の分散投資
6	リスクとリターンのトレードオフ	危険資産からなる有効ポートフォリオ・フロンティア
7	資本市場線	安全資産の導入
8	証券市場線	安全資産を含む有効ポートフォリオ・フロンティア
9	β の導出	個別銘柄株式のリスク
10	マーケット・モデル	個別銘柄株式のリスクの計測
11	株式相場の影響	株式増場の影響を除いた異常収益率の計算

12	イベント・スタディー	利益・配当・政策などの変動の株価に対する効果を計測する分析手法
13	データ収集	株価データを収集する
14	仮説検定	集計した異常収益率に基づいて経済学・金融・ファイナンスの様々な仮説を検証する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

簡単な予習はもちろん、理解できない点については必ず復習してください。宿題や課題を通じて自分の理解を深めましょう。留学生は必ず日本語システムのパソコンとエクセルを使用してください。準備学習・復習・宿題などの授業時間外学習は各 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

斉藤誠 『金融技術の考え方・使い方：リスクと流動性の経済分析』、有斐閣

『日本のコーポレートファイナンス—サーバイデータによる分析』花枝英樹、芹田敏夫、胥鵬、佐々木隆文、鈴木健嗣、佐々木寿記、白桃書房

【参考書】

必要に応じて、専門誌論文を授業支援システムにアップロードする。

【成績評価の方法と基準】

成績評価には、中間レポート (30%) と期末レポート (40%) はいずれも必須、授業活躍などの加点は 30 %。博士課程受講生は、株価データを用いて、イベントスタディーを応用して論文を書くことが必須。

【学生の意見等からの気づき】

他のテーマについてもリクエストに応じて適宜に取り上げる。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン持参。留学生は必ず日本語システムのパソコンとエクセルを使用してください。

【その他の重要事項】

米国のビジネススクールにまさるとも劣らぬ講義を皆様に届ける。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 企業金融（コーポレート・ファイナンス）、企業統治（コーポレート・ガバナンス）、法と経済学、不動産価格、中国経済
<研究テーマ> MBO、敵対的買収案と株式議決権行使、ホットマネー（熱銭）と中国の不動産価格

<主要研究業績>

『日本のコーポレートファイナンス—サーバイデータによる分析』花枝英樹、芹田敏夫、胥鵬、佐々木隆文、鈴木健嗣、佐々木寿記 (6,7 章) 白桃書房 2020 年

Strategic short selling around index additions: Evidence from the Nikkei 225 Index, Shiomi, Naoya, Takahashi, Hidetomo, Xu, Peng International Review of Finance 2020 年

Trading activities of short-sellers around index deletions: Evidence from the Nikkei 225 Hidetomo Takahashi and Peng Xu Journal of Financial Markets 27 132 - 146 2016

【Outline (in English)】

In this course, we learn basic monetary and finance theories. Finance theory begins and ends with risk. The goal of the course is to understand risks based on the Capital Asset Pricing Model and the method of event study. Students are expected to calculate abnormal return and test economic hypotheses. Before/after each class meeting, students will be expected to download the relevant data and documents. Your required study time is about one hour for each class meeting. The mid-term report (30%) and term end report (40%) are both required for grading, in addition to in class contribution (30%).

ECN554C1-1

財政学 D A

小黒 一正

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

急速に進む少子高齢化や人口減少に伴い、財政や政治は様々な課題に直面している。そこで、本講義の前半では、財政規律と予算制度に関する主要論点を、後半は財政と政治に関する主要論点をテーマに取り上げる。

【到達目標】

財政に関連する主要論点や研究テーマ、理論モデルや分析手法を理解する。博士後期課程の研究に資するよう、より高い水準の考察や分析ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

- (1) 前半は、財政規律と予算制度に関する主要論点や研究テーマ、理論モデルや分析手法を理解する。
- (2) 後半は、財政と政治に関する主要論点や研究テーマ、理論モデルや分析手法を理解する。
- (3) 参加者に、参考文献の報告を求める。

【留意事項】

なお、新型コロナウイルス感染症拡大の影響に伴い、基本的に授業は Zoom 等の遠隔システムを利用して行う予定である。リンクは学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	財政規律と予算制度 (1)	ガイダンス
2	財政規律と予算制度 (2)	OECD 諸国の財政動向
3	財政規律と予算制度 (3)	財政赤字と予算制度①（財政赤字の政治経済学、予算・予算制度・予算マネジメント）
4	財政規律と予算制度 (4)	財政赤字と予算制度②（予算制度の分析）
5	財政規律と予算制度 (5)	日本の予算制度の問題①（財政悪化と財政再建の過程）
6	財政規律と予算制度 (6)	日本の予算制度の問題②（財政ルール、中期財政フレーム）
7	財政規律と予算制度 (7)	日本の予算制度の問題③（意思決定システム）
8	財政規律と予算制度 (8)	日本の予算制度の問題④（中央省庁等改革と予算編成過程）
9	財政規律と予算制度 (9)	OECD 主要国の予算制度改革①（アメリカ、イギリス、ニュージーランド）
10	財政規律と予算制度 (10)	OECD 主要国の予算制度改革②（オーストラリア、カナダ）
11	財政規律と予算制度 (11)	OECD 主要国の予算制度改革③（フランス、ドイツ、イタリア）
12	財政規律と予算制度 (12)	OECD 主要国の予算制度改革④（スウェーデン、オランダ）
13	財政規律と予算制度 (13)	予算制度の国際比較①（政治的コミットメント、財政ルール）
14	財政規律と予算制度 (14)	予算制度の国際比較②（中期財政フレーム、意思決定システム、予算・財政の透明性）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

参加者と相談して決めるが、現在のところ、以下を予定している。
田中秀明『財政規律と予算制度改革』日本評論社, 2011

【参考書】

- ① Philippe Aghion and Peter W. Howitt, The Economics of Growth, MIT Press, 2008
- ② Daron Acemoglu, Introduction To Modern Economic Growth, Princeton University Press, 2009
- ③ Walsh, Monetary Theory and Policy, MIT Press, 2010
- ④ Persson and Tabellini, Political Economics, MIT Press, 2002
- ⑤ Bernard Salani, The Economics of Taxation, MIT Press, 2011
- ⑥ 井堀利宏・土居丈朗『日本政治の経済分析』木鐸社, 1998
- ⑦ 井堀利宏『課税の理論』有斐閣, 2003
- ⑧ 山重慎二・加藤久和・小黒一正編『人口動態と政策: 経済学的アプローチへの招待』日本評論社, 2013

【成績評価の方法と基準】

授業内での報告（70%）+ レポート（30%）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

初回授業に必ず出席すること。
なお、大蔵省（現財務省）の行政官として様々な政策立案や執行に携わった経験等も踏まえて講義する。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>
財政学、公共経済学
<研究テーマ>
人口動態と政治経済の相互作用や世代間問題の分析
<主要研究業績>

- ① Child Benefit and Fiscal Burden in the Endogenous Fertility Setting, Economic Modelling, 44, 252-265, 2015
- ② Impact of Deflation on Real Interest rate of Government Bonds, The Economic Review, 64(2), 147-159, 2013
- ③ Demographic Change, Intergenerational Altruism, and Fiscal Policy - A Political Economy Approach -, Studies in Applied Economics, 6, 1-15, 2013
- ④ Ability transmission, endogenous fertility, and educational subsidy, Applied Economics, 45(17), 2469-2479, 2012

【Outline (in English)】

The primary goal of this course is to help you understand the features and the issues of relationship between Japanese fiscal system and demographic change. This will also help you to understand the future direction of Japanese fiscal reform at a much deeper level. The standard preparatory study and review time for this class is about 2 hours. Grading criteria /policy is evaluated by the regular report (70%) and the final report (30%).

ECN554C1-2

財政学 D B

小黒 一正

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

急速に進む少子高齢化や人口減少に伴い、財政や政治は様々な課題に直面している。そこで、本講義の前半では、財政規律と予算制度に関する主要論点を、後半は財政と政治に関する主要論点をテーマに取り上げる。

【到達目標】

財政に関連する主要論点や研究テーマ、理論モデルや分析手法を理解する。博士後期課程の研究に資するよう、より高い水準の考察や分析ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

(1) 前半は、財政規律と予算制度に関する主要論点や研究テーマ、理論モデルや分析手法を理解する。

(2) 後半は、財政と政治に関する主要論点や研究テーマ、理論モデルや分析手法を理解する。

(3) 参加者に、参考文献の報告を求める。

【留意事項】

なお、新型コロナウイルス感染症拡大の影響に伴い、基本的に授業は Zoom 等の遠隔システムを利用して行う予定である。リンクは学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	財政と政治 (1)	ガイダンス
2	財政と政治 (2)	選好と制度
3	財政と政治 (3)	選挙競争
4	財政と政治 (4)	利益団体
5	財政と政治 (5)	選挙ルールと選挙競争
6	財政と政治 (6)	制度と説明責任、政治レジーム
7	財政と政治 (7)	動学的政治問題
8	財政と政治 (8)	資本課税との関係
9	財政と政治 (9)	公的債務との関係
10	財政と政治 (10)	成長との関係
11	財政と政治 (11)	金融政策の信認
12	財政と政治 (12)	選挙サイクル
13	財政と政治 (13)	制度とインセンティブ
14	財政と政治 (14)	国際政治の調整

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

参加者と相談して決めるが、現在のところ、以下を予定している。
Persson and Tabellini, Political Economics, MIT Press, 2002

【参考書】

- ① Philippe Aghion and Peter W. Howitt, The Economics of Growth, MIT Press, 2008
- ② Daron Acemoglu, Introduction To Modern Economic Growth, Princeton University Press, 2009
- ③ Walsh, Monetary Theory and Policy, MIT Press, 2010
- ④ Persson and Tabellini, Political Economics, MIT Press, 2002
- ⑤ Bernard Salani, The Economics of Taxation, MIT Press, 2011
- ⑥ 井堀利宏・土居丈朗『日本政治の経済分析』木鐸社, 1998
- ⑦ 井堀利宏『課税の理論』有斐閣, 2003

⑧ 山重慎二・加藤久和・小黒一正編『人口動態と政策: 経済学的アプローチへの招待』日本評論社, 2013

【成績評価の方法と基準】

授業内での報告 (70 %) + レポート (30 %)

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

初回授業に必ず出席すること。

なお、大蔵省（現財務省）の行政官として様々な政策立案や執行に携わった経験等も踏まえて講義する。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

財政学、公共経済学

<研究テーマ>

人口動態と政治経済の相互作用や世代間問題の分析

<主要研究業績>

① Child Benefit and Fiscal Burden in the Endogenous Fertility Setting, Economic Modelling, 44, 252-265, 2015

② Impact of Deflation on Real Interest rate of Government Bonds, The Economic Review, 64(2), 147-159, 2013

③ Demographic Change, Intergenerational Altruism, and Fiscal Policy - A Political Economy Approach -, Studies in Applied Economics, 6, 1-15, 2013

④ Ability transmission, endogenous fertility, and educational subsidy, Applied Economics, 45(17), 2469-2479, 2012

【Outline (in English)】

The primary goal of this course is to help you understand the features and the issues of relationship between Japanese fiscal system and politics. This will also help you to understand the future direction of Japanese fiscal reform at a much deeper level. The standard preparatory study and review time for this class is about 2 hours. Grading criteria /policy is evaluated by the regular report (70%) and the final report (30%).

ECN566C1-1

地域経済論Ⅱ D A

馬 欣欣

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義ではマクロ経済の視点から中国経済成長の軌跡、計画経済から社会主義市場経済への体制移行のパターン、そして高度成長した現代中国経済の実態及び問題点を紹介したうえで、中国経済成長の要因およびメカニズムを様々な側面（経済発展、体制移行）から、理解してもらう。また日本や欧米などの先進国と比較し、中国経済成長のメカニズムおよび特徴を明確にする。新古典派経済理論、体制移行論、新制度経済学などの経済理論及びモデル、政府統計データおよび調査データに基づき、実証研究の手法を学習し、自ら実証研究を行い、地域経済の問題を研究できるスキルを身につけることを目的とする。

【到達目標】

地域経済に関しては、中国経済をケースにし、自らがマクロ経済学の諸理論やモデルに基づき、多様なデータを活用し、高度な実証研究を行い、中国経済成長のマクロ要因およびメカニズムを分析できる能力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

パワーポイント資料にもとづいて講義形式で行う。1回以上のリアルタイムオンライン実施。課題（レポート等）に対するフィードバックを行います。具体的には、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行い、また「学習支援システム」(Hoppii)を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義内容の概要を紹介し、講義の進め方などを説明する。
第2回	社会主義市場経済と体制移行	社会主義市場経済の概念、2つの移行パターンを理解する
第3回	体制移行と政府の役割	政府の役割について理解し、体制移行と政府役割に関する実証研究
第4回	所有制構造改革と経済成長	中国国有企業の所有制構造改革と経済成長に関する実証研究
第5回	アクティブラーニング	政府の役割、所有制構造と経済成長に関するグループディスカッション
第6回	経済発展（1）：二重経済構造モデル	都市労働市場の失業、農村過剰労働力、ルイスの二重構造モデルと経済転換点について理解する
第7回	経済発展（2）：経済転換点	経済転換点に関する実証研究：日中比較
第8回	経済発展（3）：人口転換理論	人口転換、高齢化と経済成長
第9回	対外貿易と外需依存型成長からの転換	輸出主導型経済成長、外資の役割、外資導入の国際比較
第10回	経済成長と所得格差（1）	経済成長と所得格差・貧困：経済理論と実証研究（1）
第11回	経済成長と所得格差（2）	経済成長と所得格差・貧困：経済理論と実証研究（2）
第12回	社会保障政策とその効果（1）	中国年金制度の改革とその効果に関する実証研究

第13回	社会保障政策とその効果（1）	中国医療保険制度の改革とその効果に関する実証研究
第14回	中国経済研究の展望と問題点	マクロレベルの視点から中国経済研究の展望と問題点をまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

地域経済に関連する他の科目（例えば、開発経済学、マクロ経済学、経済政策論など）を履修していない受講生は、それらの科目に関する教科書（中上級）あるいは概説書を事前に読んでおくこと。授業で使用する資料を事前に学習支援システムを通じてダウンロードし、各回の授業の内容を理解しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする

Students who have not taken other courses related to the Area Studies (e.g., development economics, macroeconomics, economic policy, etc.) should read the textbooks (middle- or high level) on those courses in advance. Download the learning materials in advance through the learning support system (Hoppii) and understand the content of each lesson. The standard time for preparation and review for each lesson is 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

特に指定しないが、毎回パワーポイントで作成した資料を、学習支援システムを通じてダウンロードしておくこと。

【参考書】

- 1.Ma, X. and Tang, C. (Eds.) (2022) Growth Mechanism and Sustainable Development of Chinese Economy: Comparison with Japanese Experiences. Palgrave Macmillan. ISBN: 978-981-19-3857-3
- 2.Ma, X. (2022) Public Medical Insurance Reform in China. Springer. ISBN: 978-981-16-7790-8
- 3.Ma, X. (Ed.) (2021) Employment, Retirement and Lifestyle in Aging East Asia. Palgrave Macmillan. ISBN: 978-981-16-0553-6
- 4.Cai, F. and Chen, F. (2020) China's Economic New Normal Growth, Structure, and Momentum. Springer. ISBN 978-981-15-3226-9
- 5.Pen, C., Yang, C., and Yang, X. (2020) The Basic Economic System of China. Springer. ISBN 978-981-13-6894-
- 6.加藤弘之・梶谷懐 編著（2016）『二重の罟を超えて進む中国型資本主義』、ミネルヴァ書房。

【成績評価の方法と基準】

1. 平常点（70%）
 2. 期末レポート（30%）
- 両者の組み合わせ：100%
1. Regular performance and homework (70%)
 2. Final academic report (30%)
- Combinations of both: 100%

【学生の意見等からの気づき】

パワーポイントの作成については工夫をしたい。また、適宜の質疑応答等、双方向的な講義の進行に努めたい。

【担当教員の専門分野等】

中国経済論、労働経済学、開発経済学

【研究テーマ】

1. 中国社会保障改革とその経済効果
2. 技術進歩が中国労働市場に与える影響
3. 経済成長、体制移行と経済格差

【主要研究業績】

- 1.Ma, X. and Tang, C. (Eds.) (2022) Growth Mechanism and Sustainable Development of Chinese Economy: Comparison with Japanese Experiences. Palgrave Macmillan. ISBN: 978-981-19-3857-3
- 2.Ma, X. (2022) Public Medical Insurance Reform in China. Springer. ISBN: 978-981-16-7790-8
- 3.Ma, X. (Ed.) (2021) Employment, Retirement and Lifestyle in Aging East Asia. Palgrave Macmillan. ISBN: 978-981-16-0553-6
- 4.Ma, X. (2022) "Internet Usage and Income Gaps between the Self-employed Individuals and Employees: Evidence from China," Review of Development Economics. <https://doi.org/10.1111/rode.12969>

5.Ma, X. (2022) "Parenthood and the Gender Wage Gap in Urban China," *Journal of Asian Economics*, 80:101479. <https://doi.org/10.1016/j.asieco.2022.101479>

6.Ma, X. (2018) "Labor Market Segmentation by Industry Sectors and Wage Gaps between Migrants and Local Urban Residents in Urban China" *China Economic Review*, 47, 96 – 115. <https://doi.org/10.1016/j.chieco.2017.11.007>

[Outline (in English)]

[Course outline]

The lecture introduces the process of China's economic growth, the pattern of the economy transition from a planned economy to a market-oriented economy, and issues in Chinese economy from a macroeconomic perspective. We will learn the determinants of economic growth and development from different sides (e.g., economic development, institutional transition), and understand the mechanisms and features of Chinese economy growth and development. Based on economic theories and models such as those in neoclassical economics, transition economics, and new institutional economics, as well as government statistical data and survey data, we will learn the empirical study methods. The lecture aims to develop the empirical study skills to take academic research on the area study issues.

[Learning Objectives]

The goal is to understand the situations and issues in economic growth and development from macro-economic perspective using the Chinese economy as a case study, and to develop the empirical study skills to analyze the issues in Chinese economy from macroeconomic perspective based on the theories in economics and the data from Chinese government statistical data sources and many kinds of academic surveys.

[Learning activities outside of classroom]

Students who have not taken other courses related to the Area Studies (e.g., development economics, macroeconomics, economic policy, etc.) should read the textbooks or introductions on those courses in advance. Download the learning materials in advance through the learning support system (Hoppii) and understand the content of each lesson. The standard time for preparation and review for each lesson is 2 hours each.

[Grading Criteria /Policy]

1. Regular performance and homework (70%)
2. Final examination (30%)

Combinations of both: 100%

ECN566C1-2

地域経済論Ⅱ D B

馬 欣欣

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義はミクロ経済の視点から中国の経済発展の要因を検討し、労働者・家計、企業、産業などの具体的な課題について、さまざまなデータ（たとえば、中国政府公表の統計データ、実態調査データ）を活用し、国有企業改革、企業イノベーション、産業構造転換、格差問題（例えば、都市と農村間の所得格差と社会保障格差）などについて考察し、ミクロレベルで中国経済の実態と問題点を検討する。新古典派経済理論、体制移行論、新制度経済学などの経済理論及ぶモデル、政府統計データおよび調査データに基づき、実証研究の手法を学習し、自ら実証研究を行い、地域経済の問題を研究できるスキルを身に付けることを目的とする。

【到達目標】

地域経済に関しては、中国経済をケースにし、自らがミクロ経済学の諸理論やモデルに基づき、多様なデータを活用し、高度な実証研究を行い、個人、家計、企業行動の諸要因およびメカニズムを分析できる能力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

パワーポイント資料にもとづいて講義形式で行う。1回以上のリアルタイムオンライン実施。課題（レポート等）に対するフィードバックを行います。具体的には、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行い、また「学習支援システム」(Hoppii)を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義内容の概要を紹介し、講義の進め方などを説明する。
第2回	国有企業の改革（1）	中国国有企業改革の原因とその効果分析
第3回	国有企業の改革（2）	国有と非国有企業のコーポレートガバナンスの差異と企業業績
第4回	農村改革（1）	土地制度、戸籍制度の改革とその効果分析
第5回	農村改革（2）	出稼ぎ就業と所得格差：理論と実証研究
第6回	アクティブラーニング	国有企業と農村改革の経済効果に関するグループディスカッション
第7回	経済発展と教育（1）	人的資本理論と中国教育収益率の計測
第8回	経済発展と教育（2）	中国大学拡張政策とその効果に関する実証研究
第9回	労働市場：雇用・賃金（1）	党员資格の賃金プレミアムの計測
第10回	労働市場：雇用・賃金（2）	技術進歩が雇用・賃金に与える影響に関する実証研究
第11回	社会保障と家計・個人行動（1）	中国社会保障の改革と家計消費に関する実証研究
第12回	社会保障と家計・個人行動（2）	中国社会保障政策の改革と労働供給に関する実証研究
第13回	所得格差とウェルビーイング	絶対所得と相対所得仮説、幸福経済学の実証研究

第14回 中国経済研究の展望と問題点
ミクロレベルの視点から中国経済研究の展望と問題点をまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

地域経済に関連する他の科目（例えば、開発経済学、ミクロ経済学、労働経済学、開発経済学など）を履修していない受講生は、それらの科目に関する教科書（中上級）を事前に読んでおくこと。授業で使用する資料を事前に学習支援システムを通じてダウンロードし、各回の授業の内容を理解しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする

Students who have not taken other courses related to the Area Studies (e.g., development economics, microeconomics, economic policy, etc.) should read the textbooks (middle- or high-level) on those courses in advance. Download the learning materials in advance through the learning support system (Hoppii) and understand the content of each lesson. The standard time for preparation and review for each lesson is 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

特に指定しないが、毎回パワーポイントで作成した資料を、学習支援システムを通じてダウンロードしておくこと。

【参考書】

- 1.Ma, X. and Tang, C. (Eds.) (2022) Growth Mechanism and Sustainable Development of Chinese Economy: Comparison with Japanese Experiences. Palgrave Macmillan. ISBN: 978-981-19-3857-3
- 2.Ma, X. (2022) Public Medical Insurance Reform in China. Springer. ISBN: 978-981-16-7790-8
- 3.Ma, X. (Ed.) (2021) Employment, Retirement and Lifestyle in Aging East Asia. Palgrave Macmillan. ISBN: 978-981-16-0553-6
- 4.Cai, F. and Chen, F. (2020) China's Economic New Normal Growth, Structure, and Momentum. Springer. ISBN 978-981-15-3226-9
- 5.Ma, X. (2018) Economic Transition and Labor Market Reform in China. Palgrave Macmillan. ISBN: 978-981-13-1987-7
6. 加藤弘之・梶谷懐 編著 (2016) 『二重の罫を越えて進む中国型資本主義』、ミネルヴァ書房。

【成績評価の方法と基準】

1. 平常点 (70%)
 2. 期末レポート (30%)
- 両者の組み合わせ：100%

1. Regular performance and homework (70%)
 2. Final academic report (30%)
- Combinations of both: 100%

【学生の意見等からの気づき】

パワーポイントの作成については工夫をしたい。また、適宜の質疑応答等、双方向的な講義の進行に努めたい。

【担当教員の専門分野等】

中国経済論、労働経済学、開発経済学

【研究テーマ】

1. 中国社会保障改革とその経済効果
2. 技術進歩が中国労働市場に与える影響
3. 経済発展、体制移行と経済格差

【主要研究業績】

- 1.Ma, X. and Tang, C. (Eds.) (2022) Growth Mechanism and Sustainable Development of Chinese Economy: Comparison with Japanese Experiences. Palgrave Macmillan. ISBN: 978-981-19-3857-3
- 2.Ma, X. (2022) Public Medical Insurance Reform in China. Springer. ISBN: 978-981-16-7790-8
- 3.Ma, X. (Ed.) (2021) Employment, Retirement and Lifestyle in Aging East Asia. Palgrave Macmillan. ISBN: 978-981-16-0553-6
- 4.Ma, X. (2022) "Internet Usage and Income Gaps between the Self-employed Individuals and Employees: Evidence from China," Review of Development Economics. <https://doi.org/10.1111/rode.12969>
- 5.Ma, X. (2022) "Parenthood and the Gender Wage Gap in Urban China," Journal of Asian Economics, 80:101479. <https://doi.org/10.1016/j.asieco.2022.101479>

6.Ma, X. (2018) “Labor Market Segmentation by Industry Sectors and Wage Gaps between Migrants and Local Urban Residents in Urban China” *China Economic Review*, 47, 96 – 115. <https://doi.org/10.1016/j.chieco.2017.11.007>

[Outline (in English)]

[Course outline]

The goal is to understand the situations and issues in economic growth and development from microeconomic perspective using the Chinese economy as a case study, and to develop the empirical study skills to analyze the determinants and mechanisms in behaviors of individuals, households and firms from microeconomic perspective based on the theories in economics and the data from government statistical data sources and many kinds of academic surveys.

[Learning Objectives]

The goal is to understand the situations and issues in economic growth and development from microeconomic perspective using the Chinese economy as a case study, and to develop the empirical study skills to analyze the determinants and mechanisms in behaviors of individuals, households and firms from microeconomic perspective based on the theories in economics and the data from government statistical data sources and many kinds of academic surveys.

[Learning activities outside of classroom]

Students who have not taken other courses related to the Area Studies (e.g., development economics, microeconomics, economic policy, etc.) should read the textbooks (middle- or high-level) on those courses in advance. Download the learning materials in advance through the learning support system (Hoppii) and understand the content of each lesson. The standard time for preparation and review for each lesson is 2 hours each.

[Grading Criteria /Policy]

1. Regular performance and homework (70%)

2. Final examination (30%)

Combinations of both: 100%

ECN523C1-1

統計学 D A

阿部 俊弘

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主として多変量解析の基本的手法に焦点を当て、データの例と分析手法を考えていきます。回帰モデルや統計的分布のパラメータ推定法をいくつかを調べ、最尤法を紹介します。統計学はデータを意識した学問であることから、統計的ソフトウェア R を用いたデータ分析手法も身に付け、実践力を付けていきます。

【到達目標】

回帰分析の概念を理解し、最小二乗法と最尤法によるパラメータ推定を理解する。また、多変量解析の手法や実データに対してどの統計手法を用いれば良いか理解する。博士後期課程の研究にも対応できるように、統計的ソフトウェアを使った実データ分析により、問題解決を考えていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を進め、R を用いた課題を提出します。また、Microsoft Word と Microsoft Excel も必要に応じて利用していきます。配布資料も用いながら講義を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の概要と準備	統計ソフト R について
第 2 回	回帰分析の概要	最小二乗法による回帰係数の推定
第 3 回	単回帰分析	区間推定と検定による検証
第 4 回	重回帰分析	単回帰分析の拡張
第 5 回	最尤法	最尤法によるパラメータ推定
第 6 回	様々な種類のデータの扱い	ダミー変数・モデル選択
第 7 回	正則化法に基づく回帰分析	リッジ回帰・Lasso
第 8 回	線形混合モデル	ランダム効果モデル
第 9 回	一般化線形混合モデル	切片がランダムである場合
第 10 回	統計的分類手法としての判別分析	判別分析の理論
第 11 回	判別分析を用いた評価	予測と誤判別率
第 12 回	判別分析とサポートベクターマシン	2 つの手法の比較
第 13 回	ロジスティック回帰モデルの理論	データの例とモデルの導入
第 14 回	ロジスティック回帰分析の実際	データを用いた分析と手法の比較

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

林 賢一（著）・下平 英寿（編集）(2020) 『R で学ぶ統計的データ解析（データサイエンス入門シリーズ）』
配布資料も用いながら講義を行う。

【参考書】

宮田庸一（著）(2012) 『統計学がよくわかる本』、アイケイコーポレーション

【成績評価の方法と基準】

通常の課題レポート（50%）と最終課題レポート（50%）を考慮し、総合的に判断します。

【学生の意見等からの気づき】

身の回りの現象との関連を見るために、実データを用いて理解を深めていきます。

【学生が準備すべき機器他】

・統計ソフトウェアの R を使用します。
・学習支援システムを利用します。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>統計科学

<研究テーマ>方向統計学・EM アルゴリズム

<主要研究業績>

[1] Abe, T. & Pewsey, A. (2011). Sine-skewed circular distributions. *Statistical Papers*, Springer, Volume 52, Number 3, August 2011, pp. 683-707.

[2] Abe, T., Pewsey, A. & Shimizu, K. (2013). Extending circular distributions through transformation of argument. *Annals of the Institute of Statistical Mathematics*, Springer, Volume 65, Issue 5, October 2013, pp. 833-858.

[3] Abe, T. (2015). Discussion: "On families of distributions with shape parameters". *International Statistical Review*, Wiley, Volume 83, Issue 2, September 2015, pp. 193-197.

[4] Abe, T. & Ley, C. (2017). A tractable, parsimonious and flexible model for cylindrical data, with applications. *Econometrics and Statistics*, Elsevier, Volume 4, October 2017, pp. 91-104.

[5] Abe, T., Fujisawa, H. & Kawashima, T. EM algorithm using overparameterization for multivariate skew-normal distribution, *Econometrics and Statistics*, Elsevier, Volume 19, July 2021, pp. 151-168.

【Outline (in English)】

【Outline and objectives】

In this course, we mainly focus on basic methods of multivariate analysis and consider the theory and its illustrative examples. We also investigate parameter estimation for probability distributions, and apply the method of maximum likelihood as statistical inference. In addition, we will use a popular statistical software R to investigate a behavior of the statistical model.

【Learning Objectives】

The students are expected to understand the concept of regression analysis and its parameter estimation by least squares method as well as method of maximum likelihood. They are also expected to learn fundamental statistical methods for multivariate analysis by making use of actual data sets.

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparatory study and review time for this class is about 2 hours.

【Grading Criteria /Policy】

Grading Criteria /Policy is evaluated by the Regular report (50%) and the final report(50%).

ECN523C1-2

統計学 D B

阿部 俊弘

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では前半は様々な多変量解析の手法を調査し、その手法の理論と実践を身に着けていきます。また、様々なところで耳にすることも多い「シミュレーション」は様々な状況で使われています。ここでは、疑似乱数を用いて解析的に解くことは難しいような問題に対して「真の解はどこにありそうなのか？」という解決法について取り組んでいきます。

【到達目標】

様々な多変量解析の概念を調査し、高度な手法を身に着けていく。また、統計的分布の疑似乱数の生成を行い、乱数を用いた予測を行う。博士後期課程の研究にも対応できるよう、乱数を用いたシミュレーションの実装をした問題解決を考えていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を進め、Rを用いた課題を提出します。また、Microsoft Word と Microsoft Excel も必要に応じて利用していきます。配布資料も用いながら講義を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	単純な規則に基づく判別モデル	決定木の考え方
第 2 回	決定木を用いたデータ解析	木の描画・あてはめ
第 3 回	主成分分析の理論	データの例と主成分分析の理論
第 4 回	主成分分析の適用	主成分分析の解釈
第 5 回	クラスター分析の理論	データの例とクラスター分析の理論
第 6 回	クラスター分析の応用	実データの群分けと解釈
第 7 回	クラスター分析に関する話題	クラスター分析の注意点
第 8 回	正準相関分析	データの例と理論の適用
第 9 回	ブートストラップ法の基本	リサンプリングとブートストラップ標本
第 10 回	ブートストラップ法の応用	ブートストラップ法の適用
第 11 回	シミュレーションのための準備	基本的なプログラミングコード
第 12 回	シミュレーションの実際	乱数を用いて統計学を実感する
第 13 回	歪対称分布	誤差項が非対称となるデータへの対応
第 14 回	まとめ	近年の統計的手法の紹介

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

林 賢一（著）・下平 英寿（編集）(2020) 『R で学ぶ統計的データ解析（データサイエンス入門シリーズ）』

【参考書】

宮田庸一（著）(2012) 『統計学がよくわかる本』、アイケイコーポレーション

永田靖・棟近雅彦（共著）(2001) 『多変量解析法入門』、サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

授業での平常点 (50%) と最終課題レポート (50%) を考慮し、総合的に判断します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

- ・統計ソフトウェアの R を使用します。
- ・レポート提出のために、Microsoft Word または TeX を使用します。
- ・学習支援システムを利用します。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>統計科学
<研究テーマ>方向統計学・EM アルゴリズム
<主要研究業績>

[1] Abe, T. & Pewsey, A. (2011). Sine-skewed circular distributions. *Statistical Papers*, Springer, Volume 52, Number 3, August 2011, pp. 683-707.

[2] Abe, T., Pewsey, A. & Shimizu, K. (2013). Extending circular distributions through transformation of argument. *Annals of the Institute of Statistical Mathematics*, Springer, Volume 65, Issue 5, October 2013, pp. 833-858.

[3] Abe, T. (2015). Discussion: "On families of distributions with shape parameters". *International Statistical Review*, Wiley, Volume 83, Issue 2, September 2015, pp. 193-197.

[4] Abe, T. & Ley, C. (2017). A tractable, parsimonious and flexible model for cylindrical data, with applications. *Econometrics and Statistics*, Elsevier, Volume 4, October 2017, pp. 91-104.

[5] Abe, T., Fujisawa, H. & Kawashima, T. EM algorithm using overparameterization for multivariate skew-normal distribution, *Econometrics and Statistics*, Elsevier, Volume 19, July 2021, pp. 151-168.

【Outline (in English)】

【Outline and objectives】

In this course, we introduce various illustrative examples and theory in multivariate analysis. The term "simulation", which is often heard in our real life, is used in various situations. As examples of that, we will tackle to a problem which is difficult to solve analytically. As a result, we will consider a solution to the problem "Where is the true solution?" by using pseudo-random numbers.

【Learning Objectives】

The students are expected to investigate various concepts of multivariate analysis and acquire advanced methods.

In addition, they are also expected to learn how to generate pseudo-random numbers from statistical distributions, and predict the phenomenon using them.

(Ph.D.)

For Ph.D. course students, we will consider illustrative examples by implementing simulated random numbers.

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparatory study and review time for this class is about 2 hours.

【Grading Criteria /Policy】

Grading Criteria /Policy is evaluated by the Regular report (50%) and the final report(50%).

ECN544C1-1

企業経済学 D A

砂田 充

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、産業組織論（Industrial Organization）・企業経済学（Business Economics）・競争政策の経済学（Antitrust Economics）の基本・応用モデルを学習する。特に価格差別、カルテル、合併および垂直的取引の様々なモデルについて学習する。また、関連する実証の先行研究についても受講者と議論する予定である。

【到達目標】

産業組織論・企業経済学・競争政策の経済学の基本・応用モデルを自ら構築・解析できる能力および実証の産業組織論の学術論文を読解する能力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

スライドと板書を使った講義形式がメイン。学生による報告を求める場合もある。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	オリエンテーション
第2回	産業組織論の基本概念	「産業」と「市場」/SCP分析/集中度
第3回	完全競争と経済厚生	厚生経済学の基本定理/完全競争均衡の最適性
第4回	独占市場	独占市場均衡と厚生/独占による厚生損失
第5回	寡占市場：数量競争①	推測的変動/製品差別化とクールノー競争
第6回	寡占市場：数量競争②	マーケットシェアの決定/市場構造と利益率/集中度と厚生
第7回	寡占市場：価格競争①	価格競争型寡占モデル/製品差別化とバルトラン競争
第8回	寡占市場：価格競争②	供給制約と価格競争/エッジワースの批判
第9回	寡占市場：価格競争③	生産能力決定と価格競争/バルトラン・パラドクス
第10回	寡占市場：価格競争④	参入阻止戦略
第11回	製品差別化①	垂直的差別化/水平的差別化/独占的競争
第12回	製品差別化②	Hotellingモデル/最小差別化定理
第13回	製品差別化③	最小差別化定理と最適価格/2段階モデルと最適解
第14回	まとめ	授業の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ミクロ経済学の基礎について復習を行うこと。また、基本的な数学（1次関数、2次関数、微分、積分、最適化、連立方程式等）について不安がある場合は、各自、事前に復習を行うこと。事前に配布される講義資料を使い十分な予習（2時間程度）を行ったうえで授業に臨み、講義後は復習（2時間程度）を行うこと。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

小田切宏之『新しい産業組織論：理論・実証・政策』（有斐閣、2001年）。
丸山雅祥『経営の経済学【新版】』（有斐閣、2011年）。

Belleflamme, P. and M. Peitz Industrial Organization: Markets and Strategies, Cambridge Univ. Press, 2010.

Besanko, D., D. Dranove, M. Shanley, and S. Shaefer Economics of Strategy, 6th edition, John Wiley & Sons, 2013.

Motta, M. Competition Policy: Theory and Practice, Cambridge Univ. Press, 2004.

Shy, O. Industrial Organization: Theory and Applications, MIT Press, 1996.

Tirole, J. The Theory of Industrial Organization, MIT Press, 1988.

【成績評価の方法と基準】

平常点（50～90%）、期末試験（10～50%）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

履修者の理解度を踏まえて内容を変更する場合があります。

【担当教員の専門分野等】

産業組織論・企業経済学・競争政策の経済学

【Outline (in English)】

This course is graduate-level introduction to industrial organization and managerial economics. The goal of this course is that students understand various models in the fields and acquire modeling skills for their own research interests. This course will focus on the topics as follows: monopoly, oligopoly with or without capacity constraint, market structure and market power, vertical and horizontal product differentiation, and so on. Students are expected to have solid comprehension of undergraduate microeconomics. The grade will be based on the final exam (10-50%) and the homework and the class contribution (50%-90%).

ECN551C1-1

環境経済論 D A

松波 淳也

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境経済学の基礎理論・概念を習得する。

【到達目標】

環境経済学はその体系化への努力が始まって以来、地球環境問題などグローバルな環境問題への直面を経て、各方面への深化を遂げている。本講義は、大学院博士課程レベルの先進的な環境経済学の概念、手法を習得することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

場合によりオンライン授業を行うこともある。環境経済学にとって最重要であり、かつ、環境経済学の幅広い分野に応用の効く3つの概念（外部性、環境の経済評価、持続可能な発展）に絞って講義する。その際、特に、社会システムと環境の関係についての基本的考え方、および、経済学的方法、政策的志向をもとらえていきたい。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	環境経済学とは？	環境経済学の誕生。環境か経済か？ 本講の立場と進め方。
第2回	環境問題の政策的整理	人類史と環境。近代化と環境問題。環境問題と総合政策。
第3回	外部性①	外部性の概念。外部性のモデル分析。産業公害モデル。
第4回	外部性②	課税政策。
第5回	外部性③	ピグー税政策とボーモル＝オーツ税政策
第6回	外部性④	たばこモデル～コースの定理
第7回	外部性⑤	外部性のモデル分析再考

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

経済学の基礎を身に付けていることが望ましい（ミクロ経済学、マクロ経済学等、経済学の基礎学習）。本授業の準備・復習時間は、各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

時政他編著『環境と資源の経済学』勁草書房、2007年

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

平常点 100 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>環境経済学

<研究テーマ>循環経済（Circular Economy）

<主要研究業績>「持続可能な国際的循環型社会の構築に向けて」、星野智編著『グローバル・エコロジー』、中央大学出版部、第6章所収、2019年3月。

「廃棄物管理政策の経済手法に関する覚書」（『経済志林』第72巻4号、2005年）、

（共著）『環境と資源の経済学』（勁草書房、2007年）

【Outline (in English)】

Environmental economics has been deepening towards various fields through the face of global environmental problems such as global environmental problems since the beginning of efforts to systematize it. In this lecture, the basic concepts and methods of environmental economics will be described with initial scholars in mind as much as possible. The aim of this course is to help students acquire basic theories and concepts of environmental economics. By the end of course, students should be able to understand environmental economics. Before/after each class meeting, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process: in-class contribution(100%)

ECN551C1-2

環境経済論 D B

松波 淳也

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

廃棄物・リサイクルの経済学を習得する。

【到達目標】

環境経済学はその体系化への努力が始まって以来、地球環境問題などグローバルな環境問題への直面を経て、各方面への深化を遂げている。本講義では、最近理論的発展の著しい「ごみ・リサイクルの経済学」を取り上げ、大学院博士課程レベルの先進的な環境経済学の基礎概念、手法の理解をより深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

場合によりオンライン授業を行うこともある。現代の廃棄物問題の本質および「廃棄物経済学」の基礎概念を身につけてもらうことを目標とする。現実の廃棄物管理政策の状況の理解も図りたい。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ごみ問題とリサイクル ①- 現代的課題と理論的概観-	「ごみ問題」の構造分類。「ごみ」の定義. 経済学における「ごみ」の扱い
第 2 回	ごみ問題とリサイクル ②- 経済学的定式化に向けて-	廃棄物経済学の主要アプローチ.
第 3 回	ごみ問題とリサイクル ③- 廃棄物リサイクルの経済モデル-	廃棄物経済学の誕生. 廃棄物リサイクルの線形生産モデル
第 4 回	廃棄物管理政策①- 循環型社会の法体系-	循環型社会形成推進基本法等. 個別リサイクル法. 3 R の優先順位. 2つの基本理念
第 5 回	廃棄物管理政策②- 代表的な経済手法-	家庭ごみの有料化. 埋立税・産業廃棄物税, 有害物質への・課徴金. 特定製品への税・課徴金. デポジット・リファンド制度
第 6 回	廃棄物管理政策③- 自治体の清掃行政-	3 R + 適正処理の優先順位に即した政策展開. 短期的政策, 中長期的政策の位置づけ. 地域特性に即したきめ細かい政策. 環境政策の 3 手法
第 7 回	動脈産業と静脈産業- 経済学の暗黒面-	動脈経済と静脈経済. 経済成長と動脈部門・静脈部門. 静脈経済と潜在技術

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

環境経済論 A を既習であることが望ましい（環境経済学の基礎理論・概念）。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

細田衛士：『グッズとバズの経済学 第 2 版』東洋経済新報社

【参考書】

時政他編著『環境と資源の経済学』勁草書房

【成績評価の方法と基準】

平常点 100 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>環境経済学

<研究テーマ>循環経済（Circular Economy）

<主要研究業績>「持続可能な国際的循環型社会の構築に向けて」、星野智編著『グローバル・エコロジー』、中央大学出版部、第 6 章所収、2019 年 3 月。

「廃棄物管理政策の経済手法に関する覚書」（『経済志林』第 72 巻 4 号、2005 年）。

（共著）『環境と資源の経済学』（勁草書房、2007 年）

【Outline (in English)】

Environmental economics has been deepening towards various fields through the face of global environmental problems such as global environmental problems since the beginning of efforts to systematize it. In this lecture, the basic concepts and methods of environmental economics will be described with initial scholars in mind as much as possible. The aim of this course is to help students acquire basic theories and concepts of the economics of waste and recycling. By the end of course, students should be able to understand the economics of waste and recycling. Before/after each class meeting, students will be expected to spent 4 hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process: in-class contribution(100%)

ECN553C1-2

経済政策 D B

濱秋 純哉

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、変数間の「因果関係」を特定するための統計的手法への社会的な関心が高まっている。経済学の分野では、以前から因果関係の特定に大きな注意が払われていたが、様々な個票データの利用可能性の高まりとともに、より精緻な分析を行うことが可能になった。このような流れを受け、この授業では経済政策を評価するための因果推論の手法について学ぶ。

【到達目標】

受講者が、政策評価のための統計的手法を用いてデータ分析できるようにすること、及び税制や社会保障政策が企業や家計の行動に与える影響を実証分析した学術論文を正確に理解できるようにすることを目的とする。評価の対象となる経済政策として、主に税制や社会保障政策を念頭に置く（授業中にこれらの政策の効果を推定した論文を分析例として紹介する）。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

数式による説明だけでなく、分析例を紹介しながら、講義形式で政策評価のための統計的手法を説明する。各受講者には、授業と並行してそれらの手法を用いた研究計画を作成してもらう。受講者が少数であれば、授業内で研究計画の妥当性について議論することを通じてフィードバックを行う（研究計画の報告会の開催などを予定）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要の説明
第2回	研究テーマの見つけ方	研究テーマをどのように見つけるか？
第3回	RCTと自然実験	RCTと自然実験の具体例
第4回	因果関係の推定（1）	平均処置効果
第5回	因果関係の推定（2）	操作変数法と局所的平均処置効果
第6回	差の差分分析（DID）（1）	政策の効果を受ける群と受けない群の変化の差を比較する手法
第7回	差の差分分析（DID）（2）	DID推定のための諸条件
第8回	差の差分分析（DID）（3）	差の差の差分分析（Triple-Differences）
第9回	イベントスタディ分析	DIDとイベントスタディ分析の違いとは？
第10回	合成コントロール法（SCM）	DIDとSCMの違いとは？
第11回	回帰不連続デザイン（RDD）（1）	同質な対象者に生じた不連続な政策の変化を利用する手法
第12回	回帰不連続デザイン（RDD）（2）	RDDのための諸条件
第13回	回帰不連続デザイン（RDD）（3）	Sharp RDDとFuzzy RDD
第14回	研究計画の最終報告会	受講者による研究計画の報告とその検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義を履修するにあたり、統計学・計量経済学の基礎的な知識を持っていることが望まれる。具体的には、計量経済学 A/B の知識を前提とする。また、税制や社会保障政策に対する興味や知識もあると授業の理解が深まる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストには依拠せず、教員が作成した資料に沿って講義を進める。

【参考書】

1. 西山慶彦・新谷元嗣・川口大司・奥井亮, 2019年, 『計量経済学』, 有斐閣。
2. 安井翔太 (著)・株式会社ホクソエム (監修), 2020年, 『効果検証入門』, 技術評論社。
3. Angrist, Joshua D. and Pischke Jörn-Steffen. 2009. “Mostly Harmless Econometrics: An Empiricist’s Companion,” Princeton University Press.

【成績評価の方法と基準】

研究計画の作成・報告（70%）と政策評価の手法を用いた最新の海外学術論文の内容報告（30%）によって評価する（博士課程の院生が受講した場合、授業計画を変更して論文の内容報告の時間を設ける）。研究計画の作成には、先行研究の整理、分析対象となる政策の理解、検証する仮説の設定、分析に用いる統計的手法とデータの選択、予想される困難への対処の検討などの作業が必要となり、これらをいかに緻密に行えたかが評価基準となる。

【学生の意見等からの気づき】

受け身の学習にならないように、授業中に簡単な質問を投げかけたり、受講者が計算を行う時間を設けたりする。また、統計的手法と分析例をなるべくセットで説明することで理解を促す。

【その他の重要事項】

受講者として想定しているのは、これから政策評価の手法を用いて修士論文や博士論文を執筆する修士2年生以上の院生である。「研究テーマ」を「データを用いた仮説検証」にどのようにして落とし込むか等、なるべく実践的な内容を扱う。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>
公共経済学・応用計量経済学
<研究テーマ>
家計行動のマイクロ計量分析
<主要研究業績>

- (1) Niizeki, Takeshi, Junya Hamaaki, 2023+, “Do the self-employed underreport their income? Evidence from Japanese panel data,” Journal of the Japanese and International Economies, forthcoming.
- (2) Hamaaki, Junya, Masahiro Hori, and Keiko Murata 2019, “The Intra-family Division of Bequests and Bequest Motives: Empirical Evidence from a Survey on Japanese Households,” Journal of Population Economics, Vol. 32, No. 1, pp. 309 – 346.
- (3) 上野綾子・濱秋純哉, 2017年, 「2009年度介護報酬改定が介護従事者の賃金、労働時間、離職率に与えた影響」, 『医療経済研究』, Vol.29, No.1, 33 – 57頁。
- (4) Hamaaki, Junya, Masahiro Hori, Keiko Murata, 2014, “Intergenerational transfers and asset inequality in Japan: Empirical evidence from new survey data,” Asian Economic Journal, Vol.28(1), pp.41-62.
- (5) Hamaaki, Junya, Masahiro Hori, Saeko Maeda, Keiko Murata, 2013, “How does the first job matter for an individual’s career life in Japan,” Journal of the Japanese and International Economies, Vol.29, pp.154-169.

【Outline (in English)】

Course outline

In recent years, there has been a growing interest in statistical methods to identify causal relationships among variables. For example, both the Basic Policy on Economic and Fiscal Management and Reform 2017 and the Cabinet Office’s Annual Report on the Japanese Economy and Public Finance mention “evidence-based policy-making” (EBPM), and along with the compilation of official statistics such as GDP statistics, the government has started to empirically examine the causal effects of policies such as employment support measures and education policies (such as the introduction of smaller classes in schools).

Meanwhile, in the field of economics, researchers have been focusing on the identification of causal relationships for quite some time, but with the increasing availability of various types of microdata, more detailed analyses have become possible. Against this background, this course seeks to provide an understanding of what causal relationships are and introduces statistical methods for making causal inferences.

Learning objectives

At the end of the course, students are expected to acquire the ability to evaluate economic policies based on statistical methods.

Learning activities outside of classroom

Before/after each class meeting, students are expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria /policy

Final grade will be decided based on the following:

Term-end presentation of a research proposal: 70%, Presentation of an academic paper that evaluates economic policies based on statistical methods.

ECN564C1-1

経済地理学 D A

近藤 章夫

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済地理学の主要テーマに関する重要論文および展望論文の読解を通して、研究の到達点や今後の課題について議論する。

【到達目標】

経済地理学の最先端での研究を理解し、国際的に名声の高い学術誌に掲載された論文を読解できるようになることと、研究領域のフロンティアを拡張していく能力を身につけることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

輪読文献リストを初回に配布する。また関連文献については適宜紹介する。参加者には輪読文献の報告を求める。毎回の出席と積極的な議論への参加を重視する。なお、履修者の関心および講義の進捗状況によっては、輪読文献を柔軟に変更する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	輪読文献の概要と講義の進め方
第 2 回	経済学と地理・空間 (1)	主要論文の輪読
第 3 回	経済学と地理・空間 (2)	主要論文の輪読
第 4 回	経済学と地理・空間 (3)	主要論文の輪読
第 5 回	都市と集積 (1)	主要論文の輪読
第 6 回	都市と集積 (2)	主要論文の輪読
第 7 回	都市と集積 (3)	主要論文の輪読
第 8 回	イノベーションとネット ワーク (1)	主要論文の輪読
第 9 回	イノベーションとネット ワーク (2)	主要論文の輪読
第 10 回	イノベーションとネット ワーク (3)	主要論文の輪読
第 11 回	空間経済の理論と実証 (1)	主要論文の輪読
第 12 回	空間経済の理論と実証 (2)	主要論文の輪読
第 13 回	空間経済の理論と実証 (3)	主要論文の輪読
第 14 回	経済地理学のフロン ティアとまとめ	主要論文の輪読

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。テキストおよび参考文献の読解および事後の課題への取り組みを求める。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

Brakman, S., et al. (2019) 『An Introduction to Geographical and Urban Economics: A Spiky World (3rd edition)』 Cambridge University Press

Clark, G. L., et al. (2018) 『The New Oxford Handbook of Economic Geography』 Oxford University Press

Combes, P. P., et al. (2008) 『Economic Geography: The Integration of Regions and Nations』 Princeton University Press

Duranton, G. et al. (2015) 『Handbook of Regional and Urban Economics Vol.5』 North Holland

松原宏 (2006) 『経済地理学－立地・地域・都市の理論－』 東京大学出版会

佐藤泰裕ほか (2011) 『空間経済学』 有斐閣

その他の参考文献は適宜提示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加が評価の中心となる。

平常点（出席および輪読文献の紹介等）80%、期末レポート 20%

【学生の意見等からの気づき】

受講生の関心と理解度に最大限配慮して柔軟に授業計画を進める。

【学生が準備すべき機器他】

授業内容のお知らせ、資料配布・課題提出等のために学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

授業は対面形式を基本とするが、履修者と相談のうえ、オンライン形式で実施することがある。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 経済地理学、都市・地域経済学、空間情報科学

<主要研究業績>

①共著 (2015) 『都市空間と産業集積の経済地理分析』 日本評論社

②共著 (2012) 『産業立地と地域経済』 放送大学教育振興会

③単著 (2007) 『立地戦略と空間的分業』 古今書院

【Outline (in English)】

Course outline and objectives:

Through the reading of key and prospective papers on major topics in economic geography, we will discuss the achievements of their research and future challenges.

Learning activities outside of classroom:

Before/after each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policy:

Final grade will be calculated according to the following process Term-end report(20%), and in-class contribution(80%).

ECN561C1-1

国際貿易論 D A

武智 一貴

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、大学院レベルの基本的な国際貿易モデルとそれらの応用方法を学ぶ。オンデマンドシステムを通じて講義を配信し、時間割に限らず学習できる形をとる。

【到達目標】

国際貿易の基本モデルであるリカードモデル、ヘクシャーオリーンモデル、グラビティモデルを学び、自分の研究テーマに応用できるようになることを目標とする。自らデータを取得し、数値計算ソフトウェアを使ってグラビティモデルの実証分析を行えるようになる事を目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

ハイフレックス（教室及びオンライン配信）で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義内容の解説
第2回	分析手法の復習	微積分とラグランジュ乗数法
第3回	最適化問題の復習	ラグランジュ乗数法の計算例
第4回	双対性	双対性の理解
第5回	競争均衡	一般均衡の概念
第6回	リカードモデル	リカードモデルの基本
第7回	ヘクシャーオリーンモデル	ヘクシャーオリーンモデルの基礎
第8回	ストルパーサミュエルソン効果とリプチンスキー効果	ヘクシャーオリーンモデルの分析
第9回	グラビティモデル	グラビティモデルの基礎
第10回	統計的手法の復習	データを使った分析に必要な手法
第11回	現代のグラビティモデル	Anderson and van Wincoop (2003)
第12回	グラビティモデルの導出	理論的分析
第13回	国境効果とは	グラビティモデルの応用
第14回	グラビティモデルの推定	グラビティモデルとデータ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各講義の予習・復習には4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義ノートを学習支援システムから配布します。

【参考書】

Advanced International Trade (2nd edition) by Feenstra.

【成績評価の方法と基準】

アサインメント（20%）、期末試験もしくはタームペーパー（80%）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

国際貿易

<研究テーマ>

貿易費用の研究・貿易政策の研究

<主要研究業績>

Quality Sorting, Alchian-Allen Effect, and Distance, Economics Letters 222, 2023.

【Outline (in English)】

In this course, we study the standard models of international trade. We use the on-demand system to take lectures so that students can learn anytime convenient. We begin by the traditional trade theories such as the Ricardian and Heckscher-Ohlin model. Then our primary focus is on the gravity model. If time permits, we will cover the model of international finance using gravity model.

Students are expected to read the papers I advance and be familiar with introductory econometrics, microeconomics, and international economics. There will be assignments during the course. You have to submit these homework assignments by the due date. You are also encouraged to study 4 hours before/after each class. Your grade will be determined by your homework (20%) and your performance at the final examination or term paper(80%).

ECN561C1-2

国際貿易論 D B

武智 一貴

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、国際貿易の実証モデルとして重要なグラビティモデルについて学ぶ。オンデマンドシステムを通じて講義を配信し、時間割に限らず受講できる形とする。

【到達目標】

グラビティモデルの分析に必要な、multilateral resistance term の処理、ゼロ貿易の処理、企業異質性の処理が可能になることを目標とする。自らデータを取得し、数値計算ソフトウェアを使ってグラビティモデルの実証分析を行えるようになる事を目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

ハイフレックス（教室およびオンライン配信）方式で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	グラビティモデルの復習	Anderson and van Wincoop (2003)
第 2 回	グラビティモデルと企業	Krugman モデル
第 3 回	企業の異質性	Melitz (2003) モデル
第 4 回	企業の異質性の下での均衡	Melitz モデルの均衡
第 5 回	企業の異質性と貿易	Melitz モデルの分析
第 6 回	企業の異質性とグラビティモデル	Chaney(2008) モデル
第 7 回	企業の異質性とグラビティモデルの推定	Chaney モデルの推定
第 8 回	ゼロ貿易とグラビティモデル	セレクション問題
第 9 回	ゼロ貿易とグラビティモデルの推定	Helpman, Melitz, and Rubinstein
第 10 回	ゼロ貿易とグラビティモデルの分析	Helpman, Melitz, and Rubinstein
第 11 回	ゼロ貿易とグラビティモデルとポワソン推定	Log of gravity
第 12 回	リカードモデルとグラビティモデル	Dornbush, Fisher, and Samuelson
第 13 回	リカードモデルとグラビティモデルの推定	Eaton and Kortum モデル
第 14 回	リカードモデルとグラビティモデルの分析	Eaton and Kortum モデルの分析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習・復習時間の標準は4時間とします。

【テキスト（教科書）】

学習支援システムから講義ノートを配布します。

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

アサインメント（20%）と期末試験もしくは term paper(80%)。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

国際貿易

<研究テーマ>

貿易費用の研究・貿易政策の研究

<主要研究業績>

Quality Sorting, Alchian-Allen Effect, and Distance, Economics Letters 222, 2023.

【Outline (in English)】

In this course, we study the empirical side of the study in international trade. We use the on-demand system to take lectures so that students can learn anytime convenient. We begin with monopolistic competition model and models with producer. We also focus on the estimation issues in gravity model. We discuss how to deal with border effects, zero trade observations, and selection problems. If time permits, we will cover the empirical trade models with political economy.

Students are expected to read the papers I advance and be familiar with introductory econometrics, microeconomics, and international economics. Students are also strongly encouraged to learn Stata and Matlab. Students are encouraged to study 4 hours before/after each class. There will be assignments during the course. You have to submit these homework assignments by the due date. Your grade will be determined by the homework (20%) and your performance at the final examination or term paper (80%).

ECN572C1-1

上級マクロ経済学 D A

宮崎 憲治

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では非伝統的金融政策が金融システムと実体経済に与える影響について学ぶ

【到達目標】

フィナンシャルアクセレーターと非伝統的金融政策に関する先行研究を理論的に理解し、関連するマクロ経済モデルを習熟したうえで、学術論文を作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

テーマごとに学術論文を輪読する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	DSGE model with agency costs and fluctuations (1)	Bernanke, Ben S. and Mark Gertler (1989): "Agency Costs, Net Worth, and Business Fluctuations." American Economic Review 79(1): 14-31.
第 2 回	DSGE model with agency costs and fluctuations (2)	Carlstrom, Charles and Timothy S. Fuerst (1997): "Agency Costs, Net Worth, and Business Fluctuations: A Computable General Equilibrium Analysis." American Economic Review 87(5): 893-910.
第 3 回	the financial accelerator and applications (1)	Bernanke, Ben, Mark Gertler, and Simon Gilchrist (1999): "The Financial Accelerator in a Quantitative Business Cycle Framework." In Handbook of Macroeconomics Volume 1.C, edited by John B. Taylor and Michael Woodford.
第 4 回	the financial accelerator and applications (2)	Carlstrom, Charles, Fuerst, Timothy S., and Matthias Paustian (2016): "Optimal Contracts, Aggregate Risk, and the Financial Accelerator." American Economic Journal: Macroeconomics 8(1): 119-147.
第 5 回	limited enforcement constraints and credit cycles (1)	Kiyotaki, Nobuhiro and John Moore (1997): "Credit Cycles." Journal of Political Economy 105(2): 211-248.
第 6 回	limited enforcement constraints and credit cycles (2)	Iacoviello, Matteo (2005): "House Prices, Borrowing Constraints, and Monetary Policy in the Business Cycle." American Economic Review 95(3): 739-764.

第 7 回	macroeconomic model with financial shocks; the term premium (1)	Jermann, Urban and Vincenzo Quadrini (2011): "Macroeconomic Effects of Financial Shocks." American Economic Review 102(1): 238-271.
第 8 回	macroeconomic model with financial shocks; the term premium (2)	Rudebusch, Glenn and Eric Swanson (2012): "The Bond Premium in a DSGE Model with Long-Run Real and Nominal Risks." American Economic Journal: Macroeconomics 4(1): 105-143.
第 9 回	segmented markets and quantitative easing (1)	Gertler, Mark and Peter Karadi (2011): "A Model of Unconventional Monetary Policy." Journal of Monetary Economics 58(1): 17-34.
第 10 回	segmented markets and quantitative easing (2)	Gertler, Mark and Peter Karadi (2013): "QE1 vs. 2 vs. 3 vs. . . . : A Framework for Analyzing Large-Scale Asset Purchases as a Monetary Policy Tool." International Journal of Central Banking 9(S1): 5-53.
第 11 回	segmented markets and quantitative easing (3)	Carlstrom, Charles, Timothy S. Fuerst, and Matthias Paustian (2017): "Targeting Long Rates in a Model with Segmented Markets." American Economic Journal: Macroeconomics 9(1): 205-242.
第 12 回	models of unconventional monetary policy (1)	Sims, Eric and Jing Cynthia Wu (2021): "Evaluating Central Banks' Tool Kit: Past, Present, and Future." Journal of Monetary Economics, 118, 135-160.
第 13 回	models of unconventional monetary policy (2)	Sims, Eric, Jing Cynthia Wu, and Ji Zhang (2020): "The Four Equation New Keynesian Model." Working paper
第 14 回	models of unconventional monetary policy (3)	Sims, Eric and Jing Cynthia Wu (2020): "Are QE and Conventional Monetary Policy Substitutable?" International Journal of Central Banking 16(1): 195-230.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に指定した論文を読んでおく。本授業の予習・復習時間は、あわせて各回 5 時間とする。

【テキスト（教科書）】

授業内に指定する

【参考書】

授業内に指定する

【成績評価の方法と基準】

課題報告 (70%), 平常点 (30%)

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

マクロ経済学 AB, 応用マクロ経済学 AB を受講済みであることが望ましい。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>
マクロ経済学・計量経済学

<研究テーマ>

マクロ経済学・計量経済学

<主要研究業績>

Gunji, H., and K. Miyazaki (2011), Estimates of average marginal tax rates on factor incomes in Japan, *Journal of the Japanese and International Economies*, Vol. 25 (2), pp. 81-106.
(査読有 doi:10.1016/j.jjie.2011.02.003)

【Outline (in English)】

(Course outline)

This lecture examines unconventional monetary policies and these effect on the "real" economy.

(Learning Objectives)

You can understand previous studies on financial accelerators and unconventional monetary policy. Furthermore, you can write relevant academic papers.

(Learning activities outside of classroom)

Students are expected to read the assigned papers in advance. The total preparation and review time for this class is 5 hours for each session.

(Grading Criteria /Policy)

Assignment Report (70%), Usual Performance (30%)

ECN572C1-2

上級マクロ経済学 D B

宮崎 憲治

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では DSGE モデルの様々なモデル，特に THANK (Tractable Heterogeneous Agent New Keynesian) モデルについて学ぶ。

【到達目標】

最近の DSGE モデルの先行研究を理論的に理解し，その分野にかんする学術論文が書けるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

テーマごとに学術論文を輪読する。

原則、対面授業を想定しているが、オンライン授業でも不利にならないように配慮する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	On DSGE	Christiano, L. J., Eichenbaum, M. S., & Trabandt, M. (2018). On DSGE Models. <i>Journal of Economic Perspectives</i> , 32(3), 113 - 140.
第 2 回	RANK with capital utilization	Greenwood, J., Hercowitz, Z., & Huffman, G. W. (1988). Investment, Capacity Utilization, and the Real Business Cycle. <i>The American Economic Review</i> , 78(3), 402 - 417.
第 3 回	RANK with sticky wage	Yun, T. (1996). Nominal price rigidity, money supply endogeneity, and business cycles. <i>Journal of Monetary Economics</i> , 37(2), 345 - 370.
第 4 回	Medium Scaled RANK 1	Christiano, L. J., Eichenbaum, M., & Evans, C. L. (2005). Nominal Rigidities and the Dynamic Effects of a Shock to Monetary Policy. <i>Journal of Political Economy</i> , 113(1), 1 - 45
第 5 回	Medium Scaled RANK 2	Smets, F., & Wouters, R. (2007). Shocks and Frictions in US Business Cycles: A Bayesian DSGE Approach. <i>American Economic Review</i> , 97(3), 586 - 606.
第 6 回	RANK with Bank sector	Gertler, M., & Karadi, P. (2011). A model of unconventional monetary policy. <i>Journal of Monetary Economics</i> , 58(1), 17 - 34.

第 7 回	TANK & Monetary Policy	Galí, J., López-Salido, J. D., & Vallés, J. (2004). Rule-of-Thumb Consumers and the Design of Interest Rate Rules. <i>Journal of Money, Credit and Banking</i> , 36(4), 739 - 763.
第 8 回	TANK & Fiscal Policy	Galí, J., López - Salido, J. D., & Vallés, J. (2007). Understanding the Effects of Government Spending on Consumption. <i>Journal of the European Economic Association</i> , 5(1), 227 - 270.
第 9 回	TANK with Sticky Wages	Colciago, A. (2011). Rule-of-Thumb Consumers Meet Sticky Wages. <i>Journal of Money, Credit and Banking</i> , 43(2/3), 325 - 353.
第 10 回	TANK with Limited Asset Market Partitions	Bilbiie, F. O. (2008). Limited asset markets participation, monetary policy and (inverted) aggregate demand logic. <i>Journal of Economic Theory</i> , 140(1), 162 - 196.
第 11 回	THANK & Monetary Policy	Bilbiie, F. O. (2019). Monetary Policy and Heterogeneity: An Analytical Framework, forthcoming
第 12 回	THANK & Fiscal Policy	Bilbiie, F. O. (2018). The New Keynesian Cross. <i>Journal of Monetary Economics</i> , forthcoming
第 13 回	THANK with Capital	Bilbiie, F. O. (2020). Capital and Income Inequality: An Aggregate-Demand Complementarity, mimeograph
第 14 回	GHH-CARA Utility	Bilbiie, F. O. (2020). A GHH-CRRA Utility for Macro: Complementarity, Income, and Substitution, mimeograph

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に指定した論文を読んでおく。本授業の予習・復習時間は、あわせて各回 5 時間とする。

【テキスト（教科書）】

授業内に指定する

【参考書】

授業内に指定する

【成績評価の方法と基準】

課題報告 (70%), 平常点 (30%)

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

マクロ経済学 AB を受講済みであることが望ましい。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

マクロ経済学・計量経済学

<研究テーマ>

経済政策・日本経済

<主要研究業績>

Gunji, H., and K. Miyazaki (2011), Estimates of average marginal tax rates on factor incomes in Japan, *Journal of the Japanese and International Economies*, Vol. 25 (2), pp. 81-106. (査読有 doi:10.1016/j.jjie.2011.02.003)

【Outline (in English)】

(Course outline)

This lecture studies several DSGE models including THANK (Tractable Heterogeneous Agent New Keynesian) models.

(Learning activities outside of classroom)

When students take this course, they will be able to theoretically understand the recent previous studies on DSGE models and be able to write academic papers concerning this topic.

(Learning activities outside of classroom)

Students are required to read the papers specified in advance. The total time for preparation and review of this class is 5 hours for each session.

(Grading Criteria /Policy)

Report of assignments (70%), Usual performance score (30%)

ECN573C1-1

応用計量経済学 D A

明城 聡

備考（履修条件等）：（2021 年度以降入学者用）

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

実証分析を行うために必要な計量経済学の知識と、統計パッケージ R を利用した分析手法を学ぶ。

【到達目標】

統計学や計量経済学の考え方を学ぶとともに、統計パッケージ R を用いた基本的な計量分析の手法を学習する。特にクロスセクションデータおよびパネルデータに焦点を当てて標準的な分析手法を習得し、より高度な分析に向けたプログラミングスキルを磨く。博士後期課程の学生が受講する場合は、論文執筆に必要なマイクロデータの収集および因果推論のスキルを養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業の前半ではデータ分析に必要な計量経済学と R の操作方法について解説する。その後で実際に端末を利用して演習を行う。演習では具体的なクロスセクション・データやパネルデータを用いて計量分析手法を学習する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・講義概要の説明 ・その他連絡事項
2	R の設定	・R について ・基本的な設定 ・基本コマンド ・統計量の計算
3	R の操作とデータ管理 (1)	・ファイル操作 ・オブジェクト操作
4	R の操作とデータ管理 (2)	・基本統計量
5	R の操作とデータ管理 (3)	・行列の操作
6	R の操作とデータ管理 (4)	・行列演算
7	クロスセクションデータに対する線形回帰モデル (1)	・クロスセクションデータ ・一般化古典的回帰モデル
8	クロスセクションデータに対する線形回帰モデル (2)	・R での回帰分析 ・散布図と回帰直線の作図
9	クロスセクションデータに対する線形回帰モデル (3)	・不均一分散の検定 ・不均一分散調整済み標準誤差
10	演習 (1)	・クロスセクションデータを用いた演習
11	パネルデータに対する線形回帰モデル (1)	・パネルデータ ・Pooled OLS
12	パネルデータに対する線形回帰モデル (2)	・固定効果モデル ・変量効果モデル ・Hausman 検定
13	演習 (2)	・パネルデータを用いた演習
14	まとめ	・授業のまとめと復習 ・課題レポートについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した講義資料を授業で配布する。

【参考書】

- (1) 小暮厚之、「R による統計データ分析入門」朝倉書店、2009 年
- (2) 福地純一郎、伊藤有希、「R による計量経済分析」朝倉書店、2011 年
- (3) 浅野哲、中村二郎『計量経済学・第二版』、有斐閣、2009 年

【成績評価の方法と基準】

課題レポートにて評価する (100%)。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

情報処理室の端末を利用するので、大学のアカウント (ID およびパスワード) を確認しておくこと。

【その他の重要事項】

受講生の理解度や要望などに応じて講義内容を変更する場合がある。

【担当教員の専門分野等】

< 専門領域 >
実証産業組織論、応用統計学
< 研究テーマ >
構造推定を用いた市場分析
< 主要研究業績 >

1. On Asymptotic Properties of the Parameters of Differentiated Product Demand and Supply Systems When Demographically-Categorized Purchasing Pattern Data are Available, *International Economic Review*, Vol.53, no.3, pp.887-937, 2012.

2. Effects of Consumer Subsidies for Renewable Energy on Industry Growth and Social Welfare: The Case of Solar Photovoltaic Systems in Japan, *Journal of the Japanese and International Economies*, vol.48, pp.55-67, 2018.

【Outline (in English)】

Outline: Objectives of this course is to master standard econometric techniques to analyze economic data using PC. Students are required to learn basic statistics and programming skills to utilize statistical software R.

Goal: To master advanced data-analysis skills for cross sectional and panel data using statistical software(R).

Extracurricular exercise: Review the contents covered in the class every week (4 hours).

Grading: reports (100%)

ECN573C1-1

ミクロ計量分析 D A

名城 聡

備考（履修条件等）：（2020 年度以前入学者用）

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

実証分析を行うために必要な計量経済学の知識と、統計パッケージ R を利用した分析手法を学ぶ。

【到達目標】

統計学や計量経済学の考え方を学ぶとともに、統計パッケージ R を用いた基本的な計量分析の手法を学習する。特にクロスセクションデータおよびパネルデータに焦点を当てて標準的な分析手法を習得し、より高度な分析に向けたプログラミングスキルを磨く。博士後期課程の学生が受講する場合は、論文執筆に必要なマイクロデータの収集および因果推論のスキルを養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業の前半ではデータ分析に必要な計量経済学と R の操作方法について解説する。その後で実際に端末を利用して演習を行う。演習では具体的なクロスセクション・データやパネルデータを用いて計量分析手法を学習する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・講義概要の説明 ・その他連絡事項
2	R の設定	・R について ・基本的な設定 ・基本コマンド ・統計量の計算
3	R の操作とデータ管理 (1)	・ファイル操作 ・オブジェクト操作
4	R の操作とデータ管理 (2)	・基本統計量
5	R の操作とデータ管理 (3)	・行列の操作
6	R の操作とデータ管理 (4)	・行列演算
7	クロスセクションデータに対する線形回帰モデル (1)	・クロスセクションデータ ・一般化古典的回帰モデル
8	クロスセクションデータに対する線形回帰モデル (2)	・R での回帰分析 ・散布図と回帰直線の作図
9	クロスセクションデータに対する線形回帰モデル (3)	・不均一分散の検定 ・不均一分散調整済み標準誤差
10	演習 (1)	・クロスセクションデータを用いた演習
11	パネルデータに対する線形回帰モデル (1)	・パネルデータ ・Pooled OLS
12	パネルデータに対する線形回帰モデル (2)	・固定効果モデル ・変量効果モデル ・Hausman 検定
13	演習 (2)	・パネルデータを用いた演習
14	まとめ	・授業のまとめと復習 ・課題レポートについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した講義資料を授業で配布する。

【参考書】

- (1) 小暮厚之、「R による統計データ分析入門」朝倉書店、2009 年
- (2) 福地純一郎、伊藤有希、「R による計量経済分析」朝倉書店、2011 年
- (3) 浅野哲、中村二郎『計量経済学・第二版』、有斐閣、2009 年

【成績評価の方法と基準】

課題レポートにて評価する (100%)。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

情報処理室の端末を利用するので、大学のアカウント (ID およびパスワード) を確認しておくこと。

【その他の重要事項】

受講生の理解度や要望などに応じて講義内容を変更する場合がある。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>
実証産業組織論、応用統計学
<研究テーマ>
構造推定を用いた市場分析
<主要研究業績>

1. On Asymptotic Properties of the Parameters of Differentiated Product Demand and Supply Systems When Demographically-Categorized Purchasing Pattern Data are Available, International Economic Review, Vol.53, no.3, pp.887-937, 2012.

2. Effects of Consumer Subsidies for Renewable Energy on Industry Growth and Social Welfare: The Case of Solar Photovoltaic Systems in Japan, Journal of the Japanese and International Economies, vol.48, pp.55-67, 2018.

【Outline (in English)】

Outline: Objectives of this course is to master standard econometric techniques to analyze economic data using PC. Students are required to learn basic statistics and programming skills to utilize statistical software R.

Goal: To master advanced data-analysis skills for cross sectional and panel data using statistical software(R).

Extracurricular exercise: Review the contents covered in the class every week (4 hours).

Grading: reports (100%)

ECN701C1-1

経済学演習Ⅲ A

松波 淳也

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究分野に関連する文献のサーチ、サーベイや、そのきめ細かい掘り下げと分析作業、文献の輪読や報告などを通じて、高度で先端的な専門知識を教授する。同時に、博士論文を構成する学術論文の執筆を個別指導の中で進める。

【到達目標】

博士論文執筆のために必要となる高度な知識とスキルを修得する。並行して、博士論文を構成する第1論文の第1稿の執筆を開始する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

研究分野の文献サーベイやその分析、文献の輪読や報告を通じて、高度で先端的な専門知識を享受する。学生が自分の執筆論文に対して指導教員から助言を受けて議論することを通じて、また指導教員の研究プロジェクトへの参加などを通じて、研究者としての素養を磨いてゆく。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマの確認	今までの研究成果をまとめ、研究テーマを確認する
第2回	文献サーベイと研究報告①	博論執筆に必要となる高度な知識とスキルを修得する
第3回	文献サーベイと研究報告②	博論執筆に必要となる高度な知識とスキルを修得する
第4回	文献サーベイと研究報告③	博論執筆に必要となる高度な知識とスキルを修得する
第5回	文献サーベイと研究報告④	博論執筆に必要となる高度な知識とスキルを修得する
第6回	研究報告①	文献サーベイに基づき自らの研究を進める
第7回	研究報告②	文献サーベイに基づき自らの研究を進める
第8回	研究報告③	文献サーベイに基づき自らの研究を進める
第9回	論文執筆指導①	研究を論文にまとめる
第10回	論文執筆指導②	研究を論文にまとめる
第11回	博士ワークショップ発表への準備①	ワークショップで報告する内容の検討
第12回	博士ワークショップ発表への準備②	スライドの作成やプレゼンの練習など
第13回	博士ワークショップの振り返りと論文テーマ・分析の再検討	これまでの指導に基づき、論文の改訂を進める
第14回	まとめ	春学期の研究成果をまとめ、夏期休暇中の研究計画を立てる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。補強したい専門知識に関しては、修士2年次の講義科目（専攻分野コースワーク2年次科目）を履修し、自ら補強する。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100 %（研究内容や研究成果も含む。）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

環境経済学

<https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/15/0001408/profile.html>

【Outline (in English)】

(Course outline)

The course aims to acquire advanced expert knowledge through a search and survey of literature related to the research field.

(Learning Objectives)

Participants are expected to have a detailed analysis work through reading and reporting reference literature. Furthermore, participants will proceed writing academic articles which compose the doctoral dissertation. Moreover, in this course participants will acquire advanced knowledge and skills necessary for a doctoral dissertation in one-on-one instruction. Participants will start writing the first draft of a first treatise which composes the doctoral dissertation.

(Learning activities outside of classroom)

Students will conduct daily research and writing work for their doctoral dissertation. As for the specialized knowledge that they want to reinforce, they will take lecture courses in the second year of their master's degree (second year courses of coursework in their major field) and reinforce it by themselves.

(Grading Criteria /Policy)

100% of the usual performance score (including the content and results of the research)

ECN701C1-2

経済学演習Ⅲ B

松波 淳也

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究分野に関連する文献のサーチ、サーベイや、そのきめ細かい掘り下げと分析作業、文献の輪読や報告などを通じて、高度で先端的な専門知識を教授する。同時に、博士論文を構成する学術論文の執筆を個別指導の中で進める。

【到達目標】

博士論文執筆のために必要となる高度な知識とスキルを修得する。並行して、博士論文を構成する第1論文の第1稿を年度末までに完成させるよう努力する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

研究分野の文献サーベイやその分析、文献の輪読や報告を通じて、高度で先端的な専門知識を享受する。学生が自分の執筆論文に対して指導教員から助言を受けて議論することを通じて、また指導教員の研究プロジェクトへの参加などを通じて、研究者としての素養を磨いてゆく。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	今までの研究成果のまとめ	夏期休暇中の研究成果を報告する
第2回	文献サーベイと研究報告①	文献サーベイに基づき自らの研究を進める
第3回	文献サーベイと研究報告②	文献サーベイに基づき自らの研究を進める
第4回	文献サーベイと研究報告③	文献サーベイに基づき自らの研究を進める
第5回	文献サーベイと研究報告④	文献サーベイに基づき自らの研究を進める
第6回	論文執筆指導①	研究を論文にまとめる
第7回	論文執筆指導②	研究を論文にまとめる
第8回	論文執筆指導③	研究を論文にまとめる
第9回	論文執筆指導④	研究を論文にまとめる
第10回	論文執筆指導⑤	研究を論文にまとめる
第11回	博士ワークショップ発表への準備①	ワークショップで報告する内容の検討
第12回	博士ワークショップ発表への準備②	スライドの作成やプレゼンの練習など
第13回	博士ワークショップの振り返りと論文テーマ・分析の再検討	これまでの指摘に基づき、論文の改訂を進める
第14回	まとめ	今年度の研究成果をまとめ、来年度の研究計画を立てる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。補強したい専門知識に関しては、修士2年次の講義科目（専攻分野コースワーク2年次科目）を履修し、自ら補強する。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100 %（研究内容や研究成果も含む。）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

環境経済学

<https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/15/0001408/profile.html>

【Outline (in English)】

(Course outline)

The course aims to acquire advanced expert knowledge through a search and survey of literature related to the research field.

(Learning Objectives)

Participants are expected to have a detailed analysis work through reading and reporting reference literature. Furthermore, participants will proceed writing academic articles which compose the doctoral dissertation in one-on-one instruction. Moreover, in this course participants will acquire advanced knowledge and skills necessary for a doctoral dissertation. Participants will make an effort to complete the first draft of a first treatise which composes the doctoral dissertation by the end of the school year.

(Learning activities outside of classroom)

Students will conduct daily research and writing work for their doctoral dissertation. As for the specialized knowledge that they want to reinforce, they will take lecture courses in the second year of their master's degree (second year courses of coursework in their major field) and reinforce it by themselves

(Grading Criteria /Policy)

100% of the usual performance score (including the content and results of the research)

ECN701C1-1

経済学演習Ⅲ A

宮崎 憲治

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究分野に関連する文献のサーチ、サーベイや、そのきめ細かい掘り下げと分析作業、文献の輪読や報告などを通じて、高度で先端的な専門知識を教授する。同時に、博士論文を構成する学術論文の執筆を個別指導の中で進める。

【到達目標】

博士論文執筆のために必要となる高度な知識とスキルを修得する。並行して、博士論文を構成する第1論文の第1稿の執筆を開始する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

研究分野の文献サーベイやその分析、文献の輪読や報告を通じて、高度で先端的な専門知識を享受する。学生が自分の執筆論文に対して指導教員から助言を受けて議論することを通じて、また指導教員の研究プロジェクトへの参加などを通じて、研究者としての素養を磨いてゆく。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマの確認	今までの研究成果をまとめ、研究テーマを確認する
第2回	文献サーベイと研究報告①	博論執筆に必要となる高度な知識とスキルを修得する
第3回	文献サーベイと研究報告②	博論執筆に必要となる高度な知識とスキルを修得する
第4回	文献サーベイと研究報告③	博論執筆に必要となる高度な知識とスキルを修得する
第5回	文献サーベイと研究報告④	博論執筆に必要となる高度な知識とスキルを修得する
第6回	研究報告①	文献サーベイに基づき自らの研究を進める
第7回	研究報告②	文献サーベイに基づき自らの研究を進める
第8回	研究報告③	文献サーベイに基づき自らの研究を進める
第9回	論文執筆指導①	研究を論文にまとめる
第10回	論文執筆指導②	研究を論文にまとめる
第11回	博士ワークショップ発表への準備①	ワークショップで報告する内容の検討
第12回	博士ワークショップ発表への準備②	スライドの作成やプレゼンの練習など
第13回	博士ワークショップの振り返りと論文テーマ・分析の再検討	これまでの指導に基づき、論文の改訂を進める
第14回	まとめ	春学期の研究成果をまとめ、夏期休暇中の研究計画を立てる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。補強したい専門知識に関しては、修士2年次の講義科目（専攻分野コースワーク2年次科目）を履修し、自ら補強する。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100 %（研究内容や研究成果も含む。）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

マクロ経済学・計量経済学

<研究テーマ>

マクロ経済学・計量経済学

<主要研究業績>

Gunji, H., and K. Miyazaki (2011), Estimates of average marginal tax rates on factor incomes in Japan, *Journal of the Japanese and International Economies*, Vol. 25 (2), pp. 81-106. (査読有 doi:10.1016/j.jjie.2011.02.003)

【Outline (in English)】

(Course outline)

The course aims to acquire advanced expert knowledge through a search and survey of literature related to the research field.

(Learning Objectives)

Participants are expected to have a detailed analysis work through reading and reporting reference literature. Furthermore, participants will proceed writing academic articles which compose the doctoral dissertation. Moreover, in this course participants will acquire advanced knowledge and skills necessary for a doctoral dissertation in one-on-one instruction. Participants will start writing the first draft of a first treatise which composes the doctoral dissertation.

(Learning activities outside of classroom)

Students will conduct daily research and writing work for their doctoral dissertation. As for the specialized knowledge that they want to reinforce, they will take lecture courses in the second year of their master's degree (second year courses of coursework in their major field) and reinforce it by themselves. (Grading Criteria /Policy)

100% of the usual performance score (including the content and results of the research)

ECN701C1-2

経済学演習Ⅲ B

宮崎 憲治

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究分野に関連する文献のサーチ、サーベイや、そのきめ細かい掘り下げと分析作業、文献の輪読や報告などを通じて、高度で先端的な専門知識を教授する。同時に、博士論文を構成する学術論文の執筆を個別指導の中で進める。

【到達目標】

博士論文執筆のために必要となる高度な知識とスキルを修得する。並行して、博士論文を構成する第1論文の第1稿を年度末までに完成させるよう努力する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

研究分野の文献サーベイやその分析、文献の輪読や報告を通じて、高度で先端的な専門知識を享受する。学生が自分の執筆論文に対して指導教員から助言を受けて議論することを通じて、また指導教員の研究プロジェクトへの参加などを通じて、研究者としての素養を磨いてゆく。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	今までの研究成果のまとめ	夏期休暇中の研究成果を報告する
第2回	文献サーベイと研究報告①	文献サーベイに基づき自らの研究を進める
第3回	文献サーベイと研究報告②	文献サーベイに基づき自らの研究を進める
第4回	文献サーベイと研究報告③	文献サーベイに基づき自らの研究を進める
第5回	文献サーベイと研究報告④	文献サーベイに基づき自らの研究を進める
第6回	論文執筆指導①	研究を論文にまとめる
第7回	論文執筆指導②	研究を論文にまとめる
第8回	論文執筆指導③	研究を論文にまとめる
第9回	論文執筆指導④	研究を論文にまとめる
第10回	論文執筆指導⑤	研究を論文にまとめる
第11回	博士ワークショップ発表への準備①	ワークショップで報告する内容の検討
第12回	博士ワークショップ発表への準備②	スライドの作成やプレゼンの練習など
第13回	博士ワークショップの振り返りと論文テーマ・分析の再検討	これまでの指摘に基づき、論文の改訂を進める
第14回	まとめ	今年度の研究成果をまとめ、来年度の研究計画を立てる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。補強したい専門知識に関しては、修士2年次の講義科目（専攻分野コースワーク2年次科目）を履修し、自ら補強する。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100 %（研究内容や研究成果も含む。）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

マクロ経済学・計量経済学

<研究テーマ>

マクロ経済学・計量経済学

<主要研究業績>

Gunji, H., and K. Miyazaki (2011), Estimates of average marginal tax rates on factor incomes in Japan, *Journal of the Japanese and International Economies*, Vol. 25 (2), pp. 81-106. (査読有 doi:10.1016/j.jjie.2011.02.003)

【Outline (in English)】

(Course outline)

The course aims to acquire advanced expert knowledge through a search and survey of literature related to the research field.

(Learning Objectives)

Participants are expected to have a detailed analysis work through reading and reporting reference literature. Furthermore, participants will proceed writing academic articles which compose the doctoral dissertation in one-on-one instruction. Moreover, in this course participants will acquire advanced knowledge and skills necessary for a doctoral dissertation. Participants will make an effort to complete the first draft of a first treatise which composes the doctoral dissertation by the end of the school year.

(Learning activities outside of classroom)

Students will conduct daily research and writing work for their doctoral dissertation. As for the specialized knowledge that they want to reinforce, they will take lecture courses in the second year of their master's degree (second year courses of coursework in their major field) and reinforce it by themselves (Grading Criteria /Policy)

100% of the usual performance score (including the content and results of the research)

ECN702C1-1

経済学演習ⅣA

酒井 正

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究分野に関連する文献のサーチ、サーベイや、そのきめ細かい掘り下げと分析作業、文献の輪読や報告などを通じて、高度で先端的な専門知識を教授する。同時に、博士論文を構成する学術論文の執筆を個別指導の中で進める。

【到達目標】

博士論文執筆のために必要となる高度な知識とスキルを修得する。並行して、博士論文を構成する第2論文の第1稿を春学期末までに完成させるよう努力する。また、第1論文の改訂も行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

研究分野の文献サーベイやその分析、文献の輪読や報告を通じて、高度で先端的な専門知識を享受する。学生が自分の執筆論文に対して指導教員から助言を受けて議論することを通じて、また指導教員の研究プロジェクトへの参加や学会報告などを通じて、研究者としての素養を磨いてゆく。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究成果の確認	今までの研究成果をまとめ、研究テーマを確認する
第2回	文献サーベイと研究報告①	文献サーベイに基づき自らの研究を進める
第3回	文献サーベイと研究報告②	文献サーベイに基づき自らの研究を進める
第4回	文献サーベイと研究報告③	文献サーベイに基づき自らの研究を進める
第5回	論文執筆指導①	研究を論文にまとめる
第6回	論文執筆指導②	研究を論文にまとめる
第7回	論文執筆指導③	研究を論文にまとめる
第8回	論文執筆指導④	執筆した論文に基く指導
第9回	論文執筆指導⑤	執筆した論文に基く指導
第10回	論文執筆指導⑥	執筆した論文に基く指導
第11回	博士ワークショップ発表への準備①	ワークショップで報告する内容の検討
第12回	博士ワークショップ発表への準備②	スライドの作成やプレゼンの練習など
第13回	博士ワークショップの振り返りと論文テーマ・分析の再検討	これまでの指導に基づき、論文の改訂を進める
第14回	まとめ	春学期の研究成果をまとめ、夏期休暇中の研究計画を立てる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。補強したい専門知識に関しては、修士2年次の講義科目（専攻分野コースワーク2年次科目）を履修し、自ら補強する。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点100%（研究内容や研究成果も含む。）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/32/0003127/profile.html>

【Outline (in English)】

(Course outline)

The course aims to acquire advanced expert knowledge through a search and survey of literature related to the research field.

(Learning Objectives)

Participants are expected to have a detailed analysis work through reading and reporting reference literature. Furthermore, participants will proceed writing academic articles which compose the doctoral dissertation in one-on-one instruction. Moreover, in this course participants will acquire advanced knowledge and skills necessary for a doctoral dissertation. Participants will make an effort to complete the first draft of a second treatise which composes the doctoral dissertation by the end of spring semester. Furthermore, participants will revise the first treatise as well.

(Learning activities outside of classroom)

Students will conduct daily research and writing work for their doctoral dissertation. As for the specialized knowledge that they want to reinforce, they will take lecture courses in the second year of their master's degree (second year courses of coursework in their major field) and reinforce it by themselves (Grading Criteria /Policy)

100% of the usual performance score (including the content and results of the research)

ECN702C1-2

経済学演習ⅣB

酒井 正

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究分野に関連する文献のサーチ、サーベイや、そのきめ細かい掘り下げと分析作業、文献の輪読や報告などを通じて、高度で先端的な専門知識を教授する。同時に、博士論文を構成する学術論文の執筆を個別指導の中で進める。

【到達目標】

博士論文執筆のために必要となる高度な知識とスキルを修得する。並行して、博士論文を構成する第3論文の第1稿を年度末までに完成させるよう努力する。また、第1,2論文の改訂も行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

研究分野の文献サーベイやその分析、文献の輪読や報告を通じて、高度で先端的な専門知識を享受する。学生が自分の執筆論文に対して指導教員から助言を受けて議論することを通じて、また指導教員の研究プロジェクトへの参加や学会報告などを通じて、研究者としての素養を磨いてゆく。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	今までの研究成果のまとめ	夏期休暇中の研究成果を報告する
第2回	文献サーベイと研究報告①	文献サーベイに基づき自らの研究を進める
第3回	文献サーベイと研究報告②	文献サーベイに基づき自らの研究を進める
第4回	文献サーベイと研究報告③	文献サーベイに基づき自らの研究を進める
第5回	論文執筆指導①	研究を論文にまとめる
第6回	論文執筆指導②	研究を論文にまとめる
第7回	論文執筆指導③	研究を論文にまとめる
第8回	論文執筆指導④	執筆した論文に基く指導
第9回	論文執筆指導⑤	執筆した論文に基く指導
第10回	論文執筆指導⑥	執筆した論文に基く指導
第11回	博士ワークショップ発表への準備①	ワークショップで報告する内容の検討
第12回	博士ワークショップ発表への準備②	スライドの作成やプレゼンの練習など
第13回	博士ワークショップの振り返りと論文テーマ・分析の再検討	これまでの指導に基づき、論文の改訂を進める
第14回	まとめ	今年度の研究成果をまとめ、来年度の研究計画を立てる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。補強したい専門知識に関しては、修士2年次の講義科目（専攻分野コースワーク2年次科目）を履修し、自ら補強する。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点100%（研究内容や研究成果も含む。）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/32/0003127/profile.html>

【Outline (in English)】

(Course outline)

The course aims to acquire advanced expert knowledge through a search and survey of literature related to the research field.

(Learning Objectives)

Participants are expected to have a detailed analysis work through reading and reporting reference literature. Furthermore, participants will proceed writing academic articles which compose a doctoral dissertation in one-on-one instruction. Moreover, in this course participants will acquire advanced knowledge and skills necessary for a doctoral dissertation. Participants will make an effort to complete the first draft of a third treatise which composes the doctoral dissertation by the end of the school year. Furthermore, participants will revise the first and the second treatise as well.

(Learning activities outside of classroom)

Students will conduct daily research and writing work for their doctoral dissertation. As for the specialized knowledge that they want to reinforce, they will take lecture courses in the second year of their master's degree (second year courses of coursework in their major field) and reinforce it by themselves (Grading Criteria /Policy)

100% of the usual performance score (including the content and results of the research)

ECN702C1-1

経済学演習Ⅳ A

後藤 浩子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究分野に関連する文献のサーチ、サーベイや、そのきめ細かい掘り下げと分析作業、文献の輪読や報告などを通じて、高度で先端的な専門知識を教授する。同時に、博士論文を構成する学術論文の執筆を個別指導の中で進める。

【到達目標】

博士論文執筆のために必要となる高度な知識とスキルを修得する。並行して、博士論文を構成する第2論文の第1稿を春学期末までに完成させるよう努力する。また、第1論文の改訂も行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

研究分野の文献サーベイやその分析、文献の輪読や報告を通じて、高度で先端的な専門知識を享受する。学生が自分の執筆論文に対して指導教員から助言を受けて議論することを通じて、また指導教員の研究プロジェクトへの参加や学会報告などを通じて、研究者としての素養を磨いてゆく。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	研究成果の確認	今までの研究成果をまとめ、研究テーマを確認する
第2回	文献サーベイと研究報告①	文献サーベイに基づき自らの研究を進める
第3回	文献サーベイと研究報告②	文献サーベイに基づき自らの研究を進める
第4回	文献サーベイと研究報告③	文献サーベイに基づき自らの研究を進める
第5回	論文執筆指導①	研究を論文にまとめる
第6回	論文執筆指導②	研究を論文にまとめる
第7回	論文執筆指導③	研究を論文にまとめる
第8回	論文執筆指導④	執筆した論文に基く指導
第9回	論文執筆指導⑤	執筆した論文に基く指導
第10回	論文執筆指導⑥	執筆した論文に基く指導
第11回	博士ワークショップ発表への準備①	ワークショップで報告する内容の検討
第12回	博士ワークショップ発表への準備②	スライドの作成やプレゼンの練習など
第13回	博士ワークショップの振り返りと論文テーマ・分析の再検討	これまでの指導に基づき、論文の改訂を進める
第14回	まとめ	春学期の研究成果をまとめ、夏期休暇中の研究計画を立てる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。補強したい専門知識に関しては、修士2年次の講義科目（専攻分野コースワーク2年次科目）を履修し、自ら補強する。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100 %（研究内容や研究成果も含む。）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/16/0001571/profile.html>

【Outline (in English)】

(Course outline)

The course aims to acquire advanced expert knowledge through a search and survey of literature related to the research field.

(Learning Objectives)

Participants are expected to have a detailed analysis work through reading and reporting reference literature. Furthermore, participants will proceed writing academic articles which compose the doctoral dissertation in one-on-one instruction. Moreover, in this course participants will acquire advanced knowledge and skills necessary for a doctoral dissertation. Participants will make an effort to complete the first draft of a second treatise which composes the doctoral dissertation by the end of spring semester. Furthermore, participants will revise the first treatise as well.

(Learning activities outside of classroom)

Students will conduct daily research and writing work for their doctoral dissertation. As for the specialized knowledge that they want to reinforce, they will take lecture courses in the second year of their master's degree (second year courses of coursework in their major field) and reinforce it by themselves (Grading Criteria /Policy)

100% of the usual performance score (including the content and results of the research)

ECN702C1-2

経済学演習ⅣB

後藤 浩子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究分野に関連する文献のサーチ、サーベイや、そのきめ細かい掘り下げと分析作業、文献の輪読や報告などを通じて、高度で先端的な専門知識を教授する。同時に、博士論文を構成する学術論文の執筆を個別指導の中で進める。

【到達目標】

博士論文執筆のために必要となる高度な知識とスキルを修得する。並行して、博士論文を構成する第3論文の第1稿を年度末までに完成させるよう努力する。また、第1,2論文の改訂も行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

研究分野の文献サーベイやその分析、文献の輪読や報告を通じて、高度で先端的な専門知識を享受する。学生が自分の執筆論文に対して指導教員から助言を受けて議論することを通じて、また指導教員の研究プロジェクトへの参加や学会報告などを通じて、研究者としての素養を磨いてゆく。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	今までの研究成果のまとめ	夏期休暇中の研究成果を報告する
第2回	文献サーベイと研究報告①	文献サーベイに基づき自らの研究を進める
第3回	文献サーベイと研究報告②	文献サーベイに基づき自らの研究を進める
第4回	文献サーベイと研究報告③	文献サーベイに基づき自らの研究を進める
第5回	論文執筆指導①	研究を論文にまとめる
第6回	論文執筆指導②	研究を論文にまとめる
第7回	論文執筆指導③	研究を論文にまとめる
第8回	論文執筆指導④	執筆した論文に基く指導
第9回	論文執筆指導⑤	執筆した論文に基く指導
第10回	論文執筆指導⑥	執筆した論文に基く指導
第11回	博士ワークショップ発表への準備①	ワークショップで報告する内容の検討
第12回	博士ワークショップ発表への準備②	スライドの作成やプレゼンの練習など
第13回	博士ワークショップの振り返りと論文テーマ・分析の再検討	これまでの指導に基づき、論文の改訂を進める
第14回	まとめ	今年度の研究成果をまとめ、来年度の研究計画を立てる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。補強したい専門知識に関しては、修士2年次の講義科目（専攻分野コースワーク2年次科目）を履修し、自ら補強する。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点100%（研究内容や研究成果も含む。）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/16/0001571/profile.html>

【Outline (in English)】

(Course outline)

The course aims to acquire advanced expert knowledge through a search and survey of literature related to the research field.

(Learning Objectives)

Participants are expected to have a detailed analysis work through reading and reporting reference literature. Furthermore, participants will proceed writing academic articles which compose a doctoral dissertation in one-on-one instruction. Moreover, in this course participants will acquire advanced knowledge and skills necessary for a doctoral dissertation. Participants will make an effort to complete the first draft of a third treatise which composes the doctoral dissertation by the end of the school year. Furthermore, participants will revise the first and the second treatise as well.

(Learning activities outside of classroom)

Students will conduct daily research and writing work for their doctoral dissertation. As for the specialized knowledge that they want to reinforce, they will take lecture courses in the second year of their master's degree (second year courses of coursework in their major field) and reinforce it by themselves (Grading Criteria /Policy)

100% of the usual performance score (including the content and results of the research)

ECN703C1-1

経済学演習 V A

池上 宗信

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

課程博士論文を、個別指導やワークショップ、学会報告などを通じて、完成させる。

【到達目標】

博士論文を構成する少なくとも 3 本の学術論文を完成させる。博士課程で書いてきた学術論文を、1 本の課程博士論文としてまとめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

学生が自分の執筆論文に対して指導教員から助言を受けて議論することを通じて、博士論文を完成させる。博士論文の研究から、学術雑誌への投稿や学会報告などを行う準備をする。また指導教員の研究プロジェクトへの参加などを通じて、研究者としての素養を磨いてゆく。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	研究成果の確認	今までの研究成果をまとめる
第 2 回	研究報告①	博士論文を構成する研究成果を報告
第 3 回	研究報告②	博士論文を構成する研究成果を報告
第 4 回	研究報告③	博論執筆に必要となる高度な知識とスキルを修得する
第 5 回	研究報告④	博士論文を構成する研究成果を報告
第 6 回	研究報告⑤	博士論文を構成する研究成果を報告
第 7 回	論文執筆指導①	執筆した論文に基づく指導
第 8 回	論文執筆指導②	執筆した論文に基づく指導
第 9 回	論文執筆指導③	執筆した論文に基づく指導
第 10 回	論文執筆指導④	執筆した論文に基づく指導
第 11 回	博士ワークショップ準備①	報告内容の検討
第 12 回	博士ワークショップ準備②	スライドの作成や報告練習など
第 13 回	博士ワークショップの振り返り	博士ワークショップでの指摘に基づく再検討
第 14 回	論文の再検討	これまでの指導に基づき、論文の改訂を進める

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100 %。日頃の研究姿勢、研究の進展、学会やワークショップでの発表、論文の成果、等を総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】

<https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/105/0010454/profile.html>

【Outline (in English)】
(Course outline)

In this course participants will complete his/her doctoral dissertation through one-on-one instructions and workshops.
(Learning Objectives)

Participants will complete at least three treatises which compose a doctoral dissertation. Participants will complete the conclusion of the treatises as one doctoral dissertation.

(Learning activities outside of classroom)

Conduct daily research and writing tasks for the preparation of the doctoral dissertation.

(Grading Criteria /Policy)

100% of the usual performance score. Evaluation will be based on a comprehensive consideration of daily research attitude, progress in research, conference reports, results of papers, etc.

ECN703C1-2

経済学演習 V B

池上 宗信

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文を、個別指導やワークショップ、学会報告などを通じて、完成させ提出する。博士論文提出後は、提出した博士論文の改善を行う。

【到達目標】

博士課程で書いてきた学術論文を、1本の課程博士論文としてまとめる。提出した博士論文を、審査委員会からの指導により改訂し、博士論文を完成させる。博士論文の研究を学術雑誌に投稿、または、学会報告を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

博士論文を完成させ、提出後は、審査委員会からの助言を受けて、論文を改善する。博士論文の研究のなかから、学術雑誌への投稿や学会報告などを行う準備をする。また、指導教員の研究プロジェクトへの参加などを通じて、研究者としての素養を磨いてゆく。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	博士論文の確認	博士論文の提出前の確認を行う
第 2 回	博士論文の最終確認	博士論文の提出前の最終確認を行う
第 3 回	博士論文の検討	博士論文の提出後、さらに改善を行う
第 4 回	研究報告①	研究論文の学術雑誌投稿、学会報告の準備
第 5 回	研究報告②	研究論文の学術雑誌投稿、学会報告の準備
第 6 回	研究報告③	研究論文の学術雑誌投稿、学会報告の準備
第 7 回	論文執筆指導①	執筆した論文に基づく指導
第 8 回	論文執筆指導②	執筆した論文に基づく指導
第 9 回	論文執筆指導③	執筆した論文に基づく指導
第 10 回	論文執筆指導④	執筆した論文に基づく指導
第 11 回	博士ワークショップ準備①	報告内容の検討
第 12 回	博士ワークショップ準備②	スライドの作成や報告練習など
第 13 回	博士ワークショップの振り返り	博士ワークショップでの指摘に基づく再検討
第 14 回	論文の再検討	これまでの指導に基づき、論文の改訂を進める

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100 %。日頃の研究姿勢、研究の進展、学会やワークショップでの発表、論文の成果、等を総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/105/0010454/profile.html>

【Outline (in English)】

(Course outline)

In this course participants will complete and submit his/her doctoral dissertation through one-on-one instructions and workshops.

(Learning Objectives)

After submitting the dissertation, participants will make improvements on the submitted dissertation. Furthermore, in this course participants will complete a Ph. D. dissertation by putting together the academic articles which he/she has written in the doctor's course. Participants will revise the submitted dissertation by the instructions from a review committee, and complete the Ph. D. dissertation. Participants will contribute the academic articles of the doctoral dissertation to academic journals and/or make presentations at a conference.

(Learning activities outside of classroom)

Conduct daily research and writing tasks for the preparation of the doctoral dissertation.

(Grading Criteria /Policy)

100% of the usual performance score. Evaluation will be based on a comprehensive consideration of daily research attitude, progress in research, conference reports, results of papers, etc.

ECN703C1-1

論文指導ⅤA

鈴木 豊

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究分野に関連する文献のサーチ、サーベイや、そのきめ細かい掘り下げと分析作業、文献の輪読や報告などを通じて、高度で先端的な専門知識を教授する。同時に、博士論文を構成する学術論文の執筆を個別指導の中で進める。

【到達目標】

課程博士論文を構成する少なくとも3本の学術論文を完成させる。博士課程で書いてきた学術論文を、1本の課程博士論文として、結論をまとめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

研究分野の文献サーベイやその分析、文献の輪読や報告を通じて、高度で先端的な専門知識を享受する。学生が自分の執筆論文に対して指導教員から助言を受けて議論することを通じて、また指導教員の研究プロジェクトへの参加や学会報告などを通じて、研究者としての素養を磨いてゆく。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究成果の確認	いままでの研究成果をまとめる
第2回	研究報告①	博士論文を構成する研究成果を報告
第3回	研究報告②	博士論文を構成する研究成果を報告
第4回	研究報告③	博士論文を構成する研究成果を報告
第5回	論文執筆指導①	執筆した論文に基づく指導
第6回	論文執筆指導②	執筆した論文に基づく指導
第7回	論文執筆指導③	執筆した論文に基づく指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点100%。日頃の研究姿勢、研究の進展、学会報告、論文の成果等を総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/15/0001407/profile.html>

を参照のこと。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The course aims to acquire advanced expert knowledge through a search and survey of literature related to the research field.

(Learning Objectives)

Participants are expected to have a detailed analysis work through reading and reporting reference literature. Furthermore, participants will proceed writing academic articles which compose a doctoral dissertation in one-on-one instruction. Moreover, in this course participants will complete writing at least three treatises which compose a doctoral dissertation. Participants will complete the conclusion of the treatises as one doctoral dissertation.

(Learning activities outside of classroom)

Conduct daily research and writing tasks for the preparation of the doctoral dissertation.

(Grading Criteria /Policy)

100% of the usual performance score. Evaluation will be based on a comprehensive consideration of daily research attitude, progress in research, conference reports, results of papers, etc.

ECN706C1-1

博士ワークショップⅢ A

鈴木 豊

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士ワークショップは、博士後期課程の学生が、自分の研究成果や研究経過・計画を報告し、複数の教員や他の大学院生から、助言や批判、刺激を受けながら、博士論文研究を進めていく機会である。この授業では、博士後期課程3年次春学期のワークショップの準備、および、反省をあわせて行う。

【到達目標】

9月末の提出に向けて、博士論文の最終確認を行うとともに、学会での研究発表やレフェリー付き学術誌への論文掲載につながる質の高い研究論文の執筆と報告を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

博士ワークショップでは、論文の専門性、発展性、完成度などが求められる。そのため、博士ワークショップ報告にあたっては、事前に指名討論者の教員に報告論文の資料を提出し、詳細なコメントを受けた上で、リプライを行う。博士ワークショップⅢ Aでは、博士論文の提出に向けた最終的な報告準備と、その反省を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ワークショップ報告	ワークショップ報告テーマの決定 テーマ
第2回	ワークショップ論文執筆準備①	ワークショップ報告論文の執筆準備
第3回	ワークショップ論文執筆準備②	ワークショップ報告論文の執筆準備
第4回	ワークショップ発表準備①	ワークショップの発表準備
第5回	ワークショップ発表準備②	ワークショップ報告リハーサル
第6回	博士ワークショップ	ワークショップでの報告と討論へのリプライ
第7回	ワークショップの反省	ワークショップでのコメントの整理と反省

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。また、ワークショップでの中間報告の事前準備と、事後の論点整理および論文改善へのフィードバック作業を行う。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

平常点100%。博士ワークショップ発表までの研究の積み重ねとその研究成果・発表成果を総合的に評価する。また、ワークショップにおいて、2名の指名討論者に対するリプライを行い、そのリプライ内容も評価に加える。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/15/0001407/profile.html>

を参照のこと。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The Doctoral Workshop is intended for doctoral students to improve their doctoral dissertation in accordance with comments and/or suggestions from their supervisors and other participants on the research plan, progress, and results.

(Learning Objectives)

This course will have students prepared for the first workshop of a third-year doctoral course and a review of the workshop afterwards. Furthermore, for submission at the end of September, participants will do a final check on the dissertation and write and report a high quality treatise which leads to article publications in a refereed journal or giving research presentations at a conference.

(Learning activities outside of classroom)

Students will conduct daily research and writing for their doctoral dissertations. In addition, students will prepare in advance for the interim report at the workshop, sort out the issues afterwards, and provide feedback for improving the dissertation.

(Grading Criteria /Policy)

100% of the normal score. The accumulation of research up to the presentation of the doctoral workshop and the results of that research and presentation will be evaluated comprehensively. In addition, the reply to the two nominated discussants at the workshop will be added to the evaluation.

ECN703C1-2

論文指導V B

鈴木 豊

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究分野に関連する文献のサーチ、サーベイや、そのきめ細かい掘り下げと分析作業、文献の輪読や報告などを通じて、高度で先端的な専門知識を教授する。同時に、博士論文を構成する学術論文の執筆を個別指導の中で進める。

【到達目標】

博士課程で書いてきた学術論文を、1本の課程博士論文としてまとめ、提出する。提出後は、審査委員会からの指導により改訂を進める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

博士論文の最終確認を行い、提出後は、審査委員会からの助言を受け、論文を改訂する。博士論文の研究のなかから、学術雑誌への投稿や学会報告などを行う準備を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	博士論文の確認	博士論文の提出前の確認を行う
第2回	博士論文の最終確認	博士論文の提出前の最終確認を行う
第3回	博士論文の検討	博士論文の提出後、さらに改善を行う
第4回	研究報告①	研究論文の学術雑誌投稿、学会報告の準備
第5回	研究報告②	研究論文の学術雑誌投稿、学会報告の準備
第6回	論文執筆指導①	執筆した論文に基づく指導
第7回	論文執筆指導②	執筆した論文に基づく指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100 %。日頃の研究姿勢、研究の進展、学会報告、論文の成果等を総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/15/0001407/profile.html>

を参照のこと。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The course aims to acquire advanced expert knowledge through a search and survey of literature related to the research field.

(Learning Objectives)

Participants are expected to have a detailed analysis work through reading and reporting reference literature. Furthermore, participants will proceed writing academic articles which compose a doctoral dissertation in one-on-one instruction. Moreover, in this course participants will complete and submit the doctoral dissertation. After submitting the dissertation, participants will revise the dissertation by the instruction of the review committee.

(Learning activities outside of classroom)

Conduct daily research and writing tasks for the preparation of the doctoral dissertation.

(Grading Criteria /Policy)

100% of the normal score. Evaluation will be based on a comprehensive consideration of daily research attitude, progress in research, conference reports, results of papers, etc.

ECN706C1-2

博士ワークショップⅢ B

鈴木 豊

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士ワークショップは、博士後期課程の学生が、自分の研究成果や研究経過・計画を報告し、複数の教員や他の大学院生から、助言や批判、刺激を受けながら、博士論文研究を進めていく機会である。この授業では、博士後期課程3年次秋学期のワークショップの準備、および、反省をあわせて行う。

【到達目標】

提出した博士論文を、審査委員会からの指導により改訂し、博士論文を完成させる。博士論文の研究を学術雑誌に投稿、または、学会報告を行う。博士論文公聴会の最終リハーサルとして、ワークショップ報告を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

博士ワークショップでは、論文の専門性、発展性、完成度などが求められる。そのため、博士ワークショップ報告にあたっては、事前に指名討論者の教員に報告論文の資料を提出し、詳細なコメントを受けた上で、リプライを行う。博士ワークショップⅢ Bでは、公聴会に向けた博士論文の最終段階の報告準備と、その反省を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ワークショップ報告	ワークショップ報告テーマの決定 テーマ
第2回	ワークショップ論文執筆準備①	ワークショップ報告論文の執筆準備
第3回	ワークショップ論文執筆準備②	ワークショップ報告論文の執筆準備
第4回	ワークショップ発表準備	ワークショップ報告リハーサル
第5回	博士ワークショップ	ワークショップでの報告と討論へのリプライ
第6回	ワークショップの反省	ワークショップでのコメントの整理と反省
第7回	ワークショップ報告論文の修正	ワークショップでのコメントをもとに報告論文を修正する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。また、ワークショップの事前準備と、事後の論点整理および論文改善へのフィードバック作業を行う。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

平常点100%。博士ワークショップ発表までの研究の積み重ねとその研究成果・発表成果を総合的に評価する。また、ワークショップにおいて、2名の指名討論者に対するリプライを行い、そのリプライ内容も評価に加える。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/15/0001407/profile.html>

を参照のこと。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The Doctoral Workshop is intended for doctoral students to improve their doctoral dissertation in accordance with comments and/or suggestions from their supervisors and other participants on the research plan, progress, and results.

(Learning Objectives)

This course will have students prepared for the second workshop of a third-year doctoral course and a review of the workshop afterwards. Furthermore, participants will revise the submitted dissertation by the instruction of a review committee, and complete the doctoral dissertation. Participants will contribute the academic articles which compose the doctoral dissertation to academic journals or give presentations at a conference. As a last rehearsal of the doctoral dissertation defense, participants will have a workshop report.

(Learning activities outside of classroom)

Students will conduct daily research and writing for their doctoral dissertations. In addition, students will prepare in advance for the interim report at the workshop, sort out the issues afterwards, and provide feedback for improving the dissertation.

(Grading Criteria /Policy)

100% of the normal score. The accumulation of research up to the presentation of the doctoral workshop and the results of that research and presentation will be evaluated comprehensively. In addition, the reply to the two nominated discussants at the workshop will be added to the evaluation

ECN703C1-1

論文指導ⅤA

宮崎 憲治

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究分野に関連する文献のサーチ、サーベイや、そのきめ細かい掘り下げと分析作業、文献の輪読や報告などを通じて、高度で先端的な専門知識を教授する。同時に、博士論文を構成する学術論文の執筆を個別指導の中で進める。

【到達目標】

課程博士論文を構成する少なくとも3本の学術論文を完成させる。博士課程で書いてきた学術論文を、1本の課程博士論文として、結論をまとめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

研究分野の文献サーベイやその分析、文献の輪読や報告を通じて、高度で先端的な専門知識を享受する。学生が自分の執筆論文に対して指導教員から助言を受けて議論することを通じて、また指導教員の研究プロジェクトへの参加や学会報告などを通じて、研究者としての素養を磨いてゆく。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	研究成果の確認	いままでの研究成果をまとめる
第2回	研究報告①	博士論文を構成する研究成果を報告
第3回	研究報告②	博士論文を構成する研究成果を報告
第4回	研究報告③	博士論文を構成する研究成果を報告
第5回	論文執筆指導①	執筆した論文に基づく指導
第6回	論文執筆指導②	執筆した論文に基づく指導
第7回	論文執筆指導③	執筆した論文に基づく指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点100%。日頃の研究姿勢、研究の進展、学会報告、論文の成果等を総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

マクロ経済学・計量経済学

<研究テーマ>

経済政策・日本経済

<主要研究業績>

Gunji, H., and K. Miyazaki (2011), Estimates of average marginal tax rates on factor incomes in Japan, *Journal of the Japanese and International Economies*, Vol. 25 (2), pp. 81-106. (査読有 doi:10.1016/j.jjie.2011.02.003)

【Outline (in English)】

(Course outline)

The course aims to acquire advanced expert knowledge through a search and survey of literature related to the research field.

(Learning Objectives)

Participants are expected to have a detailed analysis work through reading and reporting reference literature. Furthermore, participants will proceed writing academic articles which compose a doctoral dissertation in one-on-one instruction. Moreover, in this course participants will complete writing at least three treatises which compose a doctoral dissertation. Participants will complete the conclusion of the treatises as one doctoral dissertation.

(Learning activities outside of classroom)

Conduct daily research and writing tasks for the preparation of the doctoral dissertation.

(Grading Criteria /Policy)

100% of the usual performance score. Evaluation will be based on a comprehensive consideration of daily research attitude, progress in research, conference reports, results of papers, etc.

ECN706C1-1

博士ワークショップⅢ A

宮崎 憲治

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士ワークショップは、博士後期課程の学生が、自分の研究成果や研究経過・計画を報告し、複数の教員や他の大学院生から、助言や批判、刺激を受けながら、博士論文研究を進めていく機会である。この授業では、博士後期課程3年次春学期のワークショップの準備、および、反省をあわせて行う。

【到達目標】

9月末の提出に向けて、博士論文の最終確認を行うとともに、学会での研究発表やレフェリー付き学術誌への論文掲載につながる質の高い研究論文の執筆と報告を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

博士ワークショップでは、論文の専門性、発展性、完成度などが求められる。そのため、博士ワークショップ報告にあたっては、事前に指名討論者の教員に報告論文の資料を提出し、詳細なコメントを受けた上で、リプライを行う。博士ワークショップⅢ Aでは、博士論文の提出に向けた最終的な報告準備と、その反省を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ワークショップ報告	ワークショップ報告テーマの決定 テーマ
第2回	ワークショップ論文執筆準備①	ワークショップ報告論文の執筆準備
第3回	ワークショップ論文執筆準備②	ワークショップ報告論文の執筆準備
第4回	ワークショップ発表準備①	ワークショップの発表準備
第5回	ワークショップ発表準備②	ワークショップ報告リハーサル
第6回	博士ワークショップ	ワークショップでの報告と討論へのリプライ
第7回	ワークショップの反省	ワークショップでのコメントの整理と反省

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。また、ワークショップでの中間報告の事前準備と、事後の論点整理および論文改善へのフィードバック作業を行う。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

平常点100%。博士ワークショップ発表までの研究の積み重ねとその研究成果・発表成果を総合的に評価する。また、ワークショップにおいて、2名の指名討論者に対するリプライを行い、そのリプライ内容も評価に加える。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>
マクロ経済学・計量経済学
<研究テーマ>
経済政策・日本経済
<主要研究業績>

Gunji, H., and K. Miyazaki (2011), Estimates of average marginal tax rates on factor incomes in Japan, *Journal of the Japanese and International Economies*, Vol. 25 (2), pp. 81-106. (査読有 doi:10.1016/j.jjie.2011.02.003)

【Outline (in English)】

(Course outline)

The Doctoral Workshop is intended for doctoral students to improve their doctoral dissertation in accordance with comments and/or suggestions from their supervisors and other participants on the research plan, progress, and results.

(Learning Objectives)

This course will have students prepared for the first workshop of a third-year doctoral course and a review of the workshop afterwards. Furthermore, for submission at the end of September, participants will do a final check on the dissertation and write and report a high quality treatise which leads to article publications in a refereed journal or giving research presentations at a conference.

(Learning activities outside of classroom)

Students will conduct daily research and writing for their doctoral dissertations. In addition, students will prepare in advance for the interim report at the workshop, sort out the issues afterwards, and provide feedback for improving the dissertation.

(Grading Criteria /Policy)

100% of the normal score. The accumulation of research up to the presentation of the doctoral workshop and the results of that research and presentation will be evaluated comprehensively. In addition, the reply to the two nominated discussants at the workshop will be added to the evaluation.

ECN703C1-2

論文指導V B

宮崎 憲治

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究分野に関連する文献のサーチ、サーベイや、そのきめ細かい掘り下げと分析作業、文献の輪読や報告などを通じて、高度で先端的な専門知識を教授する。同時に、博士論文を構成する学術論文の執筆を個別指導の中で進める。

【到達目標】

博士課程で書いてきた学術論文を、1本の課程博士論文としてまとめ、提出する。提出後は、審査委員会からの指導により改訂を進める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

博士論文の最終確認を行い、提出後は、審査委員会からの助言を受け、論文を改訂する。博士論文の研究のなかから、学術雑誌への投稿や学会報告などを行う準備を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	博士論文の確認	博士論文の提出前の確認を行う
第2回	博士論文の最終確認	博士論文の提出前の最終確認を行う
第3回	博士論文の検討	博士論文の提出後、さらに改善を行う
第4回	研究報告①	研究論文の学術雑誌投稿、学会報告の準備
第5回	研究報告②	研究論文の学術雑誌投稿、学会報告の準備
第6回	論文執筆指導①	執筆した論文に基づく指導
第7回	論文執筆指導②	執筆した論文に基づく指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100 %。日頃の研究姿勢、研究の進展、学会報告、論文の成果等を総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

マクロ経済学・計量経済学

<研究テーマ>

経済政策・日本経済

<主要研究業績>

Gunji, H., and K. Miyazaki (2011), Estimates of average marginal tax rates on factor incomes in Japan, *Journal of the Japanese and International Economies*, Vol. 25 (2), pp. 81-106. (査読有 doi:10.1016/j.jjie.2011.02.003)

【Outline (in English)】

(Course outline)

The course aims to acquire advanced expert knowledge through a search and survey of literature related to the research field.

(Learning Objectives)

Participants are expected to have a detailed analysis work through reading and reporting reference literature. Furthermore, participants will proceed writing academic articles which compose a doctoral dissertation in one-on-one instruction. Moreover, in this course participants will complete and submit the doctoral dissertation. After submitting the dissertation, participants will revise the dissertation by the instruction of the review committee.

(Learning activities outside of classroom)

Conduct daily research and writing tasks for the preparation of the doctoral dissertation.

(Grading Criteria /Policy)

100% of the normal score. Evaluation will be based on a comprehensive consideration of daily research attitude, progress in research, conference reports, results of papers, etc.

ECN706C1-2

博士ワークショップⅢ B

宮崎 憲治

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士ワークショップは、博士後期課程の学生が、自分の研究成果や研究経過・計画を報告し、複数の教員や他の大学院生から、助言や批判、刺激を受けながら、博士論文研究を進めていく機会である。この授業では、博士後期課程3年次秋学期のワークショップの準備、および、反省をあわせて行う。

【到達目標】

提出した博士論文を、審査委員会からの指導により改訂し、博士論文を完成させる。博士論文の研究を学術雑誌に投稿、または、学会報告を行う。博士論文公聴会の最終リハーサルとして、ワークショップ報告を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

博士ワークショップでは、論文の専門性、発展性、完成度などが求められる。そのため、博士ワークショップ報告にあたっては、事前に指名討論者の教員に報告論文の資料を提出し、詳細なコメントを受けた上で、リプライを行う。博士ワークショップⅢ Bでは、公聴会に向けた博士論文の最終段階の報告準備と、その反省を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ワークショップ報告テーマ	ワークショップ報告テーマの決定
第2回	ワークショップ論文執筆準備①	ワークショップ報告論文の執筆準備
第3回	ワークショップ論文執筆準備②	ワークショップ報告論文の執筆準備
第4回	ワークショップ発表準備	ワークショップ報告リハーサル
第5回	博士ワークショップ	ワークショップでの報告と討論へのリプライ
第6回	ワークショップの反省	ワークショップでのコメントの整理と反省
第7回	ワークショップ報告論文の修正	ワークショップでのコメントをもとに報告論文を修正する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。また、ワークショップの事前準備と、事後の論点整理および論文改善へのフィードバック作業を行う。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

平常点100%。博士ワークショップ発表までの研究の積み重ねとその研究成果・発表成果を総合的に評価する。また、ワークショップにおいて、2名の指名討論者に対するリプライを行い、そのリプライ内容も評価に加える。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>
マクロ経済学・計量経済学
<研究テーマ>
経済政策・日本経済
<主要研究業績>

Gunji, H., and K. Miyazaki (2011), Estimates of average marginal tax rates on factor incomes in Japan, Journal of the Japanese and International Economies, Vol. 25 (2), pp. 81-106. (査読有 doi:10.1016/j.jjie.2011.02.003)

【Outline (in English)】

(Course outline)

The Doctoral Workshop is intended for doctoral students to improve their doctoral dissertation in accordance with comments and/or suggestions from their supervisors and other participants on the research plan, progress, and results.

(Learning Objectives)

This course will have students prepared for the second workshop of a third-year doctoral course and a review of the workshop afterwards. Furthermore, participants will revise the submitted dissertation by the instruction of a review committee, and complete the doctoral dissertation. Participants will contribute the academic articles which compose the doctoral dissertation to academic journals or give presentations at a conference. As a last rehearsal of the doctoral dissertation defense, participants will have a workshop report.

(Learning activities outside of classroom)

Students will conduct daily research and writing for their doctoral dissertations. In addition, students will prepare in advance for the interim report at the workshop, sort out the issues afterwards, and provide feedback for improving the dissertation.

(Grading Criteria /Policy)

100% of the normal score. The accumulation of research up to the presentation of the doctoral workshop and the results of that research and presentation will be evaluated comprehensively. In addition, the reply to the two nominated discussants at the workshop will be added to the evaluation

ECN703C1-2

論文指導V B

田村 晶子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究分野に関連する文献のサーチ、サーベイや、そのきめ細かい掘り下げと分析作業、文献の輪読や報告などを通じて、高度で先端的な専門知識を教授する。同時に、博士論文を構成する学術論文の執筆を個別指導の中で進める。

【到達目標】

博士課程で書いてきた学術論文を、1本の課程博士論文としてまとめ、提出する。提出後は、審査委員会からの指導により改訂を進める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

博士論文の最終確認を行い、提出後は、審査委員会からの助言を受け、論文を改訂する。博士論文の研究のなかから、学術雑誌への投稿や学会報告などを行う準備を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	博士論文の確認	博士論文の提出前の確認を行う
第2回	博士論文の最終確認	博士論文の提出前の最終確認を行う
第3回	博士論文の検討	博士論文の提出後、さらに改善を行う
第4回	研究報告①	研究論文の学術雑誌投稿、学会報告の準備
第5回	研究報告②	研究論文の学術雑誌投稿、学会報告の準備
第6回	論文執筆指導①	執筆した論文に基づく指導
第7回	論文執筆指導②	執筆した論文に基づく指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100 %。日頃の研究姿勢、研究の進展、学会報告、論文の成果等を総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/15/0001448/profile.html>

【Outline (in English)】

(Course outline)

The course aims to acquire advanced expert knowledge through a search and survey of literature related to the research field.

(Learning Objectives)

Participants are expected to have a detailed analysis work through reading and reporting reference literature. Furthermore, participants will proceed writing academic articles which compose a doctoral dissertation in one-on-one instruction. Moreover, in this course participants will complete and submit the doctoral dissertation. After submitting the dissertation, participants will revise the dissertation by the instruction of the review committee.

(Learning activities outside of classroom)

Conduct daily research and writing tasks for the preparation of the doctoral dissertation.

(Grading Criteria /Policy)

100% of the normal score. Evaluation will be based on a comprehensive consideration of daily research attitude, progress in research, conference reports, results of papers, etc.

ECN706C1-2

博士ワークショップⅢ B

田村 晶子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士ワークショップは、博士後期課程の学生が、自分の研究成果や研究経過・計画を報告し、複数の教員や他の大学院生から、助言や批判、刺激を受けながら、博士論文研究を進めていく機会である。この授業では、博士後期課程3年次秋学期のワークショップの準備、および、反省をあわせて行う。

【到達目標】

提出した博士論文を、審査委員会からの指導により改訂し、博士論文を完成させる。博士論文の研究を学術雑誌に投稿、または、学会報告を行う。博士論文公聴会の最終リハーサルとして、ワークショップ報告を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

博士ワークショップでは、論文の専門性、発展性、完成度などが求められる。そのため、博士ワークショップ報告にあたっては、事前に指名討論者の教員に報告論文の資料を提出し、詳細なコメントを受けた上で、リプライを行う。博士ワークショップⅢ Bでは、公聴会に向けた博士論文の最終段階の報告準備と、その反省を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ワークショップ報告 テーマ	ワークショップ報告テーマの決定
第2回	ワークショップ論文執筆準備①	ワークショップ報告論文の執筆準備
第3回	ワークショップ論文執筆準備②	ワークショップ報告論文の執筆準備
第4回	ワークショップ発表準備	ワークショップ報告リハーサル
第5回	博士ワークショップ	ワークショップでの報告と討論へのリプライ
第6回	ワークショップの反省	ワークショップでのコメントの整理と反省
第7回	ワークショップ報告論文の修正	ワークショップでのコメントをもとに報告論文を修正する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。また、ワークショップの事前準備と、事後の論点整理および論文改善へのフィードバック作業を行う。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】

平常点100%。博士ワークショップ発表までの研究の積み重ねとその研究成果・発表成果を総合的に評価する。また、ワークショップにおいて、2名の指名討論者に対するリプライを行い、そのリプライ内容も評価に加える。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】

<https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/15/0001448/profile.html>

【Outline (in English)】
(Course outline)

The Doctoral Workshop is intended for doctoral students to improve their doctoral dissertation in accordance with comments and/or suggestions from their supervisors and other participants on the research plan, progress, and results.
(Learning Objectives)

This course will have students prepared for the second workshop of a third-year doctoral course and a review of the workshop afterwards. Furthermore, participants will revise the submitted dissertation by the instruction of a review committee, and complete the doctoral dissertation. Participants will contribute the academic articles which compose the doctoral dissertation to academic journals or give presentations at a conference. As a last rehearsal of the doctoral dissertation defense, participants will have a workshop report.

(Learning activities outside of classroom)

Students will conduct daily research and writing for their doctoral dissertations. In addition, students will prepare in advance for the interim report at the workshop, sort out the issues afterwards, and provide feedback for improving the dissertation.

(Grading Criteria / Policy)

100% of the normal score. The accumulation of research up to the presentation of the doctoral workshop and the results of that research and presentation will be evaluated comprehensively. In addition, the reply to the two nominated discussants at the workshop will be added to the evaluation

ECN703C1-1

論文指導ⅤA

小黒 一正

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

課程博士論文を、個別指導やワークショップ、学会報告などを通じて、完成させる。

【到達目標】

博士論文を構成する少なくとも3本の学術論文を完成させる。博士課程で書いてきた学術論文を、1本の課程博士論文としてまとめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

学生が自分の執筆論文に対して指導教員から助言を受けて議論することを通じて、博士論文を完成させる。博士論文の研究から、学術雑誌への投稿や学会報告などを行う準備をする。また指導教員の研究プロジェクトへの参加などを通じて、研究者としての素養を磨いてゆく。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	研究成果の確認	今までの研究成果をまとめる
第2回	研究報告①	博士論文を構成する研究成果を報告
第3回	研究報告②	博士論文を構成する研究成果を報告
第4回	研究報告③	博士論文執筆に必要な高度な知識とスキルを修得する
第5回	研究報告④	博士論文を構成する研究成果を報告
第6回	研究報告⑤	博士論文を構成する研究成果を報告
第7回	論文執筆指導①	執筆した論文に基づく指導
第8回	論文執筆指導②	執筆した論文に基づく指導
第9回	論文執筆指導③	執筆した論文に基づく指導
第10回	論文執筆指導④	執筆した論文に基づく指導
第11回	博士ワークショップ準備①	報告内容の検討
第12回	博士ワークショップ準備②	スライドの作成や報告練習など
第13回	博士ワークショップの振り返り	博士ワークショップでの指摘に基づく再検討
第14回	論文の再検討	これまでの指導に基づき、論文の改訂を進める

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点100%。日頃の研究姿勢、研究の進展、学会やワークショップでの発表、論文の成果、等を総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

財政学、公共経済学

<研究テーマ>

人口動態と政治経済の相互作用や世代間問題の分析

<主要研究業績>

①) Child Benefit and Fiscal Burden in the Endogenous Fertility Setting, *Economic Modelling*, 44, 252-265, 2015

② Impact of Deflation on Real Interest rate of Government Bonds, *The Economic Review*, 64(2), 147-159, 2013

③ Demographic Change, Intergenerational Altruism, and Fiscal Policy - A Political Economy Approach -, *Studies in Applied Economics*, 6, 1-15, 2013

④ Ability transmission, endogenous fertility, and educational subsidy, *Applied Economics*, 45(17), 2469-2479, 2012

【Outline (in English)】

(Course outline)

In this course participants will complete his/her doctoral dissertation through one-on-one instructions and workshops.

(Learning Objectives)

Participants will complete at least three treatises which compose a doctoral dissertation. Participants will complete the conclusion of the treatises as one doctoral dissertation.

(Learning activities outside of classroom)

Conduct daily research and writing tasks for the preparation of the doctoral dissertation.

(Grading Criteria / Policy)

100% of the usual performance score. Evaluation will be based on a comprehensive consideration of daily research attitude, progress in research, conference reports, results of papers, etc.

ECN703C1-2

論文指導V B

小黒 一正

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文を、個別指導やワークショップ、学会報告などを通じて、完成させ提出する。博士論文提出後は、提出した博士論文の改善を行う。

【到達目標】

博士課程で書いてきた学術論文を、1本の課程博士論文としてまとめる。提出した博士論文を、審査委員会からの指導により改訂し、博士論文を完成させる。博士論文の研究を学術雑誌に投稿、または、学会報告を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

博士論文を完成させ、提出後は、審査委員会からの助言を受けて、論文を改善する。博士論文の研究のなかから、学術雑誌への投稿や学会報告などを行う準備をする。また、指導教員の研究プロジェクトへの参加などを通じて、研究者としての素養を磨いてゆく。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	博士論文の確認	博士論文の提出前の確認を行う
第2回	博士論文の最終確認	博士論文の提出前の最終確認を行う
第3回	博士論文の検討	博士論文の提出後、さらに改善を行う
第4回	研究報告①	研究論文の学術雑誌投稿、学会報告の準備
第5回	研究報告②	研究論文の学術雑誌投稿、学会報告の準備
第6回	研究報告③	研究論文の学術雑誌投稿、学会報告の準備
第7回	論文執筆指導①	執筆した論文に基づく指導
第8回	論文執筆指導②	執筆した論文に基づく指導
第9回	論文執筆指導③	執筆した論文に基づく指導
第10回	論文執筆指導④	執筆した論文に基づく指導
第11回	博士ワークショップ準備①	報告内容の検討
第12回	博士ワークショップ準備②	スライドの作成や報告練習など
第13回	博士ワークショップの振り返り	博士ワークショップでの指摘に基づく再検討
第14回	論文の再検討	これまでの指導に基づき、論文の改訂を進める

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点100%。日頃の研究姿勢、研究の進展、学会やワークショップでの発表、論文の成果、等を総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

財政学、公共経済学

<研究テーマ>

人口動態と政治経済の相互作用や世代間問題の分析

<主要研究業績>

①)Child Benefit and Fiscal Burden in the Endogenous Fertility Setting, *Economic Modelling*, 44, 252-265, 2015

② Impact of Deflation on Real Interest rate of Government Bonds, *The Economic Review*, 64(2), 147-159, 2013

③ Demographic Change, Intergenerational Altruism, and Fiscal Policy - A Political Economy Approach -, *Studies in Applied Economics*, 6, 1-15, 2013

④ Ability transmission, endogenous fertility, and educational subsidy, *Applied Economics*, 45(17), 2469-2479, 2012

【Outline (in English)】

(Course outline)

In this course participants will complete and submit his/her doctoral dissertation through one-on-one instructions and workshops.

(Learning Objectives)

After submitting the dissertation, participants will make improvements on the submitted dissertation. Furthermore, in this course participants will complete a Ph. D. dissertation by putting together the academic articles which he/she has written in the doctor's course. Participants will revise the submitted dissertation by the instructions from a review committee, and complete the Ph. D. dissertation. Participants will contribute the academic articles of the doctoral dissertation to academic journals and/or make presentations at a conference.

(Learning activities outside of classroom)

Conduct daily research and writing tasks for the preparation of the doctoral dissertation.

(Grading Criteria /Policy)

100% of the usual performance score. Evaluation will be based on a comprehensive consideration of daily research attitude, progress in research, conference reports, results of papers, etc.

